
2016年度

シラバス

英語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで計画的な履修登録をしてください◆

【シラバスの見方】

1. 英語学科授業科目について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科		済： 経済学科	律： 法律学科
英： 英語学科		営： 経営学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科		環： 国際環境経済学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科			免： 2013年度以降入学の教職課程登録者
全： 英語学科以外の全学部学科			

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③		④
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③		④
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は『授業時間割表』を参照してください。

③履修登録

オンライン登録、事前抽選、学期ごとに1回目の授業で選考または抽選を行う科目もあるので

必ずシラバス本文および『授業時間割表』で確認してください。

目 次

2009～2016 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修科目を含む).....	2
学科共通科目.....	7
学科専門科目.....	13
交流文化論開設科目一覧表.....	15
外国語学部共通科目開設一覧表.....	16
担当者別シラバス.....	17

【参考資料】(英語レベル表)

2009 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®	TOEFL®		実用英語技能 検定
		PBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC®テストのスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。

学内で実施した TOEIC®テスト以外のスコアを利用する場合は、既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

英語学科 授業科目(2009～2016年度入学者用)

学科基礎科目

09～16年度入学者用

	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
1 3 年度 以降	国際関係入門	金子 芳樹	春	水2	2	1	全	17
	国際関係入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	全	17
	国際関係入門	水本 義彦	春	火5	2	1	全	18
1 2 年度 以前	国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	春	水2	2	1	全	17
	国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	全	17
	国際コミュニケーション入門	水本 義彦	春	火5	2	1	全	18
	メディア・コミュニケーション入門	板場 良久	春	金3	2	1	全	19
	メディア・コミュニケーション入門	板場 良久	秋	金3	2	1	全	19
	メディア・コミュニケーション入門	佐々木 輝美	春	水2	2	1	全	20
	メディア・コミュニケーション入門	佐々木 輝美	秋	水2	2	1	全	20
	文化コミュニケーション入門	板場 良久	春	金3	2	1	全	19
	文化コミュニケーション入門	板場 良久	秋	金3	2	1	全	19
	文化コミュニケーション入門	佐々木 輝美	春	水2	2	1	全	20
	文化コミュニケーション入門	佐々木 輝美	秋	水2	2	1	全	20
1 6 年度 以前	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	春	木4	2	1	全	21
	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	秋	木4	2	1	全	21
	英語圏の文学・文化入門	児嶋 一男	春	火2	2	1	全	22
	英語圏の文学・文化入門	児嶋 一男	秋	火2	2	1	全	22
1 3 年度 以降	英語圏の文学文化入門	上野 直子	春	木4	2	1	全	21
	英語圏の文学文化入門	上野 直子	秋	木4	2	1	全	21
	英語圏の文学文化入門	児嶋 一男	春	火2	2	1	全	22
	英語圏の文学文化入門	児嶋 一男	秋	火2	2	1	全	22
	英語学入門	鈴木 英一	春	火3	2	1	全	23
	英語学入門	鈴木 英一	秋	火3	2	1	全	23
	英語学入門	安井 美代子	春	金1	2	1	全	24
	英語学入門	安井 美代子	秋	金1	2	1	全	24
	Lecture Workshop I	各担当教員	春		2	1	全	25
	Lecture Workshop II	各担当教員	秋		2	1	全	25
	Comprehensive English I	L. K. ハーキンス	春	月2/金3	2	1	全	26
	Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	秋	月2/金3	2	1	全	26
	Comprehensive English I	D. ベーカー	春	火2/木5	2	1	全	27
	Comprehensive English II	D. ベーカー	秋	火2/木5	2	1	全	27
	Comprehensive English I	S. ペイン	春	水4/金1	2	1	全	28
	Comprehensive English II	S. ペイン	秋	水4/金1	2	1	全	28
	Comprehensive English I	J. スネール	春	火2/木1	2	1	全	29
	Comprehensive English II	J. スネール	秋	火2/木1	2	1	全	29
	Comprehensive English I	P. マッケビリー	春	月2/金2	2	1	全	30
	Comprehensive English II	P. マッケビリー	秋	月2/金2	2	1	全	30
	Comprehensive English I	D. M. ヴァンヴィーレン	春	火2/木5	2	1	全	31
	Comprehensive English II	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	火2/木5	2	1	全	31
	Comprehensive English I	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月3/水3	2	1	全	32
	Comprehensive English II	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月3/水3	2	1	全	32
	Comprehensive English I	K. フォード	春	月2/金3	2	1	全	33
	Comprehensive English II	K. フォード	秋	月2/金3	2	1	全	33
	Comprehensive English I	A. ジョーンズ	春	月4/木5	2	1	全	34
	Comprehensive English II	A. ジョーンズ	秋	月4/木5	2	1	全	34
	Comprehensive English I	D. ベーカー	春	火1/木4	2	1	全	35
	Comprehensive English II	D. ベーカー	秋	火1/木4	2	1	全	35
	Comprehensive English I	S. ペイン	春	月4/木4	2	1	全	36
	Comprehensive English II	S. ペイン	秋	月4/木4	2	1	全	36
	Comprehensive English I	A. ジョーンズ	春	月3/木4	2	1	全	37
	Comprehensive English II	A. ジョーンズ	秋	月3/木4	2	1	全	37
	Comprehensive English I 再履修	M. ボイル	秋	月5/水5	2	1	全	38
	Comprehensive English II 再履修	M. ボイル	春	月5/水5	2	1	全	38

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Comprehensive English III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月4	1	2	全	39
Comprehensive English IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月4	1	2	全	39
Comprehensive English III	M. フッド	春	月3	1	2	全	40
Comprehensive English IV	M. フッド	秋	月3	1	2	全	40
Comprehensive English III	R. ジョーンズ	春	水3	1	2	全	41
Comprehensive English IV	R. ジョーンズ	秋	水3	1	2	全	41
Comprehensive English III	E. フランコ	春	水1	1	2	全	42
Comprehensive English IV	E. フランコ	秋	水1	1	2	全	42
Comprehensive English III	R. ウィルコックス	春	火4	1	2	全	43
Comprehensive English IV	R. ウィルコックス	秋	火4	1	2	全	43
Comprehensive English III	D. グライムズ	春	月3	1	2	全	44
Comprehensive English IV	D. グライムズ	秋	月3	1	2	全	44
Comprehensive English III	R. ジョーンズ	春	水1	1	2	全	45
Comprehensive English IV	R. ジョーンズ	秋	水1	1	2	全	45
Comprehensive English III	B. S. ハウエル	春	水3	1	2	全	46
Comprehensive English IV	B. S. ハウエル	秋	水3	1	2	全	46
Comprehensive English III	A. マグズ	春	木4	1	2	全	47
Comprehensive English IV	A. マグズ	秋	木4	1	2	全	47
Comprehensive English III	R. ダラム	春	木1	1	2	全	48
Comprehensive English IV	R. ダラム	秋	木1	1	2	全	48
Comprehensive English III	B. D. タッチャー	春	火4	1	2	全	49
Comprehensive English IV	B. D. タッチャー	秋	火4	1	2	全	49
Comprehensive English III	D. グライムズ	春	月4	1	2	全	50
Comprehensive English IV	D. グライムズ	秋	月4	1	2	全	50
Reading Strategies I	E. 本橋	春	水1	1	1	全	51
Reading Strategies II	E. 本橋	秋	水1	1	1	全	51
Reading Strategies I	S. ペイン	春	水1	1	1	全	52
Reading Strategies II	S. ペイン	秋	水1	1	1	全	52
Reading Strategies I	児嶋 一男	春	水1	1	1	全	53
Reading Strategies II	児嶋 一男	秋	水1	1	1	全	53
Reading Strategies I	工藤 和宏	春	水1	1	1	全	54
Reading Strategies II	工藤 和宏	秋	水1	1	1	全	54
Reading Strategies I	浅岡 千利世	春	水1	1	1	全	55
Reading Strategies II	浅岡 千利世	秋	水1	1	1	全	55
Reading Strategies I	佐野 康子	春	水1	1	1	全	56
Reading Strategies II	佐野 康子	秋	水1	1	1	全	56
Reading Strategies I	片山 亜紀	春	水1	1	1	全	57
Reading Strategies II	片山 亜紀	秋	水1	1	1	全	57
Reading Strategies I	上野 直子	春	水1	1	1	全	58
Reading Strategies II	上野 直子	秋	水1	1	1	全	58
Reading Strategies I	小早川 暁	春	水1	1	1	全	59
Reading Strategies II	小早川 暁	秋	水1	1	1	全	59
Reading Strategies I	佐々木 輝美	春	水1	1	1	全	60
Reading Strategies II	佐々木 輝美	秋	水1	1	1	全	60
Reading Strategies I	水本 義彦	春	水1	1	1	全	61
Reading Strategies II	水本 義彦	秋	水1	1	1	全	61
Reading Strategies I	前沢 浩子	春	水1	1	1	全	62
Reading Strategies II	前沢 浩子	秋	水1	1	1	全	62
Reading Strategies I 再履修	河原 宏之	春	土1	1	1	全	63
Reading Strategies I 再履修	河原 宏之	秋	土2	1	1	全	63
Reading Strategies II 再履修	河原 宏之	秋	土1	1	1	全	64
Reading Strategies II 再履修	河原 宏之	春	土2	1	1	全	64

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

09～16年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
Reading Strategies III	J. J. ダゲン	春	水2	1	2	全	65	
Reading Strategies IV	J. J. ダゲン	秋	水2	1	2	全	65	
Reading Strategies III	E. 本橋	春	水2	1	2	全	66	
Reading Strategies IV	E. 本橋	秋	水2	1	2	全	66	
Reading Strategies III	前沢 浩子	春	水2	1	2	全	67	
Reading Strategies IV	前沢 浩子	秋	水2	1	2	全	67	
Reading Strategies III	佐野 康子	春	水2	1	2	全	68	
Reading Strategies IV	佐野 康子	秋	水2	1	2	全	68	
Reading Strategies III	佐藤 唯行	春	水2	1	2	全	69	
Reading Strategies IV	佐藤 唯行	秋	水2	1	2	全	69	
Reading Strategies III	佐藤 唯行	春	水1	1	2	全	70	
Reading Strategies IV	佐藤 唯行	秋	水1	1	2	全	70	
Reading Strategies III	原 成吉	春	水2	1	2	全	71	
Reading Strategies IV	原 成吉	秋	水2	1	2	全	71	
Reading Strategies III	鈴木 英一	春	水1	1	2	全	72	
Reading Strategies IV	鈴木 英一	秋	水1	1	2	全	72	
Reading Strategies III	板場 良久	春	水1	1	2	全	73	
Reading Strategies IV	板場 良久	秋	水1	1	2	全	73	
Reading Strategies III	工藤 和宏	春	水2	1	2	全	74	
Reading Strategies IV	工藤 和宏	秋	水2	1	2	全	74	
Reading Strategies III	片山 亜紀	春	水2	1	2	全	75	
Reading Strategies IV	片山 亜紀	秋	水2	1	2	全	75	
Reading Strategies III	小早川 暁	春	水2	1	2	全	76	
Reading Strategies IV	小早川 暁	秋	水2	1	2	全	76	
Writing Skills I	K. エラ	春	木5	1	1	全	77	
Writing Skills II	K. エラ	秋	木5	1	1	全	77	
Writing Skills I	L. K. ハーキンス	春	金1	1	1	全	78	
Writing Skills II	L. K. ハーキンス	秋	金1	1	1	全	78	
Writing Skills I	J. スネール	春	火1	1	1	全	79	
Writing Skills II	J. スネール	秋	火1	1	1	全	79	
Writing Skills I	三吉 美加	春	月2	1	1	全	80	
Writing Skills II	三吉 美加	秋	月2	1	1	全	80	
Writing Skills I	S. S. スティラー	春	火5	1	1	全	81	
Writing Skills II	S. S. スティラー	秋	火5	1	1	全	81	
2013年度以降入学者	Writing Skills I	山中 章子	春	水3	1	1	全	82
	Writing Skills II	山中 章子	秋	水3	1	1	全	82
	Writing Skills I	D. マッキー	春	木4	1	1	全	83
	Writing Skills II	D. マッキー	秋	木4	1	1	全	83
	Writing Skills I	D. マッキー	春	水4	1	1	全	84
	Writing Skills II	D. マッキー	秋	水4	1	1	全	84
	Writing Skills I	K. ミーハン	春	金3	1	1	全	85
	Writing Skills II	K. ミーハン	秋	金3	1	1	全	85
	Writing Skills I	K. ミーハン	春	月2	1	1	全	86
	Writing Skills II	K. ミーハン	秋	月2	1	1	全	86
	Writing Skills I	B. S. ハウエル	春	水4	1	1	全	87
	Writing Skills II	B. S. ハウエル	秋	水4	1	1	全	87
	Writing Skills I	D. マッキー	春	水3	1	1	全	88
	Writing Skills II	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	88
	Writing Skills I	S. S. スティラー	春	火3	1	1	全	89
	Writing Skills II	S. S. スティラー	秋	火3	1	1	全	89
	Writing Skills I	J. E. マジャー	春	月3	1	1	全	90
	Writing Skills II	J. E. マジャー	秋	月3	1	1	全	90
	Writing Skills I	S. ペイン	春	水3	1	1	全	91
	Writing Skills II	S. ペイン	秋	水3	1	1	全	91

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
Writing Skills I	金谷 優子	春	水4	1	1	全	92
Writing Skills II	金谷 優子	秋	水4	1	1	全	92
Writing Skills I	S. ペイン	春	金3	1	1	全	93
Writing Skills II	S. ペイン	秋	金3	1	1	全	93
Writing Skills I	金谷 優子	春	水3	1	1	全	94
Writing Skills II	金谷 優子	秋	水3	1	1	全	94
Writing Skills III	K. エラ	春	木4	1	2	全	95
Writing Skills IV	K. エラ	秋	木4	1	2	全	95
Writing Skills III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	1	2	全	96
Writing Skills IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	1	2	全	96
Writing Skills III	S. ペイン	春	木1	1	2	全	97
Writing Skills IV	S. ペイン	秋	木1	1	2	全	97
Writing Skills III	M. フッド	春	月4	1	2	全	98
Writing Skills IV	M. フッド	秋	月4	1	2	全	98
Writing Skills III	A. ジェネス	春	月4	1	2	全	99
Writing Skills IV	A. ジェネス	秋	月4	1	2	全	99
Writing Skills III	J. E. マジャー	春	月4	1	2	全	100
Writing Skills IV	J. E. マジャー	秋	月4	1	2	全	100
Writing Skills III	B. D. タッチャー	春	木4	1	2	全	101
Writing Skills IV	B. D. タッチャー	秋	木4	1	2	全	101
Writing Skills III	K. ミーハン	春	月4	1	2	全	102
Writing Skills IV	K. ミーハン	秋	月4	1	2	全	102
Writing Skills III	E. フランコ	春	水2	1	2	全	103
Writing Skills IV	E. フランコ	秋	水2	1	2	全	103
Writing Skills III	P. マッケビリー	春	月3	1	2	全	104
Writing Skills IV	P. マッケビリー	秋	月3	1	2	全	104
Writing Skills III	A. マグズ	春	月3	1	2	全	105
Writing Skills IV	A. マグズ	秋	月3	1	2	全	105
Writing Skills III	R. ジョーンズ	春	水2	1	2	全	106
Writing Skills IV	R. ジョーンズ	秋	水2	1	2	全	106
Writing Skills III	B. S. ハウエル	春	水2	1	2	全	107
Writing Skills IV	B. S. ハウエル	秋	水2	1	2	全	107
Writing Skills III	L. K. ハーキンス	春	月3	1	2	全	108
Writing Skills IV	L. K. ハーキンス	秋	月3	1	2	全	108
Writing Skills III	未定	春	未定	1	2	全	109
Writing Skills IV	未定	秋	未定	1	2	全	109
Writing Skills III	山中 章子	春	水4	1	2	全	110
Writing Skills IV	山中 章子	秋	水4	1	2	全	110
Writing Skills III	未定	春	未定	1	2	全	111
Writing Skills IV	未定	秋	未定	1	2	全	111
Writing Skills III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	木4	1	2	全	112
Writing Skills IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	木4	1	2	全	112
E-learning I (1年1組～2組)	S. S. スティラー	春	金5	1	1	全	113
E-learning II (1年1組～2組)	S. S. スティラー	春	金5	1	1	全	113
E-learning I (1年3組～12組)	安井 美代子	秋	金5	1	1	全	114
E-learning II (1年3組～12組)	安井 美代子	秋	金5	1	1	全	114

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

09～16年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語音声学	青柳 真紀子	春	火4	2	1	全	213
英語音声学	中田 ひとみ	秋	水5	2	1	全	213
Basic Essay Writing	三吉 美加	春	月2	1	1	全	80
Basic Essay Writing	三吉 美加	秋	月2	1	1	全	80
Basic Essay Writing	S. S. スティラー	春	火5	1	1	全	81
Basic Essay Writing	S. S. スティラー	秋	火5	1	1	全	81
Basic Essay Writing	山中 章子	春	水3	1	1	全	82
Basic Essay Writing	山中 章子	秋	水3	1	1	全	82
Basic Essay Writing	D. マッキー	春	木4	1	1	全	83
Basic Essay Writing	D. マッキー	秋	木4	1	1	全	83
Paragraph Writing	D. マッキー	春	水4	1	1	全	84
Paragraph Writing	D. マッキー	秋	水4	1	1	全	84
Paragraph Writing	K. ミーハン	春	金3	1	1	全	85
Paragraph Writing	K. ミーハン	秋	金3	1	1	全	85
Paragraph Writing	K. ミーハン	春	月2	1	1	全	86
Paragraph Writing	K. ミーハン	秋	月2	1	1	全	86
Paragraph Writing	B. S. ハウエル	春	水4	1	1	全	87
Paragraph Writing	B. S. ハウエル	秋	水4	1	1	全	87
Paragraph Writing	D. マッキー	春	水3	1	1	全	88
Paragraph Writing	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	88
Writing Strategies	S. S. スティラー	春	火3	1	1	全	89
Writing Strategies	S. S. スティラー	秋	火3	1	1	全	89
Writing Strategies	J. E. マジャー	春	月3	1	1	全	90
Writing Strategies	J. E. マジャー	秋	月3	1	1	全	90
Writing Strategies	S. ペイン	春	水3	1	1	全	91
Writing Strategies	S. ペイン	秋	水3	1	1	全	91
Writing Strategies	金谷 優子	春	水4	1	1	全	92
Writing Strategies	金谷 優子	秋	水4	1	1	全	92
Writing Strategies	S. ペイン	春	金3	1	1	全	93
Writing Strategies	S. ペイン	秋	金3	1	1	全	93
Writing Strategies	金谷 優子	春	水3	1	1	全	94
Writing Strategies	金谷 優子	秋	水3	1	1	全	94
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	春	水3	1	1	全	211
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	秋	水3	1	1	全	211
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	秋	水3	1	1	全	212
Introductory Grammar	河原 宏之	春	月3	1	1	全	177
Introductory Grammar	河原 宏之	秋	月3	1	1	全	177
Introductory Grammar	河原 宏之	春	月5	1	1	全	178
Introductory Grammar	河原 宏之	秋	月5	1	1	全	178
Introductory Grammar	佐藤 芳明	春	火3	1	1	全	179
Introductory Grammar	佐藤 芳明	秋	火3	1	1	全	179
Introductory Grammar	小早川 暁	春	火5	1	1	全	180
Introductory Grammar	小早川 暁	秋	火5	1	1	全	180
Introductory Grammar	佐藤 芳明	春	水4	1	1	全	181
Introductory Grammar	靱江 静	春	金3	1	1	全	182
Introductory Grammar	靱江 静	秋	金3	1	1	全	182
Introductory Grammar	田川 憲二郎	春	金2	1	1	全	183
Introductory Grammar	田川 憲二郎	秋	金2	1	1	全	184
Introductory Grammar	府川 謹也	秋	金2	1	1	全	184
Introductory Grammar	靱江 静	春	金4	1	1	全	185
Introductory Grammar	靱江 静	秋	金4	1	1	全	185

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科共通科目「英語専門講読 I・II」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読 I (Life And Language In The Amazonian Jungle)	J. N. ウェンデル	春のみ	月1	2	2	交	115
英語専門講読 I (Language, Thought, and Culture)	J. N. ウェンデル	春のみ	月2	2	2	交	116
英語専門講読 I・II (Cool Japan: 1900-2016)	J. E. マジャール	春秋	月2	2	2	交	117
英語専門講読 I・II (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	春秋	月2	2	2	交	118
英語専門講読 I・II (Immigration, Social Change & Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2	交	119
英語専門講読 I (生成文法の統語論と意味論)	鈴木 英一	春秋	月3	2	2	交	120
英語専門講読 I・II (英語圏伝承童謡を読む)	大木 理恵子	春秋	月4	2	2	交	121
英語専門講読 I・II (Children's Classics)	前沢 浩子	春秋	月4	2	2	交	122
英語専門講読 I・II (日本社会の再確認)	町田 喜義	春秋	月4	2	2	交	123
英語専門講読 I・II (Situating your Eating Habit in the Social Context)	三吉 美加	春秋	月4	2	2	交	124
英語専門講読 I・II (Rising Son)	N. H. ジョスト	春秋	火1	2	2	交	125
英語専門講読 I・II (平和構築I / 平和構築II)	未定	春秋	火1	2	2	交	126
英語専門講読 I・II (ディスコース分析)	佐藤 芳明	春秋	火2	2	2	交	127
英語専門講読 I・II (英語教育・SLA最前線)	羽山 恵	春秋	火2	2	2	交	128
英語専門講読 I・II (アメリカ現代詩—Gary Snyderの最新詩集 <i>This Present Moment</i> を読む)	原 成吉	春秋	火3	2	2	交	129
英語専門講読 I・II (Language & Education)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	交	130
英語専門講読 I・II (映画『Matrix』批評)	柿田 秀樹	春秋	火3	2	2	交	131
英語専門講読 I・II (国際安全保障)	佐野 康子	春秋	火3	2	2	交	132
英語専門講読 I・II (アメリカ小説)	島田 啓一	春秋	火3	2	2	交	133
英語専門講読 I・II (異文化コミュニケーションの基礎 / 異文化コミュニケーション理論と応用)	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2	交	134
英語専門講読 I・II (日英語の使役構文の比較)	安井 美代子	春秋	火3	2	2	交	135
英語専門講読 I・II (現代東南アジア諸国の経済・政治)	金子 芳樹	春秋	火4	2	2	交	136
英語専門講読 I・II (Prejudice and discrimination in contemporary Japan / Making sense of study abroad experience)	工藤 和宏	春秋	火4	2	2	交	137
英語専門講読 I・II (英国ユダヤ人史 / 米国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	火4	2	2	交	138
英語専門講読 I・II (世界ブランドと国際関係)	竹田 いさみ	春秋	火4	2	2	交	139
英語専門講読 I (音声に現れることばの不思議)	青柳 真紀子	春のみ	水1	2	2	交	140
英語専門講読 I・II (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	春秋	水1	2	2	交	141

学科共通科目「英語専門講読 I・II」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読 I・II (アメリカの広告文化史研究① / アメリカの広告文化史研究②)	板場 良久	春秋	水2	2	2	交	142
英語専門講読 I・II (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷 優子	春秋	水2	2	2	交	143
英語専門講読 I・II (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野 収	春秋	水2	2	2	交	144
英語専門講読 I・II (英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	春秋	水2	2	2	交	145
英語専門講読 II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山 晴信	秋のみ	水2	2	2	交	146
英語専門講読 I・II (英語でグローバル社会を語る)	竹田 いさみ	春秋	水2	2	2	交	147
英語専門講読 II (「客室乗務員」の社会学)	山口 誠	秋のみ	水2	2	2	交	148
英語専門講読 I・II (実践的な英語の聴解・発音教育)	中田 ひとみ	春秋	水4	2	2	交	149
英語専門講読 I・II (外国人が旅するJapan①: Lonely Planet編 / 外国人が旅するJapan②: Michelin & 比較分析編)	山口 誠	春秋	木1	2	2	交	150
英語専門講読 I・II (Diplomacy and International Relations)	伊藤 兵馬	春秋	木2	2	2	交	151
英語専門講読 I・II (ツーリズムの現状と課題 / 航空の現状と歴史)	井上 泰日子	春秋	木3	2	2	交	152
英語専門講読 I・II (Global Woman I / Global Woman II)	上野 直子	春秋	木3	2	2	交	153
英語専門講読 I・II (日本のビート詩人、Nanao Sakaki の詩を読む)	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2	交	154
英語専門講読 I・II (コミュニケーションモデルズ / イノベーションのコミュニケーション)	佐々木 輝美	春秋	木3	2	2	交	155
英語専門講読 I・II (通訳訓練のための原書講読)	柴原 早苗	春秋	木3	2	2	交	156
英語専門講読 I・II (ツーリズム研究の基礎概念 / ツーリズム研究の現代的課題)	鈴木 涼太郎	春秋	木3	2	2	交	157
英語専門講読 I・II (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察)	水本 義彦	春秋	木3	2	2	交	158
英語専門講読 I・II (オーストラリアの詩)	国見 晃子	春秋	木4	2	2	交	159
英語専門講読 I・II (認知言語学)	小早川 暁	春秋	木4	2	2	交	160
英語専門講読 I・II (Sherlock Holmes in simple English)	片山 亜紀	春秋	金2	2	2	交	161
英語専門講読 I・II (Reading oral histories)	小西 卓三	春秋	金2	2	2	交	162
英語専門講読 I・II (Deconstructing “Japaneseness”)	須永 和博	春秋	金2	2	2	交	163
英語専門講読 I・II (Conflict, Peace and Development)	石川 幸子	春秋	金3	2	2	交	164

学科共通科目

09～16年度入学者用

	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
2013 年度以降 入学者	Advanced Writing (Research)	M. ボイル	春	月4	2	3	交	165
	Advanced Writing (Research)	M. ボイル	秋	月4	2	3	交	165
	Advanced Writing (Research)	E. J. ナオウミ	春	火2	2	3	交	166
	Advanced Writing (Research)	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	3	交	166
	Advanced Writing (Business)	D. ブラドリー	春	火3	2	3	交	167
	Advanced Writing (Research)	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	交	167
	Advanced Writing (Business)	J. E. マジャー	春	火4	2	3	交	168
	Advanced Writing (Creative)	S. S. スティラー	春	火4	2	3	交	169
	Advanced Writing (Creative)	S. S. スティラー	秋	火4	2	3	交	169
	Advanced Writing (Creative)	B. D. タッチャー	春	火5	2	3	交	170
	Advanced Writing (Research)	M. ボイル	春	水3	2	3	交	171
	Advanced Writing (Research)	M. ボイル	秋	水3	2	3	交	171
	Advanced Writing (Research)	A. マグズ	春	木2	2	3	交	172
	Advanced Writing (Research)	A. マグズ	秋	木2	2	3	交	172
	Advanced Writing (Research)	K. エラ	春	木3	2	3	交	173
	Advanced Writing (Research)	K. エラ	秋	木3	2	3	交	173
	Advanced Writing (Research)	K. フォード	春	金4	2	3	交	174
	Advanced Writing (Research)	K. フォード	秋	金4	2	3	交	174
	2012 年度以前 入学者	Academic Writing	M. ボイル	春	月4	2	2	交
Academic Writing		M. ボイル	秋	月4	2	2	交	165
Academic Writing		E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	交	166
Academic Writing		E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	交	166
Academic Writing		D. ブラドリー	春	火3	2	2	交	167
Academic Writing		D. ブラドリー	秋	火3	2	2	交	167
Academic Writing		J. E. マジャー	春	火4	2	2	交	168
Academic Writing		S. S. スティラー	春	火4	2	2	交	169
Academic Writing		S. S. スティラー	秋	火4	2	2	交	169
Academic Writing		B. D. タッチャー	春	火5	2	2	交	170
Academic Writing		M. ボイル	春	水3	2	2	交	171
Academic Writing		M. ボイル	秋	水3	2	2	交	171
Academic Writing		A. マグズ	春	木2	2	2	交	172
Academic Writing		A. マグズ	秋	木2	2	2	交	172
Academic Writing		K. エラ	春	木3	2	2	交	173
Academic Writing		K. エラ	秋	木3	2	2	交	173
Academic Writing		K. フォード	春	金4	2	2	交	174
Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	交	174	
College Grammar	河原 宏之	春	月3	2	2	交	175	
College Grammar	河原 宏之	秋	月3	2	2	交	175	
College Grammar	河原 宏之	春	月5	2	2	交	176	
College Grammar	河原 宏之	秋	月5	2	2	交	176	
College Grammar	佐藤 芳明	春	火3	2	2	交	177	
College Grammar	佐藤 芳明	秋	火3	2	2	交	177	
College Grammar	小早川 暁	春	火5	2	2	交	178	
College Grammar	小早川 暁	秋	火5	2	2	交	178	
College Grammar	佐藤 芳明	春	水4	2	2	交	179	
College Grammar	田川 憲二郎	春	金2	2	2	交	180	
College Grammar	田川 憲二郎	秋	金2	2	2	交	180	
College Grammar	府川 謹也	秋	金2	2	2	交	181	
College Grammar	靱江 静	春	金3	2	2	交	182	
College Grammar	靱江 静	秋	金3	2	2	交	182	
College Grammar	靱江 静	春	金4	2	2	交	183	
College Grammar	靱江 静	秋	金4	2	2	交	183	

学科共通科目

09～16年度入学者用

	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
2013 年度以降 入学者	Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	交	184	
	Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	交	184	
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	185	
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	185	
	Communication Skills	M. フッド	春	月2	2	2	交	186	
	Communication Skills	M. フッド	秋	月2	2	2	交	186	
	Communication Skills	M. ダーリン	春	月5	2	2	交	187	
	Communication Skills	M. ダーリン	秋	月5	2	2	交	187	
	Communication Skills	R. ダラム	春	火1	2	2	交	188	
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火1	2	2	交	188	
	Communication Skills	R. ダラム	春	火2	2	2	交	189	
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火2	2	2	交	189	
	Communication Skills	J. スネール	春	火3	2	2	交	190	
	Communication Skills	J. スネール	秋	火3	2	2	交	190	
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	191	
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	191	
	Communication Skills	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	交	192	
	Communication Skills	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	交	192	
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	193	
	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	交	194	
	Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	交	194	
	Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	交	195	
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	195	
	Communication Skills	R. ダラム	春	木3	2	2	交	196	
	Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	197	
	Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	197	
	2012 年度以前 入学者	Communicative English	K. フォード	春	月1	2	2	交	184
		Communicative English	K. フォード	秋	月1	2	2	交	184
Communicative English		R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	185	
Communicative English		R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	185	
Communicative English		M. フッド	春	月2	2	2	交	186	
Communicative English		M. フッド	秋	月2	2	2	交	186	
Communicative English		M. ダーリン	春	月5	2	2	交	187	
Communicative English		M. ダーリン	秋	月5	2	2	交	187	
Communicative English		R. ダラム	春	火1	2	2	交	188	
Communicative English		R. ダラム	秋	火1	2	2	交	188	
Communicative English		R. ダラム	春	火2	2	2	交	189	
Communicative English		R. ダラム	秋	火2	2	2	交	189	
Communicative English		J. スネール	春	火3	2	2	交	190	
Communicative English		J. スネール	秋	火3	2	2	交	190	
Communicative English		R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	191	
Communicative English		R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	191	
Communicative English		R. ウィルコックス	春	火5	2	2	交	192	
Communicative English		R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	交	192	
Communicative English		B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	193	
Communicative English		J. スネール	春	木2	2	2	交	194	
Communicative English		J. スネール	秋	木2	2	2	交	194	
Communicative English		R. ダラム	春	木2	2	2	交	195	
Communicative English		R. ダラム	秋	木2	2	2	交	195	
Communicative English		R. ダラム	春	木3	2	2	交	196	
Communicative English		P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	197	
Communicative English		P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	197	

学科共通科目

09～16年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Discussion	P. マッケビリー	春	月1	2	2	交	198
Discussion	P. マッケビリー	秋	月1	2	2	交	198
Discussion	N. H. ジョスト	春	月3	2	2	交	199
Discussion	N. H. ジョスト	秋	月3	2	2	交	199
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	交	200
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	交	200
Discussion	B. D. タッチャー	春	木5	2	2	交	201
Discussion	B. D. タッチャー	秋	木5	2	2	交	201
Discussion	L. K. ハーキンス	春	金2	2	2	交	202
Discussion	L. K. ハーキンス	秋	金2	2	2	交	202
Discussion	S. S. スティラー	春	金4	2	2	交	203
Discussion	S. S. スティラー	秋	金4	2	2	交	203
Public Speaking I	D. マッキー	春	水2	2	2	交	204
Public Speaking I	D. マッキー	秋	水2	2	2	交	204
Public Speaking I	J. N. ウェンデル	春	月4	2	2	交	205
Public Speaking II	R. ダラム	秋	木3	2	2	交	205
Debate I	N. H. ジョスト	春	火2	2	2	交	206
Debate II	N. H. ジョスト	秋	火2	2	2	交	206
Academic Lecture	J. E. マジャー	春	火3	2	2	交	207
Academic Lecture	D. シュールズ	秋	月4	2	2	交	207
Academic Lecture	伊藤 兵馬	春	木4	2	2	交	208
Academic Lecture	伊藤 兵馬	秋	木4	2	2	交	208
Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	春	水3	2	2	交	209
Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	秋	水3	2	2	交	209
Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	春	水5	2	2	交	210
英語の音声	青柳 真紀子	春	火4	2	2	交	211
英語の音声	中田 ひとみ	秋	水5	2	2	交	211
通訳 I	柴原 早苗	春	水1	2	2	交	212
通訳 I	柴原 早苗	秋	水1	2	2	交	212
通訳 I	柴原 早苗	春	水2	2	2	交	213
通訳 I	柴原 早苗	秋	水2	2	2	交	213
通訳 I	柴原 早苗	春	木1	2	2	交	214
通訳 I	柴原 早苗	秋	木1	2	2	交	214
通訳 II	柴原 早苗	春	木2	2	2	交	215
通訳 II	柴原 早苗	秋	木2	2	2	交	215
翻訳	高田 宣子	春	火5	2	2	交	216
翻訳	高田 宣子	秋	火5	2	2	交	216
翻訳	上野 直子	春	水2	2	2	交	217
翻訳	山中 章子	春	水5	2	2	交	218
翻訳	山中 章子	秋	水5	2	2	交	218
翻訳	柴田 耕太郎	春	木3	2	2	交	219
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2	交	219
翻訳	柴田 耕太郎	春	木4	2	2	交	220
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木4	2	2	交	220
翻訳	P. ネルム	春	水4	2	2	交	221
翻訳	P. ネルム	秋	水3	2	2	交	221
翻訳	白川 貴子	春	水3	2	2	交	222
翻訳	白川 貴子	秋	水3	2	2	交	222

1
3
年
度
以
降

学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月1	2	2	交・経	223
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月1	2	2	交・経	223
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月2	2	2	交・経	224
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月2	2	2	交・経	224
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	火3	2	2	交・経	225
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	火3	2	2	交・経	225
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	水3	2	2	交・経	226
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	水3	2	2	交・経	226
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木3	2	2	交・経	227
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木4	2	2	交・経	228
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	秋	金1	2	3	交・経	229
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	交	230
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	交	230
メディア英語 I	海老沢 達郎	春	火2	2	2	交	231
メディア英語 I	海老沢 達郎	秋	火2	2	2	交	231
メディア英語 I	関根 路代	春	水3	2	2	交	232
メディア英語 I	関根 路代	秋	水3	2	2	交	232
メディア英語 I	国見 晃子	春	木2	2	2	交	233
メディア英語 I	国見 晃子	秋	木2	2	2	交	233
メディア英語 I	P. ネルム	春	金1	2	2	交	234
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金1	2	2	交	234
メディア英語 I	工藤 和宏	春	金1	2	2	交	235
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金2	2	2	交	235
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	交	236
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	交	236
メディア英語 II	関根 路代	春	水2	2	2	交	237
メディア英語 II	関根 路代	秋	水2	2	2	交	237
メディア英語 II	P. ネルム	春	金2	2	2	交	238
メディア英語 II	工藤 和宏	秋	金1	2	2	交	238
シネマ英語	D. シュールズ	秋	月3	2	2	交	239
シネマ英語	高田 宣子	春	火3	2	2	交	240
シネマ英語	高田 宣子	秋	火3	2	2	交	240
シネマ英語	高田 宣子	春	火4	2	2	交	241
シネマ英語	高田 宣子	秋	火4	2	2	交	241
シネマ英語	国見 晃子	春	木3	2	2	交	242
シネマ英語	国見 晃子	秋	木3	2	2	交	242

学科専門科目

言語コミュニケーション(12年度以前)／言語(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語学の世界	小早川 暁	春	木5	2	2	交	243
英語学の世界	府川 謹也	秋	金1	2	2	交	243
言語情報処理 I a	羽山 恵	春	木2	2	2	独・仏・交	244
言語情報処理 I b	羽山 恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	244
言語情報処理 II a	内田 富男	春	水1	2	2		245
言語情報処理 II b	内田 富男	秋	水1	2	2		245
音声・音韻論a	青柳 真紀子	春	木3	2	2		246
シンタクスa	安井 美代子	春	金3	2	2		247
シンタクスb	安井 美代子	秋	金3	2	2		247
意味論a	小早川 暁	春	木3	2	2		248
意味論b	小早川 暁	秋	木3	2	2		248
英語学特殊講義a	鈴木 英一	春	月4	2	2		249
英語学特殊講義b	鈴木 英一	秋	月4	2	2		249
英語学特殊講義a	安井 美代子	春	火4	2	2		250
英語学特殊講義b	府川 謹也	秋	火1	2	2		250
13年度以降 英語学文献セミナーa	小早川 暁	春	火3	2	3		251
13年度以降 英語学文献セミナーb	小早川 暁	秋	火3	2	3		251
12年度以前 英語学文献研究a	小早川 暁	春	火3	2	3		251
12年度以前 英語学文献研究b	小早川 暁	秋	火3	2	3		251

文学コミュニケーション(12年度以前)／文学文化(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
2013年度以降入学者 英語圏の文学・文化a	原 成吉	春	火1	2	2		252
2013年度以降入学者 英語圏の文学・文化b	片山 亜紀	秋	火5	2	2		252
2013年度以降入学者 英語圏の文学・文化・批評a	片山 亜紀	春	火4	2	2	全	253
2013年度以降入学者 英語圏の文学・文化・批評b	児嶋 一男	秋	月3	2	2	全	254
2013年度以降入学者 英語圏の文学・文化・批評b	前沢 浩子	秋	火4	2	2	全	255
2013年度以降入学者 英語圏の社会・思想・歴史a	前沢 浩子	春	火4	2	2	全	256
2013年度以降入学者 英語圏の社会・思想・歴史b	上野 直子	秋	水2	2	2	全	256
2013年度以降入学者 英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		257
2012年度以前入学者 英語圏の文学・文化	原 成吉	春	火1	2	2		252
2012年度以前入学者 英語圏の文学・文化	片山 亜紀	秋	火5	2	2		252
2012年度以前入学者 英語圏の小説a	片山 亜紀	春	火4	2	2	全	253
2012年度以前入学者 英語圏の演劇b	児嶋 一男	秋	月3	2	2	全	254
2012年度以前入学者 英語圏の演劇b	前沢 浩子	秋	火4	2	2	全	255
2012年度以前入学者 英語圏の社会と思想a	前沢 浩子	春	火4	2	2	全	256
2012年度以前入学者 英語圏の社会と思想b	上野 直子	秋	火2	2	2	全	256
2012年度以前入学者 英語圏の歴史b	佐藤 唯行	秋	水2	2	2		257
英語圏のエリア・スタディーズ a	佐藤 唯行	春	火2	2	2	交	258
英語圏のエリア・スタディーズ b	P. ネルム	秋	水4	2	2	交	258
英語圏の文学・文化特殊講義 a	児嶋 一男	春	月3	2	2		259
英語圏の文学・文化特殊講義 a	高橋 雄一郎	春	水2	2	2		260
英語圏の文学・文化特殊講義 b	原 成吉	秋	火1	2	2		259
英語圏の文学・文化特殊講義 b	島田 啓一	秋	木3	2	2		260
13年度以降 英語圏の文学・文化文献セミナーa	島田 啓一	春	木3	2	3		261
13年度以降 英語圏の文学・文化文献セミナーb	高橋 雄一郎	秋	水2	2	3		261
12年度以前 英語圏の文学・文化文献研究 a	島田 啓一	春	木3	2	3		261
12年度以前 英語圏の文学・文化文献研究 b	高橋 雄一郎	秋	水2	2	3		261

学科専門科目

異文化コミュニケーション(12年度以前)／文化コミュニケーション(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
異文化間コミュニケーション論a	佐々木 輝美	春	金5	2	2	養	262
異文化間コミュニケーション論a	佐々木 輝美	秋	金5	2	2	養	262
異文化間コミュニケーション論b	板場 良久	春	金5	2	2	養	263
異文化間コミュニケーション論b	板場 良久	秋	金5	2	2	養	263
メディア・コミュニケーション論a	松本 健太郎	春	火1	2	2		264
メディア・コミュニケーション論b	松本 健太郎	秋	火1	2	2		264
スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	木3	2	2		265
スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	秋	木3	2	2		265
スピーチ・コミュニケーション論a	小西 卓三	春	金1	2	2		266
スピーチ・コミュニケーション論b	小西 卓三	秋	金1	2	2		266
コミュニケーション論特殊講義a	大木 理恵子	春	月1	2	3		267
コミュニケーション論特殊講義b	大木 理恵子	秋	月1	2	3		267
コミュニケーション論特殊講義a	柿田 秀樹	春	火4	2	3		268
コミュニケーション論特殊講義b	柿田 秀樹	秋	火4	2	3		268
コミュニケーション論特殊講義a	佐々木 輝美	春	金4	2	3		269
コミュニケーション論特殊講義b	佐々木 輝美	秋	金4	2	3		269
13年度以降 コミュニケーション論文献セミナーa	松本 健太郎	春	火2	2	3		270
コミュニケーション論文献セミナーb	松本 健太郎	秋	火2	2	3		270
コミュニケーション論文献セミナーa	柿田 秀樹	春	水2	2	3		271
コミュニケーション論文献セミナーb	柿田 秀樹	秋	水2	2	3		271
12年度以前 コミュニケーション論文献研究a	松本 健太郎	春	火2	2	3		270
コミュニケーション論文献研究b	松本 健太郎	秋	火2	2	3		270
コミュニケーション論文献研究a	柿田 秀樹	春	水2	2	3		271
コミュニケーション論文献研究b	柿田 秀樹	秋	水2	2	3		271

国際コミュニケーション(12年度以前)／国際関係(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火3	2	2	交	272
グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火3	2	2	交	272
グローバル社会論b	水本 義彦	春	火3	2	2	交	273
グローバル社会論b	永野 隆行	秋	火3	2	2	交	273
英語圏の国際関係a	永野 隆行	秋	月2	2	2	交・法	274
英語圏の国際関係b	水本 義彦	秋	火5	2	2	交・法	275
グローバル・ヒストリーa (2013年度以降入学者)	水本 義彦	春	木2	2	2	交	276
グローバル・ヒストリーb (2013年度以降入学者)	水本 義彦	秋	木2	2	2	交	276
国際開発論	竹田 いさみ	春	月3	2	2	交	277
国際協力論	金子 芳樹	春	火2	2	2	交	278
国際交流論	石川 幸子	春	金2	2	2	交	279
国際ツーリズム論	鈴木 涼太郎	春	木4	2	2	交	280
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2	2	2	交	281
国際リスク・海洋論 (2013年度以降入学者)	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	交	282
国際関係特殊講義a	永野 隆行	秋	水1	2	2	交 13以降	283
国際関係特殊講義a (2012年度以前入学者、重複履修不可)	水本 義彦	春	木2	2	2	交 13以降	276
国際関係特殊講義b (2012年度以前入学者、重複履修不可)	水本 義彦	秋	木2	2	2	交 13以降	276
国際関係特殊講義b	佐野 康子	秋	火4	2	2	交 13以降	284
国際関係特殊講義b	石川 幸子	秋	金2	2	2	交 13以降	285
13年度以降 国際関係文献セミナーa	佐野 康子	春	火4	2	3	交 13以降	286
国際関係文献セミナーa	石川 幸子	春	金4	2	3	交 13以降	287
国際関係文献セミナーb	石川 幸子	秋	金4	2	3	交 13以降	287
12年度以前 国際関係文献研究a	佐野 康子	春	火4	2	3		286
国際関係文献研究a	石川 幸子	春	金4	2	3		287
国際関係文献研究b	石川 幸子	秋	金4	2	3		287

交流文化論(09年度以降入学者)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	月2	2	2	交・養・経・法	289
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	290
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養・経・法	291
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	292
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	293
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	294
交流文化論(フィールドワーク論)	須永 和博	春	金4	2	2	独・仏・交・ 養・経・法	295
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	296
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	297
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	298
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	火1	2	2	交・養・経・法	299
交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】	北野 収	秋	火2	2	2	交・養・経・法	300
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	301
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	302
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	303
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (トランスナショナルな公共圏を求めて))【2013年度以降入学者】	高橋 雄一郎	秋	木4	2	2	独・仏・交・ 養・経・法	304
交流文化論(パフォーマンス研究)【2012年度以前入学者】 交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (パフォーマンス研究))【2013年度以降入学者】	高橋 雄一郎	秋	木5	2	2	独・仏・交・ 養・経・法	305
交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	306
交流文化論(ツーリズム地誌論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム地誌論))【2013年度以降入学者】	須永 和博	秋	金4	2	2	独・仏・交・ 養・経・法	307
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	308

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	阿部 明日香	春	水3	2	1	養・経・法	309
総合講座	廣田 愛理	秋	水3	2	1	養・経・法	309
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	310
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	310
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	311
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						312~314
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						315~317
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	休講						
(Office中級)	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						318~319
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	
経済原論a	野村 容康	春	木3	2	2	養・経・法	320
経済原論b	野村 容康	秋	木3	2	2	養・経・法	320
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	321
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	321

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第2～5週）と「国際社会の構造と変化」（第7～12）「グローバル化の中の国際社会」（第13～第15週）の3つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション * 国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p>2～6. 国際関係の基礎シリーズ * 20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p>7～12. 国際社会の構造と変化シリーズ * 国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①宗教と国際関係、②イスラムとテロ、③パレスチナ問題などを扱います。</p> <p>13～15. グローバル化の中の国際社会シリーズ * 1990年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。 (初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします)</p>	
到達目標	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるため、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト、参考文献	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第2～5週）と「国際社会の構造と変化」（第7～12）「グローバル化の中の国際社会」（第13～第15週）の3つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション * 国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p>2～6. 国際関係の基礎シリーズ * 20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p>7～12. 国際社会の構造と変化シリーズ * 国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①宗教と国際関係、②イスラムとテロ、③パレスチナ問題などを扱います。</p> <p>13～15. グローバル化の中の国際社会シリーズ * 1990年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。 (初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします)</p>	
到達目標	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるため、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト、参考文献	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、入門科目として国際関係論の基礎的な概念、分析枠組み（国際関係の見方）を習得し、現代の国際社会がどのように成り立ち、どのような問題を抱え、対処しているかを理解することを目的とする。2年次以降の国際関係関連科目を理解する上で必須の基礎的知識の習得に努める。</p> <p>講義では、毎回要点をまとめたレジュメを配布し、それに沿って講義を進めていく。春semesterの前半では、概念的な事柄について講義し、国際関係の3つの分析枠組みを紹介する。後半では、今日のグローバル・イシューズと呼ばれる諸問題をいくつか取り上げ、具体的に検討していく計画である。</p> <p>上記の内容に加えて、講義の冒頭で「今週の国際ニュース」と題して時事問題を紹介し、概念（分析枠組み）と現実の国際問題との関連を意識できるように努める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 国際関係を学ぶ意義 2 国際関係の三つの見方（分析枠組み） 3 リアリズム（1）：国益、権力闘争、戦争 4 リアリズム（2）：アナーキー、勢力均衡 5 リベラリズム（1）：利益の共有、協調・協力 6 リベラリズム（2）：相互依存、国際レジーム 7 マルキシズム（1）：支配と従属 8 マルキシズム（2）：従属論、世界システム論 9 中間のまとめ：三つの分析枠組みの比較 10 グローバリゼーションとは何か 11 反グローバリゼーション 12 グローバル・イシューズ（1）テロ、大量破壊兵器 13 グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14 グローバル・イシューズ（3）内戦、平和構築 15 まとめ 	
到達目標	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の講読		
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する。		
評価方法	平常点（20%）、試験（80%）		

16年度 09～15年度	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学で学ぶ文化やコミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般論の問い直しから始まります。この講義では、文化研究とコミュニケーション研究の知見を活用しながら、様々なテーマに関する問い直しを行います。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（QQ）を行います。これで一定以上の成績を収めた受講生には研究発表を行う資格が与えられます。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要1：授業方針と注意事項 2. 講義概要2：研究班の編成 3. コミュニケーションという力（第1章） 4. メディア（第2章） 5. 個人・家族（第3章） 6. ジェンダー・セクシュアリティ（第4章） 7. 文化（第5章） 8. 記号の力（第6章） 9. 教育（第7章） 10. 精神（第8章） 11. 社会思想としてのコミュニケーション（第9章） 12. 事例研究1 13. 事例研究2 14. グループ・カウンセリング 15. 研究発表 (研究班数等の事情により変更の可能性もあります。) 	
到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの目次と授業計画の講義題目が対応していますので、該当する章を予めよく読んでから各講義に出してください。		
テキスト、参考文献	板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）		
評価方法	研究発表（準備＋発表＋審査）：90%、小テスト（QQ）＝研究発表の資格審査：10%		

16年度 09～15年度	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学で学ぶ文化やコミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般論の問い直しから始まります。この講義では、文化研究とコミュニケーション研究の知見を活用しながら、様々なテーマに関する問い直しを行います。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（QQ）を行います。これで一定以上の成績を収めた受講生には研究発表を行う資格が与えられます。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要1：授業方針と注意事項 2. 講義概要2：研究班の編成 3. コミュニケーションという力（第1章） 4. メディア（第2章） 5. 個人・家族（第3章） 6. ジェンダー・セクシュアリティ（第4章） 7. 文化（第5章） 8. 記号の力（第6章） 9. 教育（第7章） 10. 精神（第8章） 11. 社会思想としてのコミュニケーション（第9章） 12. 事例研究1 13. 事例研究2 14. グループ・カウンセリング 15. 研究発表 (研究班数等の事情により変更の可能性もあります。) 	
到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの目次と授業計画の講義題目が対応していますので、該当する章を予めよく読んでから各講義に出してください。		
テキスト、参考文献	板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）		
評価方法	研究発表（準備＋発表＋審査）：90%、小テスト（QQ）＝研究発表の資格審査：10%		

16年度 09～15年度	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：目的1：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。 目的2：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を使って、具体的な現象を分析することができる。</p> <p>講義概要：本講義では、最初にコミュニケーションが静的なものではなく動的でダイナミックなものであることを説明する。その後、コミュニケーションの要素にはどのようなものがあるか、そしてコミュニケーションと文化はどのように関係するかについて説明する。 さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって態度が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)がどのように人々に伝わっていくかについて説明し、最後にコミュニケーションの研究方法について説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. コミュニケーションプロセスの概念について 3. コミュニケーションの要素① 4. コミュニケーションの要素② 5. コミュニケーションと文化① 6. コミュニケーションと文化② 7. 【ビデオ内容の分析(小レポート①)】 8. コミュニケーションと態度変容 9. メディアの影響① 10. メディアの影響② 11. 【ビデオ内容の分析(小レポート②)】 12. イノベーションの普及コミュニケーション① 13. イノベーションの普及コミュニケーション② 14. コミュニケーションの研究方法論について 15. まとめ 	
到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと		
テキスト、参考文献	テキスト：授業時に資料を配布 参考文献：授業時に随時紹介する		
評価方法	授業への参加度 20%、小レポート 20%、最終レポート 60%		

16年度 09～15年度	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：目的1：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。 目的2：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を使って、具体的な現象を分析することができる。</p> <p>講義概要：本講義では、最初にコミュニケーションが静的なものではなく動的でダイナミックなものであることを説明する。その後、コミュニケーションの要素にはどのようなものがあるか、そしてコミュニケーションと文化はどのように関係するかについて説明する。 さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって態度が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)がどのように人々に伝わっていくかについて説明し、最後にコミュニケーションの研究方法について説明する</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. コミュニケーションプロセスの概念について 3. コミュニケーションの要素① 4. コミュニケーションの要素② 5. コミュニケーションと文化① 6. コミュニケーションと文化② 7. 【ビデオ内容の分析(小レポート①)】 8. コミュニケーションと態度変容 9. メディアの影響① 10. メディアの影響② 11. 【ビデオ内容の分析(小レポート②)】 12. イノベーションの普及コミュニケーション① 13. イノベーションの普及コミュニケーション② 14. コミュニケーションの研究方法論について 15. まとめ 	
到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと		
テキスト、参考文献	テキスト：授業時に資料を配布 参考文献：授業時に随時紹介する		
評価方法	授業への参加度 20%、小レポート 20%、最終レポート 60%		

16年度(12年度以前) 13~15年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。1. 自分自身の「現在と此所」を、近現代500年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。2. 歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。3. 現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。4. あらゆる現実・フィクションには、いくつもの側面があることに敏感になろう。</p> <p>なおこの講義は英国とその(旧)植民地で書かれた散文を中心としたものである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語圏とは、英語とは 2. 社会・文学・歴史 3. 語る聞く文学から読む文学へ(1) 4. 語る聞く文学から読む文学へ(2) 5. 小説の誕生と帝国(1) 6. 小説の誕生と帝国(2) 7. 世紀を越えるベストセラー(1) 8. 世紀を越えるベストセラー(2) 9. 世紀を越えるベストセラー(3) 10. テキストとその受容(1) 11. テキストとその受容(2) 12. テキストとその受容(3) 13. もうひとつの物語(1) 14. ポストコロニアルの視点 15. もうひとつの物語(2) 	
到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には授業で使用するハンドアウトにあらかじめ目を通しておくこと。事後には必要に応じて復習をし、理解不十分な箇所については次の回に質問すること。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布する。参考文献は随時紹介する。		
評価方法	授業内活動(提出物含む) 30%、定期試験 70%		

16年度(12年度以前) 13~15年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。1. 自分自身の「現在と此所」を、近現代500年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。2. 歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。3. 現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。4. あらゆる現実・フィクションには、いくつもの側面があることに敏感になろう。</p> <p>なおこの講義は英国とその(旧)植民地で書かれた散文を中心としたものである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語圏とは、英語とは 2. 社会・文学・歴史 3. 語る聞く文学から読む文学へ(1) 4. 語る聞く文学から読む文学へ(2) 5. 小説の誕生と帝国(1) 6. 小説の誕生と帝国(2) 7. 世紀を越えるベストセラー(1) 8. 世紀を越えるベストセラー(2) 9. 世紀を越えるベストセラー(3) 10. テキストとその受容(1) 11. テキストとその受容(2) 12. テキストとその受容(3) 13. もうひとつの物語(1) 14. ポストコロニアルの視点 15. もうひとつの物語(2) 	
到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には授業で使用するハンドアウトにあらかじめ目を通しておくこと。事後には必要に応じて復習をし、理解不十分な箇所については次の回に質問すること。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布する。参考文献は随時紹介する。		
評価方法	授業内活動(提出物含む) 30%、定期試験 70%		

16年度(12年度以前) 13～15年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図る。</p> <p>講義概要 それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か?という ことを、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評 的に考えていく。</p>		<p>第1回：導入——文学と文化とは? 第2回：想像力の重要性と文化 第3回：人種 1——ケルト人 第4回：人種 2——ケルト文化 第5回：イギリス島の人種のルーツ 第6回：物語と英語の始まり 第7回：信仰と人間観 第8回：Shakespeare 1 第9回：Shakespeare 2 第10回：ジャーナリズムの誕生——報道の責任 第11回：小説の誕生——社会と人間 第12回：19世紀のおもしろ小説 第13回：アイルランド移民とアメリカ 第14回：20世紀から21世紀の小説に 第15回：まとめ——文学と人間</p>	
到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	きちんと辞書を引いて、英文資料の日本語訳をノートに用意して出席してください。		
テキスト、 参考文献	英文資料（B5で4ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で50%。学期末の定期試験はしません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。		

16年度(12年度以前) 13～15年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図る。</p> <p>講義概要 それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か?という ことを、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評 的に考えていく。</p>		<p>第1回：導入——文学と文化とは? 第2回：想像力の重要性と文化 第3回：人種 1——ケルト人 第4回：人種 2——ケルト文化 第5回：イギリス島の人種のルーツ 第6回：物語と英語の始まり 第7回：信仰と人間観 第8回：Shakespeare 1 第9回：Shakespeare 2 第10回：ジャーナリズムの誕生——報道の責任 第11回：小説の誕生——社会と人間 第12回：19世紀のおもしろ小説 第13回：アイルランド移民とアメリカ 第14回：20世紀から21世紀の小説に 第15回：まとめ——文学と人間</p>	
到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	きちんと辞書を引いて、英文資料の日本語訳をノートに用意して出席してください。		
テキスト、 参考文献	英文資料（B5で4ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で50%。学期末の定期試験はしません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。		

09年度以降	英語学入門	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では英語の歴史・英語の音・語・文・意味の特徴を概説する。</p> <p>講義概要: 人間の言葉には歴史があり、現代の英語の姿を見る際に英語の歴史をみることは有益である。人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文を構成する最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語句の配列と構造をもつかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文が実際に使用される場面を扱うのが語用論である。</p>		<p>Week</p> <p>1. 英語の現況・英語の系譜関係</p> <p>2-3. 時代区分と各時期の特色</p> <p>4. 綴り字: 綴り字と音声, 綴り字発音</p> <p>5-7. 音声: 英語音声学, 音声器官, 音声記号, 母音, 子音</p> <p>8. 語彙・語源: 語彙の変化, 語の構造 《中間試験》</p> <p>9-10. 形態論: 語の基本構造, 形態素, 語の構成、派生</p> <p>11-12. 統語論: 統語論とは何か, 構成素構造, 語順</p> <p>13-14. 意味論: 語の意味論, 文の意味論</p> <p>15. 語用論: 直示表現, 会話の含意 《期末試験》</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学ぶ内容に当たる教科書の部分で予め読んで授業を受け、授業後は受講内容を再確認すること。		
テキスト、参考文献	教科書: 安井稔 (1987) 『英語学概論』 開拓社。		
評価方法	出席は単位認定の前提で、中間試験 (45%) と期末試験 (45%) と受講状況 (10%) に基づき総合的に評価する。		

09年度以降	英語学入門	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では英語の歴史・英語の音・語・文・意味の特徴を概説する。</p> <p>講義概要: 人間の言葉には歴史があり、現代の英語の姿を見る際に英語の歴史をみることは有益である。人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文を構成する最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語句の配列と構造をもつかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文が実際に使用される場面を扱うのが語用論である。</p>		<p>Week</p> <p>1. 英語の現況・英語の系譜関係</p> <p>2-3. 時代区分と各時期の特色</p> <p>4. 綴り字: 綴り字と音声, 綴り字発音</p> <p>5-7. 音声: 英語音声学, 音声器官, 音声記号, 母音, 子音</p> <p>8. 語彙・語源: 語彙の変化, 語の構造 《中間試験》</p> <p>9-10. 形態論: 語の基本構造, 形態素, 語の構成、派生</p> <p>11-12. 統語論: 統語論とは何か, 構成素構造, 語順</p> <p>13-14. 意味論: 語の意味論, 文の意味論</p> <p>15. 語用論: 直示表現, 会話の含意 《期末試験》</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学ぶ内容に当たる教科書の部分で予め読んで授業を受け、授業後は受講内容を再確認すること。		
テキスト、参考文献	教科書: 安井稔 (1987) 『英語学概論』 開拓社。		
評価方法	出席は単位認定の前提で、中間試験 (45%) と期末試験 (45%) と受講状況 (10%) に基づき総合的に評価する。		

09年度以降	英語学入門	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>impossible</u>, <u>intolerable</u> はどちらも下線部の逆を意味する形容詞であるが、2番目の文字は m と n で異なる。また、<u>incomplete</u> は n だが、<u>intolerable</u> の n とは舌の位置が違うのに気づくだろうか。同じような違いが日本語の「乾杯」「関東」「関係」の「ん」の発音にもある。また、日本語には「上がる／上げる」や「続く／続ける」のように意味や発音に共通部分が多いペアがあるが、英語でも <u>rise/raise</u> や <u>continue</u> (自・他動詞同形) というように、同じような動詞のペアがある。これらの共通性は日英語に限ったことではなく、世界中の言語に広くみられる。この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく。扱うデータは英語が中心であるが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げる。また、不幸にして母国語を持たない、もしくは失ってしまった事例などについて考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 無意識の(言語)知識=Human Intelligence 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象 4. 英語の単語の成り立ち 5. 続き 6. 英語のアクセント 7. 中間試験(1～6週の範囲) 8. 英語の文構造 9. 続き 10. 続き 11. 文構造と意味 12. 子供の言語獲得 13. 言語障害 14. 私たちにとって言語とは何か 15. まとめ <p>定期試験(8-15週の範囲)</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の最初に行う復習クイズの準備をする。		
テキスト、参考文献	テキストはなし。プリントを配布する。		
評価方法	授業内クイズ(10%)、中間試験(40%)、定期試験(50%)		

09年度以降	英語学入門	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>impossible</u>, <u>intolerable</u> はどちらも下線部の逆を意味する形容詞であるが、2番目の文字は m と n で異なる。また、<u>incomplete</u> は n だが、<u>intolerable</u> の n とは舌の位置が違うのに気づくだろうか。同じような違いが日本語の「乾杯」「関東」「関係」の「ん」の発音にもある。また、日本語には「上がる／上げる」や「続く／続ける」のように意味や発音に共通部分が多いペアがあるが、英語でも <u>rise/raise</u> や <u>continue</u> (自・他動詞同形) というように、同じような動詞のペアがある。これらの共通性は日英語に限ったことではなく、世界中の言語に広くみられる。この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく。扱うデータは英語が中心であるが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げる。また、不幸にして母国語を持たない、もしくは失ってしまった事例などについて考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 無意識の(言語)知識=Human Intelligence 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象 4. 英語の単語の成り立ち 5. 続き 6. 英語のアクセント 7. 中間試験(1～6週の範囲) 8. 英語の文構造 9. 続き 10. 続き 11. 文構造と意味 12. 子供の言語獲得 13. 言語障害 14. 私たちにとって言語とは何か 15. まとめ <p>定期試験(8-15週の範囲)</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の最初に行う復習クイズの準備をする。		
テキスト、参考文献	テキストはなし。プリントを配布する。		
評価方法	授業内クイズ(10%)、中間試験(40%)、定期試験(50%)		

09年度以降	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Lecture Workshop I is a one-semester required course for 1st-year students. Students take two lecture series a semester, each taught by a different instructor.</p> <p><u>Overall Objectives</u> In this course, students are expected to develop their overall English language skills while learning about specific topics. The course is called “workshop” because it is a combination of lectures by instructors and activities in which students are actively engaged in interaction with classmates and the material.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include “World Englishes,” “The Science of Habits,” “Introduction to Africa,” and “Coaching Yourself!”</p>	
到達目標	講義とワークを組み合わせた総合的な英語授業を通じて、積極的な英語学習ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will prepare for classes through review and revision of in-class lecture notes, study of vocabulary, and other associated homework assignments.		
テキスト、参考文献	Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class		
評価方法	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.		

09年度以降	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Lecture Workshop II is a one-semester required course for 1st-year students. Students take two lecture series a semester, each taught by a different instructor.</p> <p><u>Overall Objectives</u> In this course, students are expected to develop their overall English language skills while learning about specific topics. The course is called “workshop” because it is a combination of lectures by instructors and activities in which students are actively engaged in interaction with classmates and the material.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include “English through Drama,” “Japanese Myths and Legends,” “Puzzles and Thinking Outside the Box,” and “History of English: Contact, Conflict & Change.”</p>	
到達目標	講義とワークを組み合わせた総合的な英語授業を通じて、積極的な英語学習ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will prepare for classes through review and revision of in-class lecture notes, study of vocabulary, and other associated homework assignments.		
テキスト、参考文献	Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.		
評価方法	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.		

09年度以降	Comprehensive English I (1年1組)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction/orientation 2. Disney video scene (1) 3. “ (2) 4. “ (3) 5. “ (4) 6. “ (5) 7. “ (6) 8. “ (7) 9. Disney Mid Term 10. Presentations 11. “ 12. “ 13. “ 14. “ 15. “ 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.		
テキスト、参考文献	Prints and handouts provided by the instructor shall be used for this class.		
評価方法	Participation, one mid term test, one presentation and one report		

09年度以降	Comprehensive English II (1年1組)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Same as above 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.		
テキスト、参考文献	Same as above		
評価方法	Same as above		

09年度以降	Comprehensive English I (1年2組)	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course orientation & overview 2 Communication Skill 1 [CS 1]: first impressions 3 CS 2: cultural & communicative awareness 4 CS 3: ice-breakers 5 CS 4: asking questions 6 CS 5: responding 7 CS 6: active listening 8 Communication skills review 9 Study Skill 1 [SS 1]: organising notes 10 SS 2: extensive reading & listening 11 Graded reader 1 12 SS 3: group projects 13 Graded reader 2 14 Study skills review 15 Course review & evaluation 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pre-class study: review (or, if absent, catch up with previous class and complete any assignments) Post-class study: review class and complete any homework assignment set		
テキスト、参考文献	Class 2: 1. Life of Pi, Scholastic 2. Slumdog Millionaire, Scholastic		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, assignments 25%, tests 25%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年2組)	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Overview of the creative process 2 Choosing your topic & researching 3 Rule of three : Number five 4 Outlining & drafting 5 Editing & practicing 6 Presentation week 1 7 Presentation feedback1 8 V for Vendetta 1: V's speech 9 Vendetta 2: Valerie's letter 10 Vendetta 3: Rookwood's story 11 Presentation week 2 12 Presentation feedback 13 Love Actually 14 Presentation week 3 15 Course review & evaluation 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pre- and post-class study consists of presentation preparation and practice		
テキスト、参考文献	No set text		
評価方法	Evaluation based upon: preparation and practice of, and presence in three presentations 100%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年3組)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction Discussion basics Small group presentation basics Presentation and Discussion Presentation and Discussion Presentation and Discussion Presentation and Discussion Current event large group discussion Current event large group discussion Current event large group discussion Video Presentation preparation Video Presentation preparation Video Presentations Video presentations Final evaluation 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 50%, homework assignments 25%, final project 35%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年3組)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<ol style="list-style-type: none"> Review Current event small group discussions Current event small group discussions Current event small group discussions Movie discussion Movie discussion Movie discussion Music discussion Music discussion Music discussion Poster presentation preparation Poster presentation preparation Poster presentations Poster presentations Final evaluation 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Materials will be provided.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 50%, homework assignments 25%, final project 35%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年4組)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Class orientation, introductions 2: Introduction to presentation skills 3: Listening for gist, information speech 4: Class survey and report 5: Listening skill: inferring, demonstration speech 6: Small group presentations 7: Comprehensive reading 8: Review, reading and listening tests 9: Grammar workshop, reported speech 10: Research and report writing 11: Investigative reporting 12: Introduction to topic research 13: Topic research reporting 14: Review, speaking test 15: Consultations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chapter readings, speech preparation, review for tests		
テキスト、参考文献	<ul style="list-style-type: none"> •NorthStar Listening and Speaking Level 3, 4th Edition (Pearson Longman) •Speaking of Speech (MacMillan) 		
評価方法	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech		

09年度以降	Comprehensive English II (1年4組)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Class orientation, giving opinions 2: Active listening, expressing doubt 3: Informal and formal speech 4: Reading skills: summarizing 5: Review, reading and listening tests 6: Grammar review 7: Topic selection and making outlines 8: Speech delivery skills: using visual aids 9: Class speeches 10: Pronunciation workshop, 11: Investigative reporting II 12: Writing persuasive speeches 13: Review, using multimedia in speeches 14: Persuasive speech presentations 15: Consultations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chapter readings, speech preparation, review for tests		
テキスト、参考文献	<ul style="list-style-type: none"> •NorthStar Listening and Speaking Level 3, 4th Edition (Pearson Longman) •Speaking of Speech (MacMillan) 		
評価方法	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech		

09年度以降	Comprehensive English I (1年5組)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<p>Week 1 – Introductions, Course Overview</p> <p>Week 2 – Getting to know you</p> <p>Week 3 – People the great communicators</p> <p>Week 4 – The way we live</p> <p>Week 5 – Living in the USA</p> <p>Week 6 – It all went wrong</p> <p>Week 7 – The Man with the Golden Gun</p> <p>Week 8 – Midterm Exam</p> <p>Week 9 – Let`s go shopping!</p> <p>Week 10 – What do you want to do?</p> <p>Week 11 – What are your ambitions and plans?</p> <p>Week 12 – The best in the world</p> <p>Week 13 – Fame</p> <p>Week 14 – Review</p> <p>Week 15 – Final Examination</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the material and prepare for the lessons before we have class.		
テキスト、参考文献	American Headway Book 2 – John and Liz Soars Oxford University Press		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, and Final Exam – 30%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年5組)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<p>Week 1 – Dos and don't`s</p> <p>Week 2 – Going places</p> <p>Week 3 – The world's first megalopolis</p> <p>Week 4 – Scared to death</p> <p>Week 5 – When I was young</p> <p>Week 6 – Things that changed the world</p> <p>Week 7 – Three plants that changed the world</p> <p>Week 8 – Midterm Exam</p> <p>Week 9 – Dreams and reality</p> <p>Week 10 – Giving advice</p> <p>Week 11 – Making a living</p> <p>Week 12 – What is a good job?</p> <p>Week 13 – All you need is love</p> <p>Week 14 – Review</p> <p>Week 15 – Final Examination</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the material and prepare for the lessons before we have class.		
テキスト、参考文献	American Headway Book 2 – John and Liz Soars Oxford University Press		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30% Final Exam – 30%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年6組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Orientation; Topic: You; Task: Introducing yourself; Assessment: explanation & demonstration 2: Topic: Hometown; Task: Asking for & giving information 1 3: Topic: Free time & Hobbies & Club activities; Task: Asking for & giving information 2 4: Topic: Music; Task: Talking about preferences & justifying 1 5: Topic: Experiences; Task: Talking about & describing experiences 6: Topic: Travel; Task: Describing 7: Topic: Food & Eating out; Task: Inviting, accepting & refusing 8: Topic: Sports; Task: Agreeing & disagreeing 9: Topic: Entertainment; Task: Giving opinions 10: Topic: Student choice; Task: Instructing 11: Topic: Part-time jobs; Task: Complaining 12: Topic: Mind, Body & Health; Task: Suggesting 13: Topic: Love & Money; Task: Talking about preferences & justifying 2 14: Topic: Your future; Task: Predicting 15: Topic: Student choice; Task: Student choice 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 34%; Task: 13%; Accuracy: 39%; Homework 14%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年6組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Orientation; Impromptu speech skill & practice 2: Impromptu speech skill & practice 3: Impromptu speech assessment 4: Speeches VS Presentations 5: Speeches VS Presentations 6: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 7: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 8: Historical speeches; Speech 1 skill & practice 9: Speech 1 assessment 10: Speech 1 assessment 11: Historical speeches; Speech 2 skill & practice 12: Historical speeches; Speech 2 skill & practice 13: Historical speeches; Speech 2 skill & practice 14: Speech 2 assessment 15: Speech 2 assessment 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Impromptu speech: 10%; Speech 1: 20%; Speech 2: 20%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年7組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To give students maximum opportunities to communicate</p> <p>2. To build student confidence in interpersonal communication</p> <p>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</p>		<p>1: Orientation; Topic: You; Task: Introducing yourself; Assessment: explanation & demonstration</p> <p>2: Topic: Hometown; Task: Asking for & giving information 1</p> <p>3: Topic: Free time & Hobbies & Club activities; Task: Asking for & giving information 2</p> <p>4: Topic: Music; Task: Talking about preferences & justifying 1</p> <p>5: Topic: Experiences; Task: Talking about & describing experiences</p> <p>6: Topic: Travel; Task: Describing</p> <p>7: Topic: Food & Eating out; Task: Inviting, accepting & refusing</p> <p>8: Topic: Sports; Task: Agreeing & disagreeing</p> <p>9: Topic: Entertainment; Task: Giving opinions</p> <p>10: Topic: Student choice; Task: Instructing</p> <p>11: Topic: Part-time jobs; Task: Complaining</p> <p>12: Topic: Mind, Body & Health; Task: Suggesting</p> <p>13: Topic: Love & Money; Task: Talking about preferences & justifying 2</p> <p>14: Topic: Your future; Task: Predicting</p> <p>15: Topic: Student choice; Task: Student choice</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 34%; Task: 13%; Accuracy: 39%; Homework 14%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年7組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</p> <p>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</p> <p>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</p>		<p>1: Orientation; Impromptu speech skill & practice</p> <p>2: Impromptu speech skill & practice</p> <p>3: Impromptu speech assessment</p> <p>4: Speeches VS Presentations</p> <p>5: Speeches VS Presentations</p> <p>6: Historical speeches; Speech 1 skill & practice</p> <p>7: Historical speeches; Speech 1 skill & practice</p> <p>8: Historical speeches; Speech 1 skill & practice</p> <p>9: Speech 1 assessment</p> <p>10: Speech 1 assessment</p> <p>11: Historical speeches; Speech 2 skill & practice</p> <p>12: Historical speeches; Speech 2 skill & practice</p> <p>13: Historical speeches; Speech 2 skill & practice</p> <p>14: Speech 2 assessment</p> <p>15: Speech 2 assessment</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Impromptu speech: 10%; Speech 1: 20%; Speech 2: 20%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年8組)	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course and class 2. Personalized topics: Family, Hometown 3. Personalized topics: School experiences 4. Personalized topics: Lifestyle and Healthy Living 5. Me, My Life posters 6. Personalized topics: Travel experiences 7. Reading and discussion assignments 8. Reading and discussion assignments 9. The language of reasoning and critical thinking 10. Choosing social issues for reading/research 11. Class survey/ collation of survey result 12. Oral report/discussion of chosen social issues 13. Oral report/discussion of chosen social issues 14. Oral report/discussion of chosen social issues 15. Course review and self-reflection 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Post-class: Review readings and vocabulary, and journal writing Pre-class: Readings, vocabulary preparation, researching issues, and poster preparation		
テキスト、参考文献	No textbook is required		
評価方法	Evaluation is based on completion of homework readings and summary writing (20%), active classroom participation (40%), poster and mind-map oral reports (30%), and speaking tests (10%).		

09年度以降	Comprehensive English II (1年8組)	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course and class 2. Great Lives poster reports 3. The language of reasoning and critical thinking 4. Internet news assignments reports and discussion 5. Internet news assignments reports and discussion 6. Internet news assignments reports and discussion 7. Internet news assignments reports and discussion 8. World Heritage and the Environment 9. Researching chosen World Heritage Sites 10. Oral reports of World Heritage Sites 11. Issues (cause, effect, solution chain) presentations 12. Issues (cause, effect, solution chain) presentations 13. Fluency speech topics 14. Mind-map reports on New Year Traditions 15. Course review and self-reflection 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Post-class: Review readings and vocabulary, journal writing, and presentation self-reflection Pre-class: Readings, vocabulary preparation, researching issues, and power point preparation		
テキスト、参考文献	No textbook is required		
評価方法	Evaluation is based on completion of homework readings and summary writing (20%), active classroom participation (40%), oral reports and presentations (30%), and speaking tests (10%).		

09年度以降	Comprehensive English I (1年9組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course information and personal introductions Manners and politeness Stereotypes and multiculturalism Comparative and superlative adjectives Skills and preferences Jobs and employment Past simple and present perfect Test Requests and responses Agreeing and disagreeing Movies and emotions Things that cause feelings and how you feel Rules and suggestions Real and imaginary situations Test 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be given homework at the end of each lesson. They are expected to have completed the homework and to have reviewed the previous lesson before the start of class.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Handouts will be provided.		
評価方法	Tests: 40% (2 x 20%), Participation: 30%, Homework: 30%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年9組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<ol style="list-style-type: none"> Course information Practise good posture, eye contact, body language Write scripts and prepare for first presentations First presentations First presentations Practise gesturing and emphasising key words Write scripts and prepare for second presentations Second presentations Second presentations Learn to create effective visuals Write scripts and prepare for third presentations Third presentations Third presentations Write scripts and prepare for final presentations Final presentations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to complete a lot of homework to prepare for lessons. Students need to research, write and rehearse presentations at home. Completing homework is essential to succeed in this course.		
テキスト、参考文献	<i>Speaking of Speech</i> , David Harrington & Charles LeBeau, MacMillan		
評価方法	Presentations: 80% (4 x 20%), Class participation: 20%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年10組)	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course orientation & overview Communication Skill 1 [CS 1]: first impressions CS 2: cultural & communicative awareness CS 3: ice-breakers CS 4: asking questions CS 5: responding CS 6: active listening Communication skills review Study Skill 1 [SS 1]: organising notes SS 2: extensive reading & listening Graded reader 1 SS 3: group projects Graded reader 2 Study skills review Course review & evaluation 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pre-class study: review (or, if absent, catch up with previous class and complete any assignments) Post-class study: review class and complete any homework assignment set		
テキスト、参考文献	Class 10: 1. About Time, Scholastic 2. Life of Pi, Scholastic		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, assignments 25%, tests 25%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年10組)	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<ol style="list-style-type: none"> Overview of the creative process Choosing your topic & researching Rule of three : Number five Outlining & drafting Editing & practicing Presentation week 1 Presentation feedback1 V for Vendetta 1: V's speech Vendetta 2: Valerie's letter Vendetta 3: Rookwood's story Presentation week 2 Presentation feedback Love Actually Presentation week 3 Course review & evaluation 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pre- and post-class study consists of presentation preparation and practice		
テキスト、参考文献	No set text		
評価方法	Evaluation based upon: preparation and practice of, and presence in three presentations 100%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年11組)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction Conversation strategies Conversation strategies Conversation strategies Conversation strategies Conversation strategies Small-group discussion basics Small group discussions Small group discussions Small group discussions Video Self-Introduction preparation Video Self-Introduction preparation Video Self-Introduction preparation Video Introductions Final evaluations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 50%, homework assignments 25%, final project 35%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年11組)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<ol style="list-style-type: none"> Review Current event small group discussions Current event small group discussions Current event small group discussions Movie discussion Movie discussion Movie discussion Music discussion Music discussion Music discussion 20X20 presentation preparation 20X20 presentation preparation 20X20 presentation preparation 20X20 presentations Final evaluations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Materials will be provided.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 50%, homework assignments 25%, final project 35%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年12組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course information and personal introductions 2. Manners and politeness 3. Stereotypes and multiculturalism 4. Comparative and superlative adjectives 5. Skills and preferences 6. Jobs and employment 7. Past simple and present perfect 8. Test 9. Requests and responses 10. Agreeing and disagreeing 11. Movies and emotions 12. Things that cause feelings and how you feel 13. Rules and suggestions 14. Real and imaginary situations 15. Test 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be given homework at the end of each lesson. They are expected to have completed the homework and to have reviewed the previous lesson before the start of class.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Handouts will be provided.		
評価方法	Tests: 40% (2 x 20%), Participation: 30%, Homework: 30%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年12組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course information 2. Practise good posture, eye contact, body language 3. Write scripts and prepare for first presentations 4. First presentations 5. First presentations 6. Practise gesturing and emphasising key words 7. Write scripts and prepare for second presentations 8. Second presentations 9. Second presentations 10. Learn to create effective visuals 11. Write scripts and prepare for third presentations 12. Third presentations 13. Third presentations 14. Write scripts and prepare for final presentations 15. Final presentations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to complete a lot of homework to prepare for lessons. Students need to research, write and rehearse presentations at home. Completing homework is essential to succeed in this course.		
テキスト、参考文献	<i>Speaking of Speech</i> , David Harrington & Charles LeBeau, MacMillan		
評価方法	Presentations: 80% (4 x 20%), Class participation: 20%		

09年度以降	Comprehensive English II (再履修) 春学期	担当者	M. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Self Introduction 2. Weather :Unit 1 – Guided Discussions 3. People: Unit 2 – Learning Diary 4. The Media: Unit 3 – Reporting 5. Review – Pair Presentation 6. Health: Unit 4 – Question & Answer 7. Natural World: Unit 5 – Comparisons 8. Society & Family: Unit 6 – Opinion 9. Review – Opinion Piece 10. Work & Industry: Unit 9 – Describing a Process 11. Global Affairs: Unit 10 – Planning 12. Sports: Unit 12 – Rules 13. Group Presentation Preparation 14. Group Presentations 15. Course Review & Evaluations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in promptly.		
テキスト、参考文献	Lebeau, L. & Rees, G., (2008) <i>Language Leader. Pre-Intermediate</i> , Pearson-Longman.		
評価方法	In-class participation 40%; presentations 20%; Opinion piece/ learning diary 20%; homework 20%		

09年度以降	Comprehensive English I (再履修) 秋学期	担当者	M. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Self Introductions. 2. Meeting people on campus - Chapter 1 3. Asking for information – Chapter 2 4. Making appointments – Chapter 5 5. Pair presentations – role play 6. Controlling a conversation – Chapter 3 7. Active listening – Chapter 4 8. Information exchange 9. The peer tutorial – Chapter 10 10. Presenting to small groups – Chapter 11 11. Reading review 12. Planning a group project part 1 – Chapter 13 13. Planning a group project part 2 – Chapter 13 14. Group presentations and peer evaluation 15. Course review and evaluation. 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in promptly.		
テキスト、参考文献	Hemmert, A. & O'Connell, G., (1998). <i>Communicating on Campus: Skills for Academic Speaking</i> , Alta Book Center Publishers.		
評価方法	Class involvement 40%; presentations 20%; information exchange/ reading review 20%; homework 20%.		

09年度以降	Comprehensive English III (2年①)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation Reading 1 & referring to the reading Reading 2 & reporting findings Reading 3 & giving an opinion Reading 4 & justifying Reading 5 & agreeing and disagreeing Reading 6 & interrupting Reading 7 & clarifying Reading 8 & all functional language skills Reading 9 & all functional language skills Reading 10 & all functional language skills Reading 11 & all functional language skills Reading 12 & all functional language skills Reading 13 & all functional language skills Reading 14 & all functional language skills Course survey 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 52%; Lesson assessment: 36%; Homework 12%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年①)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation & Impromptu speech skill & practice Impromptu speech assessment & Speeches VS Presentations Impromptu speech assessment & Speeches VS Presentations Speeches VS Presentations & Presentation skill & practice Presentation assessment Presentation assessment Presentation assessment Course survey 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Impromptu speech 10%; Presentation 40%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年②)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Topic 1: Media Issues: Advertising Week 3: Advertising, continued Week 4: Topic 2: Identity Theft Week 5: Identity Theft, continued Week 6: Topic 3: Extreme Sports Week 7: Extreme Sports, continued Week 8: Topic 4: Language and Identity Week 9: Language and Identity, continued Week 10: Topic 5: Culture and Commerce Week 11: Culture and Commerce, continued Week 12: Presentation Skills Week 13: Presentation Skills Week 14: Workshop & Review Week 15: Final Presentations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	North Star Listening and Speaking 3 (4 th Edition)		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, quizzes, and in-class presentations.		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年②)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Week 1: Library Basics Week 2: Topic 6: The Art of Storytelling Week 3: Storytelling, continued Week 4: Topic 7: The Simple Life Week 5: The Simple Life, continued Week 6: Topic 8: Marriage Week 7: Marriage, continued Week 8: Topic 9: Climate Change Week 9: Climate Change, continued Week 10: Topic 10: Corporal Punishment Week 11: Corporal Punishment, continued Week 12: Writing Skills: Development Week 13: Writing Skills: Focus Week 14: Workshop & Review Week 15: Final Presentations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	North Star Listening and Speaking 3 (4 th Edition)		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, quizzes, and in-class presentations.		

09年度以降	Comprehensive English III (2年③)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Possible First Semester Topics:</p> <p>Introduction to the course of studies Students getting to know each other and the teacher. Japanese work ethics The media</p> <p>Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.		
テキスト、参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library.		
評価方法	Class work, homework, voc tests 40%, participation and effort, 30%, Final evaluations 30%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年③)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Possible First Semester Topics:</p> <p>Welcome back to the class. Health Issues. Brief enquiry into thinking. Politics and its relevance to young people.</p> <p>Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.		
テキスト、参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library.		
評価方法	Class work, homework, voc tests 40%, participation and effort, 30%, Final evaluations 30%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年④)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction, outline, evaluation, course requirements. Company #1, reading, comprehension & discussion Company #2, reading, comprehension & discussion Company #3, reading, comprehension & discussion Company #4, reading, comprehension & discussion Company #5, reading, comprehension & discussion Quiz 1-15% Library company research project task 1 Company #6, reading, comprehension & discussion Presentation, reading, comprehension & discussion Quiz 2 - 15% Library company research project task 2 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and company research.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Company class presentation = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年④)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> Library company research project task 3 Company #1, reading, comprehension & discussion Company #2, reading, comprehension & discussion Company #3, reading, comprehension & discussion Company #4, reading, comprehension & discussion Company #5, reading, comprehension & discussion Quiz 1-15% Library company research project task 4 Company #6, reading, comprehension & discussion Presentation, reading, comprehension & discussion Quiz 2 - 15% Library company research project task 5 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and company research.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Company class presentation = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年⑤)	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction: Tutorial on Reading and Discussion 2. Group Discussions 3. Group Discussions 4. Group Discussions 5. Discussion Test Preparation 6. Discussion Tests 7. Group Discussions 8. Group Discussions 9. Group Discussions 10. Discussion Tests 11. Group Discussions 12. Group Discussions 13. Group Discussions 14. Discussion Tests 15. Course Review 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Written reports 50%, Discussion tests 50%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年⑤)	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Text Unit 1 3. Text Unit 2 4. Text Unit 3 5. Group Presentation Preparation 6. Group Presentations 7. Text Unit 4 8. Text Unit 5 9. Text Unit 6 10. Individual Presentations 11. Text Unit 7 12. Text Unit 8 13. Text Unit 9 14. Final Presentations 15. Course Review 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト、参考文献	Stafford, M. D. (2012). Successful Presentations: An Interactive Guide. Cengage Learning.		
評価方法	Classroom assignments 50%, Presentations 50%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年⑥)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction – Discussion Procedure Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors Choosing a Topic / Discussion Steps Role of the Discussion Leader and Group Members Practice Presentations and Peer Feedback Discussion Presentations Environment: Problem Solving / Discussion Steps Identifying Causes and Solutions Practice Discussions and Peer Feedback Discussion Presentations Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps Agreeing and Disagreeing with Opinions Practice Presentations and Peer Feedback Discussion Presentations Review and Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト、参考文献	No text: The materials will be provided by the teacher.		
評価方法	Quizzes 15%, Discussion 1: 20%, Discussion 2: 20%, Discussion 3: 20%, Contribution, Participation, and Homework: 25%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年⑥)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction / Current Events: Discussions Choosing a Topic / Summarizing an article Introducing a Topic / Choosing a Discussion Goal Preparing Talking Points and Follow-up Questions In-class Student Led Discussions Informative Presentation / Choosing a Topic Organizing a Presentation Using PowerPoint Presentation Workshop / Speaking Tips In-class Presentation Domestic Politics : Policy Debate / Procedures Making Logical Arguments / Supporting Evidence Opening Speeches / Rebuttals In-class Debates Review and Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト、参考文献	No text: The materials will be provided by the teacher.		
評価方法	Discussion 1: 25%, Presentation: 25%, Debate: 25%, Contribution, Participation, and Homework: 25%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑦)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Possible First Semester Topics: Introduction to the course of studies Students getting to know each other and the teacher. Japanese work ethics The media</p> <p>Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.		
テキスト、参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library.		
評価方法	Class work, homework, voc tests 40%, participation and effort, 30%, Final evaluations 30%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑦)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Possible First Semester Topics: Welcome back to the class. Health Issues. Brief enquiry into thinking. Politics and its relevance to young people.</p> <p>Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.		
テキスト、参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library.		
評価方法	Class work, homework, voc tests 40%, participation and effort, 30%, Final evaluations 30%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑧)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<p>Week 1. Introduction, outline, course requirements, getting to know your teacher and each other. Week 2: Language. Unit 4. Vocabulary, reading. Week 3: Language. Unit 4. Listening, reading. Week 4. Advertising. Unit 5. Speaking, reading. Week 5. Advertising. Unit 5. Listening, speaking. Week 6: Mid-term presentations Part One Week 7: Mid-term presentations Part Two Week 8: Arts and media. Unit 11. Reading, listening. Week 9. Arts and media. Unit 11. Vocabulary, speaking. Week 10. Travel. Unit 2. Listening, reading. Week 11: Travel. Unit 2. Speaking, writing. Week 12: Design. Unit 7. Reading, speaking. Week 13. Design. Unit 7 Speaking, writing. Week 14: Final Presentations Part One Week 15. Final Presentations Part Two</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should spend at least 30-60 minutes on exercises given by the teacher, usually vocabulary exercises from the book, or reading articles to prepare for class exercises. Students should also make an effort to listen to English in various media freely available on the Internet, such as podcasts .		
テキスト、参考文献	<i>Language Leader Intermediate</i> by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent (Pearson Longman)		
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 30% homework assignments, in-class points, notebooks 40% mid-term and final presentations		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑧)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Week 1: Trends. Unit 10. Speaking, reading. Week 2. Trends. Unit 10. Speaking, reading. Week 3: Engineering. Unit 9. Listening, speaking. Week 4: Engineering. Unit 9. Speaking. Week 5: Personality. Unit 1. Vocabulary, Listening. Week 6: Personality. Unit 1. Reading, speaking. Week 7: Mid-term presentation Part One Week 8: Mid-term presentation Part Two Week 9: Education. Speaking, listening. Week 10: Education. Listening, speaking. Week 11: Business. Vocabulary, speaking. Week 12 Crime. Speaking, reading. Week 13: Crime. Listening. Week 14: Final Presentations Part One Week 15: Final Presentations Part Two</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should spend at least 30-60 minutes on exercises given by the teacher, usually vocabulary exercises from the book, or reading articles to prepare for class exercises. Students should also make an effort to listen to English in various media freely available on the Internet, such as podcasts .		
テキスト、参考文献	<i>Language Leader Intermediate</i> by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent (Pearson Longman)		
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 30% homework assignments, in-class points, notebooks 40% mid-term and final presentations		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑨)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<p>Week 1 Course introductions + foreign countries</p> <p>2 Foreign countries 2</p> <p>3 Education 1</p> <p>4 Education 2</p> <p>5 Health 1</p> <p>6 Health 2</p> <p>7 Arts 1</p> <p>8 Arts 2</p> <p>9 Poster presentation</p> <p>10 Technology 1</p> <p>11 Technology 2</p> <p>12 Intelligence & Talents 1</p> <p>13 Intelligence & Talents 2</p> <p>14 Test topics, times format explained / movies 1</p> <p>15 Test</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary		
テキスト、参考文献	No textbook Teacher materials provided Electronic dictionary is OK		
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of semester test		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑨)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Week 1 Tourism 1</p> <p>2 Tourism 2</p> <p>3 Work / money issues 1</p> <p>4 Work / money issues 2</p> <p>5 Media issues 1</p> <p>6 Media issues 2</p> <p>7 Rights 1</p> <p>8 Rights 2</p> <p>9 Global living trends 1</p> <p>10 Global living trends 2</p> <p>11 Poster presentation</p> <p>12 Crime 1</p> <p>13 Crime 2</p> <p>14 Test topics , times explained / ecology 1</p> <p>15 Test</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary		
テキスト、参考文献	No textbook Teacher materials provided Electronic dictionary is OK		
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of course test		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑩)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<p>(* Note: This is a tentative weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn & study</i>.</p> <p>Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment.</p> <p>Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion thereof.</p> <p>Week 5: Student hobbies, and explaining thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. Mother's Day song and/or discussion.</p> <p>Week 6: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment.</p> <p>Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic etiquette and manners (EQ).</p> <p>Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment.</p> <p>Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of ... do you like?': explaining preferences, in Modern English.</p> <p>Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Presentations.</p> <p>Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise.</p> <p>Week 13: Final presentations. 'What do you think of ...?': Giving your opinions about various topics.</p> <p>Week 14: Giving opinions, part two: elaborating. Final presentations. Ongoing assessment.</p> <p>Week 15: Final presentations. If time remains: discussing & explaining future plans for the Summer.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often: the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you summarize & present your topic; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRITICAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑩)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break using modern English.</p> <p>Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuous assessments.</p> <p>Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video.</p> <p>Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments.</p> <p>Week 5: Practice with telephone invitations. Hallow'en discussion, and/or video.</p> <p>Week 6: Restaurant ordering, in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion.</p> <p>Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'.</p> <p>Week 8: Thanksgiving: history; and usual Thanksgiving customs & dates. 'What are you thankful for?' Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations.</p> <p>Week 10: Asking for, and giving, street directions and/or train directions, in English. Pair practice of that. Student presentations begin.</p> <p>Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video.</p> <p>Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations.</p> <p>Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Discussing & pair-practicing New Year's Resolutions. Last opportunity for class presentations.</p> <p>Week 15: Finalizing specific New Year's Resolutions. If time remains: discussion of future plans (for the February & March Break).</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. IF a textbook is necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRITICAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑩)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions 2. Getting to know you - Conversation activities 3. My articles - reading and discussion 4. Your articles - reading and discussion 5. Reading skills - reading exercises 6. Breaking news - student research topics 7. Breaking news - student research topics 8. My articles - reading and discussion 9. Your articles - reading and discussion 10. Discussion preparation - topic research 11. Discussion preparation - topic research 12. Student-led class discussions 13. Student-led class discussions 14. Speaking test 15. Test period 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing articles, questions, discussion related materials before each class and critical review after each class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%), student-led discussions (30%) and a speaking test (30%)		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑩)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome back - conversation activities 2. Effective presentation skills 3. Mini presentations 4. Questions and activities for discussions 5. Halloween - fear themed discussion topics 6. Mini presentations in groups 7. Group discussion activities 8. Mini presentations in groups 9. Student designed speaking games 10. Presentation preparation - topic selection 11. Presentation preparation - research 12. Class presentations 13. Class presentations 14. Course review 15. Test period 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Researching and preparing materials and activities before each class, critical review after class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%), and class presentations (50%)		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑫)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction – Discussion Procedure 2. Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors 3. Choosing a Topic / Discussion Steps 4. Role of the Discussion Leader and Group Members 5. Practice Presentations and Peer Feedback 6. Discussion Presentations 7. Environment: Problem Solving / Discussion Steps 8. Identifying Causes and Solutions 9. Practice Discussions and Peer Feedback 10. Discussion Presentations 11. Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps 12. Agreeing and Disagreeing with Opinions 13. Practice Presentations and Peer Feedback 14. Discussion Presentations 15. Review and Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト、参考文献	No text: The materials will be provided by the teacher.		
評価方法	Quizzes 15%, Discussion 1: 20%, Discussion 2: 20%, Discussion 3: 20%, Contribution, Participation, and Homework: 25%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑫)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction / Current Events: Discussions 2. Choosing a Topic / Summarizing an article 3. Introducing a Topic / Choosing a Discussion Goal 4. Preparing Talking Points and Follow-up Questions 5. In-class Student Led Discussions 6. Informative Presentation / Choosing a Topic 7. Organizing a Presentation 8. Using PowerPoint 9. Presentation Workshop / Speaking Tips 10. In-class Presentation 11. Domestic Politics : Policy Debate / Procedures 12. Making Logical Arguments / Supporting Evidence 13. Opening Speeches / Rebuttals 14. In-class Debates 15. Review and Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト、参考文献	No text: The materials will be provided by the teacher.		
評価方法	Discussion: 25%, Presentation: 25%, Debate: 25%, Contribution, Participation, and Homework: 25%		

09年度以降	Reading Strategies I (1年1組)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay 		<p>Week 1 – Introduction to Course & Each Other</p> <p>Weeks 2-3 – Unit 1 -Express Yourself (Fashion Forward: Styles from the Street Ch.1)</p> <p>Weeks 4-5 – Unit 1- Express Yourself (Challenging Nature: Riding the Waves, Ch. 2)</p> <p>Week 6 – Quiz #1</p> <p>Week 7-8 – Unit 1 – Express Yourself (The Maori: Cultural Expression in the Land of the Long White Cloud, Ch. 3)</p> <p>Week 9 – Student Choice –Summarizing & Reporting Out</p> <p>Week 10-11 – Unit 2 - The Grand Tour (Pompeii: Uncovering the Past, Ch. 5)</p> <p>Week 12-13 – Unit 2 – The Grand Tour (Theme Parks: The Illusion of a Grand Tour, Ch. 7)</p> <p>Week 14 – Quiz #2</p> <p>Week 15 – Student Choice –Summarizing & Reporting Out</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Pacheco, B.M. & Gregg, J.Y. (2006). <i>The powerful reader, High Intermediate</i> . Macmillan Language House		
評価方法	In-class participation (40%), 2 quizzes (20%), Student Choice Summary X 2 (20%), and assignments (20%)		

09年度以降	Reading Strategies II (1年1組)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized 		<p>Week 1 – Course Overview & Catching-Up</p> <p>Week 2-3 – A Tourist's View (Ch.8 – New York: A Perfect Day in Chocolate City)</p> <p>Week 4 – A Tourist's View – Selected travel literature</p> <p>Week 5 – Student Travel Text & Quiz #1</p> <p>Week 6-8 – Unit 3 - The Human Condition (The Noble Nobel: For the Benefit of Mankind)</p> <p>Week 9 – Nobility (video) & Quiz #2</p> <p>Week 10 – Student Pick – Vote for Most Nobel Noble</p> <p>Week 11-12 – Unit 3 - The Human Condition (Humor and the Human Condition, Ch.10)</p> <p>Week 13-14 – Unit 3- Art Speaks, War is Hell, Ch. 12)</p> <p>Week 15 – Artist Biography (small group)</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Pacheco, B.M. & Gregg, J.Y. (2006). <i>The powerful reader, High Intermediate</i> . Macmillan Language House		
評価方法	In-class participation (40%), 2 quizzes (20%), Artist or Nobel Prize Biography (20%), and assignments (20%)		

09年度以降	Reading Strategies I (1年2組)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. News 3. News 4. News 5. Perception 6. Perception 7. Perception 8. Identity 9. Identity 10. Identity 11. Identity 12. Patriotism 13. Patriotism 14. Patriotism 15. Final evaluations 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 60%, homework assignments 20%, journals 20%		

09年度以降	Reading Strategies II (1年2組)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome Back 2. Religion 3. Religion 4. Religion 5. Movies 6. Movies 7. Movies 8. Songs 9. Songs 10. Songs 11. Goals 12. Goals 13. Goals 14. Wrapping up 15. So long 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Materials will be provided..		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 60%, homework assignments 20%, journals 20%		

09年度以降	Reading Strategies I (1年3組)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> 導入とテキスト精読 テキスト精読 テキスト精読とまとめ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英字新聞記事の抜粋など。 <i>Blood Brothers</i> by Willy Russell。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストによる。学期末に定期試験はしません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。		

09年度以降	Reading Strategies II (1年3組)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> 導入とテキスト精読 テキスト精読 テキスト精読とまとめ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英字新聞記事の抜粋など。 <i>Blood Brothers</i> by Willy Russell。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストによる。学期末に定期試験はしません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。		

09年度以降	Reading Strategies I (1年4組)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction: RS in the 21st century Should this course be taught all in English? When do you read softly, loudly or silently? Diagnosing your reading strategies 1 Diagnosing your reading strategies 2 Pre-reading strategies 1 Pre-reading strategies 2 Poster session Recognising patterns in paragraphs and essays 1 Recognising patterns in paragraphs and essays 2 Tutorial 1 Tutorial 2 Group presentation 1 Group presentation 2 Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials as well as two assigned books and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト、参考文献	(1) Johnson, S. (2006). <i>Who moved my cheese?</i> Vermilion. (2) Malhotra, D. (2011). <i>I moved your cheese.</i> Berrett-Koehler. (3) Prints and handouts to be provided by the instructor		
評価方法	Contribution to the class 10%, short essay 10%, poster and group presentations 50%, final report 30%		

09年度以降	Reading Strategies II (1年4組)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Review of RS I How useful are academic papers? Reading academic papers: Benefits and challenges Tips for previewing and predicting? Recognising structures of academic papers Recognising patterns of academic papers Recognising thought patterns and values Poster session Outlining Outlining Tutorial 1 Tutorial 2 Group presentation 1 Group presentation 2 Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor		
評価方法	Contribution to the class 10%, short essay 10%, poster and group presentations 50%, final report 30%		

09年度以降	Reading Strategies I (1年5組)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Why We Need Explorers 1 Why We Need Explorers 2 How to Learn from Mistakes 1 How to Learn from Mistakes 2 Library Workshop Why We Have Too Few Women Leaders 1 Why We Have Too Few Women Leaders 2 The Mystery Box 1 The Mystery Box 2 The Good News on Poverty 1 The Good News on Poverty 2 Preparation for presentations Group presentations 1 Group presentations 2 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル		
テキスト、参考文献	<i>21st Century Reading 4: Creative Thinking and Reading with TEDTalks</i> , Blass & Williams, Cengage Learning		
評価方法	クイズ 30%、リーディングジャーナル 30%、授業貢献度 20%、プレゼンテーション 20%		

09年度以降	Reading Strategies II (1年5組)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Ancient Wonders Captured in 3-D 1 Ancient Wonders Captured in 3-D 2 How Food Shape Our Cities 1 How Food Shape Our Cities 2 What will Future Jobs Look Like? 1 What will Future Jobs Look Like? 2 The Linguistic Genius of Babies 1 The Linguistic Genius of Babies 2 Innovating to Zero! 1 Innovating to Zero! 2 Propaganda tactics 1 Propaganda tactics 2 Group presentations 1 Group presentations 2 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル		
テキスト、参考文献	<i>21st Century Reading 4: Creative Thinking and Reading with TEDTalks</i> , Blass & Williams, Cengage Learning		
評価方法	クイズ 30%、リーディングジャーナル 30%、授業貢献度 20%、プレゼンテーション 20%		

09年度以降	Reading Strategies I (1年6組)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay 		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキストに沿って進める。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読すること。毎回の課題を次回の授業時に提出すること。		
テキスト、参考文献	Zwier, Lawrence J. <i>Inside Reading 2: The Academic World List in Context</i> . Oxford: Oxford University Press, 2012.		
評価方法	毎回の単語テスト 10%、課題 10%、授業態度 10%、学期末試験 70%		

09年度以降	Reading Strategies II (1年6組)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized 		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキストに沿って進める。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読すること。毎回の課題を次回の授業時に提出すること。		
テキスト、参考文献	Zwier, Lawrence J. <i>Inside Reading 2: The Academic World List in Context</i> . Oxford: Oxford University Press, 2012.		
評価方法	毎回の単語テスト 10%、課題 10%、授業態度 10%、学期末試験 70%		

09年度以降	Reading Strategies I (1年7組)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction/ New Vocabulary in Your Reading Fiction and Nonfiction Books Books (2) Making Good Use of the Dictionary 図書館ガイダンス (予定) Learning New Vocabulary from Your Reading Guessing Meaning from Context Word Parts Collocations Structure and Reference Scanning and Previewing (1) Scanning and Previewing (2) まとめ (1) まとめ (2) <p>(*進度は変更することがあります)</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。 テキスト以外に課された読み物を読んでくること (やり方は授業で詳しく説明します)。		
テキスト、参考文献	Linda Jeffries & Beatrice S.Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> , 3rd edition (Person Education, 2012)		
評価方法	授業内外の課題 40%, extensive reading 20%, 小テストと学期末試験 40% (ただし5回を越えて欠席した場合は評価対象としない)		

09年度以降	Reading Strategies II (1年7組)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション/Focus on Vocabulary Reading Fluency Making Inferences (1) Making Inferences (2) Understanding Paragraphs (1) Understanding Paragraphs (2) Identifying the Pattern: Listing, Sequence Identifying the Pattern: Comparison, Cause-Effect Identifying the Pattern: Problem-Solution Reading Longer Passages (1) Reading Longer Passages (2) Skimming (1) Skimming (2) まとめ まとめ <p>(*進度は変更することがあります)</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。 テキスト以外に課された読み物を読んでくること (やり方は授業で詳しく説明します)。		
テキスト、参考文献	(Reading Strategies I で使ったテキストを継続して使います。)		
評価方法	授業内外の課題 40%, extensive reading 20%, 小テストと学期末試験 40% (ただし5回を越えて欠席した場合は評価対象としない)		

09年度以降	Reading Strategies I (1年8組)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<p>春学期の目的は早く正確に読めるようになることです。</p> <ol style="list-style-type: none"> Introduction & Assessment Rapid Reading Introduction 3~10 Authentic Reading 様々なニュース記事、Graded Reading のテキスト、また TOEFL の問題集などを使用し、早く正確に読むトレーニングをします。 11~14 Collecting Information 情報検索スキル習得へのイントロダクションです。(ネット上の)膨大な情報のなかから必要かつ質の高い情報を取り出す方法を身につけましょう。 11. Research Skill 1 (Catalogue Scanning) 12. Research Skill 2 (HP Scanning) 13. Citation and Bibliography 14. Editing 15. Term Assessment 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にはテキストに目を通し、質問をまとめておくこと。事後には、事前にわからなかったことの再確認を行うこと。事後学習の確認として随時単語テストを実施する。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布する。参考文献は随時紹介する。		
評価方法	授業内活動参加 (提出物を含む) 30% 授業内小テスト 20% 試験 50% (パーセンテージは暫定のものである)		

09年度以降	Reading Strategies II (1年8組)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<p>秋学期の目的は文章の構造を把握することです。</p> <ol style="list-style-type: none"> Introduction & Assessment Reading for Structure and Organization -Introduction 3~8 <Structure & Organization I> 様々なテキストの構成法などに着目して、より効果的にテキストを読む練習をします。テキストには最新のニュース記事などを用い、グローバル化した現代の世界を複眼的に捉える姿勢を身につけてもらいたいと思います。 9-14. <Structure & Organization II> かなり長い講演原稿を読み、より精緻に文章の構成を分析する訓練をします。テキストには以下の講演を用います。 The Danger of A Single Story by Chimamanda Ngozi Adichie 15. Term Assessment 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にはテキストに目を通し、質問をまとめておくこと。事後には、事前にわからなかったことの再確認を行うこと。事後学習の確認として随時単語テストを実施する。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布する。参考文献は随時紹介する		
評価方法	授業内活動参加 (提出物を含む) 30% 授業内小テスト 20% 試験 50% (パーセンテージは暫定のものである)		

09年度以降	Reading Strategies I (1年9組)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション、講義の概要 英文の読解 1 英文の読解 2 英文の読解 3 英文の読解 4 英文の読解 5 英文の読解 6 英文の読解 7 英文の読解 8 英文の読解 9 英文の読解 10 英文の読解 11 英文の読解 12 春学期のまとめと復習 春学期のまとめと復習 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は配布プリントによる。		
評価方法	授業内での発表や課題をすべてこなすことを前提とし、その上で試験（100%）とする。		

09年度以降	Reading Strategies II (1年9組)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション、講義の概要 英文の読解 1 英文の読解 2 英文の読解 3 英文の読解 4 英文の読解 5 英文の読解 6 英文の読解 7 英文の読解 8 英文の読解 9 英文の読解 10 英文の読解 11 英文の読解 12 秋学期のまとめと復習 秋学期のまとめと復習 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は配布プリントによる。		
評価方法	授業内での発表や課題をすべてこなすことを前提とし、その上で試験（100%）とする。		

09年度以降	Reading Strategies I (1年10組)	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> 導入 伝える技術 Getting the main idea 上記関連資料 Phrase reading 上記関連資料 Paragraph reading 上記関連資料 Time order 上記関連資料 Process and Direction 上記関連資料 Space order 上記関連資料 まとめ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、小テストに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	Hashimoto, Mitsuo 他, <i>A Guide to Paragraph Reading</i> , Asahi Press.		
評価方法	授業への参加度 20%、ミニレポート 20%、期末テスト 60%		

09年度以降	Reading Strategies II (1年10組)	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> 導入 Fact and examples 上記関連資料 Definition 上記関連資料 Classification 上記関連資料 Comparison and Contrast 上記関連資料 Analogy 上記関連資料 Reasons, causes and effects 上記関連資料 1 上記関連資料 2 まとめ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、小テストに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	Hashimoto, Mitsuo 他, <i>A Guide to Paragraph Reading</i> , 朝日出版社		
評価方法	授業への参加度 20%、ミニレポート 20%、期末テスト 60%		

09年度以降	Reading Strategies I (1年11組)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Extensive reading ①: New vocabulary Extensive reading ②: Fiction and Nonfiction Extensive reading ③: Books Supplementary reading material(1) Vocabulary building①: Making good use of the dictionary Vocabulary building②: Guessing meaning from context Vocabulary building③: Word parts Vocabulary building④: Collocations Vocabulary building⑤: Structure and reference Supplementary reading material(2) Comprehensive reading①: Scanning and previewing Comprehensive reading②-1: Making inference Comprehensive reading②-2: Making inference Supplementary reading material(3) 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	assignments		
テキスト、参考文献	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> (Pearson Longman, 2012).		
評価方法	Participation (30%), Assignments (30%), Exam(40%)		

09年度以降	Reading Strategies II (1年11組)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Comprehensive reading③-1: Understanding paragraphs Comprehensive reading③-2: Understanding paragraphs Supplementary reading material(4) Comprehensive reading④: Identifying the pattern Comprehensive reading⑤-1: Reading longer passages Comprehensive reading⑤-2: Reading longer passages Comprehensive reading⑤-3: Reading longer passages Supplementary reading material⑤-4: Skimming Summarizing①: short passages Summarizing②: short passages Summarizing③: longer passages Supplementary reading material(5) Reading faster① Reading faster② Reading faster③ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	assignments		
テキスト、参考文献	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> (Pearson Longman, 2012).		
評価方法	Participation (30%), Assignments (30%), Exam(40%)		

09年度以降	Reading Strategies I (1年12組)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Fashion Forward (1) Fashion Forward (2) Challenging Nature (1) Challenging Nature (2) The Maori (1) The Maori (2) Shall We Dance (1) Shall We Dance (2) Pompeii (1) Pompeii (2) Safari (1) Safari (2) Discussion Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分をよく読み、該当する範囲の課題に答えて提出する。		
テキスト、参考文献	<i>The Powerful Reader: High Intermediate</i> , Pacheco & Gregg, (MacMillan) Supplemental materials will be provided in class.		
評価方法	課題 50%, 小テスト 30%, 授業への参加度 20%		

09年度以降	Reading Strategies II (1年12組)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Theme Parks (1) Theme Parks (2) New York (1) New York (2) The Noble Nobel (1) The Noble Nobel (2) Humor and the Human Condition (1) Humor and the Human Condition (2) Alone at the Fair (1) Alone at the Fair (2) Art Speaks (1) Art Speaks (2) Discussion (1) Discussion (2) Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分をよく読み、該当する範囲の課題に答えて提出する。		
テキスト、参考文献	<i>The Powerful Reader: High Intermediate</i> , Pacheco & Gregg, (MacMillan) Supplemental materials will be provided in class.		
評価方法	課題 50%, 小テスト 30%, 授業への参加度 20%		

09年度以降	Reading Strategies I (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay 		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。		
評価方法	平常点&授業参加率(30%)、試験、およびそれに順ずるもの(70%)の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	Reading Strategies I (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To clarify the structure of a paragraph or essay 		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。		
評価方法	平常点&授業参加率(30%)、試験、およびそれに順ずるもの(70%)の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	Reading Strategies II (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。		
評価方法	平常点&授業参加率(30%)、試験、およびそれに順ずるもの(70%)の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	Reading Strategies II (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。		
評価方法	平常点&授業参加率(30%)、試験、およびそれに順ずるもの(70%)の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	Reading Strategies III (2年①)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 3: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 4: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 5: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 6: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 7: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 8: Quiz I. Journals due.</p> <p>Week 9: Selected readings& assignment.</p> <p>Week 10: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 11: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 12: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 13: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 14: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading of the selected material and weekly homework assignments, including summarizing the reading, comprehension and discussion questions, and defining vocabulary		
テキスト、参考文献	Handouts, online text material		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年①)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 3: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 4: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 5: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 6: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 7: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 8: Quiz I. Journals due.</p> <p>Week 9: Selected readings& assignment.</p> <p>Week 10: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 11: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 12: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 13: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 14: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading of the selected material and weekly homework assignments, including summarizing the reading, comprehension and discussion questions, and defining vocabulary		
テキスト、参考文献	Handouts, online text material		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	Reading Strategies III (2年②)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<p>Week 1 – Introduction to Course & Self-Introductions</p> <p>Week 2 – Reading & Learning-Textbook Reconnaissance (ch.2)</p> <p>Week 3 – The Discovery Wheel (ch. 2)</p> <p>Week 4 – Muscle Reading (ch.2)</p> <p>Week 5 – Studying Memory (ch.3)</p> <p>Week 6 – The Nature of Memory (ch.3)</p> <p>Week 7 – The Nature of Memory (cont'd)</p> <p>Week 8 – Reflections of the Self Assignment</p> <p>Week 9 – Remembering Our Lives – La Gringuita (ch.1)</p> <p>Week 10 – La Gringuita (cont'd)</p> <p>Week 11 – My Mother Juggling Beans (ch.1)</p> <p>Week 12 – My Mother Juggling Beans (cont'd)</p> <p>Week 13 – Where I am from Poem</p> <p>Week 14 – Poem Presentation (Day 1)</p> <p>Week 15 – Poem Presentation (Day 2)</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Benz, C. & Schuemann, C.M.(2006). College Reading 4 Houghton Mifflin		
評価方法	In-class participation (20%), Reading Responses x 4 (20%), Quizzes x 2 (20%), Where I am From Memoir/Poem (20%), Homework (20%)		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年②)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<p>Week 1 – Introduction to Fall Course & DNA of Fairytales</p> <p>Week 2 – More Than 1 Cinderella?</p> <p>Week 3– Themes & Motifs in Fairy Tales</p> <p>Week 4– Reader’s Theater-An Introduction</p> <p>Week 5 – Reader’s Theater Live!</p> <p>Week 6 – The Hero’s Journey Pt. I</p> <p>Week 7 – The Hero’s Journey Pt. II</p> <p>Week 8 – Introduction to the Alchemist</p> <p>Week 9 – The Alchemist – Pt. I (1st half)</p> <p>Week 10 – The Alchemist – Pt. I (2nd half)</p> <p>Week 11 – The Alchemist – Pt. II (1st half)</p> <p>Week 12 – The Alchemist – Pt. II (2nd half)</p> <p>Week 13 – Epilogue & Wrap-Up</p> <p>Week 14 – Final Project Presentation</p> <p>Week 15 – Final Project Presentation</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Coelho, P. (1992). The Alchemist Additional Selected Texts		
評価方法	In-class participation (20%), Fairy/Folk Tale Assignment (20%), Alchemist Reader’s Packet & Reader Response (30%), Charting the Hero’s Journey (10%), Final Project (20%)		

09年度以降	Reading Strategies III (2年③)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Japan's encounter with the modern world (1) Japan's encounter with the modern world (2) Japan's encounter with the modern world (3) Japan's encounter with the modern world (4) Japan's encounter with the modern world (5) Imperial revolution (1) Imperial revolution (2) Imperial revolution (3) Imperial revolution (4) Imperial revolution (5) Overcoming and overcome by modernity (1) Overcoming and overcome by modernity (2) Discussion Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分をよく読み、該当する範囲の課題に答えて提出する。		
テキスト、参考文献	Goto-Jones, Christopher (2009). <i>Modern Japan: A Very Short Introduction</i> . Oxford: OUP Supplemental materials will be provided in class.		
評価方法	課題 50%, 小テスト 30%, 授業への参加度 20%		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年③)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<ol style="list-style-type: none"> Overcoming and overcome by modernity (3) Overcoming and overcome by modernity (4) Overcoming and overcome by modernity (5) Economic miracles and the making of a post modern society (1) Economic miracles... (2) Economic miracles... (3) Economic miracles ... (4) Economic miracles... (5) Overcoming denial (1) Overcoming denial (2) Overcoming denial (3) Overcoming denial (4) Overcoming denial (5) Discussion Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分をよく読み、該当する範囲の課題に答えて提出する。		
テキスト、参考文献	Goto-Jones, Christopher (2009). <i>Modern Japan: A Very Short Introduction</i> . Oxford: OUP Supplemental materials will be provided in class.		
評価方法	課題 50%, 小テスト 30%, 授業への参加度 20%		

09年度以降	Reading Strategies III (2年④)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase academic vocabulary 2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキストに沿って進める。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読すること。毎回の課題を次回の授業時に提出すること。		
テキスト、参考文献	Rubin, Rubin. <i>Inside Reading 3: The Academic World List in Context</i> . Oxford: Oxford University Press, 2012.		
評価方法	課題 15%、授業態度 15%、学期末試験 70%		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年④)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase academic vocabulary. 2. To understand reading materials different in styles and contents. 3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキストに沿って進める。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読すること。毎回の課題を次回の授業時に提出すること。		
テキスト、参考文献	Rubin, Bruce. <i>Inside Reading 3: The Academic World List in Context</i> . Oxford: Oxford University Press, 2012.		
評価方法	課題 15%、授業態度 15%、学期末試験 70%		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑤)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> <i>Zion in America</i> 1章を講読する 同上 2章を講読する 同上 3章を講読する 同上 4章を講読する 同上 5章を講読する 同上 6章を講読する 同上 7章を講読する 同上 8章を講読する 同上 9章を講読する 同上 10章を講読する 同上 11章を講読する 同上 12章を講読する 同上 13章を講読する 同上 14章を講読する 同上 15章を講読する まとめ 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。		
評価方法	筆記試験をします。筆記試験は評価全体の70%です。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は2回で欠席1回分にカウントします。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑤)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<ol style="list-style-type: none"> <i>Zion in America</i> 15章を講読する 同上 16章を講読する 同上 17章を講読する 同上 18章を講読する 同上 19章を講読する <i>Dis honest broker</i> 1章を講読する 同上 2章を講読する 同上 3章を講読する 同上 4章を講読する 同上 5章を講読する 同上 6章を講読する 同上 7章を講読する 同上 8章を講読する 同上 9章を講読する 同上 15章を講読する まとめ 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト、参考文献	春学期と同じ		
評価方法	春学期と同じ		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑥)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To increase academic vocabulary</p> <p>2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</p> <p>3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</p> <p>4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>N.H.Finkelstein, Friends Indeed</i> 1～5 ページを講読 2. 同上 6～10 ページを講読 3. 同上 11～15 ページを講読 4. 同上 16～20 ページを講読 5. 同上 21～25 ページを講読 6. 同上 26～30 ページを講読 7. 同上 31～35 ページを講読 8. 同上 36～40 ページを講読 9. 同上 41～45 ページを講読 10. 同上 46～50 ページを講読 11. 同上 51～55 ページを講読 12. 同上 56～60 ページを講読 13. 同上 61～65 ページを講読 14. 同上 66～70 ページを講読 15. 同上 まとめ 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。		
評価方法	筆記試験をします。筆記試験は評価全体の70%です。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は2回で欠席1回分にカウントします。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑥)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To increase academic vocabulary.</p> <p>2. To understand reading materials different in styles and contents.</p> <p>3. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts).</p> <p>4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>N.H.Finkelstein, Friends Indeed</i> 71～75 ページを講読 2. 同上 76～80 ページを講読 3. 同上 81～85 ページを講読 4. 同上 86～90 ページを講読 5. 同上 91～95 ページを講読 6. 同上 96～100 ページを講読 7. 同上 101～105 ページを講読 8. 同上 106～110 ページを講読 9. 同上 111～115 ページを講読 10. 同上 116～120 ページを講読 11. 同上 121～125 ページを講読 12. 同上 126～130 ページを講読 13. 同上 131～135 ページを講読 14. 同上 136～140 ページを講読 15. 同上 まとめ 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト、参考文献	春学期と同じ		
評価方法	春学期と同じ		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑦)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> An Introductions “Feather” (1) “Feather” (2) “Feather” (3) “Chef’s House” “Preservation” (1) “Preservation” (2) “The Compartment” (1) “The Compartment” (2) “A Small Good Thing” (1) “A Small Good Thing” (2) “A Small Good Thing” (3) “A Small Good Thing” (4) “Vitamin” (1) “Vitamin” (1) 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、事前に疑問点を整理し、プレゼンターからの質問に答えを用意し、授業に臨むこと。		
テキスト、参考文献	Text: Raymond Carver. <i>Cathedral</i> . New York : Vintage, 1989. 参考文献：村上春樹訳『大聖堂』中央公論社、1990年		
評価方法	プレゼンと定期試験の成績によって決める。ただし、欠席回数が授業数の1/3を越えた場合は、評価の対象としない。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑦)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<ol style="list-style-type: none"> “Careful” (1) “Careful” (2) “Where I’m Calling From” (1) “Where I’m Calling From” (2) “Where I’m Calling From” (3) “The Train” (1) “The Train” (2) “Fever” (1) “Fever” (2) “Fever” (3) “The Bridle” (1) “The Bridle” (2) “Cathedral” (1) “Cathedral” (2) “Cathedral” (3) 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、事前に疑問点を整理し、プレゼンターからの質問に答えを用意し、授業に臨むこと。		
テキスト、参考文献	Text: Raymond Carver. <i>Cathedral</i> . New York : Vintage, 1989. 参考文献：村上春樹訳『大聖堂』中央公論社、1990年		
評価方法	プレゼンと定期試験の成績によって決める。ただし、欠席回数が授業数の1/3を越えた場合は、評価の対象としない。		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑧)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<p>Week</p> <ol style="list-style-type: none"> Lesson 1, Reading 1: Scientists & Managerial Positions Lesson 1, Reading 2: So-called Paperless Society Lesson 2, Reading 1: Text Messages Lesson 2, Reading 2: Why was religion born? Lesson 3, Reading 1: Dust Clouds Lesson 3, Reading 2: Girl Students & Science Lesson 4, Reading 1: GM Foods 《中間試験》 Lesson 4, Reading 2: Choosing Your Baby's Sex Lesson 5, Reading 1: Global Dimming Lesson 5, Reading 2: What makes us feel pleasure? Lesson 6, Reading 1: Branches of Biotechnology Lesson 6, Reading 2: The Digital Divide Lesson 7, Reading 1: Browser Wars Lesson 7, Reading 2: The Fight against Malaria Lessons 4-7 の復習 《期末試験》 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学習する英語の文章をきちんと予習し、練習問題を必ず行って受講すること。		
テキスト、参考文献	石谷由美子&Suzanne Embury (著) <i>Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III</i> . (南雲堂)		
評価方法	出席は単位認定の前提で、授業での発表(20%)と中間試験(40%)と期末試験(40%)に基づいて評価する。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑧)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<p>Week</p> <ol style="list-style-type: none"> Lesson 8, Reading 1: Warning for Science Education Lesson 8, Reading 2: Out of the wild and Into the backyard Lesson 9, Reading 1: How does the brain read sarcasm? Lesson 9, Reading 2: Thought Control Lesson 10, Reading 1: Dark Matter and Dark Energy Lesson 10, Reading 2: REM Sleep Lesson 11, Reading 1: Otaku Lesson 11, Reading 2: Minus Ions 《中間試験》 Lesson 12, Reading 1: Panicked Mice Lesson 12, Reading 2: Games on the Brain Lesson 13, Reading 1: DHA and Health Lesson 13, Reading 2: Europe's Greenhouse Gas Emissions Lesson 14, Reading 1: Computer Game Sweatshops Lesson 14, Reading 2: But Is It Meat? Lessons 11-14 の復習 《期末試験》 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学習する英語の文章をきちんと予習し、練習問題を必ず行って受講すること。		
テキスト、参考文献	石谷由美子&Suzanne Embury (著) <i>Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III</i> . (南雲堂)		
評価方法	出席は単位認定の前提で、授業での発表(20%)と中間試験(40%)と期末試験(40%)に基づいて評価する。		

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑨)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Course overview (TR* & OI/REC** to be explained) TR 1, 2; English classics 1 TR 3, 4; Quiz 1; Current English 1 TR 5, 6; Quiz 2; Other types of English 1 TR 7, 8; Quiz 3; English classics 2 TR 9, 10; Quiz 4; Current English 2 OI 1; Quiz 5; Other types of English 2 Mid-term exam: Written & oral TR 11, 12; English classics 3 TR 13, 14; Quiz 6; Current English 3 TR 15, 16; Quiz 7; Other types of English 3 TR 17, 18; Quiz 8; English classics 4 TR 19, 20; Quiz 9; Current English 4 OI 2; Quiz 10; Other types of English 4 Final exam: Written & oral <p>* TR: timed reading ** OI/REC: oral interpretation/recitation</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should read the assigned readings before class.		
テキスト、参考文献	Reading assignments will be handed out in class.		
評価方法	Participation 5%, OI/REC 10%, Quizzes 20%, Mid-term exam 25%, Final exam 40%		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑨)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<ol style="list-style-type: none"> Course overview (TR* & OI/REC** to be explained) TR 21, 22; English classics 5 TR 23, 24; Quiz 1; Current English 5 TR 25, 26; Quiz 2; Other types of English 5 TR 27, 28; Quiz 3; English classics 6 TR 29, 30; Quiz 4; Current English 6 OI/REC 3; Quiz 5; Other types of English 6 Mid-term exam: Written & oral TR 31, 32; English classics 7 TR 33, 34; Quiz 6; Current English 7 TR 35, 36; Quiz 7; Other types of English 7 TR 37, 38; Quiz 8; English classics 8 TR 39, 40; Quiz 9; Current English 8 OI/REC 4; Quiz 10; Other types of English 8 Final exam: Written & oral <p>* TR: timed reading ** OI/REC: oral interpretation/recitation</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should read the assigned readings before class.		
テキスト、参考文献	Reading assignments will be handed out in class.		
評価方法	Participation 5%, OI/REC 10%, Quizzes 20%, Mid-term exam 25%, Final exam 40%		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑩)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction: RS in the 21st century Should this course be taught all in English? When do you read softly, loudly or silently? Diagnosing your reading strategies 1 Diagnosing your reading strategies 2 Pre-reading strategies 1 Pre-reading strategies 2 Poster session Recognising patterns in paragraphs and essays 1 Recognising patterns in paragraphs and essays 2 Tutorial 1 Tutorial 2 Group presentation 1 Group presentation 2 Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials as well as two assigned books and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト、参考文献	(1) Johnson, S. (2006). <i>Who moved my cheese?</i> Vermilion. (2) Malhotra, D. (2011). <i>I moved your cheese.</i> Berrett-Koehler. (3) Prints and handouts to be provided by the instructor		
評価方法	Contribution to the class 10%, short essay 10%, poster and group presentations 50%, final report 30%		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑩)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<ol style="list-style-type: none"> Review of RS III How useful are academic papers? Reading academic papers: Benefits and challenges Tips for previewing and predicting Recognising structures of academic papers Recognising patterns of academic papers Recognising thought patterns and values Poster session Outlining Outlining Tutorial 1 Tutorial 2 Group presentation 1 Group presentation 2 Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor		
評価方法	Contribution to the class 10%, short essay 10%, poster and group presentations 50%, final report 30%		

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑩)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Vocabulary building (1): How to use a dictionary Vocabulary building (2): Learning new vocabulary Vocabulary building (3): Guessing from context Vocabulary building (4): Word parts Vocabulary building (5): Collocations Vocabulary building (6): Structure & reference Pleasure reading (1) Pleasure reading (2) Reading passages for TOEIC (1) Reading passages for TOEIC (2) Reading an academic essay (1) Reading an academic essay (2) Reading a novel Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：次回の内容についての課題に答えてくること 事後：授業内容を復習し、次回の mini-quiz に答えられるようにすること		
テキスト、参考文献	プリントを配布		
評価方法	mini-quiz 40%, book report 20%, final exam 40% ただし5回を越える欠席の場合は評価対象としない。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑪)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Scanning and Previewing Making Inferences Paragraph Pattern (1): Listing, Sequence Paragraph Pattern (2): Comparison, Cause-Effect Paragraph Pattern (3) Problem-Solution Longer Passages (1) Longer Passages (2) Skimming (1) Skimming (2) Speed Reading (1)+reviews (1) Speed Reading (2)+reviews (2) Speed Reading (3)+reviews (3) Speed Reading (4)+reviews (4) Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：次回の内容についての課題に答えてくること 事後：授業内容を復習し、次回の mini-quiz に答えられるようにすること		
テキスト、参考文献	プリントを配布		
評価方法	mini-quiz 40%, book report 20%, final exam 40% ただし5回を越える欠席の場合は評価対象としない。		

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑫)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 英文の読解 1 英文の読解 2 英文の読解 3 英文の読解 4 英文の読解 5 英文の読解 6 英文の読解 7 英文の読解 8 英文の読解 9 英文の読解 10 英文の読解 11 英文の読解 12 春学期のまとめと復習 春学期のまとめと復習 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は配布プリントによる。		
評価方法	授業内での発表や課題をすべてこなすことを前提とし、その上で試験（100%）とする。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑫)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 英文の読解 1 英文の読解 2 英文の読解 3 英文の読解 4 英文の読解 5 英文の読解 6 英文の読解 7 英文の読解 8 英文の読解 9 英文の読解 10 英文の読解 11 英文の読解 12 秋学期のまとめと復習 秋学期のまとめと復習 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は配布プリントによる。		
評価方法	授業内での発表や課題をすべてこなすことを前提とし、その上で試験（100%）とする。		

13年度以降	Writing Skills I (1年 A)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		初回授業にて指示する。	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

13年度以降	Writing Skills II (1年 A)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		初回授業にて指示する。	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

13年度以降	Writing Skills I (1年 B)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Topic sentence development 3. Practice essay 4. “ 5. “ 6. “ 7. “ 8. “ 9. Comprehensive essay 10. My passion essay 11. “ 12. “ 13. Presentation 14. Presentation 15. Presentation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to prepare - before class -writing assignments in accordance with the requirements set by the instructor, so that class time can be used for revision and instruction.		
テキスト、参考文献	No text will be used for this course. The instructor shall provide all materials.		
評価方法	Participation, essays, presentation		

13年度以降	Writing Skills II (1年 B)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. News article/summary/Topic sentence 3. “ 4. “ 5. “ 6. “ 7. “ 8. Test 9. Presentation preparation 10. “ 11. “ 12. Presentations 13. Presentations 14. Presentations 15. Presentations 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to prepare - before class -writing assignments in accordance with the requirements set by the instructor, so that class time can be used for revision and instruction.		
テキスト、参考文献	Same as above		
評価方法	Same as above		

13年度以降	Writing Skills I (1年 C)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Class orientation 2: Paragraph organization, academic style 3: Introduction to Quick Write 4: Planning a paragraph, correction symbols 5: Topics and topic sentences 6: Supporting sentences and examples 7: Introduction to peer editing 8: Cause and effect writing 9: Grammar workshop 10: Persuasive writing 11: Comparison and contrast 12: Survey and report 13: Grammar workshop 2 14: Review 15: Return notebooks and consultation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions		
テキスト、参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • Ready to Write 3 (Pearson Longman) • B5 notebook 		
評価方法	20% class participation 80% writing assignments		

13年度以降	Writing Skills II (1年 C)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Class orientation 2: Elements of good academic writing 3: Introduction to timed free writing 4: Choosing topics 5: Thesis statements 6: Grammar mechanics: common writing errors 7: Types of essay organization 8: Proofreading and proofreading symbols 9: Making good introductory paragraphs 10: Types of concluding paragraphs 11: Quotations and citations 12: Grammar: fragments, dependent clauses 13: Summarizing 14: Review 15: Return all writings and consultation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions		
テキスト、参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • Ready to Write 3 (Pearson Longman) • B5 notebook 		
評価方法	20% class participation 80% writing assignments		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 D) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class orientation 2. Organization of Good Paragraph Writing 3. Brainstorming 1 4. Brainstorming 2 5. Writing About Your Life 1 6. Writing About Your Life 2 7. Coherence in Writing 1 8. Coherence in Writing 2 9. Descriptive Essay 10. Logical Thinking 11. Thesis Statement 12. Group Work 13. Review 14. Test 15. Wrap-Up 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	You need to come to class with a finished product every week.		
テキスト、 参考文献	"Ready To Write 3: From Paragraph To Essay" Pearson/Longman. 2010.		
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), assignments (40%), and tests (20%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 D) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class Orientation 2. Brainstorming 3. Gathering Information 4. Organizing Your Sentences 5. Organizing Different Ideas 6. Supporting Your Points 7. Comparison/Contrast 8. Giving a Definition 9. Peer Work 1 10. Peer Work 2 11. Free Writing 1 12. Free Writing 2 13. Rush Writing 14. Test 15. Wrap-Up 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	You need to come to class with a finished product every week.		
テキスト、 参考文献	"Ready To Write 3: From Paragraph To Essay" Pearson/Longman. 2010.		
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), assignments (40%), and tests (20%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 E) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an academic writing course with an emphasis on introductory skills.. Students will be taught to write a basic sentence and paragraph in English for an academic, business and/or professional audience. While the main focus of this course is to develop writing fluency and properly constructed paragraphs, students in Group C will be encouraged to practice accuracy as well.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Weekly Chapter Plan</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction / Syllabus 2-3. I'll Never Forget... / Personal Heroes 4-5. My Name Is... 6-7. How Did You Learn That? 8-9. A Place in the World 10-11. Musical Ambassadors 12. Group Writing project 13. Position Paper Writing 14. Research Paper Writing 15. Final Paper 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Work on the assigned essays and revise them after each class		
テキスト、参考文献	Tapestry: Writing 2 (Heinle &Heinle)		
評価方法	Performance and assignments will both count towards a grade.		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 E) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an academic writing course with a continued emphasis on introductory skills.. Students will be taught to write a basic sentence and paragraph in English for an academic, business and/or professional audience. While the main focus of this course is to develop writing fluency and properly constructed paragraphs, students in Group C will be encouraged to practice accuracy as well.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<p>The plans for the semester will be announced on the first day of class.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction / Syllabus 2-3. Let's Party! 4-5. Great Classic Movies 6-7. Highlights of the Twentieth Century 8-9. Looking Forward 10-11. Review 12. Group Writing project 13. Position Paper Writing 14. Research Paper Writing 15. Final Paper 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Work on the assigned essays and revise them after each class		
テキスト、参考文献	Tapestry: Writing 2 (Heinle &Heinle)		
評価方法	Performance and assignments will both count towards a grade.		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 F) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Unit 1-1,2 The Sentence and the Paragraph (Stimulating Ideas, Developing a Paragraph) 3. Unit 1-3,4,5 (Unity and Coherence, Editing Your Paragraph) 4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas) 5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining) 6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas) 7. Unit 2-4 (Editing Your Writing) 8. Unit 2-5 (Putting It All Together) 9. Unit 3-1 Example Paragraphs (Stimulating Ideas) 10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining) 11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas) 12. Unit 3-4 (Editing Your Writing) 13. Unit 3-5 (Putting It All Together) 14. Presentation 15. Summary of the course 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 1: The Paragraph</i> . Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432346-8		
評価方法	Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 F) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, review of the spring semester 2. Unit 4-1 Process Paragraphs (Stimulating Ideas) 3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining) 4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas) 5. Unit 4-4 (Editing Your Writing) 6. Unit 4-5 (Putting It All Together) 7. Unit 5-1 Opinion Paragraphs (Stimulating Ideas) 8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining) 9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas) 10. Unit 5-4 (Editing Your Writing) 11. Unit 5-5 (Putting It All Together) 12. Unit 6-1 Narrative Paragraph (Stimulating Ideas) 13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining) 14. Presentation 15. Summary of the course 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 1: The Paragraph</i> . Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432346-8		
評価方法	Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 G) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Week 1 : Course introduction, requirements Week 2 : U.1 Organizing info, capitals, punctuation Week 3 : U.2 Understanding paragraphs Week 4 : Unity, writing (an emotional time) Week 5 : U.3 Time order organization Week 6 : Time signals, writing (a memorable day) Week 7 : U.4 Organization by importance Week 8 : Importance signals, writing (preferences) Week 9 : U.5 Space order organization Week 10 : Prepositions, writing (describe a room) Week 11 : U.6 The writing process Week 12 : Writing, editing, revising paragraphs Week 13 : U.7 Supporting main ideas Week 14 : Writing, explaining information in a chart Week 15 : Feedback & wrap-up</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to read ahead in the textbook to prepare for classes, and to review their classwork after class.		
テキスト、参考文献	Blanchard & Root "Ready to Write 2 (4 th edition) ", Pearson Longman		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 G) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Week 1 : U.8 Describing steps in a process Week 2 : Sequence signals, writing (directions) Week 3 : U.9 Order of adjectives, description Week 4 : Sensory words, writing (describe a person) Week 5 : U.10 Logical order, reasoning Week 6 : Organize reasons, writing (opinion) Week 7 : U.11 how to comparison/contrast Week 8 : Topic selection, writing (comparing places) Week 9 : U.12 Analyzing situations, cause/effect Week 10 : Cause/effect signals, writing Week 11 : U.13 Letter-writing, formal/informal Week 12 : Writing personal / business letter Week 13 : U.14 Summarizing, synthesizing Week 14 : Writing (summary of a story) Week 15 : Catch-up. wrap-up, feedback.</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to read ahead in the textbook to prepare for classes, and to review their classwork after class.		
テキスト、参考文献	Blanchard & Root "Ready to Write 2 (4 th edition) ", Pearson Longman		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 H) Paragraph Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Week 1 : Course introduction, requirements Week 2 : U.1 Organizing info, capitals, punctuation Week 3 : U.2 Understanding paragraphs Week 4 : Unity, writing (an emotional time) Week 5 : U.3 Time order organization Week 6 : Time signals, writing (a memorable day) Week 7 : U.4 Organization by importance Week 8 : Importance signals, writing (preferences) Week 9 : U.5 Space order organization Week 10 : Prepositions, writing (describe a room) Week 11 : U.6 The writing process Week 12 : Writing, editing, revising paragraphs Week 13 : U.7 Supporting main ideas Week 14 : Writing, explaining information in a chart Week 15 : Feedback & wrap-up</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to read ahead in the textbook to prepare for classes, and to review their classwork after class.		
テキスト、参考文献	Blanchard & Root "Ready to Write 2 (4 th edition) ", Pearson Longman		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 H) Paragraph Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Week 1 : U.8 Describing steps in a process Week 2 : Sequence signals, writing (directions) Week 3 : U.9 Order of adjectives, description Week 4 : Sensory words, writing (describe a person) Week 5 : U.10 Logical order, reasoning Week 6 : Organize reasons, writing (opinion) Week 7 : U.11 how to comparison/contrast Week 8 : Topic selection, writing (comparing places) Week 9 : U.12 Analyzing situations, cause/effect Week 10 : Cause/effect signals, writing Week 11 : U.13 Letter-writing, formal/informal Week 12 : Writing personal / business letter Week 13 : U.14 Summarizing, synthesizing Week 14 : Writing (summary of a story) Week 15 : Catch-up. wrap-up, feedback.</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to read ahead in the textbook to prepare for classes, and to review their classwork after class.		
テキスト、参考文献	Blanchard & Root "Ready to Write 2 (4 th edition) ", Pearson Longman		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 I) Paragraph Writing (再履修)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. The English paragraph 3. The topic sentence 4. The supporting details 5. Characteristics of a good paragraph 6. Descriptive paragraph 7. Narrative paragraph 8. Personal opinion 9. Writing a second draft 10. Peer evaluation and feedback 11. Classification 12. Cause and effect 13. Comparison 14. Contrast 15. Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.		
テキスト、 参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 I) Paragraph Writing (再履修)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Thesis statement 4. Essay organization 5. Synthesizing Information 6. Detailed outline 7. Evaluating outlines 8. Descriptive essay 9. Narrative essay 10. Peer evaluation and feedback 11. Writing final draft 12. Comparison and contrast essay 13. Classification essay 14. Persuasion 15. Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.		
テキスト、 参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年J) Paragraph Writing (再履修)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. The English paragraph 3. The topic sentence 4. The supporting details 5. Characteristics of a good paragraph 6. Descriptive paragraph 7. Narrative paragraph 8. Personal opinion 9. Writing a second draft 10. Peer evaluation and feedback 11. Classification 12. Cause and effect 13. Comparison 14. Contrast 15. Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.		
テキスト、 参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年J) Paragraph Writing (再履修)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Thesis statement 4. Essay organization 5. Synthesizing Information 6. Detailed outline 7. Evaluating outlines 8. Descriptive essay 9. Narrative essay 10. Peer evaluation and feedback 11. Writing final draft 12. Comparison and contrast essay 13. Classification essay 14. Persuasion 15. Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.		
テキスト、 参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 K) Paragraph Writing (再履修)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions, outline, getting to know your teacher. 2. Beginning to Work 1 3. Beginning to Work 2 4. Giving and Receiving Presents 1 5. Giving and Receiving Presents 2 6. A Favorite Place 1 7. A Favorite Place 2 8. An Exceptional Person 1 9. An Exceptional Person 2 10. Trends and Fads 1 11. Trends and Fads 2 12. White Lies 1 13. White Lies 2 14. Review 15. Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、 参考文献	<i>Paragraph Writing</i> , Dorothy E. Zemach & Carlos Islam, (MacMillan)		
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 40% homework assignments, in-class points, notebooks 30% Final writing assignment in class		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 K) Paragraph Writing (再履修)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Summary of Units 1-6. Holiday writing exercise. 2. Explanations and Excuses 1 3. Explanations and Excuses 2. 4. Problems 1 5. Problems 2 6. Strange Stories 1 7. Strange Stories 2 8. Differences 1 9. Differences 2 10. Difficult Decisions 1 11. Difficult Decisions 2 12. Fate or Choice? 1 13. Fate or Choice? 2 14. Review 15. Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、 参考文献	<i>Paragraph Writing</i> , by Dorothy E. Zemach & Carlos Islam, (MacMillan)		
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 40% homework assignments, in-class points, notebooks 30% Final writing assignment in class		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年L) Paragraph Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Week 1 : Course introduction, requirements Week 2 : U.1 Organizing info, capitals, punctuation Week 3 : U.2 Understanding paragraphs Week 4 : Unity, writing (an emotional time) Week 5 : U.3 Time order organization Week 6 : Time signals, writing (a memorable day) Week 7 : U.4 Organization by importance Week 8 : Importance signals, writing (preferences) Week 9 : U.5 Space order organization Week 10 : Prepositions, writing (describe a room) Week 11 : U.6 The writing process Week 12 : Writing, editing, revising paragraphs Week 13 : U.7 Supporting main ideas Week 14 : Writing, explaining information in a chart Week 15 : Feedback & wrap-up</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to read ahead in the textbook to prepare for classes, and to review their classwork after class.		
テキスト、参考文献	Blanchard & Root "Ready to Write 2 (4 th edition) ", Pearson Longman		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年L) Paragraph Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Week 1 : U.8 Describing steps in a process Week 2 : Sequence signals, writing (directions) Week 3 : U.9 Order of adjectives, description Week 4 : Sensory words, writing (describe a person) Week 5 : U.10 Logical order, reasoning Week 6 : Organize reasons, writing (opinion) Week 7 : U.11 how to comparison/contrast Week 8 : Topic selection, writing (comparing places) Week 9 : U.12 Analyzing situations, cause/effect Week 10 : Cause/effect signals, writing Week 11 : U.13 Letter-writing, formal/informal Week 12 : Writing personal / business letter Week 13 : U.14 Summarizing, synthesizing Week 14 : Writing (summary of a story) Week 15 : Catch-up. wrap-up, feedback.</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to read ahead in the textbook to prepare for classes, and to review their classwork after class.		
テキスト、参考文献	Blanchard & Root "Ready to Write 2 (4 th edition) ", Pearson Longman		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 M) Writing Strategies (再履修)	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an academic writing course with an emphasis on introductory skills.. Students will be taught to write a basic sentence and paragraph in English for an academic, business and/or professional audience. While the main focus of this course is to develop writing fluency and properly constructed paragraphs, students in Group C will be encouraged to practice accuracy as well.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Weekly Chapter Plan</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction / Syllabus 2-3. I'll Never Forget... / Personal Heroes 4-5. My Name Is... 6-7. How Did You Learn That? 8-9. A Place in the World 10-11. Musical Ambassadors 12. Group Writing project 13. Position Paper Writing 14. Research Paper Writing 15. Final Paper 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Work on the assigned essays and revise them after each class		
テキスト、参考文献	Tapestry: Writing 2 (Heinle &Heinle)		
評価方法	Performance and assignments will both count towards a grade.		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 M) Writing Strategies (再履修)	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an academic writing course with a continued emphasis on introductory skills.. Students will be taught to write a basic sentence and paragraph in English for an academic, business and/or professional audience. While the main focus of this course is to develop writing fluency and properly constructed paragraphs, students in Group C will be encouraged to practice accuracy as well.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<p>The plans for the semester will be announced on the first day of class.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction / Syllabus 2-3. Let's Party! 4-5. Great Classic Movies 6-7. Highlights of the Twentieth Century 8-9. Looking Forward 10-11. Review 12. Group Writing project 13. Position Paper Writing 14. Research Paper Writing 15. Final Paper 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Work on the assigned essays and revise them after each class		
テキスト、参考文献	Tapestry: Writing 2 (Heinle &Heinle)		
評価方法	Performance and assignments will both count towards a grade.		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 N) Writing Strategies (再履修)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction 2 Getting ready to write 3 Choosing the hook (Assignment 1 due) 4 Writing a coherent sentence 5 Linking sentences together (Assignment 2 due) 6 From sentence to paragraph 7 Midterm test 8 Formatting skills 9 Academic writing introduction (Assignment 3 due) 10 Paragraph types 11 From life to paragraph 12 Editing your work (Assignment 4 due) 13 Peer editing 14 Final paper 15 Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use Portal Site to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance 20%, Midterm test 20%, Class assignments 20%, Final paper 40%		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 N) Writing Strategies (再履修)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction 2 Academic topic choices 3 Building body paragraphs (Assignment 1 due) 4 Useful vocabulary 5 Linking body paragraphs (Assignment 2 due) 6 Cohesion and logic 7 Midterm test 8 Using formatting skills 9 Using editing skills (Assignment 3 due) 10 Using external sources 11 Editing your work (Assignment 4 due) 12 Peer editing 13 Final test 14 Review I. 15 Review II. 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use Portal Site to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance 20%, Midterm test 20%, Class assignments 20%, Final paper 40%		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 O) Writing Strategies (再履修)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Basic Paragraph Structure 3. Basic Paragraph Structure 4. Basic Paragraph Structure 5. Academic Paragraphs 6. Academic Paragraphs 7. Academic Paragraphs 8. Narrative Paragraphs 9. Narrative Paragraphs 10. Narrative Paragraphs 11. Logical Organization 12. Logical Organization 13. Logical Organization 14. In-class writing test 15. Final evaluation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook. Handouts will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 O) Writing Strategies (再履修)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review 2. Process Paragraphs 3. Process Paragraphs 4. Process Paragraphs 5. Definition Paragraphs 6. Definition Paragraphs 7. Definition Paragraphs 8. Cause and Effect Paragraphs 9. Cause and Effect Paragraphs 10. Cause and Effect Paragraphs 11. Comparison/Contrast Paragraphs 12. Comparison/Contrast Paragraphs 13. Comparison/Contrast Paragraphs 14. In-class writing test 15. Final evaluation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Handouts will be provided..		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 P) Writing Strategies (再履修)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction: 2: Chap.1: Paragraph Format / nouns & articles 3: " / subject-verb agreement 4: " / verbs 5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / verb tense 6: " / organization 7: " / compound sentences 8: Chap. 3: Paragraph Structure / Organization 9: " / adjectives & Verbs 10: " / " 11: Chap.4: Logical Division of Ideas / Paragraph " / Organization 12: " / Unity 13: " /Run-ons and Comma Splices 14: " / Synonyms 15: Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト、 参考文献	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman), handout		
評価方法	class participation (20%) assignments (40%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 P) Writing Strategies (再履修)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction: 2: Chap. 5 Process Paragraphs/ Clauses 3: " / Organization 4: " / transitional signals 5: " / Complex sentences 6: Chap. 6: Definition Paragraphs/ Appositives 7: " / Organization 8: " / Adjective Clauses. Relative pronouns 9: Chap. 7: Cause / Effect Paragraphs 10: " / Organization 11: " / Cause / Effect Signals 12: Chapter 8: Comparison/ Contrast Paragraphs 13: " / Organization 14: " / Comparison/ Contrast Signals 15: Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト、 参考文献	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman), handout		
評価方法	class participation (20%) assignments (40%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 Q) Writing Strategies (再履修)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Basic Paragraph Structure 3. Basic Paragraph Structure 4. Basic Paragraph Structure 5. Academic Paragraphs 6. Academic Paragraphs 7. Academic Paragraphs 8. Narrative Paragraphs 9. Narrative Paragraphs 10. Narrative Paragraphs 11. Logical Organization 12. Logical Organization 13. Logical Organization 14. In-class writing test 15. Final evaluation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook. Handouts will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 Q) Writing Strategies (再履修)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review 2. Process Paragraphs 3. Process Paragraphs 4. Process Paragraphs 5. Definition Paragraphs 6. Definition Paragraphs 7. Definition Paragraphs 8. Cause and Effect Paragraphs 9. Cause and Effect Paragraphs 10. Cause and Effect Paragraphs 11. Comparison/Contrast Paragraphs 12. Comparison/Contrast Paragraphs 13. Comparison/Contrast Paragraphs 14. In-class writing test 15. Final evaluation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Handouts will be provided..		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 R) Writing Strategies (再履修)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction: 2: Chap.1: Paragraph Format / nouns & articles 3: " / subject-verb agreement 4: " / verbs 5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / verb tense 6: " / organization 7: " / compound sentences 8: Chap. 3: Paragraph Structure / Organization 9: " / adjectives & Verbs 10: " / " 11: Chap.4: Logical Division of Ideas / Paragraph " / Organization 12: " / Unity 13: " /Run-ons and Comma Splices 14: " / Synonyms 15: Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト、 参考文献	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman), handout		
評価方法	class participation (20%) assignments (40%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 R) Writing Strategies (再履修)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction: 2: Chap. 5 Process Paragraphs/ Clauses 3: " / Organization 4: " / transitional signals 5: " / Complex sentences 6: Chap. 6: Definition Paragraphs/ Appositives 7: " / Organization 8: " / Adjective Clauses. Relative pronouns 9: Chap. 7: Cause / Effect Paragraphs 10: " / Organization 11: " / Cause / Effect Signals 12: Chapter 8: Comparison/ Contrast Paragraphs 13: " / Organization 14: " / Comparison/ Contrast Signals 15: Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト、 参考文献	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman), handout		
評価方法	class participation (20%) assignments (40%) final report (20%) / final test (20%)		

09年度以降	Writing Skills III (2年 A)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		初回授業にて指示する。	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 A)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		初回授業にて指示する。	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

09年度以降	Writing Skills III (2年 B)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Orientation & e-mail 2: Paragraph template 3: Paragraph final format & submission 4: Planning template 5: Planning template & research template (direct quotes) 6: Research template (direct quotes) 7: Research template (direct quotes) 8: Essay template introduction 9: Essay template body (1st paragraph) 10: Essay template body (2nd paragraph) 11: Essay template conclusion 12: Essay template peer reviewing, revising & editing 13: APA style, peer reviewing, revising & editing 14: Final format & submission 15: Course survey 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary, and PC laptop to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 35%; Homework 10%; Paragraph 10%; Essay research 10%; Essay 35%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 B)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Orientation & planning template 2: Planning template 3: Writing an effective summary 4: Writing an effective summary 5: Writing an effective summary 6: Research template (1 direct quote & 2 summaries) 7: Research template (1 direct quote & 2 summaries) 8: Essay template introduction 9: Essay template body (1st paragraph) 10: Essay template body (2nd paragraph) 11: Essay template conclusion 12: Essay template peer reviewing, revising & editing 13: APA style, peer reviewing, revising & editing 14: Final format & submission 15: Course survey 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary, and PC laptop to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Research summaries 10%; Essay: 40%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 C)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Getting ready to write 3. Getting ready to write 4. Paragraphs 5. Paragraphs 6. Revising and editing 7. Writing essays 8. Writing essays 9. Process essays 10. Process essays 11. Process essays 12. Division and classification essays 13. Division and classification essays 14. Division and classification essays 15. Final evaluation 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework. After each class there will be a writing assignment to complete during the week. Frequently a portion of the textbook will be assigned to preview and complete tasks before class.		
テキスト、参考文献	<i>Ready to Write: From Paragraph to Essay Third Edition</i> by Karen Blanchard and Christine Root. 2010 Pearson		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 C)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review 2. Cause and effect essays 3. Cause and effect essays 4. Cause and effect essays 5. Comparison and contrast essays 6. Comparison and contrast essays 7. Comparison and contrast essays 8. Problem-solution essays 9. Problem-solution essays 10. Problem-solution essays 11. Writing summaries 12. Writing summaries 13. Expression opinion 14. Expressing opinion 15. Final evaluation 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework. After each class there will be a writing assignment to complete during the week. Frequently a portion of the textbook will be assigned to preview and complete tasks before class.		
テキスト、参考文献	<i>Ready to Write: From Paragraph to Essay Third Edition</i> by Karen Blanchard and Christine Root. 2010 Pearson		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 D)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Summarizing Week 3: Summary Workshop Week 4: Responding Week 5: Responding Week 6: Response Workshop Week 7: Textual Analysis Week 8: Textual Analysis Week 9: Textual Analysis Workshop Week 10: Comparison & Contrast Week 11: Comparison & Contrast Week 12: Comparison & Contrast Week 13: Comparison & Contrast Workshop Week 14: Final Workshop Week 15: Presentations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	There is no textbook for this class. The instructor provides all materials.		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, and final presentations.		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 D)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<p>Week 1: Introduction to Cause & Effect Week 2: Selecting a Topic Week 3: Library Basics Week 4: Development Week 5: Focus Week 6: Cause & Effect Workshop I Week 7: Cause & Effect Workshop II Week 8: Introduction to Problem Solving Week 9: Criteria for Evaluation Week 10: Evaluating Sources Week 11: Documenting Sources Week 12: Plagiarism Week 13: Problem Solving Workshop I Week 14: Problem Solving Workshop II Week 15: Final Presentations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	There is no textbook for this course. The instructor provides all materials.		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, and final presentations.		

09年度以降	Writing Skills III (2年 E)	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction class 2. Unit 1 (education): Essay structure/ organization 3. Unit 1 (education): Discussion & timed essay 4. Unit 1 (education): Essay feedback & evaluation 5. Unit 2 (leadership): Essay structure/ organization 6. Unit 2 (leadership): Discussion & timed essay 7. Unit 2 (leadership): Essay feedback & evaluation 8. Unit 3 (languages): Essay structure/ organization 9. Unit 3 (languages): Discussion & timed essay 10. Unit 3 (languages): Essay feedback & evaluation 11. Unit 4 (sustainability): structure/ organization 12. Unit 4 (sustainability): Discussion & timed essay 13. Unit 4 (sustainability): feedback & evaluation 14. Final draft preparation 15. Final class 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading tasks for each textbook unit. Writing a final essay		
テキスト、参考文献	<i>Writing Skills</i> Louis Rogers, Delta Publishing, ISBN 978-1-905085-58-3		
評価方法	3 of 4 timed essays 30% Final essay f 25%	Academic vocabulary homework tasks 25% Class participation and preparation 20%	

09年度以降	Writing Skills IV (2年 E)	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction class 2. Unit 5 (crime): Essay structure/ organization 3. Unit 5 (crime): Discussion & timed essay 4. Unit 5 (crime): Essay feedback & evaluation 5. Unit 7 (culture): Essay structure/ organization 6. Unit 7 (culture): Discussion & timed essay 7. Unit 7 (culture): Essay feedback & evaluation 8. Unit 8 (personality): Essay structure/ organization 9. Unit 8 (personality): Discussion & timed essay 10. Unit 8 (personality): Essay feedback & evaluation 11. Unit 9 (ethics): structure/ organization 12. Unit 9 (ethics): Discussion & timed essay 13. Unit 4 (ethics): feedback & evaluation 14. Final draft preparation 15. Final class 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading tasks for each textbook unit. Writing a final essay		
テキスト、参考文献	Same as spring.		
評価方法	3 of 4 timed essays 30% Final essay f 25%	Academic vocabulary homework tasks 25% Class participation and preparation 20%	

09年度以降	Writing Skills III (2年 F)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction 2 Academic writing strategies 3 Finding the argument (Assignment 1 due) 4 Paragraph types 5 Introductory paragraph (Assignment 2 due) 6 Body paragraph 7 Midterm test 8 Closing paragraph 9 Academic sources (Assignment 3 due) 10 Citation rules 11 Integrating knowledge 12 Editing your work (Assignment 4 due) 13 Peer editing 14 Final paper 15 Review 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use Portal Site to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance 20%, Midterm test 20%, Class assignments 20%, Final paper 40%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 F)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction 2 Academic writing review 3 Argumentative essays (Assignment 1 due) 4 Cohesion: logic 5 Linking words (Assignment 2 due) 6 Useful vocabulary 7 Midterm test 8 Hunting for academic sources 9 Fallacies (Assignment 3 due) 10 Your essay strategies 11 Editing your work (Assignment 4 due) 12 Peer editing 13 Final paper 14 Review I 15 Review II 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use Portal Site to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance 20%, Midterm test 20%, Class assignments 20%, Final paper 40%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 G)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and course orientation 2. Getting to know you - conversation activities 3. Exploring essays - the hook and introduction 4. Exploring essays - the body and conclusion 5. Analyzing narrative essays 6. Developing narrative essays - outlining 7. Narrative essay first draft peer review 8. Narrative essay second draft peer review 9. Final draft submission - informing and explaining 10. Analyzing comparison essays 11. Developing comparison essays - outlining 12. Comparison essay first draft peer review 13. Comparison essay second draft peer review 14. Final draft submission and course review. 15. Exam period. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class.		
テキスト、参考文献	Great Writing 4 - Great essays, Cengage		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 G)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome back - conversation activities 2. 50 word stories 3. Using the internet and other reference sources 4. Analyzing argument essays 5. Developing argument essays - outlining 6. Argument essay first draft peer review 7. Argument essay second draft peer review 8. Final draft submission - writing reviews 9. Group narrative compositions 10. Other forms of academic writing - outlining 11. Students' choice first draft peer review 12. Students' choice second draft peer review 13. Final editing 14. Final draft submission and course review 15. Test week 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class.		
テキスト、参考文献	Great Writing 4 - Great essays, Cengage		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)		

09年度以降	Writing Skills III (2年 H)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. The thesis statement 4. Synthesizing Information 5. Characteristics of a good paragraph 6. Detailed outline 7. Critical Thinking 8. Personal opinion 9. Writing a second draft 10. Peer evaluation and feedback 11. Reading and Discussion 12. Cohesive paragraphs 13. Introductions and Conclusions 14. Narrative essay 15. Test 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 H)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Summer Vacation Essay 2. Brainstorming exercises 3. Good Supporting sentences 4. Word Choice 5. Historical Event Essay 6. Describing a World Heritage Site Essay 7. Japanese Culture Essay 8. Peer evaluation and feedback 9. Explaining the Process of Learning 10. Proofreading Exercises 11. Hot Button Topic 12. Comparison and contrast essay 13. Classification essay 14. Persuasion 15. Test 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

09年度以降	Writing Skills III (2年 I)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Writing planning & brainstorming 3. Writing revising, editing & peer feedback 4. Paragraph structures, writing topics & introduction 5. Well supported topics and paragraphs 6. Writing conclusion and revision 7. Quiz 1-15% 8. Library computer literacy task 1 9. Writing an outlines and a 'good essay' 10. Patterns in organization 11. Good writing, cohesion & unity 12. Writing, review, peer edit & feedback # 1 13. Writing, review, peer edit & feedback # 2 14. Quiz 2 - 15% 15. Library computer literacy task 2 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay topic research, writing skills research, and computer report preparation.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Computer written reports = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 I)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Library computer literacy task 3 2. Writing and essay preparation & planning 3. Review, Proof-read and checking techniques 4. Writing a 'good essay' and good essays techniques 5. Essay organization & outline 6. Good essays, developing arguments & support 7. Quiz 1-15% 8. Library computer literacy task 4 9. Writing patterns and essay types # 1 10. Writing patterns and essay types # 2 11. Writing patterns and essay types # 3 12. Writing, review, peer edit & feedback # 1 13. Writing, review, peer edit & feedback # 2 14. Quiz 2 - 15% 15. Library computer literacy task 5 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay topic research, writing skills research, and computer report preparation.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Computer written essays = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 J)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<p>Week 1- Introduction: Paragraph Writing</p> <p>Week 2- Pre-Writing: Getting Ready to Write</p> <p>Week 3- Editing Ideas</p> <p>Week 4- The Structure of a Paragraph</p> <p>Week 5- Identifying and Writing Topic Sentences</p> <p>Week 6- The Development of a Paragraph</p> <p>Week 7- Peer Editing</p> <p>Week 8- Midterm Exam</p> <p>Week 9- Descriptive and Process Paragraphs</p> <p>Week 10- Process Paragraphs and Reasons for Writing Them</p> <p>Week 11- Opinion Paragraphs</p> <p>Week 12- Using Transition Words</p> <p>Week 13- Comparison/Contrast Paragraphs</p> <p>Week 14- Review</p> <p>Week 15- Final Exam</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the material we cover after class and prepare by reading the next lesson's material before we have class.		
テキスト、参考文献	Success With College Writing – From Paragraph to Essay by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek, MacMillan Language House		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 J)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<p>Week 1- Problem/Solution Paragraphs</p> <p>Week 2- The Structure of an Essay</p> <p>Week 3- Writing a Thesis Statement</p> <p>Week 4- Outlining an Essay</p> <p>Week 5- Writing an Outline</p> <p>Week 6- Introductions and Conclusions</p> <p>Week 7- The Purpose of a Conclusion</p> <p>Week 8- Midterm Exam</p> <p>Week 9- Unity and Coherence</p> <p>Week 10- The Importance of Coherence in Essay Writing</p> <p>Week 11- Essays for Examinations</p> <p>Week 12- Writing Timed Essays and Managing Time</p> <p>Week 13- Writing a Statement of Purpose</p> <p>Week 14- Review</p> <p>Week 15- Final Exam</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the material we cover after class and prepare by reading the next lesson's material before we have class.		
テキスト、参考文献	Success With College Writing – From Paragraph to Essay by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek, MacMillan Language House		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 K)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introductions, course goals, & review of the basics 2 Brainstorming, ranking, general vs. specific info. 3 The Introduction / computer skills with Word 4 The conclusion / the body / common errors 5 Process essay 6 Division essay (hw: write essay 1 draft) 7 Cause & effect essay (submit essay 1 draft) 8 Editing essay 1 draft 9 Compare & contrast essay (submit essay 1 final) 10 Problem-solution essay (hw: write essay 2 draft) 11 Summaries + in-class written summary (graded) 12 Editing essay 2 13 Test explanation, how to select Qs/ planning under time limits / submit essay 2 final 14 End of semester timed basic essay test 15 Tests back 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary		
テキスト、参考文献	Ready to Write 3 (3rd Edition), Blanchard, K. & Root, C., (2010). Pearson publishers Electronic dictionary is OK		
評価方法	10% in-class summary writing (week 11) 60% essay writing (30% for each essay this semester) 30% end of semester test		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 K)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Semester goals / sentence variation , advanced connectors, collocations, trend vocabulary 2 Note-taking & outlining 3 Choosing essay 1 topic : domestic issues Brainstorming, ranking, specific examples 4 Research skills 1: how to find body ideas 5 Outlining 6 Research skills 3 : researching the outline gaps / hw : write essay 1 draft 7 Choosing topic 2 : international issue Brainstorming, ranking, specific examples 8 Research 1 : body ideas , specific examples 9 Research 2 : specific examples, collocations 10 Outlining 11 Research skills 3 : researching the outline gaps / write essay 2 draft 12 Sentence variation practice / submit essay 2 draft 13 Editing essay 2 / write essay 2 final 14 submit essay 2 final / course review 15 pick up essay 2 / final grade explained 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary		
テキスト、参考文献	No textbook for this semester. Teacher materials provided Electronic dictionary is OK		
評価方法	50% : essay 1 / 50% : essay 2		

09年度以降	Writing Skills III (2年 L)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Week 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics Week 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics. Week 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics. Week 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics. Week 11 - 14, Other important points in essay writing. Discussion topics. Week 15 - Final assessments.</p> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.		
テキスト、参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library.		
評価方法	Classwork, homework, voc test 20%, participation and effort 20%, Essay 20%, Journal 20%, Final assessment 20%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 L)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics. Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics. Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics. Weeks 11 -14, Editing your writing. Discussion topics. Week 15 Final assessments.</p> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.		
テキスト、参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library.		
評価方法	Classwork, homework, voc test 20%, participation and effort 20%, Essay 20%, Journal 20%, Final assessment 20%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 M)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions, outline, getting to know your teacher. 2. Pre-Writing: Getting Ready to Write 1 3. Pre-Writing: Getting Ready to Write 2 4. The Structure of a Paragraph 1 5. The Structure of a Paragraph 2 6. The Development of a Paragraph 1 7. The Development of a Paragraph 1 8. Descriptive Paragraphs 1 9. Descriptive Paragraphs 2 10. Opinion Paragraphs 1 11. Opinion Paragraphs 2 12. Comparison Paragraphs 1 13. Comparison Paragraphs 2 14. Review 15. Test 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、参考文献	<i>Writing Essays</i> , Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu, (MacMillan)		
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 40% homework assignments, in-class points, notebooks 30% Final writing assignment in class		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 M)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review 2. Problem/Solution Paragraphs 1 3. Problem/Solution Paragraphs 2 4. The Structure of an Essay 1 5. The Structure of an Essay 2 6. Outlining an Essay 1 7. Outlining an Essay 2 8. Introductions and Conclusions 1 9. Introductions and Conclusions 2 10. Unity and Coherence 1 11. Unity and Coherence 2 12. Essays for Examinations 1 13. Essays for Examinations 2 14. Review 15. Test 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、参考文献	<i>Writing Essays</i> , Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu, (MacMillan)		
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 40% homework assignments, in-class points, notebooks 30% Final writing assignment in class		

09年度以降	Writing Skills III (2年 N)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Topic sentence development 3. Practice essay 4. “ 5. “ 6. “ 7. “ 8. “ 9. Comprehensive essay 10. My passion essay 11. “ 12. “ 13. Presentation 14. Presentation 15. Presentation 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to prepare - before class -writing assignments in accordance with the requirements set by the instructor, so that class time can be used for revision and instruction.		
テキスト、参考文献	No text will be used for this course. The instructor shall provide all materials.		
評価方法	Participation, essays, presentation		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 N)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. News article/summary/Topic sentence 3. “ 4. “ 5. “ 6. “ 7. “ 8. Test 9. Presentation preparation 10. “ 11. “ 12. Presentations 13. Presentations 14. Presentations 15. Presentations 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to prepare - before class -writing assignments in accordance with the requirements set by the instructor, so that class time can be used for revision and instruction.		
テキスト、参考文献	Same as above		
評価方法	Same as above		

09年度以降	Writing Skills III (2年 O)	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		初回授業にて指示する。	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 O)	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		初回授業にて指示する。	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

09年度以降	Writing Skills III (2年 P)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Unit 1-1,2 Paragraph to Short Essay (Paragraph structure, Unity and Coherence) 3. Unit 1-3,4,5 (From Paragraph to Short Essay) 4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas) 5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining) 6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas) 7. Unit 2-4 (Editing Your Writing) 8. Unit 2-5 (Putting It All Together) 9. Unit 3-1 Narrative Essays(Stimulating Ideas) 10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining) 11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas) 12. Unit 3-4 (Editing Your Writing) 13. Unit 3-5 (Putting It All Together) 14. Presentation 15. Summary of the course 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 2: The Short Essay.</i> Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432347-5		
評価方法	Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 P)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, review of the spring semester 2. Unit 4-1 Comparison-Contrast (Stimulating Ideas) 3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining) 4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas) 5. Unit 4-4 (Editing Your Writing) 6. Unit 4-5 (Putting It All Together) 7. Unit 5-1 Opinion Essays (Stimulating Ideas) 8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining) 9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas) 10. Unit 5-4 (Editing Your Writing) 11. Unit 5-5 (Putting It All Together) 12. Unit 6-1 Cause-and-Effect (Stimulating Ideas) 13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining) 14. Presentation 15. Summary of the course 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 2: The Short Essay.</i> Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432347-5		
評価方法	Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)		

09年度以降	Writing Skills III (2年 Q)	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		初回授業にて指示する。	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 Q)	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		初回授業にて指示する。	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

09年度以降	Writing Skills III (2年 R)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2.To help students understand various patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students revise and edit their essays 5.To help students use a variety of sources 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Orientation & e-mail 2: Paragraph template 3: Paragraph final format & submission 4: Planning template 5: Planning template & research template (direct quotes) 6: Research template (direct quotes) 7: Research template (direct quotes) 8: Essay template introduction 9: Essay template body (1st paragraph) 10: Essay template body (2nd paragraph) 11: Essay template conclusion 12: Essay template peer reviewing, revising & editing 13: APA style, peer reviewing, revising & editing 14: Final format & submission 15: Course survey 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary, and PC laptop to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 35%; Homework 10%; Paragraph 10%; Essay research 10%; Essay 35%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 R)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2.To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3.To help students plan essays 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their essays 6.To help students develop computer literacy skills 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Orientation & planning template 2: Planning template 3: Writing an effective summary 4: Writing an effective summary 5: Writing an effective summary 6: Research template (1 direct quote & 2 summaries) 7: Research template (1 direct quote & 2 summaries) 8: Essay template introduction 9: Essay template body (1st paragraph) 10: Essay template body (2nd paragraph) 11: Essay template conclusion 12: Essay template peer reviewing, revising & editing 13: APA style, peer reviewing, revising & editing 14: Final format & submission 15: Course survey 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary, and PC laptop to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Research summaries 10%; Essay: 40%		

09年度以降	E-learning I	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 英語学科1年Group A (1組, 2組) の学生を対象とする。 Reading Strategies, Writing Skills などの対面授業で習得したスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週目の全体説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示する。指定教室に再履修者も含め全員集合すること。 ・3週目以降は毎週語彙に関するテストを行う。 ・4週目以降は隔週でオンラインライティングサービス (Criterion) を利用してライティング課題に取り組み、自分のエッセイをレビューする活動に取り組む。 ・学習内容は、語彙 (ALC) とライティング (Criterion) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会 2. Criterion ガイダンス Essay Topic (トライアル) 3. テスト(1): ALC & Essay Topic (1) 4. テスト(2): ALC 5. テスト(3): ALC & Essay Topic (2) 6. テスト(4): ALC 7. テスト(5): ALC & Essay Topic (3) 8. テスト(6): ACL 9. テスト(7): ALC & Essay Topic (4) 10. テスト(8): ALC 11. テスト(9): ALC & Essay Topic (5) 12. テスト(10): ALC 13. テスト(11): ALC & Essay topic (6) 14. テスト(12): ALC 15. まとめ 	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテスト準備をし、ライティングの課題に取り組む		
テキスト、参考文献	オンライン教材: ALC NetAcademy, Criterion		
評価方法	12回の授業内テスト(50%)、6回の課題エッセイ (30%)、レビュー活動等 (20%)		

09年度以降	E-learning II	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 E-learning I と同じ。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について説明をするので再履修者も含め全員集合すること。 ・2週目以降は毎週語彙に関するテストを行う。 ・3週目以降は隔週でオンラインライティングサービス (Criterion) を利用してライティング課題に取り組み、クラスメートのエッセイをレビューする活動に取り組む。 ・第8週 (予定) に1年生はTOEFL 団体受験をする。この日に限り、終了時間は午後 7:15。 ・学習内容は、語彙 (ALC) とライティング (Criterion)。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会 2. テスト(1): ALC & Essay Topic (1) 3. テスト(2): ALC 4. テスト(3): ALC & Essay Topic (2) 5. テスト(4): ALC 6. テスト(5): ALC & Essay Topic (3) 7. テスト(6): ACL 8. TOEFL ITP Test 9. テスト(7): ALC & Essay Topic (4) 10. テスト(8): ALC 11. テスト(9): ALC & Essay Topic (5) 12. テスト(10): ALC 13. テスト(11): ALC & Essay topic (6) 14. ライティングに関するまとめ 15. 語彙学習に関するまとめ 	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテスト準備をし、ライティングの課題に取り組む		
テキスト、参考文献	オンライン教材: ALC NetAcademy, Criterion		
評価方法	11回の授業内テスト(50%)、6回の課題エッセイ (30%) レビュー活動等 (20%)		

09年度以降	E-learning I	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学科1年B GroupとC Groupの学生を対象とする。 Reading Strategies, Writing Strategies などの対面授業で教員から習うスキルを「自律・反転学習」によって定着、向上させることを目的とする。 最初の全体説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に「再履修者も含め」全員集合のこと。 3週目以降はほぼ隔週にALCの語彙(PW)、リーディング、リスニングに関するテストを行う。 テストのない週はオンラインライティングサービス(Criterion)を利用した課題(EssayとPeer Review)に取り組み、授業ではライティング、リスニングに関する活動(Workshop)を行う。 学習内容は、語彙(ALC)、リーディング(ALC)リスニング(ALCその他)、及びライティング(Criterion)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会 2. Criterion Guidance & 練習用 Essay Topic (0) 3. テスト(1) : ALC PW <u>Level 5</u> 01-10, Rd/Ls 01-05 4. Essay Topic (1) & Writing Workshop 5. テスト(2) : ALC PW 11-20, Rd/Ls 06-10 6. Essay Topic (2) & Listening Workshop (1) 7. テスト(3) : ALC PW 21-30, Rd/Ls 11-15 8. Essay Topic (3) Listening Workshop (2) 9. テスト(4) : ALC PW 31-40, Rd/Ls 16-20 10. Essay Topic (4) & Listening Workshop (3) 11. テスト(5) : ALC PW 41-50, Rd/Ls 21-25 12. テスト(6) : リスニング応用 & Essay Topic (5) 13. テスト(7) : ALC PW 01-50 復習と応用 14. テスト(8) : ALC Rd/Ls 26-40 15. まとめ 	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテスト準備をし、ライティングの課題に取り組む		
テキスト、参考文献	オンライン教材 : ALC NetAcademy, Criterion, PBS のニュースなど		
評価方法	テスト(1)-(5), (7), (8)(70%)、5つの Essay と Peer Review 活動部分(30%)に基づいて総合的に A~F の評価をし、A 評価の中からテスト(6)により AA を決める。		

09年度以降	E-learning II	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は E-learning I と同じ。 1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について説明するので「再履修者も含め」全員集合のこと。 ・2週目以降はほぼ隔週に語彙、リーディング、リスニングに関するテストを行う。 ・テストのない週はオンラインライティングサービス(Criterion)を利用したライティング課題に取り組み、授業ではライティングやTOEFLに関する活動(Workshop)を行う。 ・学期半ば(8週を予定)に1年生はTOEFL団体受験をする。この日に限り、試験終了は午後7:15。 ・7, 14週目には提出したEssayに関してお互いに批評しあう Peer Review活動を行い、定期試験として5つのトピックの1つについてエッセイをかいってもらう。 ・学習内容は、語彙(ALC)、リーディング・リスニング(ALC)、ライティング(Criterion)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明会 & Essay Topic (1) 2. テスト(1) : ALC PW <u>Level 6</u> 01-10, Rd/Ls 41-45 3. Essay Topic (2) & TOEFL Workshop (1) 4. テスト(2) : ALC PW 11-20, Rd/Ls 46-50 5. Essay Topic (3) & TOEFL Workshop (2) 6. テスト(3) : ALC PW 21-30, Rd/Ls 51-55 7. TOEFL Workshop (3) 8. TOEFL ITP Test 9. テスト(4) : ALC PW 31-40, Rd/Ls 56-60 10. Essay Topic (4) 11. テスト(5) : ALC PW 41-50, Rd/Ls 61-65 12. テスト(6) : ALC PW 01-50 復習と応用 13. Essay Topic (5) & テスト(7) : ALC Rd/Ls 66-72 14. テスト(8) : ALC Rd/Ls 73-80 15. まとめ <p>定期試験期間 エッセイテスト</p>	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテスト準備をし、ライティングの課題に取り組む		
テキスト、参考文献	オンライン教材 : ALC NetAcademy, Criterion など		
評価方法	8回のテスト(70%)、5つの Essay、Peer Review 活動、定期試験期間のエッセイテスト (30%)に基づいて総合的に A~F の評価をし、A 評価の中から TOEFL ITP Test の結果により AA を決める。		

09年度以降	英語専門講読 I (月1) (Life And Language In The Amazonian Jungle)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Warning: This is a very difficult course and a very difficult textbook. Do not take this course unless you are prepared to actually study.)</p> <p>This course is about one man's (Daniel Everett) experience living in the Amazonian jungle. His goals were, (1) to convert a tribe of Amazonian Indians to Christianity, and (2) to study their language. He fails to achieve his first goal, but, in learning about their language and culture, his own life and beliefs are changed fundamentally. Daniel Everett's account is fascinating, and, in addition to drawing lessons from his experiences, we will discuss both the issues that Everett raises and the implicit assumptions that he makes about language, existence, science, and religion.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Prologue 3. Discovering the world of the Pirahas 4. Discovering the world of the Pirahas 5. The Amazon 6. The Amazon 7. Sometimes you make mistakes 8. Sometimes you make mistakes 9. Material culture and the absence of ritual 10. Material culture and the absence of ritual 11. Families and community 12. Families and community 13. Nature and the immediacy of experience 14. Nature and the immediacy of experience 15. Summary and reflection 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Each week, you should expect to read half of a chapter, and conduct research on the topics and issues that we discuss in class. (You will have about 4 hours of homework each week.)		
テキスト、参考文献	<i>Don't Sleep, There Are Snakes</i> , by Daniel Everett. (2008) Random House.		
評価方法	Three reaction papers: 25%x3 = 75%; Participation: 25%.		

09年度以降	英語専門講読 I (月2) (Language, Thought, and Culture)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Warning: This is a very difficult course and a very difficult textbook. Do not take this course unless you are prepared to actually study.)</p> <p>There is a centuries-long debate about the influence of language on thought and a culture's world view. Some scholars have said that the effects of language on thought are minimal, while others have said that the effects dominate all aspects of thought (and consequently world view). This course will survey the history of this debate and examine some recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Naming the rainbow 3. Naming the rainbow 4. Naming the rainbow 5. A long-wave herring 6. A long-wave herring 7. A long-wave herring 8. The rude populations 9. The rude populations 10. The rude populations 11. Those who said things before us 12. Those who said things before us 13. Those who said things before us 14. Plato and the Macedonian swineherd 15. Plato and the Macedonian swineherd 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Each week, you should expect to read half of a chapter, and conduct research on the topics and issues that we discuss in class. (You will have about 4 hours of homework each week.)		
テキスト、参考文献	<i>Through The Language Glass</i> , by Guy Deutscher. (2010) Picador Press.		
評価方法	Three reaction papers: 25%x3 = 75%; Participation: 25%.		

09年度以降	英語専門講読 I (Cool Japan: 1900-2016)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to:</p> <p>(1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information</p> <p>(2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary</p> <p>(3) build students' confidence by contributing to group work</p>		<p>1 Course introduction (Cool Japan: 1900-1960)</p> <p>2 Japan in the World (Exhibitions)</p> <p>3 Meiji: to be or not to be (Japanese)</p> <p>4 Moga</p> <p>5 Modern Tokaido</p> <p>6 Issei, nisei, sansei</p> <p>7 Nippon (magazine)</p> <p>8 Department store miracle (Research paper due)</p> <p>9 Chiune Sugihara</p> <p>10 Shashin shuho</p> <p>11 Transport: rush to the city</p> <p>12 Made in Japan</p> <p>13 Protest or compliance</p> <p>14 Final presentations</p> <p>15 Review</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words,(3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, and (5) Use Portal Site to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class participation 30%,Reading summaries 20%, Research paper 30%, Final presentation 20%		

09年度以降	英語専門講読 II (Cool Japan: 1900-2016)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to:</p> <p>(1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information</p> <p>(2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary</p> <p>(3) build students' confidence by contributing to group work</p>		<p>1 Course introduction (Cool Japan: 1960-2016)</p> <p>2 Made in Japan and admired</p> <p>3 The Bubble</p> <p>4 Western Japan - Eastern Japan</p> <p>5 Japanese in the world</p> <p>6 The world in Japan</p> <p>7 Images of Japan</p> <p>8 Manga (Research paper due)</p> <p>9 J-pop</p> <p>10 21st century Japonism</p> <p>11 Ryugaku</p> <p>12 Japan First</p> <p>13 Final presentations</p> <p>14 Review I</p> <p>15 Review II</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words,(3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, and (5) Use Portal Site to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class participation 30%,Reading summaries 20%, Research paper 30%, Final presentation 20%		

09年度以降	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn theoretical ideas and practical techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What is a bilingual? 3. Characteristics of L2 users 4. What are L2 users like? 5. A best age for learning L2 6. The experience of immigrants 7. The idea of a critical period 8. Acquiring L2 vocabulary 9. The lexical challenge in infancy and later 10. Learning words from context 11. Learning L2 grammar 12. Grammatical morphemes 13. Word order and processing 14. Articles 15. Wrap-up 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	reading assignments, writing summaries, doing research and preparing for presentations		
テキスト、参考文献	<i>Key Topics in Second Language Acquisition</i> , V. Cook & D. Singleton (Multilingual Matters, 2014)		
評価方法	In-class participation (20%), presentations (40%), reading assignments and summary (30%), self evaluation (10%)		

09年度以降	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn theoretical ideas and practical techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Learning to write in L2 3. Writing system 4. Reading and writing processes 5. Attitudes and motivation in learning L2 6. Attitudes 7. Motivation 8. Teaching and learning 9. The grammar translation method 10. The audiolingual method 11. The communicative approach 12. The hierarchy of languages 13. Groups of L2 users 14. Native speakers and L2 users 15. Wrap-up 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	reading assignments, writing summaries, doing research and preparing for presentations		
テキスト、参考文献	<i>Key Topics in Second Language Acquisition</i> , V. Cook & D. Singleton (Multilingual Matters, 2014)		
評価方法	In-class participation (20%), presentations (40%), reading assignments and summary (30%), self evaluation (10%)		

09年度以降	英語専門講読 I (Immigration, Social Change & Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will explore immigration as it relates to labor migration, immigration, and transnationalism. During the fall term the course looks at the history of human migration across the globe. The course then distinguishes between terms related to immigration and develops an understanding of the various types of immigration, by considering the political, social, cultural, global and environmental forces that drive people to leave their home countries and make a home for themselves in foreign lands. Lastly, the course will look at a particular case of a so-called immigrant nation: America, and consider the history, policies and paths that led to the growth of this multicultural nation.		Week 1 –Introduction to Course & Terms Week 2 – Humans on the Move Week 3 –Type of Immigration/Migration Week 4 – Reasons for Leaving Week 5 – Diasporas Around the World Week 6 – Diasporas (cont'd) Week 7 – Busting the Myths of Immigration Week 8 – Mid-Term Presentations Week 9 – Mid-Term Presentations Week 10 – Immigration & America Week 11 – Immigration & America (cont'd) Week 12 –Nationalism & Immigration Week 13 – Global Forces & Shifting Views of Immigrants Week 14 – Us Vs Them Week 15 – Final Paper Presentation (small group)	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Handouts of readings will be provided		
評価方法	In-class participation (20%), Article summary x 2 (20%), Quizzes x 2 (20%), Mid-Term Presentation (20%), Final Paper (20%)		

09年度以降	英語専門講読 II (Immigration, Social Change & Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
In the second term of this course the focus shifts to specifically consider how immigration and immigrants cause economic, political, social and cultural shifts, within the receiving nation. Specifically, the fall term will look at how immigrants, and their descendants, and will consider policies related to: assimilation/incorporation, education,, language and bilingualism. Additionally, the course will consider shifting racial and ethnic identities and the questions that are raised with regard to nationhood and civic participation and the tensions that arise with an influx of immigrants and migrants into the receiving nation.		Week 1 – Introduction to Fall Course Week 2 – Who is an Immigrant? Week 3– 1 st , 1.5 and 2 nd Generations Week 4– Assimilation? Exclusion? Integration? Week 5 – Assimilation? Exclusion? (cont'd) Week 6 – Paths to Citizenship Week 7 – Paths to Citizenship (cont'd) Week 8 – Mid-Term Paper Week 9 – Education, Immigration & Social Disparity Week 10 – Education, Immigration(cont'd) Week 11 – The Case of Japan Week 12 – The Case of Japan (cont'd) Week 13 – The Case of Japan (cont'd) Week 14 – Final Poster Prep Week 15 – Final Poster Presentation	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Handouts of readings will be provided		
評価方法	In-class participation (30%), Midterm Paper (20%), Case Study Packet & small group presentation (30%), Final Poster Presentation (20%)		

09年度以降	英語専門講読 I (生成文法の統語論と意味論)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 著名な言語学者によって入門用に書かれた、とても分かり易い論文を読みながら、英語力の向上に努めながら、生成文法の統語論と意味論について学びます。</p> <p>講義概要: 春学期のテキストは、MITで博士号を取得し長年にわたって生成統語論の研究を続けているHoward Lasnikによって書かれた"Syntax"(統語論)という17頁の論文です。 この論文を読み、文に見られる統語構造、統語構造の特徴、統語構造を仮定する根拠、言語現象を説明するため仮定する抽象的な深層構造、深層構造から具体的な表層構造を派生するための変形規則、変形規則が従うべき諸制約について学びます。</p>		<p>Week</p> <p>1. 統語論とは何か(What is syntax?)</p> <p>2-4. 統語構造(Syntactic Structure)</p> <p>5-6. 事例研究～代名詞の分布(A Case Study: Aspects of the Distribution of Pronouns)</p> <p>7. 中間のまとめ《中間試験》</p> <p>8-10. 深層構造と表層構造(Deep and Surface Structure)</p> <p>11-14. 変形の諸制約(Constraints on Transformations)</p> <p>15. まとめ《期末試験》</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学習する英語の文章をきちんと予習し、段落毎に内容を整理して受講すること。		
テキスト、参考文献	テキスト: Howard Lasnik (1990) "Syntax," in <i>Language I. (An Invitation to Cognitive Science)</i> pp. 5-21. 参考文献: 鈴木英一「統語論」(斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)『英文法への誘い』1990. 開拓社)		
評価方法	出席は単位認定の前提で、授業での発表(20%)と中間試験(40%)と期末試験(40%)に基づいて評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (生成文法の統語論と意味論)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 著名な言語学者によって入門用に書かれた、とても分かり易い論文を読みながら、英語力の向上に努めながら、生成文法の統語論と意味論について学びます。</p> <p>講義概要: 秋学期のテキストは、MITで博士号を取得し統語論と意味論の両面の研究を行っているRichard Larsonによって書かれた"Semantics"(意味論)という20頁の論文です。 この論文を読み、文が他の文と同義であるとか矛盾するということを知っているという事実を、文相互間の意味関係、文が表す内容の真理値、真偽条件に関する知識、文の真理値は文の構成要素の内容から掲載されること、モデル理論による意味の計算、everyやsomeやfewなどの数量詞を含む文の含意性について学びます。</p>		<p>Week</p> <p>1-2. 意味関係と真理(semantic relations and truth)</p> <p>3-4. 真理条件の知識(Knowledge on Truth-Conditions)</p> <p>5-6. 合成性(Compositionality)</p> <p>7. モデル理論意味論(Model-theoretic Semantics)</p> <p>8. 意味特徴(Semantic Properties)《中間試験》</p> <p>9-12. 方向的含意性(Directional Entailingness)</p> <p>13-14. Conservativity(含意性)</p> <p>15. まとめ《期末試験》</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で学習する英語の文章をきちんと予習し、段落毎に内容を整理して受講すること。		
テキスト、参考文献	テキスト: Richard Larson (1990) "Semantics," in <i>Language I. (An Invitation to Cognitive Science)</i> pp. 23-42. 参考文献: 鈴木英一・原口庄輔「意味論」(斎藤・原口・鈴木(編)『英文法への誘い』1990. 開拓社)		
評価方法	出席は単位認定の前提で、授業での発表(20%)と中間試験(40%)と期末試験(40%)に基づいて評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (英語圏伝承童謡を読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、教え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。なぞなぞの唄、お遊戯の唄、おまじないなど、様々な種類があり、国や地域によって詞やメロディが異なるもの、また、そもそもメロディを伴わないものも多い。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。</p> <p>この授業では、それらの童謡／伝承童謡、それにイギリス国歌やアメリカ国歌などの有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. As I was Going to Saint Ives / Baa, Baa, Black Sheep 3. Frère Jaques / Georgie Porgie 4. Here We Go Around the Mulberry Bush / Hey, Diddle Diddle 5. Hickory Dickory Dock / Higgledy, Peggledy, My Black Hen 6. Hot Cross Buns / The House That Jack Built 7. Humpty Dumpty / I Had a Little Nut Tree 8. Jack and Jill / Jack, Be Nimble 9. Jack Sprat / Ladybird, Ladybird 10. The Lion and Unicorn / Little Bo Peep 11. Little Boy Blue/ Little Jack Horner 12. Little Miss Muffet / Little Tommy Tucker 13. London Bridge Is Falling Down / Lucy Locket 14. Mary had a Little Lamb / Mary, Mary Quite Contrary 15. Wrap-up 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、151～160字で要約してくる。毎回授業の最初に提出してもらう。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をすること。		
テキスト、参考文献	Albert Jack. <i>Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes</i> . Perigee Trade; Original edition (2009) 注：電子書籍版もあります		
評価方法	プレゼンテーションと提出物、授業貢献度により、総合的に評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (英語圏伝承童謡を読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、教え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。なぞなぞの唄、お遊戯の唄、おまじないなど、様々な種類があり、国や地域によって詞やメロディが異なるもの、また、そもそもメロディを伴わないものも多い。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。</p> <p>この授業では、それらの童謡／伝承童謡、それにイギリス国歌やアメリカ国歌などの有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Old King Cole / Oranges and Lemons 3. The Owl and the Pussycat / Polly Put the Kettle On 4. Pop Goes the Weasel / Punch and Judy 5. Pussy Cat, Pussy Cat / The Queen of Hearts 6. Rain, Rain, Go Away / Ring-a-Ring O' Roses 7. Rock-a-Bye, Baby / See-Saw, Margery Daw 8. Sing a Song of Sixpence / There Was an Old Woman Who Lived in a Shoe 9. Three Blind Mice / Tweedledum and Tewwdledee 10. Twinkle, Twinkle, Little Star / What Are Little Boys Made Of? 11. Who Killed Cock Robin? / Amazing Grace 12. God Save the Queen 13. The Star-Spangled Banner 14. Yankee Doodle Dandy 15. Wrap-up 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、151～160字で要約してくる。毎回授業の最初に提出してもらう。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をすること。		
テキスト、参考文献	Albert Jack. <i>Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes</i> . Perigee Trade; Original edition (2009) 注：電子書籍版もあります		
評価方法	プレゼンテーションと提出物、授業貢献度により、総合的に評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (Children's Classics)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>古典とされるイギリス児童文学の中から、いくつかを選んで読みながら、イギリス文化への理解を深めることを目的とする。春学期は<i>A Bear Called Paddington</i>のシリーズを読む。きわめて平易な英語で書かれているが、イギリス英語特有の表現、ロンドンのミドルクラスの生活と価値観、ペルーからの「移民」であるクマへの視線といったものが細部には書き込まれている。そうした面白さは翻訳では、なかなか理解できない。平易な英語を速読しながら、細部の面白さを理解することを目指す。またこのシリーズはStephen Fryの朗読によるAudio Bookもあるので、音声としての英語の面白さへの鑑賞力を高めることも目的のひとつである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. <i>A Bear Called Paddington</i> (1) 3. <i>A Bear Called Paddington</i> (2) 4. <i>A Bear Called Paddington</i> (3) 5. <i>A Bear Called Paddington</i> (4) 6. <i>A Bear Called Paddington</i> (5) 7. <i>A Bear Called Paddington</i> (6) 8. <i>A Bear Called Paddington</i> (7) 9. <i>More about Paddington</i> (1) 10. <i>More about Paddington</i> (2) 11. <i>More about Paddington</i> (3) 12. <i>More about Paddington</i> (4) 13. <i>More about Paddington</i> (5) 14. <i>More about Paddington</i> (6) 15. Course summary 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	1回およそ20～25ページ程度を読む。その指定された箇所について、毎回課題に答えて提出する。		
テキスト、参考文献	Bond, Michael. (1958). <i>A Bear Called Paddington</i> . Collins. ISBN: 0007174160 参考文献は授業中に紹介する。		
評価方法	毎回提出する課題 70%、授業への参加度 30%		

09年度以降	英語専門講読 II (Children's Classics)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続き。秋学期はKenneth Grahameの<i>The Wind in the Willows</i>を読む。<i>The Wind in the Willows</i>は愉快的な登場人物たちが活躍する児童文学でありながら、田園生活の理想、自然への畏怖とその宗教性など、イギリス文化の重要な根幹となる精神を反映している。英語もきわめて美しい。英語で丹念に読みながら、筋書きを追うだけではなく、英語表現を鑑賞する力を伸ばすことを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. <i>The Wind in the Willows</i> (1) 3. <i>The Wind in the Willows</i> (2) 4. <i>The Wind in the Willows</i> (3) 5. <i>The Wind in the Willows</i> (4) 6. <i>The Wind in the Willows</i> (5) 7. <i>The Wind in the Willows</i> (6) 8. <i>The Wind in the Willows</i> (7) 9. <i>The Wind in the Willows</i> (8) 10. <i>The Wind in the Willows</i> (9) 11. <i>The Wind in the Willows</i> (10) 12. <i>The Wind in the Willows</i> (11) 13. <i>The Wind in the Willows</i> (12) 14. Discussion 15. Course summary 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回指定された10ページ程度を精読してくる。その箇所について毎回、課題に答えて提出する。		
テキスト、参考文献	EgmontのAnniversary editionを使用する予定。 参考文献は授業中に紹介する。		
評価方法	毎回提出する課題 70%、授業への参加度 30%		

09年度以降	英語専門講読 I (日本社会の再確認)	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・「よき日本人こそ真の世界人」：これは1968年3月27日、第一回卒業式の式辞で天野貞祐学長が言われたことばである。 ・「世界人」という考えに必要なものの一つは<軸>である。 ・その軸を作るための第一歩として「日本人の社会的・文化的コミュニケーション行動」の諸側面を知ろう。 ・テキストの前半 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 序章：講義（コミュニケーション論） 3. 同上：講義（社会・文化論） 4. テキスト会読 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 終章：まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：各章のキーワードを探る／事後：配付資料などを再読する。		
テキスト、参考文献	<i>The Japanese Mind : Understanding Contemporary Japanese Culture</i> by Roger Davis & Osamu Ikeno, Tuttle, ¥ 1,700		
評価方法	グループプレゼン：15%／個人レポート：40%／グループレポート；30%／平常点：15%		

09年度以降	英語専門講読 II (日本社会の再確認)	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・テキストの後半 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. テキスト会読 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト、参考文献	春学期と同じ		
評価方法	春学期と同じ		

09年度以降	英語専門講読 I (Situating your Eating Habit in the Social Context)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食文化について歴史、社会、経済活動、宗教、ポピュラーカルチャー、消費主義などの視点から検討していく。</p> <p>普段、当たり前のように食べているもの、食習慣に向き合い、食を通してみえてくる自分や自文化の価値観を社会的な文脈に位置づけてみる。</p> <p>課題とされたテーマをもとに、各自英語の文献を探して、自分の言葉で要約する。調べる、読む、まとめる、話すすべて英語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 世界の食文化 3. エスニック食とは何か 4. グループプレゼンテーション 1 5. グループプレゼンテーション 2 6. グループプレゼンテーション 3 7. アフリカ系アメリカ人の食文化 1 8. アフリカ系アメリカ人の食文化 2 9. ラティーノの食文化 1 10. ラティーノの食文化 2 11. 映画/音楽のなかの食 1 12. 映画/音楽のなかの食 2 13. お話しのなかの食 1 14. お話しのなかの食 2 15. Wrap-Up 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	授業への参加度 20% グループプレゼンテーション 30% 試験 50%		

09年度以降	英語専門講読 II (Situating your Eating Habit in the Social Context)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期も、春学期と同様のトピックを扱うが、さらに深く社会変化とのかかわりから、食について考察する。食について書かれた英語の学術論文も読んでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 世界の食文化 3. エスニック食 4. グループプレゼンテーション 1 5. グループプレゼンテーション 2 6. グループプレゼンテーション 3 7. アフリカ系アメリカ人の食文化とシンボリズム 1 8. アフリカ系アメリカ人の食文化とシンボリズム 2 9. ラティーノの食文化とシンボリズム 1 10. ラティーノの食文化 とシンボリズム 2 11. 映画/音楽のなかの食 1 12. 映画/音楽のなかの食 2 13. お話しのなかの食 1 14. お話しのなかの食 2 15. Wrap-Up 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	授業への参加度 20% グループプレゼンテーション 30% 試験 50%		

09年度以降	英語専門講読 I (Rising Son)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The book chosen for this course is a travel narrative written by an American father who leaves his career at a major cooperation to peddle his way across Japan on bicycle with his eight year old son. It is an adventure story that looks at many facets of his life, and the lives of the Japanese people he meets along the way. Quitting his job, traveling to a foreign country, bicycling with an eight year old, experiencing a completely foreign culture are all courageous and ambitious things for a young man to do. What sets this adventure apart are the cross-cultural exchanges and unique happenings that occur along their journey.</p> <p>This aim of this course then is to look at Japan through the eyes of the narrator and his son on this fascinating journey/adventure, and to discuss and describe cultural differences that they happen upon. Class time will consist of lectures, discussions, and presentations.</p> <p>Students thinking about this course should be interesting learning about cross cultural differences between Japan and the USA. And, indeed, should have a desire to talk about them in English!</p>		<p>Week 1: Introduction Week 2: A father –son adventure: Reactions & Fears Week 3: Layoffs Looming; Training Week 4: Planet Earth; Fired Week 5: The thief; Temper Tantrums...Hospitality Week 6: Tempest; Mr. Saito Week 7: Mid-term review and Prep Week 8: Mid-term: Class Discussions Week 9: Lake Saroma Ultra; New Cycling Buddy Week 10: Tantrum; Shiretoko Pass Week 11: Saying Goodbye; Unexpected Treats Week 12: Crash; New Friends in Nibutani Week 13: The Sounds of Nature Week 14: End of term Class Discussions Week 15: Summation</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, and to consider the topics presented in the previous lesson.		
テキスト、参考文献	<i>Rising Son: A Father and Son's Adventure Across Japan</i> by Charles R. Scott. Third Wheel Press ISBN-10:148027223X 2012		
評価方法	Grades are based on in-class performance (40%), quizzes (10%) and a final report (50%).		

09年度以降	英語専門講読 II (Rising Son)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The same text will be used again this semester.</p> <p>The text for this course is titled: <u>Rising Son: A Father and Son's Adventure Across Japan</u> by Charles R. Scott. It is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson.</p>		<p>Week 1: Second Semester Introduction Week 2: The Kindness of Strangers; The Wanderer Week 3: Animal Farm; Industrial Sludge Week 4: In Need of Help; Shirakami Snake Charmer Week 5: Mountain Climbing; More than We Bargained Week 6: Prep for mid-term Class Discussions Week 7: Mid-term Class Discussions Week 8: Dancing the Night Away; Kyoto Fireworks Week 9: Something Evil; Climbing Mt. Koya Week 10: Disrupted Meditations Week 11: Awa Odori Week 12: Temptation to Cheat Week 13: Shimanami Kaido Week 14: Hiroshima Week 15: Summation</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, and to consider the topics presented in the previous lesson.		
テキスト、参考文献	<i>Rising Son: A Father and Son's Adventure Across Japan</i> by Charles R. Scott. Third Wheel Press ISBN-10:148027223X 2012		
評価方法	Grades are based on in-class performance (40%), quizzes (10%) and a final report (50%).		

09年度以降	英語専門講読 I (平和構築 I)	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、難しい英語論文を読んだり細かな知識を覚えたりすることよりもグローバルな見方と考える力を身につけることに重点を置きます。現代世界には、正解のない問題があふれています。しかしそれにもかかわらず、複雑な過程を経て出てきた「答え」が、人類の未来を左右するのです。その時正解だと考えたことが、実は大間違いであったり、でも、その大間違いの結果（つまり大きな犠牲を払った上で）、よりよい社会が生まれたりすることがあります。春学期・秋学期を通じて、この授業では、平和とは何か、平和を脅かすものは何か、何が平和をもたらすのか、平和の礎となる思想は何か、平和はどのような制度によって支えられているのかといった問題について、様々な事例を通して考えていきます。そして、それぞれの事例について、自分なりの考えを持ち、それを積極的に発言することが期待されています。		初回は講師と学生が自己紹介をして互いの関心事を理解しあうことを目的とします。その後の第2回から第5回は、英語資料を読みながら平和とは何かについて考え、議論をします。そのあと第6回から第10回は、平和を脅かしている現代のさまざまな問題（核兵器、環境問題、人権侵害、貧困、紛争、難民問題など）について、簡単な英語資料を読みながら考えていきます。その上で第11回から第15回は、経済発展、社会福祉、宗教、イデオロギーなどは平和をもたらすのだろうかを簡単な英語資料を読みながら皆さんと議論します。 授業では量より質を重視します。大量の英文を読むよりも読んだ問題について深く考え、それを英語で簡潔に話せるような力を身につけることを目的とします。そして何よりも授業を通じて、われわれはいかにして地球社会の平和を構築し維持していけばよいのかを皆さんと話し合っていきたいと考えています。	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	クラスでの討議内容について自分の意見をまとめること。		
テキスト、参考文献	適宜クラスで配布します。		
評価方法	クラスでの発表内容、コメント内容、討論への参加、小テストの結果などに基づいて総合的に判断します。		

09年度以降	英語専門講読 II (平和構築 II)	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
基本的には春学期の内容を発展させていきますが、学生からの発言・発表により重点を置いていきます。		秋学期は、平和についてより深く考えるために、第1回から第8回は、平和の礎となってきた思想（非暴力、多様性の尊重、民主主義、人権など）について考え、第9回から第12回は、平和を支えている制度（国際法、日本国憲法、国連システムなど）について資料を読み、議論を重ねていきます。その過程を通じて、各学生が平和について自分なりの考えを持ち、最後の13-15回で、それを英語で発表できるようにします。 授業では、春学期は主に日本語を使いますが、秋学期はなるべく英語だけを使って行いたいと考えています。	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	クラスでの討議内容について自分の意見を英語でまとめること。		
テキスト、参考文献	適宜クラスで配布します。		
評価方法	クラスでの発表内容、コメント内容、討論へ参加、小テストの結果などに基づいて総合的に判断します。		

09年度以降	英語専門講読 I (ディスコース分析)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時事、演説、論文、広告、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと一貫性 (coherence)、さらに、レジスター変数 (ideational, interpersonal, textual)、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルタナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テキストの語彙文法的 (lexico-grammatical) 分析を、実際のコンテキストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テキストが孕む意味世界を説得力ある言語分析によって浮上させることである。この感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテキストを、分析したり解釈したりする自信がついてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションも、本講座の醍醐味のひとつである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 方法論、評価システムの説明など 2. 時事 現代アメリカ情勢 3. Web 情報 I TED (http://www.ted.com/) 4. 演説 I Steve Jobs スタンフォード大卒業式祝辞 5. 学術論文 I Critical Discourse Studies 関連 6. Web 情報 II CCHR (http://www.cchr.org/) 7. 演説 II Martin Luther King Jr. 8. 学術論文 II Political Language 9. Web 情報 III http://www.prisonplanet.com/ 10. 企業広告 “Think Different” (Apple) 11. 洋楽歌詞 Taylor Swift, Coldplay など 12. プレゼンテーション&ディスカッション I 13. プレゼンテーション&ディスカッション II 14. プレゼンテーション&ディスカッション III 15. まとめ <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：E-412</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回出される課題を解き、次週授業までに提出 (PorTa 上にファイル形式で提出)。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。		
テキスト、参考文献	基本的には教室で資料を配布するが、PorTa 等で教材のシェアを行うこともある (具体的方法は授業時に指示する)。		
評価方法	授業参加態度=20% ; アサインメント=20% ; プレゼンテーション=20% ; ファイナルペーパー (A4×5頁以上) =20% ; 自己評価=20%。4回以上欠席は単位を与えない。		

09年度以降	英語専門講読 II (ディスコース分析)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ目的及び方法で、異なる題材を採り上げる。時事、演説、論文、広告、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと一貫性 (coherence)、さらに、レジスター変数 (ideational, interpersonal, textual)、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルタナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テキストの語彙文法的 (lexico-grammatical) 分析を、実際のコンテキストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テキストが孕む意味世界を説得力ある言語分析によって浮上させることである。この感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテキストを、分析したり解釈したりする自信がついてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションが、本講座の有終の美を飾ることは間違いのないと思う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 方法論、評価システムの説明など 2. 時事 食・医療・健康 3. Web 情報 I TED (http://www.ted.com/) 4. 演説 I Abraham Lincoln ゲティスバーグ演説 5. 学術論文 I Discourse in Society 関連 6. Web 情報 II http://stormcloudsgathering.com/ 7. 演説 II John F. Kennedy ~ Lyndon B. Johnson 8. 学術論文 II Noetic Science 9. Web 情報 III http://www.paulcraigroberts.org/ 10. 物語分析 Aesop's Fables 等 11. 洋楽歌詞 Jason Mraz, Fun など 12. プレゼンテーション&ディスカッション I 13. プレゼンテーション&ディスカッション II 14. プレゼンテーション&ディスカッション III 15. まとめ <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：E-412</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回出される課題を解き、次週授業までに提出 (PorTa 上にファイル形式で提出)。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。		
テキスト、参考文献	基本的には教室で資料を配布するが、PorTa 等で教材のシェアを行うこともある (具体的方法は授業時に指示する)。		
評価方法	授業参加態度=20% ; アサインメント=20% ; プレゼンテーション=20% ; ファイナルペーパー (A4×5頁以上) =20% ; 自己評価=20%。4回以上欠席は単位を与えない。		

09年度以降	英語専門講読 I (英語教育・SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【初回授業は5月10日です。学期中に補講を行います】</p> <p>言語習得は人間ならではの能力、知識、技能が複雑に絡み合った不思議な現象です。その中でも第二言語習得 (SLA) は学習環境、学習者の年齢・動機付け・適正等の個人差要因、教授法、さらに多くの要素が絡み合っているもので、高度な研究の対象になり得ます。</p> <p>この授業では SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文 (一つの論文は十数頁) を講読します。実証研究とは、研究者が持つ疑問 (Research question(s)) に対する答えを求める際に、実際にデータをとって、量的および質的にデータ分析を行い、得られた結果の提示とその考察を行うタイプの研究です。実証研究論文を読み進めるにあたっては、Research question の答えが何かを期待しながら読み解く面白さがあります。また、その論文の研究手法が妥当かを、受講生の皆さんに議論してもらおうとも含めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 【ガイダンス】 実証研究とは何か 実証研究論文の一例 (練習用日本語論文) 論文 (1-1) : インTRODakシヨン (実証研究体験) 論文 (1-2) : 内容理解の確認 論文 (1-3) : 内容理解の確認 論文 (1-4) : ディスカッション 論文 (2-1) : インTRODakシヨン (実証研究体験) 論文 (2-2) : 内容理解の確認 論文 (2-3) : 内容理解の確認 論文 (2-4) : ディスカッション 論文 (3-1) : インTRODakシヨン (実証研究体験) 論文 (3-2) : 内容理解の確認 論文 (3-3) : 内容理解の確認 論文 (3-4) : ディスカッション 【まとめ】 学期末レポートの課題説明 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予め配布される質問用紙 (論文を読み取るポイント) に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。		
テキスト、参考文献	配付資料 : 日本国内で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		
評価方法	毎回の授業中での活動 (55%)、学期末レポート (45%)		

09年度以降	英語専門講読 II (英語教育・SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期同様、SLA 実証研究論文を講読していきます。</p> <p>秋学期は、海外で出版されたジャーナルの中から論文を選びます。海外における SLA 研究の場合、目標言語が英語ではない場合や、学習環境が日本とは異なる場合もあり、その点がまた興味深くもあります。</p> <p>論文の内容確認は日本語で行いますが、秋学期は授業中のディスカッションおよび学期末レポートは英語によります。論文をよく読み、その中で使用されている専門用語やアカデミックな表現を習得できるよう、自らアウトプットする練習を兼ねています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 【ガイダンス】 論文 (1-1) : インTRODakシヨン (実証研究体験) 論文 (1-2) : 内容理解の確認 論文 (1-3) : 内容理解の確認 論文 (1-4) : 内容理解の確認 論文 (1-5) : 内容理解の確認 論文 (1-6) : Summary 論文 (1-7) : Discussion 論文 (2-1) : インTRODakシヨン (実証研究体験) 論文 (2-2) : 内容理解の確認 論文 (2-3) : 内容理解の確認 論文 (2-4) : 内容理解の確認 論文 (2-5) : 内容理解の確認 論文 (2-6) : Summary 論文 (2-7) : Discussion 【まとめ】 Guidance on the final report 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予め配布される質問用紙 (論文を読み取るポイント) に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。		
テキスト、参考文献	配付資料 : 海外で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		
評価方法	毎回の授業中での活動 (55%)、学期末レポート (45%)		

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ現代詩—Gary Snyder の最新詩集 <i>This Present Moment</i> を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『この今という時』(<i>This Present Moment</i>, 2015)は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。</p> <p>DVD やCD を使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、 <http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master>を参照してください。レポートの書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.htmlを参照。 最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Gnarly 2. The Earth's Wild Places 3. Siberian Outpost 4. Walking the Long and Shady Elwha 5. Charles Freer in a Sierra Snowstorm 6. Why I Take Good Care of My Macintosh 7. Artemis and Pan 8. Anger, Cattle, and Achilles 9. A Letter to M. A. Who Lives Far Away 10. The Name of Actaeon's Hounds 11. Old New Mexican Genetics 12. Polyandry 13. Stage of the End of Night and Coming Day 14. Why California Will Never Be Like Tuscany 15. Sunday 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に担当ペアごとにプレゼンの準備をし、資料をメーリングリストで受講者に送る。		
テキスト、参考文献	Text: Gary Snyder. <i>This Present Moment</i> . Berkeley: Counterpoint, 2015. *各自 amazon.co.jp などで購入のこと。		
評価方法	プレゼンテーションとレポート(4,000程度の作品論)によって決めます。ただし、欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、評価対象とはしない。		

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ現代詩—Gary Snyder の最新詩集 <i>This Present Moment</i> を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『この今という時』(<i>This Present Moment</i>, 2015)は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。</p> <p>DVD やCD を使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、 <http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master>を参照してください。レポートの書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.htmlを参照。 最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Michael des Tombe at the edge if the Canyon the Killgrew Place 2. Chiura Obata's Moon 3. How to Know Birds 4. Starting the Spring Garden and Thinking of Thomas Jefferson 5. Log Truck on the 80 6. Stories in the Night 7. Morning Songs, Goose Lake 8. Fixing the System 9. "Reinventing North America" 10. From the Sky 11. Here 12. Eiffel Tundra 13. Kill 14. Claws / Cause 15. Hai-en Temple South Korea Home of the Total itaka Set of Printing Blocks 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に担当ペアごとにプレゼンの準備をし、資料をメーリングリストで受講者に送る。		
テキスト、参考文献	Text: Gary Snyder. <i>This Present Moment</i> . Berkeley: Counterpoint, 2015. *各自 amazon.co.jp などで購入のこと。		
評価方法	プレゼンテーションとレポート(4,000程度の作品論)によって決めます。ただし、欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、評価対象とはしない。		

09年度以降	英語専門講読 I (Language & Education)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the history of the English language, from its obscure Sanskrit origins to the role in Europe in the Middle Ages.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p>		<p>Week 1: Introduction Week 2: The Common Tongue Week 3: The Common Tongue Week 4: The Great Escape Week 5: The Great Escape Week 6: Conquest Week 7: Conquest Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: Holding On Week 10: Holding On Week 11: The Speech of Kings Week 12: The Speech of Kings Week 13: Chaucer Week 14: Chaucer Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading of the selected material and weekly homework assignments, including summarizing the reading, comprehension and discussion questions, and defining vocabulary		
テキスト、参考文献	Bragg, M. <i>The Adventure of English: The Biography of a Language.</i>		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	英語専門講読 II (Language & Education)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the history of the English language, from its role in Europe in the Middle Ages to the years prior to its spread to New World.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: God's English Week 3: God's English Week 4: English and the Language of the State Week 5: English and the Language of the State Week 6: William Tyndale's Bible Week 7: William Tyndale's Bible Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: A Renaissance of Words Week 10: A Renaissance of Words Week 11: Preparing the Ground Week 12: Preparing the Ground Week 13: Shakespeare's English Week 14: Shakespeare's English Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading of the selected material and weekly homework assignments, including summarizing the reading, comprehension and discussion questions, and defining vocabulary		
テキスト、参考文献	Bragg, M. <i>The Adventure of English: The Biography of a Language.</i>		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	英語専門講読 I (映画『Matrix』批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 映画『マトリックス』三部作を諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テキストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の3点が探求の課題となる。1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) レトリック研究とは何か。これら3点について、映画の綿密なテキスト分析の実践を通じて、この映画に含まれた哲学的意義を探っていく。		1. Course Orientation 2. <i>The Matrix</i> and Plato's Cave: Why the Sequels Failed 3. <i>The Matrix</i> and Plato's Cave: Why the Sequels Failed 4. <i>The Matrix</i> of Control: Why <i>The Matrix</i> Still has Us 5. <i>The Matrix</i> of Control: Why <i>The Matrix</i> Still has Us 6. Only Love is Real: Heidegger, Plato, and <i>The Matrix</i> Trilogy 7. Only Love is Real: Heidegger, Plato, and <i>The Matrix</i> Trilogy 8. The Matrix is Prozac of the People 9. The Matrix is Prozac of the People 10. "The Purpose of Life is to End": Schopenhauerian Pessimism, Nihilism, and Nietzschean Will to Power 11. "The Purpose of Life is to End": Schopenhauerian Pessimism, Nihilism, and Nietzschean Will to Power 12. Choice, Purpose, and Understanding: Neo, the Merovingian, and the Oracle 13. Choice, Purpose, and Understanding: Neo, the Merovingian, and the Oracle 14. Course Review 15. Wrap up	
講義概要 映像という表象コミュニケーションである映画をテキストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映画作品とその批評を綿密に読み込み、映像のレトリックが哲学を織り込んでいく過程を、理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでも哲学とレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむことではない。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画という映像テキストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め必ず各自で観ておくこと。これらの時間を要する予習への心構えがない学生は受講を遠慮すること。			
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須。授業後は当該の章を復習。		
テキスト、参考文献	<u>More Matrix and Philosophy</u> . ed. by William Irwin (Chicago; La Salle, IL: Open Court, 2005)		
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (映画『Matrix』批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		1. Course Orientation 2. Why Make a Matrix? And Why you Might be in One 3. Why Make a Matrix? And Why you Might be in One 4. Challenging <i>Simulacra and Simulation</i> : Baudrillard in <i>The Matrix</i> 5. Challenging <i>Simulacra and Simulation</i> : Baudrillard in <i>The Matrix</i> 6. Faith, Understanding, and the Hidden God of <i>The Matrix</i> 7. Faith, Understanding, and the Hidden God of <i>The Matrix</i> 8. Race Matters in <i>The Matrix</i> : Is Morpheus Black? 9. Race Matters in <i>The Matrix</i> : Is Morpheus Black? 10. Pissin' Metal: Columbine, Malvo, and the Matrix of Violence 11. Pissin' Metal: Columbine, Malvo, and the Matrix of Violence 12. Reloaded Revolutions 13. Reloaded Revolutions 14. Course Review 15. Wrap up	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須。授業後は当該の章を復習。		
テキスト、参考文献	<u>More Matrix and Philosophy</u> . ed. by William Irwin (Chicago; La Salle, IL: Open Court, 2005)		
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (国際安全保障)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会において安全保障とは何を何を意味し、どのように担保され得るのか。この授業では、「国際安全保障 (international security)」の概念がどのように生まれ、どのように変化してきたのか、または実現されようとしてきたのかを1冊の入門書を手掛かりに紐解く。</p> <p>集団的安全保障、国連の役割、戦争の有り様、エネルギー安全保障、食糧安全保障、「人間の安全保障」について興味のある学生の受講を希望する。</p> <p>この授業は、発表とその後のディスカッションによって進める。授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。なお、第1回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。</p>		<p>1. 授業概要の説明、発表担当者決め</p> <p>2. ~14. テキストに沿って進める 発表及びディスカッション</p> <p>15. まとめ、テスト</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読すること。毎回の課題を次回の授業時に提出すること。		
テキスト、参考文献	Browning, Christopher S. <i>International Security: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University, 2013.		
評価方法	発表 30%、授業での発言回数・授業態度 15%、課題 15%、学期末テスト 40%		

09年度以降	英語専門講読 II (国際安全保障)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会において安全保障とは何を何を意味し、どのように担保され得るのか。この授業では、「国際安全保障 (international security)」の概念がどのように生まれ、どのように変化してきたのか、または実現されようとしてきたのかを1冊の入門書を手掛かりに紐解く。</p> <p>集団的安全保障、国連の役割、戦争の有り様、エネルギー安全保障、食糧安全保障、「人間の安全保障」について興味のある学生の受講を希望する。</p> <p>この授業は、発表とその後のディスカッションによって進める。授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。なお、第1回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。</p>		<p>1. 授業概要の説明、発表担当者決め</p> <p>2.~14. テキストに沿って進める 発表及びディスカッション</p> <p>15. まとめ、テスト</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読すること。毎回の課題を次回の授業時に提出すること。		
テキスト、参考文献	Browning, Christopher S. <i>International Security: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University, 2013.		
評価方法	発表 30%、授業での発言回数・授業態度 15%、課題 15%、学期末テスト 40%		

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とする。</p> <p>1951年に出版されたJ. D.サリンジャーの <i>The Catcher in the Rye</i> は60年以上経った今も若者達に愛読され、アメリカ戦後小説の古典となっている。その一方でアメリカの公立図書館や教育員会で最も検閲の対象となった小説でもあり、John Lennon の暗殺者、Mark Chapman の愛読書として物議をかもしている。80年代には映画、<i>The Field of Dreams</i> の原作本である Shoeless Joe のインスピレーションの源泉として、また村上春樹が翻訳を試みたことでも話題になった。私立の全寮制進学校(preparatory school)からはみ出た16歳の少年 Holden Caulfield の大人になれない悩みを扱ったこの小説の魅力を下記のような質問表に基づく討論を通じて考えていきたい。</p> <p>春学期は、この小説の前半を読む。</p>		<p>第1週 授業の進め方などについての説明と「第1週の質問表」にもとづく討論による体験授業。従って、左下の欄にある「第1週の質問表」に答えられるよう最初の1, 2ページを読んでくる必要がある。</p> <p>第2週 前週に配布した質問表による討論。第1章を終了する予定。</p> <p>第3週～第15週 同様な方法で毎週平均ほぼ1章ずつ読んでいく予定。本書は26章あるので、中盤からは各週1章以上読んでいく予定。</p> <p>ほぼ毎週、前週の復習を兼ねた小テストを実施する。</p> <p>質問表は全章分を教師が用意し、教師が討論の司会をする。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指定された範囲を読み、質問表の答えを準備する。事後は、授業範囲の重要箇所を理解できたか確認し、次週の小テストに備える。		
テキスト、参考文献	J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i> (1951)		
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%		

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の項を参照。この小説の後半を読む。</p> <p>春学期 第1週の質問表 Chapter 1.</p> <ol style="list-style-type: none"> Why doesn't the narrator want to tell us "all that David Copperfield kind of crap"? What does he say he is going to tell us about in this novel? Where do you think he is now, narrating his story? What kind of person is D. B.? What does he do? Where is he now and what do you think he is doing there? What kind of school is Pency Prep? Describe the narrator's attitude toward Pency. (Does he like it? If not, why not?) 		<p>春学期の項を参照。</p> <p>春学期と同様な方法で <i>The Catcher in the Rye</i> の後半を読んでいく。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指定された範囲を読み、質問表の答えを準備する。事後は、授業範囲の重要箇所を理解できたか確認し、次週の小テストに備える。		
テキスト、参考文献	J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i> (1951)		
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%		

09年度以降	英語専門講読 I (異文化コミュニケーションの基礎)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、異文化コミュニケーション論に関連する文献のうち基礎的なものを読み、コミュニケーションの諸概念や仕組みを理解することを目的とします。</p> <p>授業形式は、グループによるプレゼンテーションを行います。文献で述べられていることを素に、学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明できるようになることを目指します。そして、授業で学んだことを実生活で活かそうとする意識と姿勢を養うことが求められます。</p> <p>この授業は、「学生の、学生による、学生のための授業」です。テキストの内容や活発な議論を通して、日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり、新しい発見をしたりできるような活気ある授業を作りたいと思います。そして、毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. プレゼンテーションの準備と方法 3. 資料・レジユメの作成とグループ分け 4. 異文化コミュニケーション研究の意義 5. } 6. } 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. 春学期のまとめ <p style="text-align: center;">グループプレゼンテーションによる 授業を行います。グループは、受講生 確定後に決定します。文献は随時配布 します。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プレゼンターは指定された箇所を精読し準備する。プレゼンター以外は、質問事項などを整理する。学習した概念や仕組みを日常生活の中で発見し、翌週の冒頭で発表できるようにする。		
テキスト、参考文献	1) コピー教材を配布します。 2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。		
評価方法	グループワークの評価（40%）、授業への貢献度（20%）、学期末レポート（40%）により評価します。		

09年度以降	英語専門講読 II (異文化コミュニケーション理論と応用)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、異文化コミュニケーション論に関連する文献のうち理論的なものを読み、その諸概念や仕組みを理解することを目的とします。また、特殊講義として、ムスリムの文化を扱っている文献を読みます。</p> <p>授業形式は、グループによるプレゼンテーションを行います。文献で述べられていることを素に、学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明できるようになることを目指します。そして、授業で学んだことを実生活で活かそうとする意識と姿勢を養うことが求められます。</p> <p>この授業は、「学生の、学生による、学生のための授業」です。テキストの内容や活発な議論を通して、日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり、新しい発見をしたりできるような活気ある授業を作りたいと思います。そして、毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み中に体験したコミュニケーション現象 2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. ムスリムの文化 13. ムスリムの文化 14. ムスリムの文化 15. 秋学期のまとめ <p style="text-align: center;">グループプレゼンテーションによる 授業を行います。グループは、受講生 確定後に決定します。文献は随時配布 します。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プレゼンターは指定された箇所を精読し準備する。プレゼンター以外は、質問事項などを整理する。学習した概念や仕組みを日常生活の中で発見し、翌週の冒頭で発表できるようにする。		
テキスト、参考文献	1) コピー教材を配布します。 2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。		
評価方法	グループワークの評価（40%）、授業への貢献度（20%）、学期末レポート（40%）により評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (日英語の使役構文の比較)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の wh-疑問文では wh-句を文頭に移動しなければなりません、日本語では移動する必要がありません。</p> <p>(1) <u>Which book</u> did he read? (2) 彼は<u>どの本</u>を読んだの/<u>どの本</u>を彼は読んだの では、(3)と(4)を日本語ではどのように区別するでしょうか。(3)と(4)の和訳は1文字違いになるはずですか。 (3) <u>Which book</u> did John say Mary would read? (4) Did John say <u>which book</u> Mary would read? その1文字の機能は何でしょうか。また、そもそも英語で wh-句を移動しなければならないのは何故でしょうか。</p> <p>wh-疑問文はどんな言語にも存在し、概ね、英語タイプと日本語タイプに分かれます。2つのタイプは発音上大きく異なりますが、「本質的に同じ」であることを Nishigauchi (1999)に沿って見ていきます。授業の後半には、図書館で手に入る日本文学の英訳をデータに、この授業で学んだことを検証し発表してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. wh-句が動かない言語 3. wh-句の移動/解釈にみられる局所性 4. wh-island 5. 複雑な名詞句 6. wh-語を含む大きな句の移動 7. 英語の多重 wh-疑問文 8. 日本語の wh-語の不定表現用法 9. 補文節のタイプ 10. 「何故」の特殊性 11. 発表1 12. 発表2 13. 発表3 14. 発表4 15. まとめ <p>「シンタクス a,b」の既修もしくは平行履修が望ましい</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。		
テキスト、参考文献	Nishigauchi, T. (1999) "Quantification and Wh-movement," In Tsujimura (ed.) <i>The Handbook of Japanese Linguistics</i> , Ch. 9.		
評価方法	毎回の授業での言語分析、論文のまとめなど(50%)、学期後半の発表(50%)		

09年度以降	英語専門講読 II (日英語の使役構文の比較)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語では、have, make, letのような独立した動詞を使役的意味を表すのに使いますが、日本語の「持つ」や「作る」は使役構文には使われません。代わりに、独立した語ではない(-s)aseを本動詞につけます。</p> <p>(1) John <u>had/let/made</u> Mary come into the room. (2) ジョンはメアリーを部屋に入らせ(<u>hair-ase</u>)た。 (2)の「入る(<u>hair</u>)」は自動詞で、対応する他動詞「入れる」があります。どちらも「気合いが入る/を入れる」のように熟語的意味を持ちますが、自動詞+(-s)aseの「気合いを入らせる」は奇妙です。これは何故でしょうか。</p> <p>日本語は「させ」のような非独立語を動詞につけて色々な構文を作る点が英語と異なりますが、両言語を分析的に見ていくと、「本質的に同じ」であることを Harley (2008)に沿って見ていきます。授業の後半には、図書館で手に入る日本文学の英訳をデータに、この授業で学んだことを検証し発表してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 「させ」と動詞の活用 3. 使役構文の統語構造 4. 使役構文における副詞句の曖昧性 5. 使役構文における「自分」の曖昧性 6. 使役構文における述語の代用表現「そうする」 7. 使役構文における節の代用表現 8. 使役構文の意味解釈 9. 語彙的な使役動詞 10. 「何故」の特殊性 11. 発表1 12. 発表2 13. 発表3 14. 発表4 15. まとめ <p>「シンタクス a,b」の既修もしくは平行履修が望ましい</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。		
テキスト、参考文献	Harley, H. (2008) "On the causative construction," <i>Handbook of Japanese Linguistics</i> . S. Miyagawa and M. Saito (eds.). pp. 20-53, Oxford University Press.		
評価方法	毎回の授業での言語分析、論文のまとめなど(50%)、学期後半の発表(50%)		

09年度以降	英語専門講読 I (火4) (現代東南アジア諸国の経済・政治)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は以下の3点です。</p> <p>①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。</p> <p>②東南アジアの地域研究 (area studies) のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。</p> <p>③効果的なプレゼンテーション・スキルを身につける。</p> <p>これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読 (現代東南アジアの経済・政治) I (春) と同II (秋) は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答、討論、さらにフォローアップ (次週) を行います。</p> <p>①ISEAS, <i>ISEAS Monitor Series</i>, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2015</i>, ISEAS, 2015.</p> <p>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。		
テキスト、参考文献	ISEAS, <i>ISEAS Monitor Series</i> (各号) と <i>ISEAS, Southeast Asian Affairs 2015</i> を使用。担当者が最初の授業時に取り扱う号または章を指定するので、受講者は各自ポータルサイトからダウンロードする。		
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (火4) (現代東南アジア諸国の経済・政治)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的および進め方については、春学期の英語専門講読 I と同様です。</p> <p>授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読 (現代東南アジアの経済・政治) I (春) と同II (秋) は継続性が強いいため、<u>本授業 (II) の履修については春学期の I を履修していることを前提に進めます。</u> また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答、討論、さらにフォローアップ (次週) を行います。</p> <p>①ISEAS, <i>ISEAS Monitor Series</i>, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2015</i>, ISEAS, 2015.</p> <p>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。		
テキスト、参考文献	ISEAS, <i>ISEAS Monitor Series</i> (各号) と <i>ISEAS, Southeast Asian Affairs 2015</i> を使用。担当者が最初の授業時に取り扱う号または章を指定するので、受講者は各自ポータルサイトからダウンロードする。		
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (Prejudice and discrimination in contemporary Japan)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students with advanced English language communication skills develop both a concrete and conceptual understanding of prejudice and discrimination in contemporary Japan. Drawing on the theories of listening and intergroup contact, this course provides students with opportunities to <i>feel</i> the world of persons who are subjected to prejudice as well as to <i>analyse</i> its psycho-social dimensions. Students are also invited to the world of the 'Human Library', in which they will listen informally to people susceptible to prejudice in society (e.g. people with disabilities, sexual minorities, refugees, disaster victims) in order to gain different perspectives on prejudice and life in general.</p> <p>This course is highly recommended to students who want to (re)discover Japan from a co-cultural perspective and, more importantly, to discover their unknown self through dialogue. International (exchange) students currently studying at Dokkyo are most welcome to join. Some knowledge of Japanese is preferred, but not mandatory©.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Getting better acquainted 3. (Post-)multicultural perspective of Japan 4. The nature of prejudice and discrimination 5. Theory of listening 6. Case study 1: Coming out in Japan 7. Case study 2: Lessons from the Fukushima survivors 8. Case study 3: Adjunct instructors of English in Japan 9. The Human Library: Missions and operations 10. The Human Library: Theoretical issues 11. The Human Library: Ethical issues 12. Dialogue/Dining in the Dark 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap up <p>* This course will be taught in English. The workload is heavy and comparable to an international standard.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles and to work closely with other students to complete tasks and assignments, including a group presentation and group research paper.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly assignments 20%, group presentation 30% and group research paper 40%		

09年度以降	英語専門講読 II (Making sense of study abroad experience)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students with advanced English language communication skills generate both a concrete and conceptual understanding of studying at a foreign university. Grounded in a bioecological model of human development, this course provides students with opportunities to <i>reflect</i> on their recent or future study abroad experience and to <i>develop</i> further their intercultural competence through many collaborative activities. Topics to be covered include: goals and motivation; academic challenges; making local friends; discrimination; identity and agency; personal growth; life after study abroad; and Japanese universities in the global context.</p> <p>This course is highly recommended to students who have already studied at a foreign university or students who have a keen interest in study abroad. International (exchange) students currently studying at Dokkyo are most welcome to join. Some knowledge of Japanese is preferred, but not mandatory©.</p> <p><i>We do not learn from our experience. We learn from reflecting on experience. — John Dewey</i></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course 2. Art of group work 3. The Colonial Student in the 21st century 4. Bioecological model of human development 5. Culture shock and adjustment 6. Study abroad as self-formation 7. Different cultures of learning 8. Intercultural friendship and romantic relationships 9. Prejudice and discrimination 10. Intercultural competence and employability 11. Life after study abroad 12. Japanese higher education in the global context 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up <p>* This course will be taught in English. The workload is heavy and comparable to an international standard.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles and to work closely with other students to complete tasks and assignments, including a group presentation and group research paper.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly assignments 20%, group presentation 30% and group research paper 40%		

09年度以降	英語専門講読 I (英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>Jews of Britain</i> 1~5 ページを講読 2. 同上 6~10 ページを講読 3. 同上 11~15 ページを講読 4. 同上 16~20 ページを講読 5. 同上 21~25 ページを講読 6. 同上 26~30 ページを講読 7. 同上 31~35 ページを講読 8. 同上 36~40 ページを講読 9. 同上 41~45 ページを講読 10. 同上 46~50 ページを講読 11. 同上 51~55 ページを講読 12. 同上 56~60 ページを講読 13. 同上 61~65 ページを講読 14. 同上 66~70 ページを講読 15. 同上 まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	高価なため、コピーを配布します。		
評価方法	毎回出席をとります。授業日数の1/3以上欠席された方は単位をあげません。遅刻2回で欠席1回にカウント。(筆記試験が70%、平常点が30%)		

09年度以降	英語専門講読 II (米国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>米国ユダヤ人史の概説書を使用します。 講義目的、講義概要は春学期と同じです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>Jews of Britain</i> 71~75 ページを講読 2. 同上 76~80 ページを講読 3. 同上 81~85 ページを講読 4. 同上 86~90 ページを講読 5. 同上 91~95 ページを講読 6. 同上 96~100 ページを講読 7. 同上 101~105 ページを講読 8. 同上 106~110 ページを講読 9. 同上 111~115 ページを講読 10. 同上 116~120 ページを講読 11. 同上 121~125 ページを講読 12. 同上 126~130 ページを講読 13. 同上 131~135 ページを講読 14. 同上 136~140 ページを講読 15. 同上 まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト、参考文献	春学期と同じ		
評価方法	春学期と同じ		

09年度以降	英語専門講読 I (火4) (世界ブランドと国際関係)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、世界ブランドの研究と共に、国際関係の研究を、2つのテーマとして設定しています。</p> <p>ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。</p> <p>国際関係については、雑誌記事などを扱う予定です。</p> <p>プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての2年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、グループの編成 2 世界ブランド 3 世界ブランド 4 世界ブランド 5 世界ブランド 6 国際関係 7 同上 8 同上 9 同上 10 世界ブランド 11 世界ブランド 12 世界ブランド 13 世界ブランド 14 世界ブランド 15 まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。		
テキスト、参考文献	<i>E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley & Sons,2006).</i>		
評価方法	プレゼン資料 50%、プレゼンテーション 30%、授業への参加度 20%		

09年度以降	英語専門講読 II (火4) (世界ブランドと国際関係)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、世界ブランドの研究と共に、国際関係の研究を、2つのテーマとして設定しています。</p> <p>ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。</p> <p>国際関係については、雑誌記事などを扱う予定です。</p> <p>プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての2年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、グループの編成 2 世界ブランド 3 世界ブランド 4 世界ブランド 5 世界ブランド 6 国際関係 7 同上 8 同上 9 同上 10 世界ブランド 11 世界ブランド 12 世界ブランド 13 世界ブランド 14 世界ブランド 15 まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。		
テキスト、参考文献	<i>E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley & Sons,2006).</i>		
評価方法	プレゼン資料 50%、プレゼンテーション 30%、授業への参加度 20%		

09年度以降	英語専門講読 I (音声に現れることばの不思議)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(1) まず、「英語の音声」で学んだ“英語の音”の基礎について再確認し、さらに“音の変化”や“韻律”について学ぶ。</p> <p>(2) 次に、音声関連の平易なペーパーを読み、ヒトの言語能力やその獲得、機能などに見られる音声のふるまいの不思議、面白さを見ていく。トピックの例としては、乳児の母語獲得、外国語習得の母語干渉、英語と日本語の意外な類似点、母語話者も気がつかない脳内辞書の階層、その他である。</p> <p>前者(1)のテキストは入門書であり、平易な英語で書かれている。また、「英語の音声」や「音声・音韻論」と重複する内容も多いので、既知のことを今度は英語で読むよい練習である。</p> <p>後者(2)のペーパーは各数ページからなる比較的読みやすいものである。補足、解説するので、十分理解し知的に楽しめるはず。</p> <p>毎週、程よい分量を継続して読むことで、英語を読むことへの慣れを促し、また、内容を詳細に読む練習により、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Ch 5 Classifying Sp Sounds: Vowels and Consonants (pp.79-84) 2. Ch 5 Tackling phonemes (pp. 84-89) (1) 3. Ch 6 Variations in voiceless/voiced stops (pp. 94-99) 4. Ch 6 approximant (p.102) 5. Ch 7 GA vs SE, Table 7-1, 7-2, tense/lax (pp. 113, 116-117, 119), 6. Ch7 Rules (p.120) 前半まとめ 7. P-1, 英語と日本語の母音弱化、無声化 8. P-2, 日本語話者の幻聴 (1) 9. " (2) 10. P-3, 母語でも気が付かない脳内語彙階層 (1) 11. " (2) 12. P-4, 乳児は音を覚えずに失っていく (1) 13. " (2) 14. P-5, 外国語聴取と母語干渉 15. 後半まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	学生は毎週の読み課題をこなし、内容のまとめや疑問点をもって授業に臨むことが求められる。		
テキスト、参考文献	Katz, William F. (2013) <i>Phonetics for Dummies</i> . John Wiley and Sons Inc. (ISBN: 978-1-118-50508-3). その他 配布資料		
評価方法	授業参加（準備・参加・課題）:約 30%、小テスト・試験：約 70%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。		

09年度以降	英語専門講読 I (水1) (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定された部分を精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) I (春) と同 II (秋) は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。</p> <p>初回の授業で英文読解力を計るためのテスト (国際政治経済の時事問題に関する英文和訳：辞書なし) を実施します。</p>		<p>1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト：下記のシリーズの最新の articles 中から 10 回分を選択して順次取り上げる。 ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i>, ISEAS. (http://www.iseas.edu.sgからダウンロード)</p> <p>・テキストの内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。		
テキスト、参考文献	ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i> (各号) を使用。担当者が取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。初回の授業時にダウンロードするテキストのリストを配布します。		
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 II (水1) (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読 I と同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) I (春学期) と同 II (秋学期) は継続性が強いいため、<u>本授業 (II) の履修については春学期の I を履修していることを前提に進めます。</u>また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト：下記のシリーズの最新の articles 中から 10 回分を選択して順次取り上げる。 ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i>, ISEAS. (http://www.iseas.edu.sgからダウンロード)</p> <p>・テキストの内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。		
テキスト、参考文献	ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i> (各号) を使用。担当者が取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。初回の授業時にダウンロードするテキストのリストを配布します。		
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカの広告文化史研究 ①)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「世界を震撼させたアメリカの広告」の歴史解説 (エッセイ) を読みながら、消費者としてではなく、文化研究者として広告をとらえ、私たちが生活する後期資本主義社会について考えます。</p> <p>授業形式は、グループ・ワークとグループ・フィシリテーションが中心となります。</p> <p>学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、口頭発表をグループ単位で行います。</p> <p>使用するテキストは、初回の授業で共同購入申請ができるよう、現在、その手続き方法について検討中です。(もちろん各自で購入しても構いません。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Overview 2. Introduction 3. P.T. Barnum 4. Lydia E. Pinkham's Vegetable Compound 5. Pears' Soap 6. Pepsodent 7. Listerine 8. Ad Review (1) 9. The Queensboro Corporation 10. The Kid in Upper 4 11. De Beers 12. Coke and Christmas 13. The Volkswagen Beetle 14. Ad Review (2) 15. Presentations 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。		
テキスト、参考文献	James B. Twitchell, <i>Twenty Ads That Shook the World</i> (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).		
評価方法	発表・発言：50% (理由にかかわらず欠席5回で学期成績が F となります。)、クイズ：50%		

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカの広告文化史研究 ②)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期からの続きです。目的や授業形式は春学期と同じです。</p> <p>学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、口頭発表をグループ単位で行います。</p> <p>なお、第 13 回目の授業では、関連する映画のスクリーニングを行うため、昼休みまで延長する授業参加が必要となる予定です。(詳細は学期中に事前連絡します。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Overview 2. Miss Clairol's "Does She ... or Doesn't She?" 3. The Marlboro Man 4. The Hathaway Man 5. Anacin and the Unique Selling Proposal 6. LBJ vs. Barry Goldwater 7. Ad Review (3) 8. She's Very Charlie 9. Absolut 10. Apple's 1984 11. The Rise and Fall and Rise of the Infomercial 12. Nike and Michael Jordan 13. Our Life as Advertisement? Screening a Film 14. Ad Review (4) 15. Presentations 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。		
テキスト、参考文献	James B. Twitchell, <i>Twenty Ads That Shook the World</i> (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).		
評価方法	発表・発言：50% (理由にかかわらず欠席5回で学期成績が F となります。)、クイズ：50%		

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(<i>The Grapes of Wrath</i>, 1939)、『エデンの東』(<i>The East of Eden</i>, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968)は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、寓話的中編『真珠』(<i>The Pearl</i>, 1947)を中心に彼の作品を扱ってゆく。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベックの他の作品と比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。</p> <p>授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介</p> <p>2: 小説を読む楽しみについて／修辞法解説</p> <p>3: Introduction by Linda Wagner-Martin 読解</p> <p>4: <i>The Pearl</i>の時代的文化的背景</p> <p>5: Native American について</p> <p>6: <i>The Pearl</i>読解 Chapter 1</p> <p>7: 同上</p> <p>8: <i>The Pearl</i>読解 Chapter 2</p> <p>9: 同上</p> <p>10: <i>The Pearl</i>読解 Chapter 3</p> <p>11: 同上</p> <p>12: Chapter 1~3 について詳細解説と問題提起</p> <p>13: Chapter 1~3 について 学生発表</p> <p>14: Review</p> <p>15: テスト／期末レポート回収</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習: テキストの予習 / 事後学習: 授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる		
テキスト、参考文献	テキスト: John Steinbeck, <i>The Pearl</i> (Penguin Classics)		
評価方法	授業参加度(30%)、提出物(20%)、授業中の発表(20%)、期末レポート(30%)を総合的に評価。全体の2/3の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。		

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、<i>The Pearl</i>を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。</p> <p>*授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: 前期レポートについてグループ発表</p> <p>2: 同上</p> <p>3: <i>The Pearl</i>読解 Chapter 4</p> <p>4: 同上</p> <p>5: <i>The Pearl</i>読解 Chapter 5</p> <p>6: 同上</p> <p>7: <i>The Pearl</i>読解 Chapter 6</p> <p>8: 同上</p> <p>9: Chapter 4~6 について詳細解説と問題提起</p> <p>10: Chapter 4~6 について 学生発表</p> <p>11: 同上</p> <p>12: 関連資料 読解と考察</p> <p>13: 同上</p> <p>14: Review</p> <p>15: テスト／期末レポート回収</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習: テキストの予習 / 事後学習: 授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる		
テキスト、参考文献	テキスト: John Steinbeck, <i>The Pearl</i> (Penguin Classics)		
評価方法	授業参加度(30%)、提出物(20%)、授業中の発表(20%)、期末レポート(30%)を総合的に評価。全体の2/3の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。		

09年度以降	英語専門講読 I (地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODAなどの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。大切なのは身の回りのことから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。</p> <p>授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生（班）がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 教員によるレクチャー（予定） 15. 全体のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の方は教科書の該当章を熟読。		
テキスト、参考文献	Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications) ※各自でDUO等で購入して下さい。		
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各1回。		

09年度以降	英語専門講読 II (地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。</p> <p>取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。</p>		<p>担当する学生（班）が自分で読む英語論文を選定、レジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをします。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の方は配布された英語論文を事後に熟読。		
テキスト、参考文献	毎回、英語論文が配布される。それと併せ、次の本をテキストとして使用：フランツ・ヴァンデルホフ著、北野収訳『貧しい人々のマニフェスト：フェアトレードの思想』創成社（2016夏刊行、DUOで購入）		
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各1回。		

09年度以降	英語専門講読 I (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、 vocabulary を build up する。</p> <p>生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。</p> <p>さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらおう。</p> <p>講義概要</p> <p>ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。</p> <p>どの台本も最初の 10～15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストで 60%、観劇レポート（450～500 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末に定期試験はしません。		

09年度以降	英語専門講読 II (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、 vocabulary を build up する。</p> <p>生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。</p> <p>さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらおう。</p> <p>講義概要</p> <p>ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。</p> <p>どの台本も最初の 10～15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストで 60%、観劇レポート（450～500 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末に定期試験はしません。		

09年度以降	英語専門講読 II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インコタームズ® (Incoterms®) とは、国際商業会議所が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。インコタームズ®を貿易取引に採用すれば、FOBやCIF等の貿易条件 (trade terms) の略号を表示することにより、売主と買主の義務、費用負担、貨物の引渡し場所などが明確になり、誤解や紛争が防げます。今年度の秋学期は、Incoterms®2010 が規定する11個の貿易条件について、旧版の Incoterms®2000 からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス (logistics) の観点から有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの分野への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. Incoterms®2000 から Incoterms®2010 への変更点 3. Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件の概略 4.-7. 「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7 条件 (EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP) の詳細 8.-10. 「海上および内陸水路輸送のための」4 条件 (FAS, FOB, CFR, CIF) の詳細 11.-12. 各々の貿易条件についての売主側および買主側からみた長所と短所の検討 13. 貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討 14. 国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討 15. 秋学期の総復習および質疑応答 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報 (特に法令改正や通達) を入手するよう努めて下さい。		
テキスト、参考文献	Petersen, Catherine J., <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center Inc., 2011 および配布プリント		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 80% の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20% の比重) を合計して評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (水2) (英語でグローバル社会を語る)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標(チャレンジ)が設定されています。</p> <p>(1) グローバル社会のトピック<雑誌記事>に注目することです。(2) 英語の運用能力を高めることです。(3) 受講生が発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>授業は、出来る限り英語で行います。英語によるプレゼンテーション能力の開発に力を入れます。</p> <p>プレゼンは、数名でグループを作り、準備をみんなで一緒に行います。専門講読が初めての2年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p> <p>重複履修する場合は、担当教員と相談して下さい。</p>		<p>授業の前半で、グループ・プレゼンを行います。後半では、クラスの受講生全員を4～5のsmall・グループに分けます。small・グループごとに、英語や日本語で質疑応答を行います。</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、モデル・プレゼン</p> <p>第2回～14回 グループ・プレゼン small・グループごとの質疑応答 全体での質疑応答</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。		
テキスト、参考文献	アメリカの有名雑誌“Foreign Affairs”などに掲載された記事を配布します。		
評価方法	プレゼン資料 50%、プレゼンテーション 30%、授業への参加度 20%		

09年度以降	英語専門講読 II (水2) (英語でグローバル社会を語る)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標(チャレンジ)が設定されています。</p> <p>(1) グローバル社会のトピック<雑誌記事>に注目することです。(2) 英語の運用能力を高めることです。(3) 受講生が発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>授業は、出来る限り英語で行います。英語によるプレゼンテーション能力の開発に力を入れます。</p> <p>プレゼンは、数名でグループを作り、準備をみんなで一緒に行います。専門講読が初めての2年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p> <p>重複履修する場合は、担当教員と相談して下さい。</p>		<p>授業の前半で、グループ・プレゼンを行います。後半では、クラスの受講生全員を4～5のsmall・グループに分けます。small・グループごとに、英語や日本語で質疑応答を行います。</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、モデル・プレゼン</p> <p>第2回～14回 グループ・プレゼン small・グループごとの質疑応答 全体での質疑応答</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。		
テキスト、参考文献	アメリカの有名雑誌“Foreign Affairs”などに掲載された記事を配布します。		
評価方法	プレゼン資料 50%、プレゼンテーション 30%、授業への参加度 20%		

09年度以降	英語専門講読 II (水2) ('客室乗務員'の社会学)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>旅客航空機の客室業務に専従する若年女性の乗務員、いわゆる「客室乗務員」は1930年代に登場しました。それまでは男性の副操縦士や steward が客室でお茶や軽食を提供していましたが、「女性化」された air hostess あるいは stewardess には独特な役割が期待されました。やがて戦後には世界各地でさまざまな「客室乗務員」のジェンダー化とステレオタイプ化が生じ、現在知られる「スチュワーデス」の社会的イメージが形成されてきました。</p> <p>つまり「客室乗務員」とは、それぞれの時代や政治経済的状况を色濃く反映した「社会的な出来事」であり、ひとびとの憧れや欲望を具現化する「メディア」でもあります。</p> <p>この授業では、「客室乗務員」の文化史を論じた複数の英語文献を講読することで、「客室乗務員」という切り口から現代社会の仕組みを深く理解することを目指します。授業は初回に担当文献を配布し、担当箇所をくじ引きで決定し(必ず出席してください)、グループ単位で発表してもらいます。</p> <p>もともと「客室乗務員」に興味がある方はもちろん、その社会的イメージに違和感を持つ方の受講も歓迎します。(なお本授業では「CA試験対策」などは一切できません。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 2. 講義：「客室乗務員」の社会的イメージとは (メディアとジェンダーの社会史) 3～14. 発表、ディスカッション 15. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回は指定箇所を読み返してください。詳細は初回と第2回の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	A. Freedman et al. (2013) <i>Modern Girls on the Go</i> , K. Barry (2007) <i>Femininity in Flight</i> , J. Omelia et al. (2006) <i>Come Fly with Us</i> ほか。必要部分を配布する予定。		
評価方法	授業参加度 30%、発表 40%、発表以外の授業内活動 10%、期末レポート 20%によって総合的に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (実践的な英語の聴解・発音教育)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 従来英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。		1. コース概要1：オリエンテーション 2. Introduction (教科書 viii-xv) 3. Unit 1：シラブル (音節) とは 4. Unit 2：母音のルール 5. Unit 3：強勢と母音長との関係1 6. Unit 4：強勢と母音長との関係2 7. Unit 1 - 4のまとめ 8. <中間テスト> 9. Unit 5：語強勢のさまざまなパターン 10. Unit 6：内容語の文における役割 11. Unit 7：機能語の役割 (音としては弱い重要) 12. 教材作成タスク ① 13. 教材作成タスク ② 14. <期末テスト> 15. Review	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	教科書 『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4 th Edition』 (2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に、課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (実践的な英語の聴解・発音教育)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 従来英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。		1. コース概要1：オリエンテーション 2. Unit 8：文のなかで強調される部分 3. Unit 9：機能語をあえて強調する 4. Unit 10：英語の /s/ と /t/ 5. Unit 11：英語の /r/ と /d/, /l/ と /d/ 6. Unit 12：有声音・無声音について 7. Unit 8 ~12 のまとめ 8. <中間テスト> 9. Unit 13：シラブルの長さとの関係 10. Unit 14：‘Sibilants’ 11. Lecture for Listening Practice 12. 教材作成 (グループワーク) ① 13. 教材作成 (グループワーク) ② 14. <期末テスト> 15. Review	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	教科書 『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4 th Edition』 (2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に、課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (木1) (外国人が旅する Japan① : Lonely Planet 編)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>訪日外国人の増加を伝えるニュースに接する機会が多くなっていますが、彼らはどのようなJapanに関する情報をもとに、この東アジアの島国を旅するのでしょうか。</p> <p>この授業では、世界で最も読まれている観光ガイドブック・シリーズLonely PlanetのJapan編を取り上げ、日本の歴史、文化、建築、ポピュラー・カルチャーなどを紹介した部分を批判的に読み解き、「外国人が旅するJapan」の一断面を理解することを目的とします。</p> <p>Lonely Planetは英語版をはじめ、中国語や韓国語などにも翻訳されており、おもに個人旅行者が使うガイドブックとして世界的に知られています。そのJapan編は数年ごとに不定期改訂されるため、最新版を初回の授業で確認し、購入するか該当部分をコピーするか希望を募ります。</p> <p>授業では、①グループでレジュメを作成して発表し、②トピックを一つ選び調査報告し、③全体で討論する、という方法をとります。履修者には主体的に課題に取り組むこと、また積極的に関連資料の収集や調査、そして討論に参加することを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 講義：観光ガイドブックのメディア特性について 補助資料の集め方と分析方法について ～14. 発表、ディスカッション まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回は指定箇所を読み返してください。詳細は初回と第2回の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	Lonely Planet, <i>Japan</i> , ほか。授業開始の直前に最新版が刊行されることもあるため、初回の授業で確認するまでテキストの購入は控えてください（なお必要箇所を配布する予定です）。		
評価方法	授業参加度 30%、発表 30%、発表以外の授業内活動 30%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 II (木1) (外国人が旅する Japan② : Michelin&比較分析編)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、前期の「英語専門講読 I (外国人が旅する Japan ①)」で取り組んだ講読の方法を応用し、フランスのタイヤメーカーであり著名な観光ガイドブック・ブランドを有する Michelin (ミシュラン) 社の Japan 編 (英語版) を批判的に読み解くことを目的とします。</p> <p>そして授業の後半では、日本のいくつかの「まち」(たとえば京都、東京、広島、鎌倉など)を取り上げ、Lonely Planet と Michelin とその他のガイド・メディア (日本の「るるぶ」やネットの TripAdvisor など) を比較し、いかなる「外国人が旅する Japan」が観察できるのかを分析します。</p> <p>前期の授業と同様に、観光ガイドブックは比較的読みやすいテキストですが、履修者には「文献を要約発表すること」と同等に「トピックを自ら選び調査報告すること (とくに英語文献を図書館やネットで入手し活用すること)」が求められます。そのため積極的に自由研究に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発表を実現することに意欲的な方の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け ～10. 発表、ディスカッション ～14. 「まち」分析比較 (場所は後日決定) まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回は指定箇所を読み返してください。詳細は初回の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	Michelin, <i>Japan (The Green Guide, English Edition)</i> ほか。前期と同様に初回の授業で最新版を確認するまでテキストの購入は控えてください（なお必要箇所を配布する予定です）。		
評価方法	授業参加度 30%、発表 30%、発表以外の授業内活動 30%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events.</p> <p>Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week.</p> <p><u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO <u>before the first class.</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Evolution of Diplomacy (1) 3. Evolution of Diplomacy (2) 4. Evolution of Diplomacy (3) 5. Diplomacy of the American Revolution (1) 6. Diplomacy of the American Revolution (2) 7. Diplomacy of the American Revolution (3) 8. Midterm Examination 9. Diplomacy of the American Revolution (4) 10. Diplomacy of the American Revolution (5) 11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (1) 12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (2) 13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (3) 14. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (4) 15. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (5) 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	Siracusa, Joseph M., <i>Diplomacy: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2010).		
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

09年度以降	英語専門講読 II (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond.</p> <p>Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week.</p> <p><u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (1) 2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (2) 3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (3) 4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (4) 5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (5) 6. The ANZUS Treaty (1) 7. The ANZUS Treaty (2) 8. Midterm Examination 9. The ANZUS Treaty (3) 10. The ANZUS Treaty (4) 11. Diplomacy in the Age of Globalization (1) 12. Diplomacy in the Age of Globalization (2) 13. Diplomacy in the Age of Globalization (3) 14. Diplomacy in the Age of Globalization (4) 15. Course Review 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	Siracusa, Joseph M., <i>Diplomacy: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2010).		
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

09年度以降	英語専門講読 I (ツーリズムの現状と課題)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国を訪問する外国人旅行者数は大きく伸びているが、我が国のツーリズムはまだまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション+ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Outline of Tourism in Japan 3. Japan's World Heritage Site 4. Presentation & Discussion 1-(1) 5. Presentation & Discussion 1-(2) 6. Presentation & Discussion 1-(3) 7. Presentation & Discussion 1-(4) 8. Culture of Japan & "Cool Japan" 9. Travel & Tourism Competitiveness 10. Japanese National Culture 11. Pros and Cons of Japanese Tourism 12. Presentation & Discussion 2-(1) 13. Presentation & Discussion 2-(2) 14. Presentation & Discussion 2-(3) 15. Presentation & Discussion 2-(4) 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。		
テキスト、参考文献	テキストを適宜配布する。		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%		

09年度以降	英語専門講読 II (航空の現状と歴史)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 本講義においては、航空産業の現状と歴史について学習する。航空産業は外から見ると華やかな産業であるが故に、その重要な基本部分のことを忘れがちであるが、現在の航空産業を支える基礎には何があるのかを中心に考えることを目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義は、航空産業関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション+ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. The Airline Business in Japan(1) 3. The Airline Business in Japan(2) 4. The Airline Business in Japan(3) 5. The Airline Business in Japan(4) 6. The Airline Business in Japan(5) 7. The History of The Airline Business(1) 8. The History of The Airline Business(2) 9. The History of The Airline Business(3) 10. The History of The Airline Business(4) 11. Presentation & Discussion (1) 12. Presentation & Discussion (2) 13. Presentation & Discussion (3) 14. Presentation & Discussion (4) 15. Presentation & Discussion (5) 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。		
テキスト、参考文献	テキストを適宜配布する。		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%		

09年度以降	英語専門講読 I (Global Woman I)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、昨年に引き続きグローバル化した世界のなかでのジェンダー問題、特に女性移民労働者についてのエッセイや論文を読む。主要テキストとするのは、<i>Global Woman: Nannies, Maids and Sex Workers in the New Economy</i> (2002) である。このテキストのなかから昨年度はとりあげられなかったものを読む予定である。</p> <p>ある授業で、「グローバル・ウーマン」という言葉から、何を連想するかを尋ねたところ、次のようなイメージが大半をしめた。たとえば、「有益な仕事につき、外国語を操り、国境を越えて活躍する女性」。「高収入」という答えもあれば、「ハイヒールで空港を闊歩している」というものもあった。しかし、現在、国境を越えて移動する女性たちの多くは第三世界から第一世界への低賃金の移民労働者である。彼女たちが担うのは、第一世界の女性たちが好まなくなった「女性の役割」—テキストの副題にあるとおり、家事、育児、セックスワークだ。(秋学期の欄に続く)</p>		<p>1. Introduction (1) 2. Introduction (2) 3. Introduction (3) 4. Just Another Job? The Commodification of Domestic Labor (1) 5. Just Another Job? The Commodification of Domestic Labor (2) 6. America's Dirty Work (1) 7. America's Dirty Work (2) 8. Breadwinner No More (1) 9. Breadwinner No More (2) 10. 日本における外国人労働者の実態 (1) 11. 日本における外国人労働者の実態 (2) 12~15 Presentations</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で扱うテキストを熟読し、不明点を洗い出しておいてください。事後は必要に応じての復習をするとともに、授業時に紹介した参考文献に興味に応じて読んでください。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを用意します。		
評価方法	授業貢献 20%、プレゼンテーション 30%、期末レポート 50%		

09年度以降	英語専門講読 II (Global Woman II)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(春学期の欄からの続き) その労働の現場では、どのような問題が起こっているのだろうか。そもそも、何がこのような状況を生み出しているのか。原因は複合的なものである。グローバル化の問題とジェンダーの問題とが、複雑に絡み合っているのだ。</p> <p>第三世界からの女性移民労働者の問題は、単純に彼女たちだけの問題ではない。彼女たちが後に残してくる家族、また彼女たちを必要とする、第一世界側の男性と女性にも関わってくるのである。つまり、第三世界からの女性移民労働者の問題について考えると、いくつもの異なる社会のジェンダーシステムが抱える課題が見えてくるのである。</p> <p>様々な問題を扱ったエッセイや論文を読み (秋学期には <i>Human Trafficking</i> 一般についてのニュースも読む)、グローバル化とジェンダーについて考えたい。各学期の最後の数回は、受講者によるプレゼンテーションに充てる予定である。</p>		<p>1. Selling Sex for Visas (1) 2. Selling Sex for Visas (2) 3. Because She Looks like a Child (1) 4. Because She Looks like a Child (2) 5. Because She Looks like a Child (3) 6~10 <i>The Guardian</i> より “Sex, lies, psychological scars: Ukraine human trafficking crisis” “miners, tea pickers and Bbides: these children are slaves, not labourers” “Carrying bricks, picking potatoes: all in a day's work for Syrian Children in Lebanon” “Weddings from Hell: Cambodian brides trafficked to China” 11. 日本における Human Trafficking の実態(1) 12. 日本における Human Trafficking の実態(2) 13-15 Presentations</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に授業で扱うテキストを熟読し、不明点を洗い出しておいてください。事後は必要に応じての復習をするとともに、授業時に紹介した参考文献に興味に応じて読んでください。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを用意します。		
評価方法	授業貢献 20%、プレゼンテーション 30%、期末レポート 50%		

09年度以降	英語専門講読 I (日本のビート詩人、Nanao Sakaki の詩を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本のビート詩人、ななお・さかきの英語の詩を読む。「日本の詩人の書いた英語の詩？」などと侮ってはいけない。さかきは、ビート詩人 Gary Snyder と深い交友を結び、自身の詩を書くときは、日本語と英語、両方を同時進行で書いていた。そして、英語版の Wikipedia にも掲載されている、れっきとした、英語で書いた詩人である。</p> <p>さかきは、世界恐慌のために実家の染物屋がつぶれ、アジア・太平洋戦争では、レーダー監視官をしていたため、原爆が長崎に落とされる現場をレーダー上で目撃している。資本主義と戦争の悲惨さの極点を経験した人物である。なにやら、現在の日本の状況と通底してくるところがある。</p> <p>そんな問題意識を持っている学生に受講してもらいたい。</p> <p>なお、授業は、学生のレポーター形式で進められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. "A Love letter" "A Osand Painting" 3. "Sharping a Knife" "An Axiom" 4. "Ladies and Gentlemen!" "One Two Three Four" 5. "Memorandum" "Future Knows" 6. "Halloween '79" "Why Do You Write Poems?" 7. "Top Ten of American Poetry" "A Message" 8. "Forever Green" "Autumn Equinox" 9. "All Right with the World" "After the First Snow" 10. "Grasshoppers" "Why" 11. "Please" "Vinegar" 12. "Money Means" "Midday" 13. "Fade Away" "Wanted" 14. "Seven Lines" "Clock" 15. "Go with Muddy Feet" 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習、復習は前提である。		
テキスト、参考文献	Nanao Sakaki. <i>How to Live on the Planet Earth: Collected Poems</i> . Nobleboro, Me: Blackberry Books, 2013 参考文献は、授業中に適宜紹介する。		
評価方法	学期末のレポート。欠席の多かった学生は、評価の対象にならない。		

09年度以降	英語専門講読 II (日本のビート詩人、Nanao Sakaki の詩を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>引き続き、ななお・さかきの英語詩を読む。春学期のシラバスで書ききれなかった部分であるが、さかきのプリミティヴな社会への傾倒、そして時間意識を語る。</p> <p>春学期と同じく、授業は学生のレポーター形式で進められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の講評 2. "Stinkbugs" "An Abandoned Farmhouse" 3. "Specification for Mr. Nanao Sakaki's House" 4. "The Battle of Toads" " 5. "Medical Certificate" "November Song" 6. "A Biography" "Soil for Legs" 7. "Manifesto" "Break the Mirror" 8. "Happy New Year!" "Valentine's Day" "A Big Day" 9. "Miracle" "Oh My Buddha" 10. "Daylight Moon" "Who Needs Allen Ginsberg in Japan?" 11. "Allen Ginsberg's "The Supermarket in California" 12. "Let's Eat Stars" "Twilight Man" 13. "If I Have Tomorrow" "In Honor of Persian Gulf War" 14. "Kokopelli" "Ear Means" 15. "Me, A Smuggler" "How to Live on the Planet Earth" 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習、復習は前提である。		
テキスト、参考文献	同上。		
評価方法	同上。		

09年度以降	英語専門講読 I (コミュニケーションモデルズ)	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 コミュニケーション現象を客観的に理解し、分析できるようになる。 講義概要 まずコミュニケーションのダイナミックなプロセス性を学んだ後、具体的なコミュニケーションモデルを10件くらい学び、その学びを定着させるためにそれらのモデルを利用して具体的なコミュニケーション現象を分析し発表してもらいます。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. コミュニケーションのプロセスの概念 3. コミュニケーションの要素1 (送り手・受け手) 4. コミュニケーションの要素2 (メディア) 5. コミュニケーションの要素3 (メッセージ) 6. 線形モデル1 (ラスウェルのモデル、他) 7. 線形モデル2 (ABCモデル、他) 8. 線形モデル3 (議題設定モデル、他) 9. 春学期中間発表 10. 循環モデル1 (オズグッドのモデル、他) 11. 循環モデル2 (遠慮察しモデル、他) 12. その他のモデル1 (ガーブナーのモデル、他) 13. その他のモデル2 (沈黙の螺旋モデル、他) 14. 春学期最終発表 15. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	テキスト: <i>Communication Models</i> , Longman.		
評価方法	授業への参加度 20%、発表 30%、最終レポート 50%		

09年度以降	英語専門講読 II (イノベーションのコミュニケーション)	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 イノベーション (技術革新) が普及していく過程を客観的に理解し、分析できるようになる。 講義概要 イノベーション (技術革新) が普及していくプロセスはコミュニケーションプロセスの一形態であると捉えることができる。本講義ではイノベーションの定義を行った後、イノベーションが普及・伝達していく上で重要な要因である、1)イノベーションの採用過程、2)イノベーションの特徴、3)イノベーションの採用者類型、4)オピニオンリーダーやチェンジエージェントの特徴と役割などについて学んでいく。そして、授業での学びを定着させるために具体的なイノベーションを取り上げ、その普及戦略について発表してもらいます。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. イノベーションとは 3. イノベーションのコミュニケーションに関わる要素 4. イノベーションの採用過程1 5. イノベーションの採用過程2 6. イノベーションの採用過程3 7. イノベーションの特徴1 8. イノベーションの特徴2 9. 秋学期中間発表 10. イノベーションの採用者類型1 11. イノベーションの採用者類型2 12. オピニオンリーダーの特徴と役割 13. チェンジエージェントの特徴と役割 14. 秋学期最終発表 15. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	<i>Diffusion of Innovations(5th Ed.)</i> , Free press		
評価方法	授業への参加度 20%、発表 30%、最終レポート 50%		

09年度以降	英語専門講読 I (通訳訓練のための原書講読)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 1テーマを2週かけて取り上げます。政治や技術、医療などに関する英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱います。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。「通訳1」(水曜1限、水曜2限、木曜1限) および「通訳II」(木曜2限) とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 政治 3. 政治 4. 技術 5. 技術 6. 犯罪 7. 犯罪 8. IT 通信 9. IT 通信 10. 産業 11. 産業 12. 医療厚生 13. 医療厚生 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください		
テキスト、参考文献	<p>テキスト： 適宜資料を配布します</p> <p>参考文献： 適宜紹介します</p>		
評価方法	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など) (70%) および期末テスト (30%)		

09年度以降	英語専門講読 II (通訳訓練のための原書講読)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだ方法を応用しながら引き続き1テーマを2週かけて取り上げます。テーマは教育、環境、医学、経済など。英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱います。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましいです。「通訳1」(水曜1限、水曜2限、木曜1限) および「通訳II」(木曜2限) とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 教育 3. 教育 4. 国際関係 5. 国際関係 6. 環境 7. 環境 8. 軍事 9. 軍事 10. 医学 11. 医学 12. 経済 13. 経済 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください		
テキスト、参考文献	<p>テキスト： 適宜資料を配布します</p> <p>参考文献： 適宜紹介します</p>		
評価方法	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など) (70%) および期末テスト (30%)		

09年度以降	英語専門講読 I (ツーリズム研究の基礎概念)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、観光研究における主要な方法や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。</p> <p>Sageの<i>key concepts in tourist studies</i>およびRoutledgeの<i>Tourism the key concepts</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。</p> <p>各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要箇所をコピーして配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイドンス 2、発表方法について（講義） 3、Economics of Tourism 4、Planning Tourism 5、Carrying Capacity / Destination Management 6、Regeneration 7、Experience Economy 8、Sociology of Tourism / Anthropology of Tourism 9、Authenticity 10、Tourist Gaze 11、Identity 12、Mobility 13、Post Tourism 14、総合討論 15、まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。		
テキスト、参考文献	Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage. Robinson, P. ed. (2012) <i>Tourism the key concepts</i> . Routledge		
評価方法	授業内発表 20% 授業内小課題 50% 期末課題 30%		

09年度以降	英語専門講読 II (ツーリズム研究の現代的課題)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、観光研究の対象となる諸事象について、基礎的な理解を得ることを目的とする。とくに、春学期に学んだ観光研究の基礎概念をもとに、近年関心が寄せられている主要な観光形態について批判的に考察することを目指す。</p> <p>Sageの<i>key concepts in tourist studies</i>およびRoutledgeの<i>Tourism the key concepts</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。</p> <p>各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要箇所をコピーして配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイドンス 2、発表方法について（講義） 3、Sustainable Tourism 4、Eco Tourism 5、Cultural Tourism 6、Heritage Tourism 7、Art Tourism/ Gastronomic Tourism 8、Film and TV Tourism/ Literary Tourism 9、Rural Tourism 10、Urban Tourism 11、Sex Tourism 12、Dark Tourism 13、Ethical Tourism 14、総合討論 15、まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。		
テキスト、参考文献	Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage. Robinson, P. ed. (2012) <i>Tourism the key concepts</i> . Routledge		
評価方法	授業内発表 20% 授業内小課題 50% 期末課題 30%		

09年度以降	英語専門講読 I (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関(国連等)、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。</p> <p>課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。</p> <p>授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにした。</p>		1 はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定 2 文献①-1 3 文献①-2 4 文献①-3 5 文献②-1 6 文献②-2 7 文献②-3 8 文献③-1 9 文献③-2 10 文献③-3 11 文献④-1 12 文献④-2 13 文献④-3 14 文献⑤-1 15 文献⑤-2	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題テキストの自宅学習(和訳レポートの作成)		
テキスト、参考文献	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、和訳レポート点(70%)を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が4回に達すると、評価の対象にならないので注意すること。		

09年度以降	英語専門講読 II (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関(国連等)、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。</p> <p>課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。</p> <p>授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにした。</p>		1 はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定 2 文献⑥-1 3 文献⑥-2 4 文献⑥-3 5 文献⑦-1 6 文献⑦-2 7 文献⑦-3 8 文献⑧-1 9 文献⑧-2 10 文献⑧-3 11 文献⑨-1 12 文献⑨-2 13 文献⑨-3 14 文献⑩-1 15 文献⑩-2	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題テキストの自宅学習(和訳レポートの作成)		
テキスト、参考文献	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、和訳レポート点(70%)を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が4回に達すると、評価の対象にならないので注意すること。		

09年度以降	英語専門講読 I (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時代の変化がますます激しくなってきたことを実感する機会が更になくなってきましたが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、今の時代に現実問題として不安を抱えているのではないのでしょうか。</p> <p>そんな状況の中で、「詩を学ぶ」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、詩を学ぶことも実用的だと言えます。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「言葉の力」を体感することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「詩を学ぶ=生き方を学ぶ」と言えるかもしれません。</p> <p>詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージが詩にあるとしたら、詩を一面的にしかみていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密着しているものだと思います。(↓に続きます。)</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます(便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です)。 発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 履修確定の学生との確認、グループ&担当箇所の決定 3-4 オーストラリアの歴史①② 5-6 アボリジニの歴史①② 7-8 アボリジニの神話・伝説①② 9-10 英訳されたアボリジニの詩①② 11-14 英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15. 講義のまとめ <p>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね。 ※ グループ作りは、私が決めるのではなく、学生の皆様同士で決めるようお願いしています。3人～5人のグループになって頂きたいのですが、人数調整が必要な場合のみ、私が最後に介入します。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	*事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 *事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントして配布します。 参考文献は授業で随時紹介いたします。		
評価方法	*提出物(レポート)80%、授業の参加度20% *遅刻3回(30分以内)で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	英語専門講読 II (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(↑からの続きです) 「オーストラリアを学ぶ」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないのでしょうか。</p> <p>それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。(例えば「オーストラリア人とは誰を指すか?」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など)</p> <p>講義目的をまとめて書くと、「言葉の力を体感する」「オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す」「オーストラリアを通して己を考える」また、発表形式の授業ですので「自分の言葉で考え、語る」こととなります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「自分の意見を他人に正確に伝える」ことも学んでほしい大事なことです。</p> <p>「授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立てるような事をお伝えする。」これが、私自身の最大の目的です。 それでは、熱意のある方、お待ちしております!</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p> <p>春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。</p> <p>春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2～14. オーストラリアの詩、精読 15. 講義のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	*事前に配布された詩を、発表者だけではなく、各個人でもあらかじめ読んでおいてください。 *事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントして配布します。 参考文献は授業で随時紹介いたします。		
評価方法	*提出物(レポート)80%、授業の参加度20% *遅刻3回(30分以内)で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	英語専門講読 I (認知言語学)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、認知言語学の基本的な考え方を身につけること及び英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の言語観を紹介する書物である。</p> <p>講義では、下記のテキストの1章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、講義の概要 2. E-language and I-language 1 3. E-language and I-language 2 4. E-language and I-language 3 5. Studying E-language—not such a simple matter! 1 6. Studying E-language—not such a simple matter! 2 7. Studying E-language—not such a simple matter! 3 8. Corpora and their representativeness 1 9. Corpora and their representativeness 2 10. The BNC and linguistic experience 1 11. The BNC and linguistic experience 2 12. The World Wide Web 1 13. The World Wide Web 2 14. 春学期の講義のまとめ 15. 春学期の講義のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
テキスト、参考文献	Taylor, John R. (2012) <i>The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind</i> . Oxford: Oxford University Press. (購入は要しない)		
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	英語専門講読 II (認知言語学)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、認知言語学の基本的な考え方を身につけること及び英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の言語観を紹介する書物である。</p> <p>講義では、下記のテキストの2章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、講義の概要 2. A rule-based approach to linguistic knowledge 1 3. A rule-based approach to linguistic knowledge 2 4. A rule-based approach to linguistic knowledge 3 5. The generative model in relation to data 1 6. The generative model in relation to data 2 7. The lexicon 1 8. The lexicon 2 9. The lexicon 3 10. Compositionality 1 11. Compositionality 2 12. Compositionality 3 13. In Conclusion 14. 秋学期の講義のまとめ 15. 秋学期の講義のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
テキスト、参考文献	Taylor, John R. (2012) <i>The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind</i> . Oxford: Oxford University Press. (購入は要しない)		
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	英語専門講読 I (Sherlock Holmes in simple English)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Are you interested in Sherlock Holmes's series written by Arthur Conan Doyle? If you are, this course might be good for you.</p> <p>We are going to read three well-known Holmes stories. Perhaps Doyle's original English is a little too challenging, so we are going to use retold versions for English learners (at intermediate level).</p> <p>In each of the classes, we will make small groups to talk about the stories at different angles. In the latter part of each class, I will give small lectures on historical and cultural backgrounds. After reading through each of the stories, we will watch TV adaptations (with Jeremy Brett as Holmes) and compare them with the stories.</p> <p><u>All the class are conducted in English.</u> I hope all the students will improve English skills by reading, discussing, writing about Holmes in simple English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. "The Specked Band" (1) 3. - (2) 4. - (3) 5. Viewing the dramatized version 6. "The Dancing Men" (1) 7. - (2) 8. - (3) 9. Viewing the dramatized version 10. "The Red-Headed League" (1) 11. - (2) 12. - (3) 13. Viewing the dramatized version 14. Wrap-up (1) 15. - (2) 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	The students will be assigned to read about 10 pages and fill in worksheets.		
テキスト、参考文献	Arthur Conan Doyle, <i>The Speckled Band and Other Stories</i> (Macmillan readers, 2005)		
評価方法	Participation 20%, Worksheet 30%, Mini-essays 30%, Final essay 20%		

09年度以降	英語専門講読 II (Sherlock Holmes in simple English)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this term, we are going to read through Arthur Conan Doyle's <i>The Hound of the Baskervilles</i>.</p> <p>Doyle wrote four longer stories on Sherlock Holmes, and this was one of them. In this story, there are lots of exciting elements such as the legendary dog (hound), which we are going to examine.</p> <p>Again, Doyle's English is a little bit difficult, so we will use a retold version for English learners (at intermediate level). We will discuss the story in small groups, and I will give small lectures on historical and cultural backgrounds.</p> <p>The story has been dramatized in many ways, and recently, it is adapted and modernized as "The Hounds of Baskerville" (starring Benedict Cumberbatch as Holmes). We will compare it with the original story.</p> <p>All the class work will be conducted in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. <i>The Hound of the Baskervilles</i>, pp. 1-7 3. --, pp. 7-18 4. --, pp. 18-27 5. --, pp. 27-37 6. --, pp. 38-43 7. --, pp. 44-52 8. --, pp. 52-60 9. --, pp. 60-66 10. --, pp. 67-75 11. --, pp. 76-81 12. --, pp. 82-87 13. Viewing "The Hounds of Baskerville" (1) 14. Viewing "The Hounds of Baskerville" (2) 15. Wrap-up 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	The students will be assigned to read about 10 pages and fill in worksheets.		
テキスト、参考文献	Arthur Conan Doyle, <i>The Hound of the Baskervilles</i> (Oxford University Press, 2008)		
評価方法	Participation 20%, Worksheet 30%, Mini-essays 30%, Final essay 20%		

09年度以降	英語専門講読 I (Reading oral histories)	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション研究や歴史学で扱われてきたオーラルヒストリー(口述の歴史)のアプローチで執筆された作品を読む授業である。主要テキストとして、ピューリッツァー賞を受賞したスタッズ・ターケルの晩年の著作、<i>Hope Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times</i> (日本語訳書名『希望—行動する人々』)および<i>Division Street: America</i>を扱う。前者では日本語訳書の未訳部分を読み、9.11以降の米国の様々な声に耳を傾けてその理解を図り、後者では1960年代の米国の状況の理解を図る。</p> <p>ターケルの書籍はインタビューに基づいて書かれたもので理論書ではない。授業で作品を読み進める際には、関連するコミュニケーション理論—声の文化・文字の文化、作者の役割、語り手の役割、視点、歴史とコミュニケーションの接点、公共圏—の紹介も行う。</p>		<p>1 授業概要の説明—オーラルヒストリー、コミュニケーション研究について</p> <p>2-14 <i>Hope Dies Last</i> および <i>Division Street</i> の講読</p> <p>15 まとめ</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	発表準備、未習単語の確認・既習単語の復習、時代背景、社会背景の調査など		
テキスト、参考文献	Terkel, Studs. <i>Hope Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times</i> . New York: New Press, 2003. ---. <i>Division Street: America</i> . New York: New Press, 2006 (1967). 【参考文献】ターケル他の著作		
評価方法	授業内小テスト・授業コメント・授業活動参加(50%)、発表(30%)、レポート(20%)		

09年度以降	英語専門講読 II (Reading oral histories)	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、ターケルの <i>Hope Dies Last</i> および <i>Division Street</i> の講読を続ける。春学期で読めなかった部分を扱う。</p> <p>* 春学期・秋学期ともに、(1) 作品の言語レベルでの理解、(2) 作品への賛同・異論・批判などに基づく発表やクラスディスカッションを行う。学生は該当箇所のまとめ、質問、ディスカッションのリーダーなどを行うことが求められる。</p>		<p>1 授業概要の説明—オーラルヒストリー、コミュニケーション研究について</p> <p>2-14 <i>Hope Dies Last</i> および <i>Division Street</i> の講読</p> <p>15 まとめ</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	発表準備、未習単語の確認・既習単語の復習、時代背景、社会背景の調査など		
テキスト、参考文献	Terkel, Studs. <i>Hope Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times</i> . New York: New Press, 2003. ---. <i>Division Street: America</i> . New York: New Press, 2006 (1967). 【参考文献】ターケル他の著作		
評価方法	授業内小テスト・授業コメント・授業活動参加(50%)、発表(30%)、レポート(20%)		

09年度以降	英語専門講読 I (Deconstructing "Japaneseness")	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代日本の文化や社会の動態について、エスニシティやジェンダー、地域多様性、ポップカルチャーなどを題材に考えてみたいと思います。</p> <p>従来、日本社会についての諸研究は「日本人らしさ」や「国民性」などを所与のものとして扱うものが主流でしたが、この授業ではこうした視点を批判的に検討し、マルチカルチャルな視点から現代日本の現状を捉えることを目指します。</p> <p>教材として扱うのは、社会学者によって書かれた日本研究の基本的な(=英語圏の大学生向け)文献です。</p> <p>授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。</p> <p>なお、教材については、各自アマゾン等で購入するか、各自図書館で必要な箇所をコピーしてください。</p>		<p>1. 趣旨説明・グループ分け(初回授業で発表スケジュール等を決めるので、必ず出席すること。万が一、出席できない[できなかった]場合は、メールで履修の意思を担当教員に伝えること。)</p> <p>2. 本授業で扱うテーマについての解説1(講義)</p> <p>3. 本授業で扱うテーマについての解説2(講義)</p> <p>4~14. テキストの内容紹介・ディスカッション</p> <p>15. まとめ</p> <p>※ この授業では、テキストの中から、以下の5つの章を扱います。</p> <p>1. Japan Phenomenon and the Social Sciences</p> <p>3. Geographical and Generational Variations</p> <p>6. Gender Stratification and the Family System</p> <p>7. Minority Groups: Ethnicity and Discrimination</p> <p>9. Popular Culture and Everyday Life</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	一定の社会的素養が求められるので、日本語で書かれた社会学の基本文献等を併せて読むことが望ましい。		
テキスト、参考文献	Sugimoto, Yoshio 2014. <i>An Introduction to Japanese Society (Forth Edition)</i> . Cambridge and New York: Cambridge University Press. 【版に注意すること】		
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席(遅刻は2回で欠席1回に換算)で単位認定の資格を失う。		

09年度以降	英語専門講読 II (Deconstructing "Japaneseness")	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代日本の多民族・多文化状況をテーマに、長期間のフィールドワークにもとづいて書かれた民族誌(エスノグラフィ)の読解・議論を通じて、多文化共生の可能性や課題について考えます。</p> <p>班ごとにテーマを決め、在日コリアンやムスリム、日系ブラジル人、フィリピン人女性などについて書かれたテキストの内容紹介をしてもらいます。その上で、首都圏近郊のエスニック・タウン(新大久保、池袋、高田馬場、三河島、八潮、竹の塚、大泉町、鶴見など)にて、プチ・フィールドワークを行ない、その成果を学期末に報告をしてもらいます。</p> <p>授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。</p> <p>また、英語文献を教材として扱いますが、英文読解力の向上にとどまらず、グローバル化が加速化している今日的状況を「文化」という視点から考えるための文化人類学的・社会的思考を養うことを目的とします。</p>		<p>1. 講義</p> <p>2~14. テキストの内容紹介・ディスカッション</p> <p>15. 総合討論・まとめ</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日本の移民や難民を取り巻く状況について、新聞記事等で情報収集をしておくこと。		
テキスト、参考文献	初回の授業で、論文リスト(基本的には学術雑誌所収論文)を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。入手困難なものについては、担当者が配布する。		
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席(遅刻は2回で欠席1回に換算)で単位認定の資格を失う。		

09年度以降	英語専門講読 I (Conflict, Peace and Development)	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「Conflict and Development」をテーマとして、様々な角度から紛争と開発に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題の理解を深めることを目的としています。授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関連した英語の書籍・論文をテキストとして使用します。 2. 英語のプレゼンテーションとグループ討論（グループ討論の言語は受講生のレベルをみてから決定）形式で進めます。 3. 主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。グループ・ワークは、学年混合のグループで行います。 <p>授業の流れは以下のとおりです。 プレゼン内容（章・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループによる討論→小グループごとのまとめ発表→全体での討論・まとめ。 授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 紛争・平和と開発問題に関心のある学生の参加を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等 2. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 3. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 4. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 5. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 6. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 7. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 8. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 9. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 10. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 11. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 12. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 13. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章・論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイント）の他、事後にもグループ討論において出された質問への回答を準備する場合があります。		
テキスト、参考文献	<i>Conflict and Development</i> (Routledge Perspective on Development) Mac Ginty & Roger, Routledge, 2016 を資料する予定ですが、詳細については、最初の授業で説明します。		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業への貢献度で総合的に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 II (Conflict, Peace and Development)	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「Conflict and Development」をテーマとして、様々な角度から紛争と開発に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題の理解を深めることを目的としています。授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関連した英語の書籍・論文をテキストとして使用します。 2. 英語のプレゼンテーションとグループ討論（グループ討論の言語は受講生のレベルをみてから決定）形式で進めます。 3. 主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。グループ・ワークは、学年混合のグループで行います。 <p>授業の流れは以下のとおりです。 プレゼン内容（章・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループによる討論→小グループごとのまとめ発表→全体での討論・まとめ。 授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 紛争・平和と開発問題に関心のある学生の参加を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等 2. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 3. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 4. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 5. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 6. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 7. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 8. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 9. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 10. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 11. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 12. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 13. プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章・論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイント）の他、事後にもグループ討論において出された質問への回答を準備する場合があります。		
テキスト、参考文献	<i>Conflict and Development</i> (Routledge Perspective on Development) Mac Ginty & Roger, Routledge, 2016 を資料する予定ですが、詳細については、最初の授業で説明します。		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業への貢献度で総合的に評価します。		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) (月4) Academic Writing	担当者	M. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have a number of opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research T1 3. Using Evidence to Support Ideas T2 4. Sourcing Information T3 5. Developing a Project T4 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus T5 8. Introductions, Conclusions and Definitions T6 9. Incorporating Data and Illustration T7 10. Preparing for Presentation T8 11. Giving Critical Feedback 12. Presentation and Peer Evaluation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Group Research Projects - final paper due 15. Course Review and Evaluations 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	McCormack, J., Slaght, J., (2012). <i>English for Academic Study: Extended Writing and Research Skills</i> , Garnet Education.		
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) (月4) Academic Writing	担当者	M. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have a number of opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research T1 3. Using Evidence to Support Ideas T2 4. Sourcing Information T3 5. Developing a Project T4 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus T5 8. Introductions, Conclusions and Definitions T6 9. Incorporating Data and Illustrations T7 10. Preparing for Presentations T8 11. Giving Critical Feedback 12. Presentations and Peer Evaluations 13. Presentations and Peer Evaluations 14. Group Research Projects – final paper due 15. Course Review and Evaluations 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	McCormack, J., Slaght, J., (2012). <i>English for Academic Study: Extended Writing and Research Skills</i> , Garnet Education.		
評価方法	Class involvement,20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills in order to produce longer papers. There will be a number of in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Workshop – What is academic writing 3. Library and internet-based research skills 4. Paraphrase and summary skills 1 5. Paraphrase and summary skills 2 6. Narrowing the topic—mid- term paper 7. The structure of a longer paper 8. Citation and reference skills 9. Editing and proofreading a longer essay 10. Combining sources - topic for final paper 11. Making a questionnaire/ case study 12. Revisiting introductions and conclusions 13. Editing and proofreading 14. Presenting research 15. Sharing the final product 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Student must review materials before class and after class, submit assignments and revise them.		
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper, 30%; final paper and presentation 50%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills in order to produce longer papers. There will be a number of in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Workshop – What is academic writing 3. Library and internet-based research skills 4. Paraphrase and summary skills 1 5. Paraphrase and summary skills 2 6. Narrowing the topic—mid- term paper 7. The structure of a longer paper 8. Citation and reference skills 9. Editing and proofreading a longer essay 10. Combining sources – topic for final paper 11. Making a questionnaire/ case study 12. Revisiting introductions and conclusions 13. Editing and proofreading 14. Presenting research 15. Sharing the final product 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Student must review materials before class and after class, submit assignments and revise them.		
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper, 30%; final paper and presentation 50%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace.</p> <p>We will use a course book in business English with reading and writing materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations.</p> <p>By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Mergers: writing a press release 3. Projects: writing an email 4. Meetings: writing a memo 5. Automation: writing a letter 6. Technology: writing a formal email 7. Advertising: writing a fax 8. Negotiating: writing a letter 9. Brands: writing a formal email 10. Business plans: writing a memo 11. Resources: writing a short report 12. Microfinance: writing a letter 13. Training: writing a short report 14. Review 15. Feedback 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.		
テキスト、参考文献	Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate by Tonya Trappe and Graham Tullis, published by Pearson. ISBN: 978-1-4082-5601-5		
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%).		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to refine the writing skills students have developed in previous writing courses to write academic essays.</p> <p>The textbook takes you step-by-step through writing expository, argumentative, and compare and contrast essays. It shows you how to use material from different sources and incorporate it into your essays to complete academic writing tasks.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Essay structure 3. Body, concluding paragraph and outlining 4. Improving your work 5. Research and citation 6. In-text citation and Works Cited list 7. Developing arguments 8. Organizing argumentative essays 9. Improving your work 10. Compare and contrast essay structure 11. Describing similarities and differences 12. Improving your work 13. Editing 14. Review 15. Feedback 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing the reading and vocabulary each week: 30 minutes. Two essays: an average of an hour a week.		
テキスト、参考文献	Academic Writing Skills Student's Book 2 by Peter Chin et al, published by Cambridge University Press. ISBN: 978-1-107-62109-1		
評価方法	Grades will be based on class participation (30%), homework writing activities (30%) and two essays (40%).		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	J. E. マジャーラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Academic Writing (Business) course is to develop students' professional writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer business texts, and from writing on simpler topics to more complex, international ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1.To help students understand the typical structure of a 'good' business correspondence</p> <p>2.To help students understand (genre-specific) patterns of business organization</p> <p>3.To help students plan professional writings</p> <p>4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources</p> <p>5.To help students revise and edit their writing</p> <p>6.To help students develop computer literacy skills</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction. Emails 2. Faxes 3. Letters 4. Content and Style 5. Enquiries 6. Replies and quotations 7. Mid-term test. Payment 8. Complaints and adjustments 9. Credit 10. Banking 11. Agents and agencies 12. Transportation and shipping 13. Insurance 14. Miscellaneous 15. Final test 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use PORTAL to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance 20%, Midterm test 20%, Class assignments 20%, Final paper 40%		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on the development of advanced creative writing skills. Students will be tasked with weekly assignments that are aimed at facilitating self-expression and English language writing development. In addition, students will be encouraged to share their works with each other in order to promote the development of English language communication and reading skills.</p> <p>Class periods will consist of the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Instruction on methods and techniques to improve student writing quality. 2. Brainstorming and idea sharing in groups 3. Sharing writings with classmates for peer review. 		<p>Students will be assigned a weekly short creative writing task due the next class period.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: Pre-writing / Brainstorming methods 2: Character development 3: Description techniques / Showing vs. Telling 4: Plot structure 5: Plot development 6: Viewpoint / First-Person narrative 7: Third-Person narrative 8: Omniscient perspective narrative 9: Detail writing 10: Dialogue 1 11: Dialogue 2 12: Review / Editing 13: Genre writing 1 14: Genre writing 2 15: Final review 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Work on the assigned essays and revise them after each class		
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the teacher		
評価方法	In-class performance and writing assignments		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on the development of advanced creative writing skills. Students will be tasked with weekly assignments that are aimed at facilitating self-expression and English language writing development. In addition, students will be encouraged to share their works with each other in order to promote the development of English language communication and reading skills.</p> <p>Class periods will consist of the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Instruction on methods and techniques to improve student writing quality. 2. Brainstorming and idea sharing in groups 3. Sharing writings with classmates for peer review. 		<p>Students will be assigned a weekly short creative writing task due the next class period.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: Pre-writing / Brainstorming methods 2: Character development 3: Description techniques / Showing vs. Telling 4: Plot structure 5: Plot development 6: Viewpoint / First-Person narrative 7: Third-Person narrative 8: Omniscient perspective narrative 9: Detail writing 10: Dialogue 1 11: Dialogue 2 12: Review / Editing 13: Genre writing 1 14: Genre writing 2 15: Final review 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Work on the assigned essays and revise them after each class		
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the teacher		
評価方法	In-class performance and writing assignments		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively. The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and course outline 2. Getting to know you - conversation activities 3. Writing and you. The creative process. 4. Creative space. 5. Narratives. 6. Forms of creative writing. 7. Workshop - peer review. 8. Aspects of genre. 9. The creative process 2. 10. Workshop - peer review. 11. Building ideas. 12. First draft peer review. 13. Second draft peer review. 14. Final portfolio submission and course review. 15. Exam period. 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write at home before classes, and review and edit after classes.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and a final portfolio of work (80%)		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) (水3) Academic Writing	担当者	M. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have a number of opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research T1 3. Using Evidence to Support Ideas T2 4. Sourcing Information T3 5. Developing a Project T4 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus T5 8. Introductions, Conclusions and Definitions T6 9. Incorporating Data and Illustration T7 10. Preparing for Presentation T8 11. Giving Critical Feedback 12. Presentation and Peer Evaluation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Group Research Projects - final paper due 15. Course Review and Evaluations 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	McCormack, J., Slaght, J., (2012). <i>English for Academic Study: Extended Writing and Research Skills</i> , Garnet Education.		
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) (水3) Academic Writing	担当者	M. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have a number of opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research T1 3. Using Evidence to Support Ideas T2 4. Sourcing Information T3 5. Developing a Project T4 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus T5 8. Introductions, Conclusions and Definitions T6 9. Incorporating Data and Illustrations T7 10. Preparing for Presentations T8 11. Giving Critical Feedback 12. Presentations and Peer Evaluations 13. Presentations and Peer Evaluations 14. Group Research Projects – final paper due 15. Course Review and Evaluations 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	McCormack, J., Slaght, J., (2012). <i>English for Academic Study: Extended Writing and Research Skills</i> , Garnet Education.		
評価方法	Class involvement,20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester only course.</p> <p>You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay.</p> <p>Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class.</p> <p>Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction / review of the basics 2 Essay 1 select topic / general v specific information 3 Introduction & conclusion technique 4 Introduction to internet research (part 1) 5 How to write the body / referencing 6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7 Editing essay 1 draft 8 Internet research (part2) / essay 1 final due 9 Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10 How to write an essay plan page in note style 11 How to write a bibliography 12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13 Editing essay 2 draft 14 Essay 2 final due / problem areas discussion 15 Essay 2 – collect essay / man-to man : final review of strong & weak points of essay 2 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary		
テキスト、参考文献	No textbook All materials provided by the teacher Electronic dictionary is OK		
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester only course.</p> <p>You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay.</p> <p>Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class.</p> <p>Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction / review of the basics 2 Essay 1 select topic / general v specific information 3 Introduction & conclusion technique 4 Introduction to internet research (part 1) 5 How to write the body / referencing 6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7 Editing essay 1 draft 8 Internet research (part2) / essay 1 final due 9 Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10 How to write an essay plan page in note style 11 How to write a bibliography 12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13 Editing essay 2 draft 14 Essay 2 final due / problem areas discussion 15 Essay 2 – collect essay / man-to man : final review of strong & weak points of essay 2 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary		
テキスト、参考文献	No textbook All materials provided by the teacher Electronic dictionary is OK		
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
初回授業にて指示する。		初回授業にて指示する。	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
初回授業にて指示する。		初回授業にて指示する。	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。		
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。		
評価方法	初回授業にて指示する。		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Advanced Writing course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The second issue is selected from a list of choices that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Each essay assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Post-class: Reviewing instructional materials Pre-class: Essay paragraph writing assignments, issue research, paraphrase preparation		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course.		
評価方法	Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Advanced Writing course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The second issue is selected from a list of choices that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Each essay assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Post-class: Reviewing instructional materials Pre-class: Essay paragraph writing assignments, issue research, paraphrase preparation		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course.		
評価方法	Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).		

09年度以降	College Grammar (月3) Introductory Grammar (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be 動詞の機能 (1) 13・Be 動詞の機能 (2) 14・Be 動詞の機能 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	College Grammar (月3) Introductory Grammar (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC 構文の下位区分 (1) 6・SVOC 構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	College Grammar (月5) Introductory Grammar (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be 動詞の機能 (1) 13・Be 動詞の機能 (2) 14・Be 動詞の機能 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	College Grammar (月5) Introductory Grammar (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC 構文の下位区分 (1) 6・SVOC 構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	College Grammar (火3) Introductory Grammar (再履修)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>レキシカル・グラマーの観点から英語コミュニケーション能力向上に資する教育英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙(レキシコン)に文法情報(グラマー)が含まれているという前提に立って、語のコア(本質的な意味)に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。</p> <p>レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ (semantic motivation)」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。</p> <p>英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text (テキストにおける文法)の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 レキシカル・グラマーの世界 2. 前置詞の用法展開 3. Grammar in text I 前置詞の空間的イメージ 4. WILL とテンス 5. Grammar in text II 未来表現とテンス・アスペクト 6. 冠詞の使用原理と名詞チャンクの基本構造 7. Grammar in text III 名詞形への感性を磨く 8. GIVE のコアと構文展開と句動詞 9. Grammar in text IV 基本動詞の表現世界 10. AS の構文的多様性 比較、比例、同時、同様など 11. Grammar in text V 複文構造に慣れる 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：A-202</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出 (PorTa 上にファイル形式で提出)。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。		
テキスト、参考文献	テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』(開拓社)。 参考文献：『表現英文法 GFE』(コスモピア)、『イメージでわかる単語帳』(NHK 出版)。		
評価方法	参加態度=25%;アサインメント=25%;プレゼンテーション=25%;ファイナルペーパー&自己評価(A4×5頁以上)=25%。4回以上欠席は単位を与えない。		

09年度以降	College Grammar (火3) Introductory Grammar (再履修)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期から継続して、レキシカル・グラマーの観点から英語コミュニケーション能力向上に資する教育英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙(レキシコン)に文法情報(グラマー)が含まれているという前提に立って、語のコア(本質的な意味)に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。</p> <p>レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ (semantic motivation)」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。</p> <p>英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text (テキストにおける文法)の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 レキシカル・グラマーの可能性 2. 前置詞の多義と文法化 3. Grammar in text I 前置詞の把握が解釈を決める 4. TO DO と ING の用法 5. Grammar in text II 不定詞・動名詞・分詞の意味世界 6. WH-構文のネットワーク 疑問詞~関係詞へ 7. Grammar in text III WH 構文を自在に操る 8. 態度表明を示す法助動詞 MAY, MUST, CAN など 9. Grammar in text IV 話し手の主観を読み解く 10. IT&THAT とその構文展開 11. Grammar in text V IT・THAT から見えてくること 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ <p>※「前置詞」は春学期も学ぶが、特に重要な項目であるため、秋学期も再度扱うものとする。 ※上記内容はクラス状況に応じて調整・変更することがある。 割当教室：A-202</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出 (PorTa 上にファイル形式で提出)。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。		
テキスト、参考文献	テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』(開拓社)。 参考文献：『表現英文法 GFE』(コスモピア)、『イメージでわかる単語帳』(NHK 出版)。		
評価方法	参加態度=25%;アサインメント=25%;プレゼンテーション=25%;ファイナルペーパー&自己評価(A4×5頁以上)=25%。4回以上欠席は単位を与えない。		

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその理解の深め方の方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、講義の概要 2. 場所扱いか道具扱いか 1 3. 場所扱いか道具扱いか 2 4. 自動詞+前置詞は他動詞か 1 5. 自動詞+前置詞は他動詞か 2 6. 〈道具〉はいつ主語になれるか 1 7. 〈道具〉はいつ主語になれるか 2 8. 再帰代名詞の不思議 1 9. 再帰代名詞の不思議 2 10. EAT ATは EATとどう違うのか 1 11. EAT ATは EATとどう違うのか 2 12. Mary hit John on the head.の構文 1 13. Mary hit John on the head.の構文 2 14. I did the book.=「私はその本をした」? 1 15. I did the book.=「私はその本をした」? 2 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントの事前の予習と復習。		
テキスト、参考文献	中右実 (1995-1998)「発見の英文法 連載 1~7」『高校英語展望』第 8号~第 14号. 小学館・尚学図書.		
評価方法	試験ないしレポート (100%) の成果による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその理解の深め方の方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、講義の概要 2. 「数の一致」はどのように決まるか 1 3. 「数の一致」はどのように決まるか 2 4. 絶対複数名詞 trousers の不思議 1 5. 絶対複数名詞 trousers の不思議 2 6. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 1 7. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 2 8. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 3 9. 秤の変遷: scales から scale への道 1 10. 秤の変遷: scales から scale への道 2 11. なぜ in a carなのに on a busなのか 1 12. なぜ in a carなのに on a busなのか 2 13. なぜ in a carなのに on a busなのか 3 14. なぜ at night というのに at day とはいわないか 1 15. なぜ at night というのに at day とはいわないか 2 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントの事前の予習と復習。		
テキスト、参考文献	中右実 (1998-2001)「発見の英文法 連載 8~20」『高校英語展望』第 15号~第 20号. 小学館・尚学図書.		
評価方法	試験ないしレポート (100%) の成果による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	College Grammar (水4) Introductory Grammar (再履修)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>レキシカル・グラマーの観点から英語コミュニケーション能力向上に資する教育英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙(レキシコン)に文法情報(グラマー)が含まれているという前提に立って、語のコア(本質的な意味)に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。</p> <p>レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ (semantic motivation)」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。</p> <p>英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text (テキストにおける文法)の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 レキシカル・グラマーの可能性 2. 前置詞の多義と文法化 3. Grammar in text I 空間詞に注目したテキスト解釈 4. TO DO と ING の用法 5. Grammar in text II 不定詞・動名詞・分詞の意味世界 6. WH構文のネットワーク 疑問詞～関係詞へ 7. Grammar in text III WH 構文の多様な展開 8. 態度表明を示す法助動詞 MAY, MUST, CAN など 9. Grammar in text IV 話し手の主観を読み解く 10. IT&THAT とその構文展開 11. Grammar in text V IT・THAT の解釈可能性 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：A-201</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出 (PorTa 上にファイル形式で提出)。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』(開拓社)。</p> <p>参考文献：『表現英文法 GFE』(コスモピア)，『イメージでわかる単語帳』(NHK 出版)。</p>		
評価方法	参加態度＝25%；アサインメント＝25%；プレゼンテーション＝25%；ファイナルペーパー&自己評価 (A4×5 頁以上)＝25%。4 回以上欠席は単位を与えない。		

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使われるのか?」、「この単語の品詞は何だろう?」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでのいであつたのではないのでしょうか。受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、一定の説明を与えることを試みます。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思ひます。英文法の諸現象には、まだ十分に説明されていないものがたくさんあります。先生の説明を鵜呑みにするのではなく、皆さんなりの説明を見つけることを試みましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な文法体系の概要 (認知文法、生成文法、伝統文法など) 2. 文のタイプ 3. 自動詞と他動詞 4. アスペクトによる動詞の分類 5. 本動詞、助動詞としての be, do, have 6. 時制 7. 完了形 8. 進行形 9. 法助動詞(can, will) 10. 法助動詞(may, should) 11. 態 12. to 不定詞 13. 過去分詞 14. 現在分詞と動名詞 15. まとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現の視覚的イメージを試作し、事後は授業で提示されたイメージと比較する。		
テキスト、参考文献	ジーニアス英和辞典第5版または第4版を持参すること。(印刷版、電子版のいずれでも可)		
評価方法	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)の配分で算出する。		

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について、検討し、納得できる説明を得ることを目指します。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思ひます。たとえば、なぜ仮定法では時制が過去方向にずれるのでしょうか? 疑問詞と関係詞には、なぜ同じ単語が用いられるのでしょうか? 多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか? no と not には、どのような相違があるのでしょうか? こうした疑問について、こちらから特定の説明法を押し付けることははしませんので、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、認知文法、生成文法、伝統文法など、様々な視点からまとめられた文法体系の考え方を比較、検証し、また自ら思索することによって、皆さんなりの解答を見つけて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の内容を概観 2. 仮定法 3. 疑問詞 4. 接続詞 5. 関係詞 6. 前置詞 7. 名詞 8. 冠詞 9. 代名詞 10. 形容詞 11. 副詞 12. 比較 13. 否定(完全否定、部分否定、準否定) 14. 否定(no と not の相違、鯨の構文) 15. まとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現の視覚的イメージを試作し、事後は、授業で提示されたイメージと比較する。		
テキスト、参考文献	ジーニアス英和辞典第5版または第4版を持参すること。(印刷版、電子版のいずれでも可)		
評価方法	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)の配分で算出する。		

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした英語語法・文法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。そうすると、次第に表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、ネイティブスピーカーが無意識に身につけてきた英語の感覚・イメージを探っていく習慣が身につく、結局はこの方法がもっとも効率の良い英語が学習方法である、ということがわかるようになります。この授業は、日本語には無くて日本人にはもっとも習得の難しいとされる冠詞の a か the の付く名詞表現、それに加え、冠詞も・s も付かない名詞表現 (はだか名詞) の使用法を会得することを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語のものの捉え方 2. 同上 3. 不定冠詞付名詞と複数名詞 vs. はだか名詞 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 定冠詞 the の意味機能 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントをよく読み質問事項を整理し、事後は小テストに備え、課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	グーグルドライブからダウンロード印字するプリント		
評価方法	最終成績は定期試験 60%、課題 20%、小テスト 20%による。		

09年度以降	College Grammar (金3) Introductory Grammar (再履修)	担当者	朝江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p>講義概要 春学期は、文を構成する各要素について学習する。まず、述語動詞と準動詞について学ぶ(授業計画2~7参照)。次に、それら以外の各要素について学ぶ(授業計画8~14参照)。 この講義は、英語学の知識を講義参加の前提としないが、英語学への興味と予習を講義参加の前提とする。座っていれば単位が取れる授業ではなく、学ぶ準備をしっかり行う学生を歓迎する。学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することがある。秋学期に本講義担当者のカレッジグラマーを単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。 ※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 述語動詞 I 3. 述語動詞 II (1) 4. 述語動詞 II (2) 5. 不定詞 6. 分詞 7. 動名詞 8. 名詞 9. 代名詞 (1) 10. 代名詞 (2) 11. 形容詞 12. 冠詞 13. 副詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回テキスト5ページから10ページの予習箇所を指定するので、辞書を丹念に引き、予習してくる。		
テキスト、参考文献	テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：なし		
評価方法	授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。		

09年度以降	College Grammar (金3) Introductory Grammar (再履修)	担当者	朝江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p>講義概要 秋学期は、動詞に関連する文法事項を学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ(授業計画2~9参照)。次に、間違え易い文法事項を学ぶ(授業計画10~14参照)。 この講義は、英語学の知識を講義参加の前提としないが、英語学への興味と予習を講義参加の前提とする。座っていれば単位が取れる授業ではなく、学ぶ準備をしっかり行う学生を歓迎する。学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することがある。春学期に本講義担当者のカレッジグラマーを単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。 ※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞 (1) 4. 助動詞 (2) 5. 助動詞 (3) 6. 時制 (1) 7. 時制 (2) 8. 呼応と時制の一致 (1) 9. 呼応と時制の一致 (2) 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞 (1) 13. 関係代名詞 (2) 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回テキスト5ページから10ページの予習箇所を指定するので、辞書を丹念に引き、予習してくる。		
テキスト、参考文献	テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：なし		
評価方法	授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。		

09年度以降	College Grammar (金4) Introductory Grammar (再履修)	担当者	朝江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>春学期は、文を構成する各要素について学習する。まず、述語動詞と準動詞について学ぶ(授業計画2~7参照)。次に、それら以外の各要素について学ぶ(授業計画8~14参照)。</p> <p>この講義は、英語学の知識を講義参加の前提としないが、英語学への興味と予習を講義参加の前提とする。座っていれば単位が取れる授業ではなく、学ぶ準備をしっかり行う学生を歓迎する。学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することがある。秋学期に本講義担当者のカレッジグラマーを単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 述語動詞 I 3. 述語動詞 II (1) 4. 述語動詞 II (2) 5. 不定詞 6. 分詞 7. 動名詞 8. 名詞 9. 代名詞 (1) 10. 代名詞 (2) 11. 形容詞 12. 冠詞 13. 副詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回テキスト5ページから10ページの予習箇所を指定するので、辞書を丹念に引き、予習してくる。		
テキスト、参考文献	テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：なし		
評価方法	授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。		

09年度以降	College Grammar (金4) Introductory Grammar (再履修)	担当者	朝江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>秋学期は、動詞に関連する文法事項を学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ(授業計画2~9参照)。次に、間違え易い文法事項を学ぶ(授業計画10~14参照)。</p> <p>この講義は、英語学の知識を講義参加の前提としないが、英語学への興味と予習を講義参加の前提とする。座っていれば単位が取れる授業ではなく、学ぶ準備をしっかり行う学生を歓迎する。学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することがある。春学期に本講義担当者のカレッジグラマーを単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞 (1) 4. 助動詞 (2) 5. 助動詞 (3) 6. 時制 (1) 7. 時制 (2) 8. 呼応と時制の一致 (1) 9. 呼応と時制の一致 (2) 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞 (1) 13. 関係代名詞 (2) 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回テキスト5ページから10ページの予習箇所を指定するので、辞書を丹念に引き、予習してくる。		
テキスト、参考文献	テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：なし		
評価方法	授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Discussing an example news article 3. Developing mind-map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind-map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking Test 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Post-class: Reviewing instructional materials Pre-class: Preparing mind-maps, preparing discussion questions, preparing vocabulary, preparing to discuss classmates' questions		
テキスト、 参考文献	No textbook is required for this course.		
評価方法	Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Discussing an example news article 3. Developing mind-map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind-map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Post-class: Reviewing instructional materials Pre-class: Preparing mind-maps, preparing discussion questions, preparing vocabulary, preparing to discuss classmates' questions		
テキスト、 参考文献	No textbook is required for this course.		
評価方法	Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Let's speak lots of English Together</p> <p>Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Possible First Semester Topics</p> <p>Introduction to the course of studies. Why learn English. Attitudes towards women. Other gender issues.</p> <p>Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.		
テキスト、 参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library		
評価方法	Class work, homework, voc tests 40%, participation and effort, 30%, Final evaluations 30%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Let's speak lots of English Together</p> <p>Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Possible Second Semester Topics</p> <p>Brief introduction/welcome back to class. Computers and society. Ageing Society. The Automobile.</p> <p>Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.		
テキスト、 参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library.		
評価方法	Class work, homework, voc tests 40%, participation and effort, 30%, Final evaluations 30%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of this course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English.</p> <p>Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives.</p> <p>This is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will use English Only for all classroom activities.</p>		<p>Week 1: Course Introduction & Discussion</p> <p>Week 2: Topic 1: Offbeat Jobs</p> <p>Week 3: Offbeat Jobs, continued</p> <p>Week 4: Topic 2: Building a Better Community</p> <p>Week 5: Communities, continued</p> <p>Week 6: Topic 3: A Penny Saved</p> <p>Week 7: A Penny Saved, continued</p> <p>Week 8: Topic 4: Innocent or Guilty</p> <p>Week 9: Innocent or Guilty, continued</p> <p>Week 10: Topic 5: Etiquette</p> <p>Week 11: Etiquette, continued</p> <p>Week 12: Presentation Skills I</p> <p>Week 13: Presentation Skills II</p> <p>Week 14: Workshop & Review</p> <p>Week 15: Final Presentations</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	North Star Listening and Speaking 2 (4 th Edition)		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, quizzes, and in-class presentations.		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of this course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English.</p> <p>Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives.</p> <p>This is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will use English Only for all classroom activities.</p>		<p>Week 1: Course Review & Discussion</p> <p>Week 2: Topic 1: Games</p> <p>Week 3: Games, continued</p> <p>Week 4: Topic 2: Food</p> <p>Week 5: Food, continued</p> <p>Week 6: Topic 3: An Ice Place to Stay</p> <p>Week 7: Ice Place, continued</p> <p>Week 8: Topic 4: Staying Healthy</p> <p>Week 9: Staying Healthy, continued</p> <p>Week 10: Topic 5: Endangered Languages</p> <p>Week 11: Endangered Languages, continued</p> <p>Week 12: Presentation Skills III</p> <p>Week 13: Presentation Skills IV</p> <p>Week 14: Workshop & Review</p> <p>Week 15: Final Presentations</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	North Star Listening and Speaking 2 (4 th Edition)		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, quizzes, and in-class presentations.		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & news article Week 6: Discussions & quiz Week 7: Discussions & news article Week 8: Discussions & vocabulary quiz Week 9: Discussions & news article Week 10: Discussions & quiz Week 11: Discussions & news article Week 12: Discussions & vocabulary quiz Week 13: Discussions & notebook writing Week 14: Discussions & submit notebooks Week 15: Review and feedback</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Weekly entries of new vocabulary will be made in notebooks. Students will listen to and read news reports on websites.		
テキスト、 参考文献	None. Materials will be provided by both the instructor and students.		
評価方法	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & news article Week 6: Discussions & quiz Week 7: Discussions & news article Week 8: Discussions & vocabulary quiz Week 9: Discussions & news article Week 10: Discussions & quiz Week 11: Discussions & news article Week 12: Discussions & vocabulary quiz Week 13: Discussions & notebook writing Week 14: Discussions & submit notebooks Week 15: Review and feedback</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Weekly entries of new vocabulary will be made in notebooks. Students will listen to and read news reports on websites.		
テキスト、 参考文献	None. Materials will be provided by both the instructor and students.		
評価方法	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火1) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions in modern English: eye contact; proper handshakes; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise. & discussion.</p> <p>Week 2: Review/practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to International communication)</i>.</p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ", and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about ____?" & "What do you think of ____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?" / "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?" communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i> in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations: 'GM' Food: Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of ____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining & using of International vs. Domestic etiquette and manners. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give street directions and/or train directions. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English), and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Body Language & EQ (Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your future plans (for the Summer), in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F").</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火1) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do...?" discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?" part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Halloween: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Halloween. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you...?" discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F").</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions in modern English: eye contact; proper handshakes; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise. & discussion.</p> <p>Week 2: Review/practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to International communication)</i>.</p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ", and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about ____?" & "What do you think of ____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?" / "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?" communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i> in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations: 'GM' Food: Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of ____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining & using of International vs. Domestic etiquette and manners. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give street directions and/or train directions. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English), and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Body Language & EQ (Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your future plans (for the Summer), in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F").</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do...?" discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?" part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Halloween: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Halloween. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you...?" discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F").</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火3) Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Presentation workshop</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation		
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火3) Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.</p> <p>※同一学期に、同一教員の重複履修不可</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Presentation workshop</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation		
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an intermediate-level context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues</p> <p>In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review 15. Evaluation 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)		
テキスト、参考文献	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.		
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an upper-intermediate context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues</p> <p>In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 15. Evaluation 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)		
テキスト、参考文献	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.		
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II.</p> <p>The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions. 		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction; tutorial on research and presentation 2. Group Discussions 3. Group Discussions 4. Group Presentations 5. Group Discussions 6. Discussion Tests 7. Group Discussions 8. Group Discussions 9. Individual Presentations 10. Individual Presentations 11. Group Discussions 12. Group Discussions 13. Discussion Tests 14. Final Presentations 15. Final Presentations 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Written reports 30%, Discussion tests 35%, Presentations 35%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II.</p> <p>The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions. 		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction; tutorial on research and presentation 2. Group Discussions 3. Group Discussions 4. Group Presentations 5. Group Discussions 6. Discussion Tests 7. Group Discussions 8. Group Discussions 9. Individual Presentations 10. Individual Presentations 11. Group Discussions 12. Group Discussions 13. Discussion Tests 14. Final Presentations 15. Final Presentations 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Written reports 30%, Discussion tests 35%, Presentations 35%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others.</p> <p>The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Narrative fictions - lying and describing. 4. Happiness. 5. Fear. 6. Structuring debates. 7. Persuasive language. 8. Student topics for debates. 9. Analyzing perspectives. 10. Student topics for debates. 11. Sadness. 12. Presentation preparation. 13. Presentations and discussion. 14. Presentations and discussion. 15. Exam period. 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%) and final presentations (50%)		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Presentation workshop</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation		
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Presentation workshop</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation		
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions in modern English: eye contact; proper handshakes; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise. & discussion.</p> <p>Week 2: Review/practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to International communication)</i>.</p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ", and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about ____?" & "What do you think of ____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?" / "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?" communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i> in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations: 'GM' Food: Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of ____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining & using of International vs. Domestic etiquette and manners. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give street directions and/or train directions. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English), and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Body Language & EQ (Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your future plans (for the Summer), in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F").</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do...?" discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?" part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Halloween: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Halloween. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you...?" discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p>Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F").</p> <p>b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木3) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要 The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss World Issues , from an International point of view; c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i> . ※同一学期に同一教員の重複履修は不可		授業計画 <small>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</small> Week 1: Introductions in modern English; eye contact; proper handshakes; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to International communication.)</i> Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions , part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)] Week 4: Communicating about future plans . "What are your plans for Golden Week?" / "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?" communicating a past experience ...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions : asking for and communicating <i>street directions</i> in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your hobbies . Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations: 'GM' Food: Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?" Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc. , in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic etiquette and manners . Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give street directions and/or train directions . Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: Body Language & EQ (Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally). Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your future plans (for the Summer) , in English. Pair practice. Final student presentations.	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
評価方法	<small>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</small>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions. 		<p>Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Student presentations</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the readings and prepare their presentations before we have class.		
テキスト、参考文献	Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House		
評価方法	Classroom Participation: 50%, Presentations: 50%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas 		<p>Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Student presentations</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the readings and prepare their presentations before we have class.		
テキスト、参考文献	Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House		
評価方法	Classroom Participation: 50%, Presentations: 50%		

09年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the chapters in the textbook before we have class.		
テキスト、参考文献	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman		
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%		

09年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the chapters in the textbook before we have class.		
テキスト、参考文献	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman		
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%		

09年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage.</p> <p>Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.</p> <p>Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students must carefully think and research the topics to be discussed in class. You are also required to complete a written summary of the topic in a class portfolio.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.		

09年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage.</p> <p>Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.</p> <p>Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 5 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 6 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 7 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 8 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students must carefully think and research the topics to be discussed in class. You are also required to complete a written summary of the topic in a class portfolio.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.		

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice.</p> <p>The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups.</p> <p>The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the library books and the internet.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60% 		

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice.</p> <p>The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups.</p> <p>The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the library books and the internet.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60% 		

09年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion. Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree. 4. Creating discussions. 5. My discussion articles. 6. Your discussion articles. 7. Opposing viewpoints. 8. Controversial issues. 9. Your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics, partnering and preparation. 12. Student-led class discussion preparation. 13. Student-led class discussions. 14. Student-led class discussions. 15. Exam period. 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)		

09年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion. Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree. 4. Creating discussions. 5. My discussion articles. 6. Your discussion articles. 7. Opposing viewpoints. 8. Controversial issues. 9. Your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics, partnering and preparation. 12. Student-led class discussion preparation. 13. Student-led class discussions. 14. Student-led class discussions. 15. Exam period. 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)		

09年度以降	Discussion	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, the students will be provide with ample opportunities to speak English through discussions, debates and active role plays. We will focus on spoken English in this course, with emphasis on expressing opinions, giving speeches and conducting presentations. This will be an educational and fun course !		1. Introduction/orientation 2. Discussion Travel 3. “ 4. Presentation 5. Presentation 6. Discussion Music 7. “ 8. Presentation 9. Presentation 10 Discussion (Final) 11 “ 12 Presentation My Passion 13 “ 14 “ 15 “	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.		
テキスト、参考文献	No text will be used for this course. The instructor shall provide all materials.		
評価方法	Participation, presentations		

09年度以降	Discussion	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as above		1. Same as above 2. 3. 4. 5. 6. 7 8 9 10 11 12 13 14 15	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.		
テキスト、参考文献	Same as above		
評価方法	Same as above		

09年度以降	Discussion	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course to discuss and analyze relevant socio-cultural topics in English. Students will be expected to participate in classroom discussions and take notes. Students will be quizzed on “emergent vocabulary” which they will provide during the discussion sessions in class.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an opportunity for students to express themselves in English. 2. Students will be encouraged to think critically and discuss modern issues related to both their local and international spheres. 3. To expand the students’ vocabulary in a meaningful and memorable way. 		<p>Weekly Chapter Plan</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction / Syllabus 2. Employment 3. Standards of beauty 4. Love and culture part 1 5. Love and culture part 2 6. What is cool? 7. LGBT 8. Culture shock 9. Identity 10. Magic 11. Equality part 1 12. Equality part 2 13. Equality part 3 14. Review 15. Final 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Research next discussion topic and review vocabulary from the lesson		
テキスト、参考文献	All materials will be provided by the teacher.		
評価方法	Participation in discussion and vocabulary assignments will both count towards a grade.		

09年度以降	Discussion	担当者	S. S. スティラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course to discuss and analyze relevant socio-cultural topics in English. Students will be expected to participate in classroom discussions and take notes. Students will be quizzed on “emergent vocabulary” which they will provide during the discussion sessions in class.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an opportunity for students to express themselves in English. 2. Students will be encouraged to think critically and discuss modern issues related to both their local and international spheres. 3. To expand the students’ vocabulary in a meaningful and memorable way. 		<p>Weekly Chapter Plan</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Discussion strategies 3. Debate part 1 4. Debate part 2 5. Logical fallacies 6. Student lead discussion 1 7. Student lead discussion 2 8. Student lead discussion 3 9. Hot Topic: Contracts 10. Hot Topic: Racism 11. Hot Topic: Tokenism in Japan 12. Hot Topic: On Wisconsin! 13. Review 14. Interview test 1 15. Interview test 2 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Research next discussion topic and review vocabulary from the lesson		
テキスト、参考文献	All materials will be provided by the teacher.		
評価方法	Participation in discussion and vocabulary assignments will both count towards a grade.		

09年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Syllabus Public Speaking I, making a presentation.</p> <p>In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking.</p> <p>Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.</p> <p>There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.</p>		<p>Week 1 Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation.</p> <p>Week 2 What listeners need. What speakers must do.</p> <p>Week 3 Topic : explain a future plan. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 4 Write and edit</p> <p>Week 5 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 6 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 7 Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 8 Write and edit</p> <p>Week 9 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 10 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 11 Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 12 Write and edit</p> <p>Week 13 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 14 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 15 Feedback, wrap-up.</p>	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will have research homework before writing a presentation, and practice homework before making a presentation.		
テキスト、参考文献	No Text		
評価方法	according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).		

09年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Syllabus Public Speaking I, making a presentation.</p> <p>In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking.</p> <p>Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.</p> <p>There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.</p>		<p>Week 1 Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation.</p> <p>Week 2 What listeners need. What speakers must do.</p> <p>Week 3 Topic : explain a future plan. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 4 Write and edit</p> <p>Week 5 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 6 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 7 Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 8 Write and edit</p> <p>Week 9 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 10 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 11 Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 12 Write and edit</p> <p>Week 13 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 14 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 15 Feedback, wrap-up.</p>	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will have research homework before writing a presentation, and practice homework before making a presentation.		
テキスト、参考文献	No Text		
評価方法	according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).		

09年度以降	Public Speaking I	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>Poster Presentation & Presentation</u></p> <p>This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of several presentations. Students will then give their own poster presentations and presentations. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Effective Public Speaking: skills & strategies 3. Effective Public Speaking: skills & strategies 4. Poster presentations--orientation 5. Poster presentations--analysis 6. Poster presentations--preparation 7. Poster presentations--preparation 8. Poster presentations 9. Individual presentations--orientation 10. Individual presentations--analysis 11. Individual presentations--preparation 12. Individual presentations--preparation 13. Individual presentations 14. Individual presentations 15. Critique and review 	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research for their presentations, and to come to class having prepared all homework assignments. (Approximately 4 hours homework each week.)		
テキスト、参考文献	Reading and discussion materials will be distributed in class.		
評価方法	Group poster presentation = 40%; Individual presentation – 40%; Participation = 20%.		

09年度以降	Public Speaking II	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>PRESENTATION</u></p> <p>This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. We will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of presentations. Students will then give their own presentations, on assigned topics and/or on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Orientation 2-3 Elements of presentations 4-5 Effective presentations—examples and discussion 6-8 Student presentations 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary 	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、「Public Speaking I」より高いレベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework/speeches ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	Many prints and photocopies may be distributed in class. If a textbook is required, one might be selected after assessing students needs, levels, and abilities.		
評価方法	2 presentations (drafts and final version)		

09年度以降	Debate I	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two goals in mind:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues. 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. <p>Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p> <p>As this is an election year in the Untied State, specially attention will be given to the analysis of the debates that are held during the campaign.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations</p>	
到達目標	討論という状況で、リサーチを基にして、中級レベルの英語で思考し、討論できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare debate material in advance of class as described in class, and will need to follow-up and review the topics debated in class. Specific methods of review will be presented.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be used and internet debates will be presented.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, notebooks 25%, and a final debate 25%		

09年度以降	Debate II	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of Debate I. The course will follow the same overall format of Debate I, but will address more advanced topics and allow more time for text analysis.</p> <p>Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates.</p> <p>We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p> <p>As this is an election year in the Untied State, specially attention will be given to the analysis of the debates that are held during the campaign.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 5 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 6 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 7 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 8 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations</p>	
到達目標	「Debate I」より高いレベルで、討論という状況で、リサーチを基にして、英語で思考し討論できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare debate material in advance of class as described in class, and will need to follow-up and review the topics debated in class. Specific methods of review will be presented.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be used and internet debates will be presented		
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, notebooks 25%, and a final debate 25%		

13年度以降	Academic Lecture (火3)	担当者	J. E. マジャーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【Modern Japanese History from the perspective of “soto” and “ie” (1968-1945)】</p> <p>The course is designed to introduce students to several aspects of Modern Japanese History and will not only explore the Political History of the country but also touch upon the Cultural, Economic and Religious aspects with frequent references to other disciplines. The assigned core readings are from selected articles that will be made available online. The coursework will also rely on student presentations – in addition to which – other information will be disclosed during classes, necessitating regular note-taking, active discussions and attendance. Students are welcome to request additional reading materials in various languages (English, Japanese, German, Italian, French, Hungarian).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Peasants on the move 3. Meiji Restoration and the West 4. Foreigners in Meiji and Taisho Japan 5. Two victorious wars: 1894-95 + 1904-05 6. Shinto as national identity 7. Midterm exam 8. Japan in international organizations and treaties 9. Japanese emigration 10. The silent opposition 11. The Greater East Asia Co-prosperity Sphere 12. Total war and its publications 13. Atrocities of WWII 14. Prisoners of war and forgotten civilians 15. Final exam 	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use PORTAL to receive notices from me.		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance 20%, Midterm exam 20%, Class presentation 20%, Final exam 40%		

13年度以降	Academic Lecture (月4)	担当者	D. シュールズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course draws from theories in media studies to introduce students to the critical examination of popular culture. Students will be asked to consider the role media play in the global circulation, distribution, and production of popular culture in Japan, particularly the impact governmental, industrial, and fan actors have on construction of the country as an analytical construct.</p> <p>With its wide range of practices and often vocal members, anime fandom and gaming are the perfect way to explore these themes. Students will draw from core texts in Fan Studies to evaluate the contributions of fansubbing to debates over copyright and piracy, governmental uses of culture as a way to promote the country, and the ways the creative industries leverage fan networks.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Anime History 3. Kawaii and Moe 4. Kawaii and Moe 5. Anime Fan Networks 6. Anime Fan Translations 7. Anime Fan Translations 8. Group Presentations 9. Soft Power 10. Cool Japan, Overview 11. Cool Japan and Gender 12. Gaming 13. Gaming 14. Review 15. Review 	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read the assigned material and review the lecture		
テキスト、参考文献	Texts available online		
評価方法	Participation; group projects; quizzes		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations.</p> <p>As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject.</p> <p><u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review 	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations.</p> <p>As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject.</p> <p><u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review 	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

13年度以降 12年度以前	Listening and Pronunciation (水3) Pronunciation Practice (再履修)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 様々な英語の音声媒体を聴いて積極的に演習に取り組むことにより、英語の聴解力とネイティブに近い発音の獲得を目標とする。同時に e-Learning プログラムをディクテーションの形で授業に組み込むことにより、履修後の自律学習への習慣をつけることも目指す。音声学の基礎知識を適宜盛り込みながら、英語のリズムやアクセント体系、及び子音・母音の特徴を学習し、実際のコミュニケーションへ応用できるように心がけていきたい。土台となる教材は教科書とするが、関連事項をウェブ教材などで補足することもある。</p> <p>概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペアワーク、録音などのタスクにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの説明・概要 2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明 3. 情報伝達のためのスピーチ 4. ニュースと天気予報 5. 説得のためのスピーチ 6. ウェブでのリスニング学習 (1) 7. 祝いの場でのスピーチ 8. 中間テスト及び映像を介した英語 (1) 9. 機内アナウンス : 雑音混じりの英語 10. 電話での音声案内 11. 詩と歌 : 英語のリズムと音のつながり (連結) 12. チャンツとラップ : 強弱や脱落のパターン 13. ウェブでのリスニング学習 (2) 14. 期末テスト及び映像を介した英語 (2) 15. 総復習 : 今期のまとめ 	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	教科書 『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著 (金星堂、2014年)		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

13年度以降 12年度以前	Listening and Pronunciation (水3) Pronunciation Practice (再履修)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 本講義では英語の歌曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞を分析すると、中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものがある。授業では一回につき一つの楽曲を取り上げ、その中でも音学的に特徴的な歌詞を中心として、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。各回の最後には、楽曲の背景を説明したオーディオ教材もあるので、リスニングの補強もここで目指していきたい。</p> <p>概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの説明・概要 2. 英語の楽曲について (マザーグース～洋楽) 3. 個別音とアルファベット 4. 日本人の苦手な子音 (1) 5. 日本人の苦手な子音 (2) 6. 日本人の苦手な母音 (1) 7. ウェブでのリスニング学習 (1) 8. 中間テスト及び映像を介した英語 (1) 9. 変化する音 (1) – 脱落 10. 変化する音 (2) – 連結 11. 変化する音 (3) – 融合 12. 韻を踏んでリズムをとる – ライミング 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト及び映像を介した英語 (2) 15. 総復習 : 今期のまとめ 	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	教科書 なし (毎回授業で資料を配布します)		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

13年度以降 12年度以前	Listening and Pronunciation (水5) Pronunciation Practice (再履修)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>目的</u> 様々な英語の音声媒体を聴いて積極的に演習に取り組むことにより、英語の聴解力とネイティブに近い発音の獲得を目標とする。同時に e-Learning プログラムをディクテーションの形で授業に組み込むことにより、履修後の自律学習への習慣をつけることも目指す。音声学の基礎知識を適宜盛り込みながら、英語のリズムやアクセント体系、及び子音・母音の特徴を学習し、実際のコミュニケーションへ応用できるように心がけていきたい。土台となる教材は教科書とするが、関連事項をウェブ教材などで補足することもある。</p> <p><u>概要</u> 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペアワーク、録音などのタスクにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの説明・概要 2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明 3. 情報伝達のためのスピーチ 4. ニュースと天気予報 5. 説得のためのスピーチ 6. ウェブでのリスニング学習 (1) 7. 祝いの場でのスピーチ 8. 中間テスト及び映像を介した英語 (1) 9. 機内アナウンス : 雑音混じりの英語 10. 電話での音声案内 11. 詩と歌 : 英語のリズムと音のつながり (連結) 12. チャンツとラップ : 強弱や脱落のパターン 13. ウェブでのリスニング学習 (2) 14. 期末テスト及び映像を介した英語 (2) 15. 総復習 : 今期のまとめ 	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	教科書 『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著 (金星堂、2014年)		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

13年度以降 12年度以前	英語の音声 英語音声学 (再履修)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について、その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語の様々な面について触れることにより、ことばの知の面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。</p> <p><メッセージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について、<u>一度しっかり学んでみませんか。</u> ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられないよ...」という声をよく聞きます。<u>知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今! この機会に学んでほしい。</u> ・1回目 (4/12(火)4限) から参加してください (見学も含む)。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 「音声学とは」 学際的領域, 学習者/指導者として 2. 第2章 「発声のメカニズム」 器官, 音声が進ぶ情報 3. 第3章 「音声表記」 綴りと発音, IPA 4. 第4章 「母音」 基本母音, 英語の母音 5. 「母音」(2) 日本語との比較 6. 第5章 「子音」 分類 7. 「子音」(2) 日本語との比較 8. 第3章 「音素と異音」 日本の干渉 9. 第6章 「音節」 音節構造と強勢と母音 10. 第7章 「語強勢」 11. 「語強勢」(2) フットリズム 日本語と英語 12. 第8章 「音縮小」 音縮小と統語構造, 第9章 「同時調音」 13. 第10章 「イントネーション」 音調核, 統語/意味構造, パラ言語 14. 「イントネーション」(2) 15. 音声学の応用 (教育・政策・社会学・臨床・工学等) 	
到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	音声学の基礎の講義であり、適宜、練習を取り入れる。学生はテキストの指定部分を読み、課題をやってくるのが必須となる。		
テキスト、参考文献	佐藤寧・佐藤努(1997)『現代の英語音声学』金星堂 その他 配布資料		
評価方法	授業参加(準備・参加):約 15%, クイズ・課題:約 15%, 試験:約 70%。 単位認定には 70%以上の出席が求められる		

13年度以降 12年度以前	英語の音声 英語音声学 (再履修)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。</p> <p>概要 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈(単語~文単位)で個々の音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。</p> <p>注) 発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース概要; 音声学とは 2. 発声のメカニズム 3. IPA; イギリス英語とアメリカ英語; 音素と異音 4. 母音の調音 5. 子音の調音 (1) 6. 子音の調音 (2) 7. <中間テスト> 8. 音節について音節を示す現象 9. 語強勢(ストレス)とリズム 10. 音縮小 11. 同時調音とイントネーション 12. 音響音声学/科学としての音声学 (1) 13. 音響音声学/科学としての音声学 (2) 14. Review 15. <期末テスト> 	
到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	教科書 『現代の英語音声学』佐藤寧・佐藤努著 (金星堂、1997年) 参考文献は授業中に適宜指示する。		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に、課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

09年度以降	通訳 I (水1)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 講義では、テキストを用いながら会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について考えていきます。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行います。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期内に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 政治 英日 3. 政治 日英 4. 技術 英日 5. 技術 日英 6. 犯罪 英日 7. 犯罪 日英 8. IT 通信 英日 9. IT 通信 日英 10. 産業 英日 11. 産業 日英 12. 医療厚生 英日 13. 医療厚生 日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012年		
評価方法	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など) (70%) および期末テスト (30%)		

09年度以降	通訳 I (水1)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みます。また、日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施するとともに、学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期内に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 教育 英日 3. 教育 日英 4. 国際関係 英日 5. 国際関係 日英 6. 環境 英日 7. 環境 日英 8. 軍事 英日 9. 軍事 日英 10. 医学 英日 11. 医学 日英 12. 経済 英日 13. 経済 日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012年		
評価方法	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など) (70%) および期末テスト (30%)		

09年度以降	通訳 I (水2)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 講義では、テキストを用いながら会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について考えていきます。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行います。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期内に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 政治 英日 3. 政治 日英 4. 技術 英日 5. 技術 日英 6. 犯罪 英日 7. 犯罪 日英 8. IT通信 英日 9. IT通信 日英 10. 産業 英日 11. 産業 日英 12. 医療厚生 英日 13. 医療厚生 日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012年		
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）		

09年度以降	通訳 I (水2)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みます。また、日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施するとともに、学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期内に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 教育 英日 3. 教育 日英 4. 国際関係 英日 5. 国際関係 日英 6. 環境 英日 7. 環境 日英 8. 軍事 英日 9. 軍事 日英 10. 医学 英日 11. 医学 日英 12. 経済 英日 13. 経済 日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012年		
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）		

09年度以降	通訳 I (木1)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 講義では、テキストを用いながら会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について考えていきます。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行います。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期内に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 政治 英日 3. 政治 日英 4. 技術 英日 5. 技術 日英 6. 犯罪 英日 7. 犯罪 日英 8. IT 通信 英日 9. IT 通信 日英 10. 産業 英日 11. 産業 日英 12. 医療厚生 英日 13. 医療厚生 日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012年		
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）		

09年度以降	通訳 I (木1)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みます。また、日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施するとともに、学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期内に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 教育 英日 3. 教育 日英 4. 国際関係 英日 5. 国際関係 日英 6. 環境 英日 7. 環境 日英 8. 軍事 英日 9. 軍事 日英 10. 医学 英日 11. 医学 日英 12. 経済 英日 13. 経済 日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012年		
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）		

09年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 講義では、テキストを用いながら通訳についての知識を深めていきます。基礎訓練ではシャドーイングをはじめとする通訳基礎トレーニングを行います。一方、応用訓練では、逐次通訳、同時通訳に向けて文化的な背景も踏まえた訳出法を習得していきます。毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施しボキャブラリーを増やしていきます。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 政治 英日 3. 政治 日英 4. 技術 英日 5. 技術 日英 6. 犯罪 英日 7. 犯罪 日英 8. IT通信 英日 9. IT通信 日英 10. 産業 英日 11. 産業 日英 12. 医療厚生 英日 13. 医療厚生 日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようになる。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009年 テキスト②：鳥飼玖美子編著『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房、2013年		
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）		

09年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、環境、経済などといったテーマを取り上げます。効果的なコミュニケーションや文化的な背景も踏まえた精度の高い通訳をめざします。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施します。学び合いと授業への積極参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修するのが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 教育 英日 3. 教育 日英 4. 国際関係 英日 5. 国際関係 日英 6. 環境 英日 7. 環境 日英 8. 軍事 英日 9. 軍事 日英 10. 医学 英日 11. 医学 日英 12. 経済 英日 13. 経済 日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようになる。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009年 テキスト②：鳥飼玖美子編著『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房、2013年		
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）		

09年度以降	翻訳	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。</p> <p>授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。</p> <p>また、履修人数にもよりますが、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～8回 翻訳テキスト分析と発表内容チェック</p> <p>第9～14回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p> <p>第15回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	分析コメント20%、プレゼンテーション20%、翻訳実習30%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	翻訳	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回 前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回 日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回 日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～5回 翻訳テキスト分析および発表のテーマ設定検討</p> <p>第6回 復習テストと発表内容確認</p> <p>第7～9回 翻訳テキスト分析および発表内容チェック</p> <p>第10～14回 学生による翻訳プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第15回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	分析コメント20%、プレゼンテーション20%、翻訳実習30%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	翻訳	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。</p> <p>問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたいうで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、考慮すべき問題はかわってきますので、そこにも注目していきます。また後半にはグループでミニ翻訳プロジェクトに取り組んでもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 報道文 1 (難民問題 BBC より) 2. 報道文 2 (難民問題 <i>Guardian</i> より) 3. 報道文 3 (同上) 4. エッセイ 1 (<i>Jamaica Kincaid, A Small Place</i> より) 5. エッセイ 2 (同上) 6. エッセイ 3 (同上) 7. 業務翻訳 1 (マニュアル) 8. 業務翻訳 2 (契約書) 9. 文学作品 1 (名作やベストセラーの書き出し部分) 10. 文学作品 2 (同上) 11. 文学作品 3 (同上) 12. ミニ翻訳プロジェクト 1 (個別テキスト) 13. ミニ翻訳プロジェクト 2 14. ミニ翻訳プロジェクト 3 15. ミニ翻訳プロジェクト 4 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にはテキストを熟読し、疑問点を洗い出しておくこと。本授業では、事前学習がきわめて重要である。事後には授業で習得した翻訳のコツを復習すること。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布します。		
評価方法	授業への貢献 20%、翻訳課題 80%		

09年度以降	翻訳	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというのではなく、作品自体を味わいつくし、文化的背景まで読み込まなければいけません。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。授業では、積極的な参加と発言が求められます。短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 9. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 10. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 11. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 12. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 13. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 14. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 15. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に課題文の翻訳 (1~2 ページ) を提出してもらいます。授業時には学生訳の抜粋資料と、チェックした課題を返却するので、読み比べつつ意見を出し良い翻訳にするためのアイデアを出してください。		
テキスト、参考文献	短編小説または長編小説の一部を使用。コピーを配布します。興味のある人は <i>New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond</i> Norton, 2007 のシリーズを参照してみてください。		
評価方法	授業内の提出課題・参加度 (50%)、レポート (50%) の総合評価。通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。		

09年度以降	翻訳	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというのではなく、作品自体を味わいつくし、文化的背景まで読み込まなければいけません。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。授業では、積極的な参加と発言が求められます。短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 9. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 10. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 11. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 12. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 13. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 14. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 15. 演習 (ペア・グループによる共訳の発表) 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に課題文の翻訳 (1~2 ページ) を提出してもらいます。授業時には学生訳の抜粋資料と、チェックした課題を返却するので、読み比べつつ意見を出し良い翻訳にするためのアイデアを出してください。		
テキスト、参考文献	短編小説または長編小説の一部を使用。コピーを配布します。興味のある人は <i>New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond</i> Norton, 2007 のシリーズを参照してみてください。		
評価方法	授業内の提出課題・参加度 (50%)、レポート (50%) の総合評価。通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。		

09年度以降	翻訳(木3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検1級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・春学期は1番から25番を扱います。</p>		<p>1 翻訳という仕事① 2 イギリス人① 3 イギリス人② 4 イギリス人③ 5 イギリス人④ 6 中年の思いごと 7 目の見える有難さ 8 機械と人間 9 忘れっぽさ 10 友情論 11 幸福論 12 外国語を学ぶ効用① 13 外国語を学ぶ効用② 14 訳文校正 15 翻訳のための文法① *各回、他に1題を扱います</p>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前)不明点を明らかにして授業に臨む 事後)解決された不明点を忘れぬよう復習する		
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。		

09年度以降	翻訳(木3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検1級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・秋学期は26番から50番を扱います。</p>		<p>1 翻訳という仕事② 2 試練に立つ文明 3 文体と内容 4 技師の親指 5 過激の効用 6 正確さへのこだわり 7 独立独歩 8 詩人の役割 9 文化の伝達 10 孤独の楽しさ 11 若者への教訓 12 偏愛の危険 13 歴史の皮肉 14 自分なりの価値基準 15 翻訳のための文法② *各回とも上記ほか1編を扱う</p>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前)不明点を明らかにして授業に臨む 事後)解決された不明点を忘れぬよう復習する		
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。		

09年度以降	翻訳(木4)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれませんが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。</p> <p>秋学期同時限(木4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 英語の規則 ① 2 児童文学「幸福の王子」I 3 児童文学「幸福の王子」II 4 児童文学「ドリトル先生航海記」I 5 児童文学「ドリトル先生航海記」II 6 児童文学「不思議の国のアリス」I 7 児童文学「不思議の国のアリス」II 8 子供百科「フクロウの目」 9 子供百科「恐竜」 10 子供百科「宇宙」 11 ミュージカル「オクラホマ」 12 詩「虹の歌」 13 小説「マダム・ロゼット」 14 歴史「トロイ戦争」 15 歴史「ミノタウロス」 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前)不明点を明らかにして授業に臨む 事後)解決された不明点を忘れぬよう復習する		
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤読みやすい日本語か、をみます。		

09年度以降	翻訳(木4)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。</p> <p>抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 英語の規則② 2 小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」① 3 小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」② 4 スポーツ「1959年合衆国アマチュアチャンピオン」 5 美術「古代の芸術」 6 ゴルフ「ジャック・ニコラウス自伝」 7 ドキュメンタリー「生き残りし者」 8 科学「重力の問題」 9 造形「心の庭」 10 音楽「オーケストラを指揮する」 11 評伝「二都物語」 12 動物「人間と動物の絆」 13 歴史「そして水は引かなかった」 14 観光「コルシカへの招待」 15 アンドとカンマ 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前)不明点を明らかにして授業に臨む 事後) 解決された不明点を忘れぬよう復習する		
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、をみます。		

09年度以降	翻訳（水4）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from <u>English to Japanese</u>. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include <u>poems</u> (by Robert Frost, et al.), <u>novels</u> (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) <u>newspaper and magazine articles</u> (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures <u>in Japanese</u> presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Document #1 (see list at left for examples) 3 Document #2 4 Document #3 5 Document #4 6 Document #5 7 Document #6 8 Document #7 9 Document #8 10 Document #9 11 Document #10 12 Document #11 13 Document #12 14/15 Final Examination and Self-Evaluation	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	翻訳（水3）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from Japanese to English</u>. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include <u>English translations of novels and essays by famous Japanese authors</u> (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with <u>movies</u> based on those authors' works, and Japanese <u>animated features</u> (looking at the English and Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures <u>in Japanese</u> presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Author #1 (see list at left for examples) 3 Author #2 4 Author #3 5 Author #4 6 Author #5 7 Author #6 8 Author #7 9 Author #8 10 Author #9 11 Author #10 12 Author #11 13 Author #12 14/15 Final Examination and Self-evaluation	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	翻訳	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 翻訳と英語学習で使われている英文和訳とは、大きく違います。翻訳はその違いをしっかりと認識することから始まります。この講義では目的に応じて等価の翻訳をするための枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけます。</p> <p>講義概要 多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 翻訳演習 3. 翻訳演習 4. 翻訳演習 5. 翻訳演習 6. 翻訳演習 7. 翻訳演習 8. 翻訳演習 9. 翻訳演習 10. 翻訳演習 11. 翻訳演習 12. 翻訳演習 13. 翻訳演習 14. 翻訳演習 15. 総括、レポートの発表 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。訳文は次回授業時に提出してください。		
テキスト、参考文献	初回に指示します。		
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する（期末レポート30%）。		

09年度以降	翻訳	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 翻訳の心得を学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。</p> <p>講義概要 多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 翻訳演習 3. 翻訳演習 4. 翻訳演習 5. 翻訳演習 6. 翻訳演習 7. 翻訳演習 8. 翻訳演習 9. 翻訳演習 10. 翻訳演習 11. 翻訳演習 12. 翻訳演習 13. 翻訳演習 14. 翻訳演習 15. 総括、レポートの発表 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。訳文は次回授業時に提出してください。		
テキスト、参考文献	初回に指示します。		
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する（期末レポート30%）。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容と評価方法など。 2. ビジネス現場に必要とされる英語力 3. ビジネス現場のコミュニケーション 4. マーケットの特性（クイズ1） 5. 日本企業の国際依存度 6. アジア市場の重要性 7. ASEANの理解（クイズ2） 8. 中国市場の変貌 9. 貿易取引の理解 10. サービス産業（映画、アニメ） 11. 国際通貨の理解（クイズ3） 12. バブルと国際金融 13. TPP。FTAとは 14. まとめ 15. 期末クイズ 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時のDVDのみ」		
評価方法	クイズ、レポート、授業参加による通常点。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容と評価方法など。 2. ビジネス現場に必要とされる英語力 3. ビジネス現場のコミュニケーション 4. マーケットの特性（クイズ1） 5. 日本企業の国際依存度 6. アジア市場の重要性 7. ASEANの理解（クイズ2） 8. 中国市場の変貌 9. 貿易取引の理解 10. サービス産業（映画、アニメ） 11. 国際通貨の理解（クイズ3） 12. バブルと国際金融 13. TPP。FTAとは 14. まとめ 15. 期末クイズ 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時のDVDのみ」		
評価方法	クイズ、レポート、授業参加による通常点。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容と評価方法など。 2. ビジネス現場に必要とされる英語力 3. ビジネス現場のコミュニケーション 4. マーケットの特性（クイズ1） 5. 日本企業の国際依存度 6. アジア市場の重要性 7. ASEANの理解（クイズ2） 8. 中国市場の変貌 9. 貿易取引の理解 10. サービス産業（映画、アニメ） 11. 国際通貨の理解（クイズ3） 12. バブルと国際金融 13. TPP。FTAとは 14. まとめ 15. 期末クイズ 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時のDVDのみ」		
評価方法	クイズ、レポート、授業参加による通常点。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容と評価方法など。 2. ビジネス現場に必要とされる英語力 3. ビジネス現場のコミュニケーション 4. マーケットの特性（クイズ1） 5. 日本企業の国際依存度 6. アジア市場の重要性 7. ASEANの理解（クイズ2） 8. 中国市場の変貌 9. 貿易取引の理解 10. サービス産業（映画、アニメ） 11. 国際通貨の理解（クイズ3） 12. バブルと国際金融 13. TPP。FTAとは 14. まとめ 15. 期末クイズ 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時のDVDのみ」		
評価方法	クイズ、レポート、授業参加による通常点。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者には、英文 Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的な英文ビジネスレターの書き方を指導致します。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。</p> <p>水曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. ビジネスレターの形式（1） 3. ビジネスレターの形式（2）&練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方&練習問題 5. 取引の申込み&練習問題 6. 引合い（具体的な問い合わせ）&練習問題 7. オファー（売手からの申込み）&練習問題 8. 信用状&練習問題 9. 商品の積出し&練習問題 10. クレーム&練習問題 11. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方（1） 12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方（2） 13. 英文ビジネスレター作成実践練習（1） 14. 英文ビジネスレター作成実践練習（2） 15. まとめ <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしていただくか、或いは提出してください。		
テキスト、参考文献	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING—英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版）		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5回までとする。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者には、英文 Business Reading の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、指導していきます。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。随時、授業中に経済問題（例えば、ヨーロッパの経済問題、TPP等）について分かりやすく解説・説明していきます。</p> <p>水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">受講レベル：TOEIC600 点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 英語メディア文の特徴について(1) 3. 英語メディア文の特徴について(2) 4. Headline の読み方実践練習(1) 5. Headline の読み方実践練習(2) 6. Lead の読み方実践練習(1) 7. Lead の読み方実践練習(2) 8. Lead の読み方実践練習(3) 9. Lead の読み方実践練習(4) 10. 本格的な経済記事の読み方実践練習(1) 11. 本格的な経済記事の読み方実践練習(2) 12. 本格的な経済記事の読み方実践練習(3) 13. 国際経済記事の読み方実践練習(1) 14. 国際経済記事の読み方実践練習(2) 15. まとめ <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしていただくか、或いは提出してください。		
テキスト、参考文献	プリント使用		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5回までとする。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者には、英文 Business Reading の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、指導していきます。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。随時、授業中に経済問題（例えば、ヨーロッパの経済問題、TPP等）について分かりやすく解説・説明していきます。</p> <p>火曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 英語メディア文の特徴について(1) 3. 英語メディア文の特徴について(2) 4. Headline の読み方実践練習(1) 5. Headline の読み方実践練習(2) 6. Lead の読み方実践練習(1) 7. Lead の読み方実践練習(2) 8. Lead の読み方実践練習(3) 9. Lead の読み方実践練習(4) 10. 本格的な経済記事の読み方実践練習(1) 11. 本格的な経済記事の読み方実践練習(2) 12. 本格的な経済記事の読み方実践練習(3) 13. 国際経済記事の読み方実践練習(1) 14. 国際経済記事の読み方実践練習(2) 15. まとめ <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしていただくか、或いは提出してください。		
テキスト、参考文献	プリント使用		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5回までとする。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「ビジネス英文メールの書き方」を中心にして授業を進めていきます。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者には英文 Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。初めに、旅行会社で使われるビジネス英文メール（営業会議のお知らせ等）、次に、ホテルで使われるビジネス英文メール（宿泊申込み、苦情、苦情への返信等）、最後に、貿易会社で使われるビジネス英文メール（引合い、オファー、信用状決済、積出し等）の書き方等を分かりやすく講義し、ビジネス英語全般とビジネス現場の実態を学んでいきます。</p> <p>火曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. ビジネス英文メールの形式&企業の機関・役職名・部署名 3. 支社長会議開催のお知らせメール&Inbound と Outbound 4. 支社長会議への出席通知&略語の使用と客室乗務員の仕事 5. 営業会議出席者の宿泊の申込み&コンシェルジュの仕事 6. ホテルへの苦情&アメリカ流弁護士ビジネス 7. 苦情への返信&ビジネス英文メールの書き方 8. ワインの見本輸入&ボージョレ・ヌーボー 9. 見本商品の発送通知&航空貨物営業 10. 引合い（問い合わせ）&海外勤務の楽しさ 11. オファー（売手からの申込み）&海外勤務の厳しさ 12. オファー受諾通知&総合商社とは 13. 船積み通知&商社の営業 14. クレームとクレームの解決&外資系企業の契約について 15. まとめ <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしていただくか、或いは提出してください。		
テキスト、参考文献	海老沢達郎他著『English for Business』（DTP 出版、2014年）		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5回までとする。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木3）	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（今年度の秋学期はUnit9以降）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳）と作成（和文英訳）の訓練を行います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意： このシラバスは木曜日 3 時限の授業のもので、 木曜日 4 時限の同一名称科目とは内容が異なります。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3. 「注文」の通信文の読解・作成を行います。 4. 「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。 5. 「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。 6. 「信用状開設訂正」の通信文の読解・作成を行います。 7. 「海上保険」の通信文の読解・作成を行います。 8. 「輸出手配」の通信文の読解・作成を行います。 9. 「船積み」の通信文の読解・作成を行います。 10. 「輸入手配」の通信文の読解・作成を行います。 11. 「決済」の読解・作成を行います。 12. 「クレーム」の読解・作成を行います。 13. 「クレーム調整」の読解・作成を行います。 14. 「会社社交文」の読解・作成を行います。 15. 秋学期の総復習と質疑応答を行います。 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各単元の Sample Email と解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。		
テキスト、参考文献	<p>（テキスト） 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講（四訂版）』（三恵社、2016年）および配布プリント</p> <p>（参考書） 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009年）</p>		
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木4）	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、履行および決済の段階に登場する代表的な貿易書類として、商業送り状(Commercial Invoice)、船荷証券(Bill of Lading; B/L)、保険証券(Insurance Policy)等の船積書類、輸出申告書と輸入(納税)申告書、荷為替信用状(Documentary Letter of Credit; L/C)などを学びます。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意：このシラバスは木曜日4時限の授業のものです。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2. 各種の船積書類(Shipping Documents)の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。 3.-4. 商業送り状を作成する実習を行います。 5.-6. 船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。 7. 輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。 8.-9. 輸出申告書(Export Declaration; E/D)を作成する実習を行います。 10.-12. 輸入(納税)申告書(Import Declaration; I/D)を作成する実習を行います。 13.-14. 荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。 15. 秋学期の総復習と質疑応答を行います。 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。		
テキスト、参考文献	(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス (logistics) に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。</p> <p>具体的には、<u>秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。</u></p> <p>履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><u>既修条件：英語ビジネス・コミュニケーションを既修</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：“Incoterms 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階(3)：輸出通関手続き 5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階(9)：各種運送書類 (transport document) 11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階(1)：信用状(Letter of Credit: L/C)と荷為替手形による決済の仕組み 13. 決済段階(2)：L/Cによらない決済の仕組み 14. クレームおよびクレーム調整の段階 15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答 	
到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。		
テキスト、参考文献	(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。		

09年度以降	メディア英語 I (月3)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie.</p> <p>Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class		
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		
評価方法	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.		

09年度以降	メディア英語 I (月3)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE, or a movie.</p> <p>Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class.		
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		
評価方法	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英字新聞丸かじり」と称して、「英字新聞の読み方」をテーマにして授業を進めていきます。グローバル化時代において、外国からの色々な情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことです。</p> <p>そこで、本講義では、「英字新聞」等に馴染みのない学生に、「初歩的な英文記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の英文記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、本格的な「政治・経済・社会問題の記事」を交えて、英文記事全般について勉強していきます。随時、授業中に、その時の話題となったニュースを取り上げ、勉強、解説していきます。また、英字新聞等で頻繁に使用される基本的な用語集をプリント配布いたします。「英語で何と言うの？」コーナーを設け、話題となっている英語も紹介いたします。「英字新聞丸かじり」の授業です</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明 2. 英字新聞の特徴について (1) 3. 英字新聞の特徴について (2) 4. Headline の読み方実践練習 (1) 5. Headline の読み方実践練習 (2) 6. Lead の読み方実践練習 (1) 7. Lead の読み方実践練習 (2) 8. Lead の読み方実践練習 (3) 9. Lead の読み方実践練習 (4) 10. 本格的な政治記事の読み方実践練習 11. 本格的な経済記事の読み方実践練習 12. 本格的な社会記事の読み方実践練習 13. 社説の読み方実践練習 (1) 14. 社説の読み方実践練習 (2) 15. まとめ <p>授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントの指定された箇所を事前に十分予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにはしておくか、或いは提出してください。		
テキスト、参考文献	プリント使用		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5回までとする。		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英字新聞丸かじり」と称して、「英字新聞の読み方」をテーマにして授業を進めていきます。グローバル化時代において、外国からの色々な情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことです。</p> <p>そこで、本講義では、「英字新聞」等に馴染みのない学生に、「初歩的な英文記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の英文記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、本格的な「政治・経済・社会問題の記事」を交えて、英文記事全般について勉強していきます。随時、授業中に、その時の話題となったニュースを取り上げ、勉強、解説していきます。また、英字新聞等で頻繁に使用される基本的な用語集をプリント配布いたします。「英語で何と言うの？」コーナーを設け、話題となっている英語も紹介いたします。「英字新聞丸かじり」の授業です</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明 2. 英字新聞の特徴について (1) 3. 英字新聞の特徴について (2) 4. Headline の読み方実践練習 (1) 5. Headline の読み方実践練習 (2) 6. Lead の読み方実践練習 (1) 7. Lead の読み方実践練習 (2) 8. Lead の読み方実践練習 (3) 9. Lead の読み方実践練習 (4) 10. 本格的な政治記事の読み方実践練習 11. 本格的な経済記事の読み方実践練習 12. 本格的な社会記事の読み方実践練習 13. 社説の読み方実践練習 (1) 14. 社説の読み方実践練習 (2) 15. まとめ <p>授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プリントの指定された箇所を事前に十分予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにはしておくか、或いは提出してください。		
テキスト、参考文献	プリント使用		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5回までとする。		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、BBCニュースから厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。</p> <p>1つのトピックを二週に渡って検討する。一週目はBBCの報道内容を吟味する。二週目はトピックを別の角度から検証する。そのため、二週目は発表とディスカッションを主体に授業を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Poppies at the Tower of London(1) 3. Poppies at the Tower of London(2) 4. Cosplay in London(1) 5. Cosplay in London(2) 6. Who Owns Banksy's Street Art?(1) 7. Who Owns Banksy's Street Art?(2) 8. The Latest News 9. A Chip under the Skin(1) 10. A Chip under the Skin(2) 11. Houses Built from Straw(1) 12. Houses Built from Straw(2) 13. Paternity Leave(1) 14. Paternity Leave(2) 15. まとめ 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の Behind the Scenes の項目に目を通し、それについて自分なりに調べてくる。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
テキスト、参考文献	『BBC Seeing the World through the News 3』 Timothy Knowles、Daniel Brooks、武岡由樹子 編著（金星堂、2016年）		
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春に引き続きこの講義では、BBCニュースから厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。</p> <p>1つのトピックを二週に渡って検討する。一週目はBBCの報道内容を吟味する。二週目はトピックを別の角度から検証する。そのため、二週目は発表とディスカッションを主体に授業を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Young Voters 3. Young Voters 4. Teaching Digital Skills 5. Teaching Digital Skills 6. Scotland's Future 7. Scotland's Future 8. The Latest News 9. Online Courts 10. Online Courts 11. The Price of the Monarchy 12. The Price of the Monarchy 13. Child Soldiers of South Sudan 14. Child Soldiers of South Sudan 15. まとめ 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の Behind the Scenes の項目に目を通し、それについて自分なりに調べてくる。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
テキスト、参考文献	『BBC Seeing the World through the News 3』 Timothy Knowles、Daniel Brooks、武岡由樹子 編著（金星堂、2016年）		
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、2つの国（スイス、南アフリカ）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。</p> <p>この授業の目的を以下のように設定します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> *可能な限り、多種多様な情報に目を通す（極端な考えに偏らないようにするため） *↑をもとに、自分の考えを創り出す *自分の考えを他人に正確に伝える *他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。（議論はより良い考えに至るためのもの。人格攻撃にならないようにする。） *行動を起こす </div> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、グループ作り&担当箇所決定 3. 9.11：なぜ「歴史的イベント」となったのか？ 4-5. 再生可能エネルギーの可能性 6-7. 大企業化①：食品業界 8-9. 大企業化②：金融業界 10-11. スイス：「平和」とは何か？ 12-13. 南アフリカ：「共存」への道 14. メディアとの付き合い方を考える 15. 春学期授業のまとめ <p>講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。</p> <p>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！（グループ作りは、私が決めるのではなく、学生の皆様同士で決めるようお願いしています。2人～3人のグループになって頂きたいのですが、人数調整が必要な場合のみ、私が最後に介入します。）</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	*事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい *事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。		
テキスト、参考文献	*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介しします。 必要な場合は、印刷して配布します。		
評価方法	*提出物（レポート）60%、授業内での発表 & 発言40% *遅刻3回（30分以内）で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。</p> <p>この授業の目的を以下のように設定します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> *可能な限り、多種多様な情報に目を通す（極端な考えに偏らないようにするため） *↑をもとに、自分の考えを創り出す *自分の考えを他人に正確に伝える *他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。（議論はより良い考えに至るためのもの。人格攻撃にならないようにする。） *行動を起こす </div> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、グループ作り&担当箇所決定 3-4. 3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較 5-6. 靖国問題 7-8. 沖縄の歴史 9-10. 国の借金：本当に深刻なのか？ 11. 海外での和食の評価 12-13. 日本のアニメと漫画 14. これから日本はどう世界と関わっていくのか？ 15. 秋学期授業のまとめ <p>講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。</p> <p>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	*事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい *事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。		
テキスト、参考文献	*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介しします。 必要な場合は、印刷して配布します。		
評価方法	*提出物（レポート）60%、授業内での発表 & 発言40% *遅刻3回（30分以内）で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	メディア英語 I (金1)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>political and economic/business stories, with a focus on Japan</u>. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p>		1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	メディア英語 I (金1)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>cultural and entertainment stories from around the world</u>, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的に応じたメディアの使い方を習得しながら、英語の語彙力や理解力に加えてプレゼンテーションやライティングのスキルを高めるという、欲張りな学習目標を設定しています。これらを達成するために、(1) 報道番組のディクテーションと音読の反復練習、(2) 小グループでの特定課題（英語メディアが報じる日本の長時間労働）についての研究、(3) 特定課題研究の成果としてのグループ発表、(4) 本科目での学習成果を分析する個人レポートの執筆などのホリスティックな学習方法を用意しています。</p> <p>第7週のポスターセッションを経て、第13週と第14週のグループ発表、そして学習成果を振り返りながら個人レポートをまとめる頃には、限られたテーマについてはあるけれども、受講前と比べて「英語が使える・話せるようになった」と感じていただければ幸いです。（日本の長時間労働についての研究から、自分がどのような気付きを得られるのかも楽しみにしていただければと思います。）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ「メディア英語」を学ぶのか？ 2. メディアの活用法 3. 新聞の読み方 4. 雑誌の読み方 5. 英語メディアが報じる日本の長時間労働 6. 日本人は本当に働きすぎか？ 7. ポスターセッション 8. 学術的な文章を活用する 9. 長時間労働の功罪 10. 労働時間の決定要因 11. 日本の就職活動 12. 外国で働くという選択肢 13. グループ発表 14. グループ発表 15. まとめ 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生はすべての教材を読むとともに、他の受講生と協力しながら課題に取り組むことが求められます。		
テキスト、参考文献	プリント教材		
評価方法	ディクテーションの記録 20%、グループ発表 40%、個人レポート 40%		

09年度以降	メディア英語 I (金2)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>cultural and entertainment stories from around the world</u>, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the class 2 Topic 1/Presentation of Video 3 Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4 Topic 2/Presentation of Video 5 Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6 Topic 3/Presentation of Video 7 Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8 Topic 4/Presentation of Video 9 Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10 Topic 5/ Presentation. 11 Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12 Topic 6/ Presentation. 13 Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14 Topic 7/Presentation of Video 15 Final Evaluation 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class		
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		
評価方法	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews.</p> <p>As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the class 2 Topic 1/Presentation of Video 3 Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4 Topic 2/Presentation of Video 5 Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6 Topic 3/Presentation of Video 7 Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8 Topic 4/Presentation of Video 9 Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10 Topic 5/ Presentation. 11 Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12 Topic 6/ Presentation. 13 Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14 Topic 7/Presentation of Video 15 Final Evaluation 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class		
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		
評価方法	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、毎週、<i>The New York Times</i>から最新のニュース記事を読む。</p> <p>トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。</p> <p>授業はプレゼンテーション形式で進める。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 担当の分担</p> <p>第3回～第14回 2回めの授業にて指示する。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。		
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春に引き続きこの講義では、毎週、<i>The New York Times</i>から最新のニュース記事を読む。</p> <p>トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。</p> <p>授業はプレゼンテーション形式で進める。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 担当の分担</p> <p>第3回～第14回 2回めの授業にて指示する。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。		
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的に応じたメディアの使い方を習得しながら、高度な英語の理解力に加えてプレゼンテーションやライティングのスキルを高めるといふ、欲張りな学習目標を設定しています。これらを達成するために、(1) 基本教材の付属CDのディクテーションと音読の反復練習(宿題)、(2) 毎週のトピック(「授業計画」参照)に関する情報収集とディスカッション、(3) 小グループでの特定課題についての研究、(4) 特定課題研究の成果としてのグループ発表、(5) 学習成果を分析する個人レポートの執筆などのホリスティックな学習方法を用意しています。</p> <p>第7週のポスターセッションを経て、第13週と第14週のグループ発表、そして学習成果を振り返りながら個人レポートをまとめる頃には、受講前と比べて様々な時事問題について英語で考え、話せるようになったと感じていただければ幸いです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. メディアの活用法 3. 経済 4. 科学技術 5. 政治・国際関係 6. 環境 7. ポスターセッション 8. 教育 9. 医療 10. 結婚・家庭 11. メディア 12. レジャー 13. グループ発表 14. グループ発表 15. まとめ 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生はすべての教材を読むとともに、他の受講生と協力しながら課題に取り組むことが求められます。		
テキスト、参考文献	植田一三・上田敏子(2013)『英語で経済・政治・社会を討論する技術と表現(CD BOOK)』ベレ出版 その他、プリント教材		
評価方法	ディクテーションの記録 20%、グループ発表 40%、個人レポート 40%		

09年度以降	シネマ英語	担当者	D. シュールズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course positions horror films as a critical reflection of and reaction to particular historicized cultural anxieties and examines how technology facilitated these anxieties. Centering on four particular moments within the genre of horror—the “zombies-as-capitalists” films emerging in the decade post-May 1968, the slasher films of the 1980’s, the “postmodern” horror films of the 1990’s, and the pathologized new media horror circulating today—students will be asked to explore how different discourses converge during these periods to produce specific media representations geared towards alleviating very specific social anxieties. Students will accomplish this through a combination of reading primary texts produced during these time periods and watching scenes from particular horror films.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Race in horror film 3. Race in horror film 4. Economic themes in horror film 5. Economics themes in horror films 6. Masculinity and femininity in horror film 7. Masculinity and femininity in horror film 8. Postmodern horror film 9. Postmodern horror film 10. Technology as horror 11. Technology as horror 12. Remaking horror film 13. Final paper meetings 14. Review 15. Review 	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read the assigned material and review the lecture		
テキスト、参考文献	Phillips, Kendall. (2005). <i>Projected fears: Horror film and American culture</i> . ISBN-10: 0275983536; additional texts available online		
評価方法	Participation, short papers, final paper		

09年度以降	シネマ英語（火3）	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日3、4時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。		第1回 ガイダンス サイレントからトーキーへ 第2回 ミュージカル映画について 第3回 映画に見られるテーマと表現分析その1 第4回 テーマと表現分析その2 および グループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現分析その3 および グループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現分析その4 および グループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テストと発表テーマ確認 第8～10回 学生プレゼンテーションの内容確認 第11～14回 プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	分析コメント20%、ワークシート30%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	シネマ英語（火3）	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜3、4時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。		第1回 ガイダンス 第2回 映画に描かれる日本人について 第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現 分析その1 第4回 テーマと表現 分析その2 および グループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現 分析その3 および グループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現 分析その4 および グループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テスト プレゼンテーションのテーマチェック 第8～10回 プレゼンテーション内容チェック 第11～14回 学生プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	分析コメント20%、ワークシート30%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	シネマ英語（火4）	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日3，4時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。</p>		<p>第1回 ガイダンス サイレントからトーキーへ 第2回 ミュージカル映画について 第3回 映画に見られるテーマと表現分析その1 第4回 テーマと表現分析その2 および グループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現分析その3 および グループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現分析その4 および グループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テストと発表テーマ確認 第8～10回 学生プレゼンテーションの内容確認 第11～14回 プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	分析コメント20%、ワークシート30%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	シネマ英語（火4）	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。</p> <p>履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜3，4時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。</p>		<p>第1回 ガイダンス 第2回 映画に描かれる日本人について 第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現 分析その1 第4回 テーマと表現 分析その2 および グループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現 分析その3 および グループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現 分析その4 および グループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テスト プレゼンテーションのテーマチェック 第8～10回 プレゼンテーション内容チェック 第11～14回 学生プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	分析コメント20%、ワークシート30%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	シネマ英語	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期では、様々なジャンルの映画（「SF」「ミュージカル」「歴史」「生死」）を取り上げます。右記の授業計画を見て下さると分かるように、テーマは取り扱う映画によって異なりますが、授業では映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。</p> <p>1回の授業で1本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画を観ます。時間の関係上、授業内で映画1本をノーカットで鑑賞するのは難しく、(断腸の思いで)割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思えます。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション『<i>GHOST IN THE SHELL/ 攻殻機動隊</i>』(1995) 3. <i>The Matrix</i> (1999): 他メディアからの影響も検証する 4. <i>Star Wars IV</i>(1977): 神話学者曰く「現代の神話」 5. <i>Gattaca</i> (1997): 自然出産者はデザイナーベイビーを超えられるか? 6. <i>Slumdog Millionaire</i> (2008): インドの現実? 英国監督作品のためか、議論を呼んだ作品 7. <i>Invictus</i> (2009): 南アフリカでのスポーツと政治 8. <i>Ten Commandments</i> (1956): 十戒を学んでみよう 9. <i>The Truman Show</i> (1998): メディアに操られる世界 10. <i>Chicago</i> (2002): 殺人事件も娯楽になる? 11. <i>Moulin Rouge!</i> (2001): ラブソングの変遷を追う 12. <i>The Bucket List</i> (2007): 死ぬ前にやりたいこと 13. <i>Dead Poet Society</i> (1989): 「いまを生きる」とは? 14. 議論の時間: “What’s your best movie and why?” 15. 春学期授業のまとめ 	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	* 事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 * 事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。		
テキスト、参考文献	* 適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介しします。 必要な場合は、印刷して配布します。		
評価方法	* 提出物 (レポート) 80%、授業の参加度 20% * 遅刻 3回 (30分以内) で1回の欠席と換算します。欠席 5回した時点で単位取得が不可能になります。 * レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	シネマ英語	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期では名優たちの映画&ドラマを取り上げます。授業では映画&ドラマを丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。</p> <p>1回の授業で1本の映画&ドラマを分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画&ドラマを観ます。時間の関係上、授業内で映画1本をノーカットで鑑賞するのは難しく、(断腸の思いで)割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思えます。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 3. <i>Rain Man</i> (1988): Dustin Hoffman, Tom Cruise 4. <i>Blade Runner</i> (1982): Harrison Ford 5. <i>Indiana Jones and the Last Crusade</i> (1989): Harrison Ford, Sean Connery 6. <i>One Flew Over the Cuckoo’s Nest</i> (1975): Jack Nicholson 7. <i>The Devil Wears Prada</i> (2006): Meryl Streep, Ann Hathaway 8. <i>Patch Adams</i> (1998): Robin Williams 9. <i>Roman Holiday</i> (1953): Audrey Hepburn 10. <i>The Shawshank Redemption</i> (1994): Tim Robbins, Morgan Freeman 11. <i>The Great Dictator</i> (1940): Charlie Chaplin 12. <i>Music and Lyrics</i> (2007): Hugh Grant, Drew Barrymore 13. <i>Friends</i> (1994-2004): Jennifer Aniston, etc 14. 議論の時間: “Who is your favorite actor and/ or actress and why?” 15. 秋学期授業のまとめ 	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	* 事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 * 事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。		
テキスト、参考文献	* 適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介しします。 必要な場合は、印刷して配布します。		
評価方法	* 提出物 (レポート) 80%、授業の参加度 20% * 遅刻 3回 (30分以内) で1回の欠席と換算します。欠席 5回した時点で単位取得が不可能になります。 * レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	英語学の世界	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ことばとそれを用いる人間のこころの間には密接につながりがある。また、ことばは、それが用いられている社会、文化とも無縁ではない。このような考え方に立てば、ことばについての研究は自ずと、われわれのこころや社会、文化についての研究となる。</p> <p>本講義では、主に日本語と英語を取り上げ、両者の比較を通して、最終的には、日本社会や日本文化の特性について考察を進めて行く予定である。テキストについては、何が述べてあるかを理解することは当然ながら、どう述べてあるか、ある主張を行なうにあたって、どういった証拠により、どういう議論が展開されているか、ということにも十分注意を払いながら講義をしたい。(何か覚えるべき事柄を与えられ、それをいつか頭の中に蓄えることを勉強と考える者には回りくどいと感じられるであろうが、真の意味での理解はこのようにしてしか得られないと考える)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、講義の概要 2. 日本人は「集団主義的」か(その1) 3. 日本人は「集団主義的」か(その2) 4. 日本人は「集団主義的」か(その3) 5. 日本人は「集団主義的」か(その4) 6. 代名詞の不使用と自己志向性(その1) 7. 代名詞の不使用と自己志向性(その2) 8. 代名詞の不使用と自己志向性(その3) 9. 代名詞の不使用と自己志向性(その4) 10. 伝聞と情報のなわ張り(その1) 11. 伝聞と情報のなわ張り(その2) 12. 伝聞と情報のなわ張り(その3) 13. 伝聞と情報のなわ張り(その4) 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	英語学に関して基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
テキスト、参考文献	テキスト：廣瀬幸生・長谷川葉子『日本語から見た日本人—主体性の言語学』(開拓社、2010年)		
評価方法	試験ないしレポート(100%)の成果による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	英語学の世界	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者はTOEIC900点以上の取得者からbreakの過去形をbrokeと、また冠詞や-sをdogに付ける場合と付けない場合(はだか名詞)の使い分けの違いを知らない人までさまざまですが、9割は教諭免許取得希望者ですから、授業の狙いは、言語学の最近の研究成果を踏まえ、英語の母語話者(native speakers)が頭の中に収めている英語についても本当の姿についての知識をしっかりと身につけてもらうことにあります。</p> <p>したがって、授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対する「なるほど!」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。</p> <p>この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、既習文法知識とその発想を捨てたうえで予習・復習をすればそのようなことはありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. モノの捉え方と表現の仕方 2. 前置詞の意味 3. 不定冠詞 vs. はだか名詞 4. 英語と日本語の情報構造 5. 情報の新旧と冠詞 6. 自動詞構文と他動詞構文 7. BE受動文の使い方 8. GET受身とBE受身・動詞的受身と形容詞的受身 9. 再帰代名詞の使い方 10. 動詞の意味と構文(結果構文) 11. 動詞の意味と構文(二重目的語構文・ほか) 12. 否定の意味 13. 時制(現在と過去)とアスペクト(進行相と完了相) 14. 助動詞の使い方 15. 存在を表す表現(there構文とはだか存在文) 	
到達目標	英語学に関して基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習(プリントをよく読み、わからない表現を調べて質問内容を整理)し、復習(学習内容をノート等にまとめ、関連事項について調べ、疑問に思ったことがあれば質問する)のを怠らないこと。		
テキスト、参考文献	グーグルドライブ(https://drive.google.com/drive/folders/0B4rDsDKjudu5VVpQZ3pRZWUxWTA)から毎回授業用プリントをダウンロード印字する。		
評価方法	最終成績は100点満点の定期試験による。多少変更のある場合は第1回目の授業で説明される。		

09年度以降	言語情報処理 I a	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【初回授業は5月12日です。学期中に補講を行います】</p> <p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>言語情報処理 I a では、「言語情報とは何か?」、「コーパス(=言語データ)とは何か?」、「言語情報処理とは何か?」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題 (Research question(s)) をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書(下記参照)に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】第1章「コーパス言語学への招待」 2. 第2章「コーパスとは何か」 3. 第3章「さまざまなコーパス」 4. 第5章「コーパス検索の技術」 5. 第6章「コーパス頻度の処理」 6. 第7章「コーパスと語彙」(1) 7. 第7章「コーパスと語彙」(2) 8. 第8章「コーパスと語法」(1) 9. 第8章「コーパスと語法」(2) 10. 第9章「コーパスと文法」(1) 11. 第9章「コーパスと文法」(2) 12. プレゼンテーション準備(1): RQを検討 13. プレゼンテーション準備(2): データ分析 14. プレゼンテーション準備(3): 資料作成 15. 発表(1) 16. 発表(2) 	
到達目標	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	『ベーシックコーパス言語学』(石川慎一郎著 ひつじ書房)		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み(50%)、最終プレゼンテーション(50%)		

09年度以降	言語情報処理 I b	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題 (Research question) は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する(あるいはしない)文法項目、誤り (error) などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容といえます。</p> <p>授業では、学習者コーパスを構築し、分析する演習が中心になります。言語情報処理 I a を履修していなくても構いませんが、PC作業に慣れていないことが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集(1) 5. 学習者データの収集(2) 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備(1): データ分析 13. プレゼンテーション準備(2): 資料作成 14. 発表(1) 15. 発表(2) 	
到達目標	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み(50%)、最終プレゼンテーション(50%)		

09年度以降	言語情報処理Ⅱa	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、電子化された言語データを計量的に分析する言語学の方法論、即ち、コーパス言語学の知識と手法を学び、言語に対する洞察力を身につけることを目標とします。目標は、「言語情報処理Ⅰ」と同様としながらも、この講義では、より広範囲に言語データを扱います。例えば、母語話者や英語熟達者の言語比較や日本語テキスト等についても学習します。授業では、教科書に沿って様々な研究事例を見ながら、適時、参考文献も紹介します。授業は講義と演習を並行しながらコーパスツールの使用方法を学びます。「発表」では、各人の興味と技能等に応じて一つのテーマについて発表してもらいますので、授業をきっかけにして自ら発表のテーマを探してください。成績評価は特に発表を重視します。なお、授業外の作業が非常に多くなれることをあらかじめ伝えておきます。(履修の検討に際して、言語情報処理Ⅰを履修条件とはしませんが、言語解析技術を扱うので、PC操作の技術は不可欠です。)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. データとしての言語 3. 母語話者と学習者の言語比較の視点 4. 様々なコーパスツールとエクセル統計基礎 5. 英語母語話者と英語学習者データの比較の実際 6. ICNALE：基礎 7. ICNALE：実例 8. BNC：実例1 9. BNC：実例2 10. COCA：概説 11. COCA：基本操作 12. COCA：処理実習 13. プレゼンテーション準備：何を伝えるか、伝えないか 14. プレゼンテーション準備：どう効果的に伝えるか 15. 総括（この授業から何を学んだか） 	
到達目標	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定箇所等を見ながら実際にコーパスに触れてみる。		
テキスト、参考文献	使用テキスト：『英語教師のためのコーパス活用ガイド』（赤野他編著 大修館） 参考文献：『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
評価方法	発表内容・方法（40%）、パワーポイントスライド（40%）、授業における聴講態度・活動への積極的関与・貢献（20%）		

09年度以降	言語情報処理Ⅱb	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、「言語情報処理Ⅱa」の内容についてより深く学習します。「Ⅱa」を履修条件とはしませんが、コンピューターによる高度な言語解析技術を扱うので、「言語情報処理Ⅱa」の内容を理解できる、あるいは文字列に関する情報処理能力をもち、言語を分析的に見ることに相当の関心と自信があることが望まれます。授業では、語彙・コロケーションを中心に研究例を紹介します。また、演習形式で分析ツール(Ⅱaで紹介)の使用法と統計処理について学習します。「発表」では、各人の興味と技能に応じて、一つのテーマについて発表を行います。実習を中心に進めますので、出席を特に重視します。この単位の成績評価においては、「発表」とその配布資料、レポートを重視します。なお、授業外の作業が非常に多く含まれることをあらかじめ伝えておきます。(履修の検討に際して、言語情報処理Ⅰa、Ⅰb及びⅡaのシラバスも必ず読んでください。)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 語彙・コロケーション分析における多角的な視点 3. 語彙・コロケーション分析のためのツール 4. 語彙・コロケーション分析の実際例 5. 言語統計基礎 6. 基本的なコロケーション言語統計の実際 7. 一般的なコロケーション統計 基礎 8. 一般的なコロケーション統計 応用 9. コロケーション統計の処理の実際 基礎 10. コロケーション統計と処理の実際 応用 11. 発表準備作業 12. 発表テーマ報告と検討 13. 発表 前半 14. 発表 後半 15. 総括とレポート提出 	
到達目標	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定箇所等を見ながら実際にコーパスに触れてみる。		
テキスト、参考文献	使用テキスト：『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
評価方法	口頭発表の内容・方法（30%）、全ての発表資料（30%）、レポート（30%）講義における聴講態度・活動への積極的関与・貢献（10%）		

09年度以降	音声・音韻論 a	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語の音声」で学んだことをさらに発展させ、英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考え、ことばの知について学ぶ。</p> <p>音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。“音声”とは音波という具体物で、常に変化する“量的”なものである。一方、“音韻”は脳内にある抽象体で、音声に付ける A or B, 有 or 無, 高 or 低などの“質的”な記号である。授業では、音の特徴や変化の法則性(音韻)を見ていくが、折に触れその音声実態の多様性を紹介して、音声と音韻の表裏一体性について導入を試みる。</p> <p>各論は、英語や日本語の様々な音の現象について具体的に学ぶ。 “英語好き”の疑問や何となく感じていた事象について解き明かす。</p> <p><メッセージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語の音声」が既習、または今学期(火4)並行履修であること。 ・今年度は春学期完結であるので、音声関係科目の初習者に対する基礎導入のための講義や練習は最低限となる。各自の補足が必要。 ・毎週読み課題が出るが、計画的にコツコツやれば大丈夫。十分理解し、学習効果があるはずである。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、音声と音韻 2. 母音と子音 3. 有標性, 大母音推移/グリムの法則 4. 音素と異音 (1) 5. 英語のアクセントとリズム 6. 英語のイントネーション 7. 日本語の音節とモーラ 8. 日本語のアクセント 9. 音韻素性 10. 音声規則 (1) 11. 音声規則 (2) 音韻交替練習問題 12. 同化、音韻交替練習問題 13. 音素の並びと実際の音声 (1) 14. " (2) 15. まとめ 	
到達目標	英語の音声・音韻論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストや配布資料を基に講義をし、学生は毎週の読み課題や練習課題をこなして理解を深める。予習、授業参加、提出などに積極的な参加が求められる。		
テキスト、参考文献	川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館 (1999) (ISBN4-469-21232-6) その他 配布資料		
評価方法	授業参加 (準備・参加) :約 15%, クイズ・課題:約 15%, 試験:約 70%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。		

09年度以降	シンタクス a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは中高6年間英語を学び、かなりの文法知識を持っていると思います。しかし、いざ英語でまとめた文章を書いたり、家庭教師として英文解釈の説明をしようとすると、その知識のあやふやさに気づくことがあるのではないのでしょうか。この授業では、英語の文構造を分析的に整理(=シンタクス)していきます。分析的に英語を見直していくことによって、実用的な英語力が高まるだけでなく、私たちが無意識に使っている日本語とも多くの共通性があることを知るようになるでしょう。さらに、何語であれ言語は私たちの知的活動に不可欠なものなので、英語のシンタクスを学ぶことにより、人間の本質に迫ることも期待できます。</p> <p>春学期に扱う英語のデータは主に単文です。授業の前半は講義形式で進めます。後半には講義内容に関する英語のデータを受講者に分析して提出してもらい、次週に返却して解説します。2014年度シンタクス a との重複履修は不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シンタクスとは? 2. 句構造 3. X-bar Syntax (一般句構造理論) 4. X-bar Syntax (一般句構造理論) 5. X-bar Syntax (一般句構造理論) 6. 主要部による語彙選択 7. Midterm Activity 8. 主要部による語彙選択 9. 節の内部構造 10. 節の内部構造 11. 主語と助動詞の倒置 12. 本動詞・助動詞と時制辞の分布 13. 動詞句の省略 14. Yes/No 疑問文・Wh 疑問文 15. まとめ、質問 	
到達目標	英語のシンタクスに関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	返却される提出課題を復習し、配布プリントのデータを自分で分析する		
テキスト、参考文献	テキストなし。参考文献はFreiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (Cambridge UP), 中村捷(他) (1989)『生成文法の基礎』(研究社)など		
評価方法	Midterm Activity(40%)は通常授業内に行い、履修者間で協力して取り組む。定期試験(60%)は「すべて持ち込み可」で行う。授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。		

09年度以降	シンタクス b	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的や授業の進め方はシンタクス a と同様です。シンタクス a の履修もしくはそれと同程度の知識を持っていることを前提として授業を行います。</p> <p>扱うデータは主に that 節や不定詞節を含む英語の複文になります。</p> <p>2014年度シンタクス b との重複履修は不可。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シンタクス a 定期試験の解説など 2. 機能範疇と語彙範疇 3. persuade と expect の統語的差異 4. likely と eager の統語的差異 5. 不定詞補文一般について 6. 名詞句の分布と格理論 7. 格理論と名詞句移動 8. 格理論と名詞句移動 9. Midterm Activity 10. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 11. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 12. 名詞句移動の局所性 13. he などの代名詞と先行詞との構造的関係 14. 日本語の再帰形 15. まとめ、質問 	
到達目標	英語のシンタクスに関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	返却される提出課題を復習し、配布プリントのデータを自分で分析する		
テキスト、参考文献	テキストなし。参考文献はFreiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (Cambridge UP), 中村捷(他) (1989)『生成文法の基礎』(研究社)など		
評価方法	Midterm Activity(40%)は通常授業内に行い、履修者間で協力して取り組む。定期試験(60%)は「すべて持ち込み可」で行う。授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。		

09年度以降	意味論 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここで中心的に取り上げるのは、日本語と英語の合計を表す表現である。この表現を数を数える能力の現れとして理解した担当者の一連の研究を補足説明しながら講義し、これを発展させることを目指したい。</p> <p>この表現の認知的側面についての理解を深めるために最初に検討する予定でいるのは、Gregory Batesonによる“Metalogue: Daddy, How Much Do You Know?” (ETC, Vol. 10, No. 4, pp. 311-315, 1953)である。</p> <p>ここでは、授業に先立って完成した内容のものを講義するというよりは、講義を通じて新たにその内容を作り上げるということをしていきたいと考えている。実際、ここで取り上げる予定の「日本語の複数表現」や「数詞+名詞+and+名詞」に関する論考はそのようにして出来上がったものである。受講生には、新しいものが出来上がって行くプロセスに身を置いていただきたい。積極的参加を期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、講義の概要 2. Metalogue: Daddy, How Much Do You Know? 1 3. Metalogue: Daddy, How Much Do You Know? 2 4. 数を数える能力と合計を表わす文 1 5. 数を数える能力と合計を表わす文 2 6. 日本語の複数表現 1 7. 日本語の複数表現 2 8. Enumeration of Things and Events 1 9. Enumeration of Things and Events 2 10. アドホック・カテゴリー 1 11. アドホック・カテゴリー 2 12. 「数詞+名詞+and+名詞」の文法 1 13. 「数詞+名詞+and+名詞」の文法 2 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	英語の意味論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は板書ないし配布プリントによる。		
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	意味論 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここで中心的に取り上げるのは、英語の動詞sighを含む表現とそれに対応する日本語の表現である。まず最初に取り上げるのは、担当者による「英語の動詞sighの意味論」である。主として息の出入りという観点からsighを分析した拙論に、sighの発話動詞としての用法を含めて考察するところからはじめる。そしてさらに観察の範囲を広げると、sighが想像以上に多様な構文型をとることが分かる。この多様な用法を統一的に扱う枠組みを模索しつつ、有意義な比較対照研究の土台を整えることを目指したい。</p> <p>ここでは、授業に先立って完成した内容のものを講義するというよりは、講義を通じて新たにその内容を作り上げるということをしていきたいと考えている。実際、「英語の動詞sighの意味論」はそのようにして出来上がったものである。受講生には、新しいものが出来上がって行くプロセスに身を置いていただきたい。積極的参加を期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、講義の概要 2. 英語の動詞 sigh の意味論 1 3. 英語の動詞 sigh の意味論 2 4. 英語の動詞 sigh の意味論 3 5. 英語の動詞分類 1 6. 英語の動詞分類 2 7. 英語の動詞分類 3 8. 英語の動詞 sigh の文法論 1 9. 英語の動詞 sigh の文法論 2 10. 英語の動詞 sigh の文法論 3 11. ため息の意味論・文法論 1 12. ため息の意味論・文法論 2 13. ため息の意味論・文法論 3 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	英語の意味論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は板書ないし配布プリントによる。		
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語の文の時間表現を、統語的特徴と意味的特徴の両面から代表的な文献を紹介しながら、説明する。</p> <p>講義概要: Reichenbach (1947)『記号論理学の基礎』の「§51. 動詞の時制」(pp.287-298)は、発話時間、指示時間、出来事時間という三つの概念を用いて時間表現を捉えるという提案で有名である。Smith (1973)は従位節を含む文と時制の一致を取り上げ、Hornstein (1981)はReichenbachの理論が時制論理学や生成意味論の説明より優れていることを主張し、Kiparsky (2002) は事象構造と完了形の時間表現を扱っている。</p>		<p>Week</p> <p>1. 英語の2時制体系と時間表現</p> <p>2-3. Reichenbach (1947) による単純時制の説明</p> <p>4-6. Reichenbach (1947) による複合時制の説明</p> <p>7-8. Smith (1978) の時間表現に関する分析《中間試験》</p> <p>7-8. Smith (1978) の分析における時の副詞の役割</p> <p>9-11. Hornstein (1981) における時制の3分析の検討</p> <p>12. Hornstein (1981) の時間表現の分析の特徴</p> <p>13-14. Kiparsky (2005) の時間表現の分析の特徴</p> <p>15. Kiparsky (2005) の分析の特徴《期末試験》</p>	
到達目標	英語学の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、機能主義言語学、母語獲得、第二言語獲得、日本語との比較など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布している論文を読み、事後には授業内容を論文を参照しながら確認すること。		
テキスト、参考文献	Reichenbach <i>Elements of Symbolic Logic.</i> , Smith “The syntax and interpretation of temporal expressions in English”, Hornstein, “The Problem of Meaning in Natural Language” など		
評価方法	出席は単位認定の前提で、中間試験(45%)と期末試験(45%)と受講状況(10%)に基づき総合的に評価する。		

09年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: Reichenbach (1947)の提案に基づいた英語の文の時間表現の統語的・意味的特徴の研究を説明し、それを踏まえて、〈時制の一致〉という現象を考察する。</p> <p>講義概要: Hornstein (1993) <i>As Time Goes By</i> (MIT Press)で述べられている英語の時制・時間表現の特徴、時の副詞の役割、未来の時間表現や複合時制の意味解釈について説明する。さらに、Declerck (1991)とBinnick (1991)の主張を説明し、英語の文の時制・時間表現と時制の一致の特徴を考察する。</p>		<p>Week</p> <p>1-2. Hornstein (1993)の説明：時制と時の副詞</p> <p>3-4. Hornstein (1993)の説明：未来の時間表現</p> <p>5-6. Hornstein (1993)の説明：複合時制の意味解釈</p> <p>7-8. Hornstein (1993)の説明：時制の一致《中間試験》</p> <p>9-11. Declerck(1991)の説明：Reichenbach(1966)批判</p> <p>12-13. Declerck(1991)の説明：単純・複合時制の分析</p> <p>14. Binnick (1991) の時制分析</p> <p>15. Binnick (1991) の時制の一致の説明《期末試験》</p>	
到達目標	英語学の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、機能主義言語学、母語獲得、第二言語獲得、日本語との比較など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布している論文を読み、事後には授業内容を論文を参照しながら確認すること。		
テキスト、参考文献	Hornstein (1993) <i>As Time Goes By.</i> , Declerck (1991) <i>Tense in English: its structure and use in discourse.</i> , Binnick (1991) <i>Time and the verb: a guide to tense and aspect.</i>		
評価方法	出席は単位認定の前提で、中間試験(45%)と期末試験(45%)と受講状況(10%)に基づき総合的に評価する。		

09年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、日英語の時制解釈の比較をします。以下の英文を皆さんはどのように和訳するでしょうか。</p> <p>(1) John said that he <u>was</u> innocent of the crime in the court. wasは過去形なので、単純に「無実だったと言った」とするのは不可能ではありませんが、「無実だと言った」が自然な和訳でしょう。これは中高の英文法で学んだ（はずの！）時制の一致が日本語には適用していないことを示します。ただし、英語でも従属節が時制の一致に従わない場合があります、(2)は二通りに解釈できます。</p> <p>(2) John saw the man who <u>was</u> crying. 時制の解釈は節の構造の本質と関わります。日英語の時制解釈を比較することにより、構造と意味解釈の間の原理的關係に「驚いて」もらいたいと思います。 シンタクスの入門的論文を読んでから、講義に入ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Lasnik (1995) 3. Lasnik (1995) 4. Lasnik (1995) 5. Lasnik (1995) 6. Lasnik (1995) 7. 時制表示の基本概念：事象時間、発話時間、参照時間 8. 完了相 9. 時を表す副詞句 10. 副詞節の時制 11. 補文節の時制 12. 関係節の時制 13. 日英語のデータ分析 14. 日英語のデータ分析 15. まとめ 	
到達目標	英語学の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、機能主義言語学、母語獲得、第二言語獲得、日本語との比較など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題の論文を事前に読み、毎回の授業で提出する課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	Lasnik, H. (1995) "The Forms of Sentences." <i>Language: An Invitation to Cognitive Science</i> , Vol.1 Chapter 10.		
評価方法	毎回の授業で提出する課題（40%）、定期試験（60%）		

09年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>訪問の際に行う「ドアをノックする」行為を英語では knock the door とわずかに knock on the door というが、ではなぜそう表現するのかと問うと、「そう習ったから」と暗記型で学習したことを吐露する。実はどうして on が必要なかというようなことを理解することこそ、母語話者(native speakers)が頭の中に収めている知識を理解し、その理由について「なるほど、そうなのか！」と納得したうえで母語話者の直感的知識を自分のものにするうえでとても重要なことである。</p> <p>この授業では、日本人にとって難解だと言われる英語前置詞について、「どうしてそれが使われ？」「ほかのものではないのか！」という答（＝理屈）を実例に基づいて探っていく。そしてこの授業を受ければ、例えば、「鉛筆を噛まないで」も Don't chew your pencil.ではなく on が必要になること、「雨に降られた」を It rained on me.とすることも理解できるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語のものの捉え方 2. 続き 3. 続き 4. 前置詞：in 5. 続き 6. 前置詞：on 7. 前置詞：at 8. 前置詞：on 9. 前置詞：over 10. 前置詞：to 11. 前置詞：for 12. 前置詞：against 13. 前置詞：with 14. 続き 15. 前置詞：by 	
到達目標	英語学の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、機能主義言語学、母語獲得、第二言語獲得、日本語との比較など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントをよく読み質問事項を整理し、事後は小テストに備え、課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	グーグルドライブからダウンロード印字するプリント		
評価方法	最終成績は定期試験 60%、課題 20%、小テスト 20%による。		

13年度以降 12年度以前	英語学文献セミナーa 英語学文献研究 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語学に関する知識を増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の方法などを身につけることを目標とする。それと合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、下記のテキストを一行一行丹念に読み進めてゆく（コピーを配布する）。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては、内田義彦氏の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>学期末に行う試験は、日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、講義の概要 2. Introductory Remarks 1 3. Introductory Remarks 2 4. Introductory Remarks 3 5. Introductory Remarks 4 6. Delimiting the Problem 1 7. Delimiting the Problem 2 8. Delimiting the Problem 3 9. Delimiting the Problem 4 10. Properties Ascribed by Grammarians 1 11. Properties Ascribed by Grammarians 2 12. Properties Ascribed by Grammarians 3 13. Properties Ascribed by Grammarians 4 14. 春学期のまとめ 15. 春学期のまとめ 	
到達目標	文献研究を通じて、英語学の特定分野（音声学、音韻論、統語論、意味論、第二言語習得など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
テキスト、参考文献	Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) "The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English," <i>Glossa</i> 10.2: 200-240.		
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

13年度以降 12年度以前	英語学文献セミナーb 英語学文献研究 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語学に関する知識を増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の方法などを身につけることを目標とする。それと合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、下記のテキストを一行一行丹念に読み進めてゆく（コピーを配布する）。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては、内田義彦氏の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>学期末に行う試験は、日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、春学期の復習、講義の概要 2. The Analysis of the Plain and Ing Forms 1 3. The Analysis of the Plain and Ing Forms 2 4. The Analysis of the Plain and Ing Forms 3 5. The Analysis of the Plain and Ing Forms 4 6. The Analysis of the Plain and Ing Forms 5 7. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 1 8. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 2 9. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 3 10. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 4 11. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 5 12. Conclusion 1 13. Conclusion 2 14. 秋学期のまとめ 15. 秋学期のまとめ 	
到達目標	文献研究を通じて、英語学の特定分野（音声学、音韻論、統語論、意味論、第二言語習得など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
テキスト、参考文献	Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) "The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English," <i>Glossa</i> 10.2: 200-240.		
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化 a 英語圏の文学・文化	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(英米詩入門)</p> <p>まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおして英語圏の文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。講義では、伝承バラッド、シェイクスピアのソネット、19世紀ロマン派の作品、20世紀の詩人の作品を取りあげる。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Traditional Ballads 2. William Shakespeare 3. Andrew Marvell 4. William Blake 5. William Wordsworth 6. Percy Bysshe Shelley 7. John Keats 8. Edgar Allan Poe 9. Walt Whitman 10. Emily Dickinson 11. William Butler Yeats 12. Robert Frost 13. Wallace Stevens 14. Ezra Pound 15. William Carlos Williams 	
到達目標	英語圏の文学・文化に関して総論的な専門知識を習得し、文化・社会・政治的知識と関連づけながら鑑賞・分析を行い、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	15回の講義で英語詩の「面白さ」を体験してもらうために、受講生は事前に作品と十分な「対話」をし、自分の疑問点をもって講義に出席すること。		
テキスト、参考文献	Text: Philip Smith, ed. <i>100 Best-Loved Poems</i> . New York: Dover Pub., 1995. 参考文献: 『イギリス名詩選』(岩波文庫)、『アメリカ名詩選』(岩波文庫)		
評価方法	レポート(4,000程度の作品論)による。ただし、欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、評価対象とはしない。		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化 b 英語圏の文学・文化	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】文学コースの中級編の「英語圏の文学・文化」では、「a」で詩を、「b」で小説を勉強します。こちらの「b」で扱う作品は、19～21世紀に英語で書かれた小説のうち、代表的なもの、そして新進の作家によるものから選んでいます。舞台はイギリス、南アメリカ、アメリカ、日本とさまざまです。</p> <p>小説の醍醐味は、具体的な人間や社会をきめ細かに書くことで、普遍的で大きなテーマをリアルに感じさせてくれるところにあります。小説の技粋を読み込みながら、受講者のみなさんとそんな小説の醍醐味に触れていきたいと思っています。</p> <p>【講義概要】講義二回で一作品というペースで、作品を取り上げます。作品の技粋を英文で読み込み、その背景をこちらで解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2-3. Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (1837-39) 4-5. Olive Schreiner, <i>The Story of an African Farm</i> (1883) 6-7. Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> (1884) 8-9. Virginia Woolf, <i>To the Lighthouse</i> (1927) 10-11. Earnest Hemingway, <i>The Old Man and the Sea</i> (1951) 12-13. Toni Morrison, <i>Beloved</i> (1987) 14-15. Karen Tei Yamashita, <i>Circle K Cycles</i> (2001) 	
到達目標	英語圏の文学・文化に関して総論的な専門知識を習得し、文化・社会・政治的知識と関連づけながら鑑賞・分析を行い、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前: 長さ1～2ページ程度の英文を読んでくること 事後: 授業中に解説した英文を読み返し、よく内容を理解しておくこと		
テキスト、参考文献	テキストはハンドアウトを配布。参考文献は授業内で紹介する。		
評価方法	授業内レポート約3割、定期試験約7割 (ただし5回を越えて欠席した場合は評価対象としない)		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 a 英語圏の小説 a	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、文学作品、とくに小説の読み方を、小説『フランケンシュタイン』を例にして勉強します。</p> <p>参考文献として挙げた本では、『フランケンシュタイン』を例に取り上げながら、「小説技法」と「批評理論」を解説しています。講義ではこの本をベースに、担当者がさらに解説を付け加えながら進めます。</p> <p>『フランケンシュタイン』は名前ばかり有名ですが、原作は奥の深い、面白い小説です。女性が書いたというところも興味深いところです。受講者には翻訳でひととおり読んでもらいますが、重要なパッセージは原文の英語で読みます。</p> <p>「技法」や「理論」というと小難しそうに聞こえるかもしれませんが、文学研究の基本でもあり、映画、表象、文化研究全般に応用できるテクニックでもあります。いっしょに勉強してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 『フランケンシュタイン』とは？ 2. 小説技法(1) 3. 小説技法(2) 4. 小説技法(3) 5. 批評理論(1): 伝統的批評 6. 批評理論(2): ジャンル批評 7. 批評理論(3): 読者反応批評 8. 批評理論(4): 脱構築批評 9. 批評理論(5): 精神分析批評 10. 批評理論(6): フェミニズム批評 11. 批評理論(7): ジェンダー批評 (クィア批評) 12. 批評理論(8): マルクス主義批評 13. 批評理論(9): 文化批評 14. 批評理論(10): ポストコロニアル批評 15. 批評理論(11): その他の批評 	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された箇所を読んでおくこと		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』小林章夫訳（光文社文庫）</p> <p>参考文献：廣野由美子『批評理論入門：「フランケンシュタイン」解剖講義』（中公新書）</p>		
評価方法	授業内レポート 30%、中間レポート 30%、定期試験 40% (ただし 5 回を越えて欠席した場合は評価対象としない)		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の演劇 b	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう演劇に示されているかについて考察する。 英米や時代にかかわらず、さまざまな作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげて、社会と文化の洞察をはかる。 実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知り、演劇文化への理解を深める。</p> <p>講義概要 なるべく実際の上演を観られる戯曲をとりあげ、台本抜粋を精読する。映像化された作品がある場合は、冒頭部分を上映する。 日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 戯曲作品 1 3. 戯曲作品 2 4. 戯曲作品 3 5. 戯曲作品 4 6. 戯曲作品 5 7. 戯曲作品 6 8. 戯曲作品 7 9. 戯曲作品 8 10. 戯曲作品 9 11. 戯曲作品 10 12. 戯曲作品 11 13. 戯曲作品 12 14. 戯曲作品 13 15. まとめ 	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、劇作品の台本抜粋の英文を日本語訳し、それをノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英米の劇作品の台本抜粋（B5で4ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストで 50%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 50%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末に定期試験はしません。		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の演劇 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>《シェイクスピアとイギリス俳優たち》</p> <p>20世紀以降のイギリスにおけるシェイクスピア上演を、何人かの俳優と演出家に焦点を当てながら考察する。本講義の目的は二つ。ひとつはシェイクスピアの戯曲の複雑で豊かな言葉が、俳優の肉体を通してどのように表現され、それがどのような意味と面白さを持つのかを理解することである。名優とされるイギリス俳優たちの音声や映像に触れながら、シェイクスピアと英語の持つ表現力への理解を深めることを目指す。演劇を「自然を映す鏡」とシェイクスピアは呼んだが、シェイクスピア劇の上演はそれぞれの時代の相を映し出す。この100年ほどの間にシェイクスピア上演はダイナミックに姿を変えてきた。20世紀以降のイギリスあるいは世界の変化が、シェイクスピア劇の上演にどのように反映してきたかを理解することがもうひとつの目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Olivier and Gielgud (1) 3. Olivier and Gielgud (2) 4. Olivier and Gielgud (3) 5. The Director's Shakespeare (1) 6. The Director's Shakespeare (2) 7. The Director's Shakespeare (3) 8. Shakespearean Actresses (1) 9. Shakespearean Actresses (2) 10. Shakespearean Actresses (3) 11. After Branagh (1) 12. After Branagh (2) 13. After Branagh (3) 14. Course summary 15. Wrap-up 	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で取り上げるシェイクスピアの戯曲の引用箇所を精読しておくこと。		
テキスト、参考文献	教材はプリントを配布する。参考文献は Wells, Stanley. (2015). <i>Great Shakespeare Actors</i> . Oxford University Press. ISBN: 978-0198703297		
評価方法	学期末試験 70%、授業への参加度（リアクション・ペーパー） 30%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 a 英語圏の社会と思想 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>《Downton Abbey と Pax Britannicaの終焉》</p> <p>世界的な大ヒットとなったTVドラマ<i>Downton Abbey</i>を通し、20世紀前半のイギリスの歴史への理解を深める。1912年から1925年というこのドラマの時代設定は、イギリスの大きな転換点だった。それまでの強固な階級制度が崩れ始め、イギリス国内の人々の価値観と社会制度が変化すると同時に、世界の中でイギリスの占める位置にも決定的な変化が起きた。こうした歴史的背景を、作者Julian Fellowesは巧みにドラマの中に取り込んでいる。そうした歴史が具体的なセリフの英語表現の中にどのように書き込まれているかを見ながら、イギリス現代史への理解を深めることを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イン트로ダクション 2. タイタニック号の沈没 3. 貴族階級と相続制度 4. 階級社会と社会的流動性 5. 婦人参政権運動と働く女性たち 6. 第一次世界大戦の勃発 7. 化学兵器、塹壕、シェルショック 8. 志願兵と徴兵制度 9. スペイン風邪 10. アイルランド独立運動 11. 労働党政権の誕生 12. Pax Britannica の終焉 13. Real Downton Abbey とイギリスの文化遺産 14. まとめ(1) 15. まとめ(2) 	
到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で取り上げるドラマの脚本からの抜粋（英文）を精読しておくこと。		
テキスト、参考文献	教材はプリントを配布する。参考文献は下記のもの以外は授業内で随時紹介する。Fellowes, Julian. (2012). <i>Downton Abbey: The complete Scripts</i> . Harper Collins. ISBN: 978-0-00748739-4		
評価方法	学期末試験 70%、授業への参加度（リアクション・ペーパー） 30%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の社会と思想 b	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(混成の英国とグローバル・ヒストリー)</p> <p>本講義は 2 つのセクションからなる。第1セクション"Changing Britannia"(第1回～第7回)では、まず多人種・多文化社会として公式な自己を定義しようとしている現在のイギリスの姿を確認する。そのうえで、二次世界大戦後、旧植民地からの大量の移民の到来によって、いやおうなく多人種・多文化社会へとになっていったイギリスのここ半世紀の変化を見ていく。第2セクション"400Years—Empire, Capitalism and Slavery" (第8回～第15回)では、第1セクションで見てきた混成状態を醸成した帝国の歴史を振りかえる。大西洋世界の形成と英国の覇権、奴隷制と資本主義の発達、国民国家とディアスポラの問題、帝国なき後の英国の苦悩、20世紀後半からの新しいBritishnessの模索などを取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 混成の英国—オリンピック誘致にみる、公式イメージとしての多様性 2. 1948—混成の英国へ、ひとつの始まり 3. 冷たい歓迎と移民第一世代 4. ホスト社会の戸惑い 5. 第二世代と Black British (1) 6. 第二世代と Black British (2) 7. Marley(1945-1981) と Smith(1975-)のミレニウム 8. 400 Years—混成の必然 9. 資本主義と奴隷制 10. カリブ—西欧近代史の「背中の臍」 11. 帝国のひろがり 12. Mother Country の幻想 13. イギリス人とは誰か 14. 新しい他者 15. 混成の英国—英国史と Britishness の再定義 	
到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布する次回授業のハンドアウトに目をとおしておくこと。事後は必要に応じた復習をすること。また授業時に紹介した参考文献に興味に応じて読んでください。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布する。参考文献は随時紹介する。		
評価方法	提出物 30%、定期試験 70%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際情勢の中で中東がかつてなかった程重みを増す今日、中東政策はアメリカ外交の大きな柱となっている。その米中東政策に力をふるっているのがユダヤ・ロビーである。</p> <p>秋学期の授業ではこのユダヤ・ロビーを中心に同盟関係にあるキリスト教右派等に焦点をずえることで、これまで見えてこなかったアメリカ政治史の特質を解明する。「ユダヤの視点でみるアメリカ政治史」が秋学期前半のテーマとなる。また世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。各人種・民族集団間相互のあつれきを生みだしたメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>「ユダヤの視点でみるアメリカ史」が秋学期後半のテーマとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ政治とユダヤ人 2. 移民・マイノリティの政党、民主党との同盟成立 3. 在米イスラム教徒の政治力 4. 共和党支持の中核、キリスト教福音派 5. ユダヤ・ロビーとオバマ政権 6. 検証、最強のユダヤ・ロビーAIPAC 7. 同床異夢の同盟、キリスト教右派とユダヤ・ロビー ユダヤマネーの仕組 8. 歴代政権とユダヤ人社会 1933~1971 9. 歴代政権とユダヤ人社会 1972~2010 10. 大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 15. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 	
到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	佐藤唯行著『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』電子書籍版：ダイヤモンド社 1,280円 佐藤唯行著『アメリカのユダヤ人迫害史』2000年 集英社新書 740円		
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持込み可。出席はとらない。		

09年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期前半は明治以後の140年間、日本に対し、日露戦争の軍資金調達、医学・化学などの学術指導、法制定を通じ多大な恩恵を及ぼした知られざるユダヤ・パワーを学ぶ。</p> <p>日猶友好親善の140年史を学ぶことは、「外国人との共生」の道を模索せねばならぬ今日の日本人にとり、有益な示唆がえられるはずである。</p> <p>後半は彼らがアメリカの地でパワーエリートに成り上がる以前、中世から近代の英国で負け犬として「下積み」をすごした時代を概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日猶交流の140年史 2. 投資銀行家、シフはなぜ日本を助けたのか 3. 野口英世と恩師フレクスナー 4. 明治医学界のユダヤの恩師 5. 日本歴史学の父、リース 6. 日本原子物理学の恩人、ボーア 7. 憲法起草で指導的役割を果たしたケーディス 8. 憲法に「男女平等」を盛り込んだベアテ・シロタ・ゴードン 9. 中世英国のユダヤ人金融 10. 隠れユダヤ教徒の足跡 1290~1656年 11. 千年王国論とユダヤ人再入国 12. 17~18世紀英国の外国貿易とユダヤ人 13. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生メカニズム 14. 英国シオニスト勢力 15. ホロコースト難民の救済とパレスチナへの送り出し 	
到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関して学際的な専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	佐藤唯行著『日本の恩人、ユダヤ人』2015年 日新報道 1,500円 佐藤唯行著『英国ユダヤ人』1995年 講談社選書 1,600円		
評価方法	20問12択の Quiz 形式の試験、教科書持込み可。出席をとらない。評価は定期試験によるのみ決定。		

09年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English.</p> <p>This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful 15. Final Test (Essay) 	
到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関して学際的な専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約小クイズ（抜き打ち）の準備		
テキスト、参考文献	Materials will be handed out in class.		
評価方法	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence. Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 アイルランドの文学と文化についての理解を図る。</p> <p>講義概要 アイルランドに視点を据えて、この島の歴史や文化を、できるだけ文学作品（主に現代演劇や映画）を基にして、時に DVD 資料を利用しながら、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わり考えていきます。</p> <p>注意事項 テキストにする英文はTOEIC600点程度かそれ以上の英語力が前提です。600点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入——アイルランド予備知識 2. 神話と Harry Potter 3. ケルト人と人種のルーツ 遺跡紹介 DVD 4. ケルト文化と Hallowe'en 紹介 DVD 5. 妖精伝説：現代怪談戯曲 Shining City 6. ケルトの祭：戯曲 Dancing at Lughnasa 7. キリスト教と聖パトリック 8. イギリス支配への抵抗：映画 The Hunger 9. イギリスからの独立：映画『麦の穂を揺らす風』 10. 独立運動とテロ：映画『マイケル・コリンズ』 11. 争いと荒廃からの再生：戯曲 Carthaginians 12. サッカー&ラグビー：戯曲 The Man from Clare 13. 移民：映画 JFK、『ギャング・オブ・NY』 14. 移民：映画 Kings とミュージカル Once 15. まとめ——アイルランドの今 	
到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、英文資料の日本語訳をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英文資料（B5 で 4 ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。		

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(カリフォルニアの詩と文化)</p> <p>カリフォルニア、とりわけ San Francisco Bay Area を中心に、ここで生まれた詩と音楽をテキストにしなが、カリフォルニア文化とは何かを考察する。</p> <p>1950 年代以降にサンフランシスコ・ベイ・エリアで書かれた詩やその場所を歌ったポピュラー・ミュージックを取り上げながら、アメリカ先住民の文化、ビート、ポエトリー・リーディング、ベトナム戦争、ホモセクシュアリティ、ドラッグ、カウンターカルチャー、環境問題、ロック・ミュージック、禅仏教などについて論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. An Introduction 2. What is San Francisco? 3. What was Gold Rush? 4. Counterculture & Rock Music 5. Zen Buddhism in the Bay Area 6. Poets in San Francisco 7. Kenneth Rexroth 8. Robert Duncan 9. Lawrence Ferlinghetti 10. Jack Kerouac 11. Philip Whalen 12. Allen Ginsberg 13. Gary Snyder 14. Michael McClure 15. Robert Hass 16. Jane Hirshfield 	
到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを熟読し、疑問点を整理してから、講義に参加すること。		
テキスト、参考文献	テキストは、プリントを使用。 参考文献： <i>California Poetry: From the Gold Rush to the Present</i> . Berkeley: Heyday Books, 2004.		
評価方法	講義で取り上げた作品を一つ選び、4,000 程度の作品論（書き方は、原ゼミの HP の「MLA 論文の書き方」を参照）によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない		

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(実物の英字新聞を読んで、社会にせまる)</p> <p>【講義目的】 獨協大学の図書館には、ロンドンの『タイムズ』をはじめ、海外の新聞が何種類か配架されていますが、読んでくれる学生はあまり多くありません。この授業では、海外の新聞を手に取り、インクの匂いを嗅ぎながら、新聞を読む楽しさを見直します。英語圏の社会や文化を中心に、今、世界で何が話題になっているかを調べ、教室でディスカッションをするとともに、フェイスブックを使って発信していきます。</p> <p>【講義概要】 ①図書館で英語圏の新聞を手に取り、適当な記事を選ぶ。 ②データベースを使って記事をダウンロードする。 ③記事の背景となる歴史や社会について調べる。 ④英文の記事をていねいに読む。 ⑤教室で発表・ディスカッションをする。 ⑥クラスで作るFBグループに投稿する。 ⑦期末レポートを作成する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館で英文新聞記事を選ぶ 2. 教室で発表・ディスカッションをおこなう 3. 以上の繰り返し 4. 以上の繰り返し 5. 以上の繰り返し 6. 以上の繰り返し 7. 以上の繰り返し 8. 以上の繰り返し 9. 以上の繰り返し 10. 以上の繰り返し 11. 以上の繰り返し 12. 以上の繰り返し 13. 以上の繰り返し 14. 以上の繰り返し 15. まとめとディスカッション 	
到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。		
テキスト、参考文献	獨協大学で定期購読している海外の新聞とデータベース（LexisNexis）を用いる。		
評価方法	授業内での発表、FB記事、学期末レポートによる。		

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ユダヤ系アメリカ人は、合衆国総人口に占める割合は3%未満とされていますが、アメリカの政治、経済、芸術、エンターテイメントなどの分野で、強い影響力を持っています。この講義では、<i>The Joys of Yiddish</i> という旧世界のユダヤ語 Yiddish の語彙を紹介した書籍と schlemiel という概念を中心に、ユダヤ系アメリカ人の文化やユーモアの特質を考察します。</p> <p>講義概要 毎回 Yiddish 語のキーワードを幾つかとりあげ、その単語にまつわるエピソードやジョークなどを紹介し、そこからうかがうことのできる価値観、文化などを考察します。授業はあらかじめ配布したプリントを予習してきてもらい、講義形式だけではなく、質疑応答、希望者によるプレゼン形式などもとり入れる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ユダヤ系アメリカ人と Yiddish 語について 2. Schlemiel (1) 3. Schlemiel (2) 4. Schlemiel (3) 5. Talmud 6-14. ユダヤ系アメリカ人や社会を理解する上で役立つと思われるその他の Yiddish 語の語彙を解説し、意見交換や討論をする。 15. まとめ 	
到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指定された英文項目や範囲を読み、和訳やプレゼンの準備をする。事後は、授業範囲の重要箇所を理解できたか確認し、次週の質疑応答に備える。		
テキスト、参考文献	Leo Rosten, <i>The Joys of Yiddish</i> (1968). Leo Rosten, <i>The Joys of Yinglish</i> (1992). Sanford Pinsker, <i>The Schlemiel as Metaphor</i> (1971) 必要箇所のプリントを配布。		
評価方法	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化文献セミナー a 英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 英語圏の文学・文化に関するポスト構造主義の批評文献を読み、近年の批評理論についての理解を深めます。		1：はじめに：授業の進め方と構造主義以降の批評理論の紹介 2-14：文献の輪読と解説 15：まとめ：	
講義概要 授業はあらかじめ配布したプリントを予習してきてもらい、毎回順番に文献を輪読してもらい、不明な点があれば、解説します。希望があれば、希望者によるプレゼン形式などもとり入れる予定です。			
到達目標	文献研究を通じて、英語圏の文学・文化に関する特定分野について専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指定された範囲を読み、和訳やプレゼンの準備をする。事後は、授業範囲の重要箇所を理解できたか確認し、次週の質疑応答に備える。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリントを配布します。 参考文献：随時紹介します。		
評価方法	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化文献セミナー b 英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
(パブリックアートを問い直す) 【講義目的】 パブリックアートって、公園に置かれた彫刻や空港のロビーにある壁画のこと？ と思う方も多いと思います。もちろん、こうした芸術作品がパブリックアートであることは間違いないのですが、パブリックアートは単なる装飾ではありません。この授業では、芸術祭とか、公立の劇場やミュージアムの役割、あるいはパフォーマンスやグラフィティなども含めて、アートの公共性や、パブリックスペースのあり方についても考えていきます。		1. インTRODクシヨン 2. 発表とディスカッション 3. 発表とディスカッション 4. 発表とディスカッション 5. 発表とディスカッション 6. 発表とディスカッション 7. 発表とディスカッション 8. 発表とディスカッション 9. 発表とディスカッション 10. 発表とディスカッション 11. 発表とディスカッション 12. 発表とディスカッション 13. 発表とディスカッション 14. 発表とディスカッション 15. まとめ	
【講義概要】 基本的には英語の文献を読んで、教室でディスカッションをすることになりますが、実際にミュージアムに行ったり、パフォーマンスを観たりする学外でのフィールドワークも取り入れたいと思います。			
到達目標	文献研究を通じて、英語圏の文学・文化に関する特定分野について専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。		
テキスト、参考文献	Pable Helguera, <i>Education for Socially Engaged Art</i> を予定。他にプリントを使用。		
評価方法	学期末課題と学期中に何度か提出してもらおう小レポート。		

09年度以降	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 異文化間コミュニケーションの諸要素を理解し、その理解に基づいて1)グローバルな表現ができるようになり、2)賢い異文化コミュニケーターになる。 講義概要 コミュニケーションの諸要素を理解した後、異文化間コミュニケーションに関わる重要な諸テーマ（自己の発見、表現方法、エスノセントリズム、カルチャーショック、非言語コミュニケーションなど）について学んでいく。		1. 導入 2. コミュニケーションの諸領域 3. コミュニケーションの諸要素 4. 自己の発見（ジョハリの窓、他） 5. 文化の定義 6. 日本的表現方法と西洋的表現方法 7. グローバルな表現方法とは？ 8. グローバルな表現方法を使ったプレゼン 9. ビデオ視聴（ミニレポート提出） 10. コミュニケーションと態度変容 11. エスノセントリズム、対立のコミュニケーション 12. カルチャーショックと人間的成長 13. 非言語コミュニケーション 14. 賢い異文化コミュニケーターとは？ 15. まとめ	
到達目標	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント配布予定 参考文献：『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣選書）		
評価方法	授業への参加度 30%、ミニレポートとプレゼン 30%、最終レポート 40%		

09年度以降	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 異文化間コミュニケーションの諸要素を理解し、その理解に基づいて1)グローバルな表現ができるようになり、2)賢い異文化コミュニケーターになる。 講義概要 コミュニケーションの諸要素を理解した後、異文化間コミュニケーションに関わる重要な諸テーマ（自己の発見、表現方法、エスノセントリズム、カルチャーショック、非言語コミュニケーションなど）について学んでいく。		1. 導入 2. コミュニケーションの諸領域 3. コミュニケーションの諸要素 4. 自己の発見（ジョハリの窓、他） 5. 文化の定義 6. 日本的表現方法と西洋的表現方法 7. グローバルな表現方法とは？ 8. グローバルな表現方法を使ったプレゼン 9. ビデオ視聴（ミニレポート提出） 10. コミュニケーションと態度変容 11. エスノセントリズム、対立のコミュニケーション 12. カルチャーショックと人間的成長 13. 非言語コミュニケーション 14. 賢い異文化コミュニケーターとは？ 15. まとめ	
到達目標	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント配布予定 参考文献：『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣選書）		
評価方法	授業への参加度 30%、ミニレポートとプレゼン 30%、最終レポート 40%		

09年度以降	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、文化研究の立場から、異文化コミュニケーションに関する諸問題への知的関心度を高めることを目的とします。受講生は、この目的を念頭に置きながら、講義・テキストを理解し、さらにグループ・ワークなどを通じて、関連する実例の分析や解釈を行います。</p> <p>講義はテキスト内容への補足説明を中心とします。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めた受講生には研究発表を行う資格が与えられます。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 1：授業方針と注意事項 2. 講義概要 2：研究チームの編成 3. グローバル社会と異文化コミュニケーション（1章） 4. 文化（2章） 5. コミュニケーション（3章） 6. 言語（4章） 7. 非言語（5章） 8. 時間・空間（6章） 9. 異文化接触（7章） 10. 異空間としてのメディア（8章） 11. メディアと文化（9章） 12. 文化のポリティクス（10章） 13. グローバリゼーションの行方（11章） 14. 小テスト、グループ・カウンセリング 15. 研究発表 	
到達目標	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの該当する章を予めよく読んでから各講義に出席してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：池田編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010）		
評価方法	研究発表（準備＋発表＋評価）90%　小テスト（研究発表の資格審査）10%		

09年度以降	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、文化研究の立場から、異文化コミュニケーションに関する諸問題への知的関心度を高めることを目的とします。受講生は、この目的を念頭に置きながら、講義・テキストを理解し、さらにグループ・ワークなどを通じて、関連する実例の分析や解釈を行います。</p> <p>講義はテキスト内容への補足説明を中心とします。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めた受講生には研究発表を行う資格が与えられます。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 1：授業方針と注意事項 2. 講義概要 2：研究チームの編成 3. グローバル社会と異文化コミュニケーション（1章） 4. 文化（2章） 5. コミュニケーション（3章） 6. 言語（4章） 7. 非言語（5章） 8. 時間・空間（6章） 9. 異文化接触（7章） 10. 異空間としてのメディア（8章） 11. メディアと文化（9章） 12. 文化のポリティクス（10章） 13. グローバリゼーションの行方（11章） 14. 小テスト、グループ・カウンセリング 15. 研究発表 	
到達目標	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの該当する章を予めよく読んでから各講義に出席してください。		
テキスト、参考文献	テキスト：池田編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010）		
評価方法	研究発表（準備＋発表＋評価）90%　小テスト（研究発表の資格審査）10%		

09年度以降	メディア・コミュニケーション論 a	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現から複雑なテクノメディアに至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それを媒介するメディアなしに文化的活動を営むことはできない。</p> <p>本講義では、わたしたち人間にとって重要な意味をもつ「メディア・コミュニケーション」の本質に迫るために、コミュニケーション研究やメディア論における基本的な考え方を、現代社会にあふれる豊富な具体例とともに解説してゆく。またメディア史の代表的なモデルを概観しながら、メディア・テクノロジーの発達によって、人間のコミュニケーション形態がどのように変化してきたのかを理解していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス——本講義をつうじて学んでほしいこと 2 コミュニケーションの諸相① 3 コミュニケーションの諸相② 4 コミュニケーションの諸相③ 5 コミュニケーションの諸相④ 6 メディアの媒介作用と延長作用① 7 メディアの媒介作用と延長作用② 8 メディアの媒介作用と延長作用③ 9 メディアの媒介作用と延長作用④ 10 メディアの媒介作用と延長作用⑤ 11 ポスト・ヒューマンの肖像① 12 ポスト・ヒューマンの肖像② 13 ポスト・ヒューマンの肖像③ 14 ポスト・ヒューマンの肖像④ 15 前期の総括 	
到達目標	メディアとコミュニケーションの関係に関する諸理論を習得し、分析を行い、現代メディアを批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
テキスト、参考文献	池田理知子・松本健太郎編 『メディア・コミュニケーション論』（ナカニシヤ出版、2011年）		
評価方法	平常点 50%、 期末試験 50%		

09年度以降	メディア・コミュニケーション論 b	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、多種多様なコミュニケーション・メディアによって織りなされる文化の諸相を分析的に考察していくことで、われわれをとりまく「意味の網の目」（クリフォード・ギアツ）を読みとくためのリテラシーの獲得を目指す。</p> <p>秋学期に開講される「メディア・コミュニケーション論 b」では、所定の教科書に準拠し、様々な分野の学問的言説を援用しながら、ビデオゲーム、ショッピングモール、デジタル地図、お笑い、SFなど、幅広い事象を分析の俎上に載せていくことになる。そのうえで「記号」と「メディア」の現代的な関係性を理論的に考察することを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス——本講義をつうじて学んでほしいこと 2 カジュアル革命と、スポーツ化するスポーツゲーム 3 ビデオゲームにおける没入のメカニズム 4 ゲームは現実の何を模倣して成立するか 5 メディア・テクノロジーが陶冶する想像力の現在 6 情報と空間——ショッピングモールを考える 7 Google ストリートビューにおける写真的現実の歪み 8 テーマパークと想像力 9 お笑いの視聴における「(多様な) 読み」は可能なのか 10 マッドサイエンティストとトポス概念 11 貨幣の非物質化：認知資本主義とクレジットカード 12 産業的資源としての「意識」をめぐる諸問題 13 ヒトとモノのハイブリッドなネットワーク 14 記号の制御と、媒介意識の透明化を考える 15 後期の総括 	
到達目標	メディアとコミュニケーションの関係に関する諸理論を習得し、分析を行い、現代メディアを批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
テキスト、参考文献	松本健太郎編 『理論からよむメディア文化』（新曜社、2016年刊行予定）		
評価方法	平常点 50%、 期末試験 50%		

09年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 現代のコミュニケーション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、メディアや文化テクストを解説することを学ぶ。		1 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点 2 時計時間の支配 3 空間と権力 4 アイデンティティの問い 5 レトリックと権力（1） 6 レトリックと権力（2） 7 家庭内コミュニケーション 8 ジェンダーとコミュニケーション（1） 9 ジェンダーとコミュニケーション（2） 10 テクノロジーとコミュニケーション（1） 11 テクノロジーとコミュニケーション（2） 12 メディアのレトリック 13 多文化主義とコミュニケーション（1） 14 多文化主義とコミュニケーション（2） 15 グローバル化と日本社会／総括	
講義概要 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーション学の問題の中心は権力関係にある。そこで、古代ギリシアの口承文化に基づくレトリックを嚆矢としたスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』（有斐閣）を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、<今>に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。			
到達目標	発話を中心としたコミュニケーションに関する諸理論を習得し、分析を行い、批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習及び必要な映画等のスクリーニングは、各自の事前学習として必須。授業後に講義内容も復習すること。		
テキスト、参考文献	池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.		
評価方法	定期試験又はレポート及び不定期に課すクイズ等による総合評価。		

09年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解し、それを批判的に実践できるようになることである。講義における学習の目標は以下の2点である。第1に口承、文字、さらには電子メディアに媒介された表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第2にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に活用できるようになることである。		1 オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論（1） 2 フェルディナン・ド・ソシュールと記号論（2） 3 ハイデガーと存在論 4 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム /J.L.オースティンと発話行為理論（1） 5 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム /J.L.オースティンと発話行為理論（2） 6 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク（1） 7 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク（2） 8 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク（3） 9 ミシェル・フーコーと表象（1） 10 ミシェル・フーコーと表象（2） 11 ミシェル・フーコーと表象（3） 12 ミシェル・フーコーと表象（4） 13 エドワード・サイードとオリエンタリズム（1） 14 エドワード・サイードとオリエンタリズム（2） 15 スチュアート・ホールと文化研究	
講義概要 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 b では、構造主義が主流となった20世紀以降の現代レトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論の学習を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。			
到達目標	発話を中心としたコミュニケーションに関する諸理論を習得し、分析を行い、批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布物等を予習しておくこと。授業後の講義内容の復習は必須。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	定期試験又はレポート及び不定期に課すクイズ等による総合評価。		

09年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーションとは、「はなし」に限定されるものではないし、スピーチ(発話)は「ことば」に限定されるわけでもない。本授業では、様々なメッセージを「スピーチ」とみなし、様々な社会事象をコミュニケーションとしてとらえることで、現代を生きる我々がいかに関係や意味の産出に関わっている・いけるのか講義していく。</p> <p>春学期は<する・おこる>、<対称性>、<記号の均質性>、<時間>、<主体>などのキーワードを足がかりとして、様々な事象(新聞、雑誌、漫画、小説、映画)の検討をおこなう。</p> <p>授業参加のために事前に課題の読書をすませ、考えてくるとともに、遅刻・早退をせず、授業内での話し合いに積極的に関わることが必要となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要の説明 2 コミュニケーションとは?スピーチとは? 3 コミュニケーションと認識 4 モノと発生するコミュニケーション 5 語らない語りとコミュニケーション 6 CM、欲望とコミュニケーション 7 階級、共通記号とコミュニケーション 8 教室とコミュニケーション 9 音楽、文化伝搬とコミュニケーション 10 笑いとコミュニケーション 11 物語とコミュニケーション 12 ナショナリズムとコミュニケーション 13 歴史とコミュニケーション 14 歴史とコミュニケーション 15 まとめ 	
到達目標	発話を中心としたコミュニケーションに関する諸理論を習得し、分析を行い、批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	読書課題の読了、未習概念の調査と既習概念の、概念検討の例の調査など		
テキスト、参考文献	石田英敬 『現代思想の教科書』 その他配付資料		
評価方法	授業内活動への参加、授業コメントを含む授業活動(50%)、テスト(50%)		

09年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の「スピーチ・コミュニケーション論 a」をふまえ、さらに理論的な考察をおこなう。</p> <p>まずは、スピーチ・コミュニケーションにとって重要となる、「記号・象徴・表象・言説・シンボル・サイン」といったことばで語られる概念を、記号論、レトリック論の研究者がどのように捉えてきたのかを検討し、これらの概念を提唱する諸理論家の考えによってどのような研究が可能になるのか考察する。</p> <p>これらの記号に関する諸概念を検討した後、ハーバマスに端を発する公共圏に関する理論を踏まえ、公共圏の構築、そこからの排除に関連する諸理論を扱う。</p> <p>授業参加のために事前に課題の読書をすませ、考えてくるとともに、遅刻・早退をせず、授業内での話し合いに積極的に関わることが必要となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要の説明 2 記号論: ソシュールとバルト 3 記号論: パース 4 レトリック論: ケネス・バーク 5 レトリック論: ケネス・バーク 6 公共圏とコミュニケーション: ハーバマス 7 輿論と世論 8 対抗的下位の公共圏とコミュニケーション: フレイザー 9 終戦記念日をめぐる言説 10 権力・主体とコミュニケーション: フーコー 11 社会とコミュニケーション: ブルデュー 12 オリエンタリズム: サイド 13 オリエンタリズム: サイド 14 日本とオリエンタリズム 15 まとめ 	
到達目標	発話を中心としたコミュニケーションに関する諸理論を習得し、分析を行い、批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	読書課題の読了、未習概念の調査と既習概念の、概念検討の例の調査など		
テキスト、参考文献	石田英敬 『現代思想の教科書』 その他配付資料		
評価方法	授業内活動への参加、授業コメントを含む授業活動(50%)、テスト(50%)		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1928年初のトーキー・アニメ『蒸気船ウィリー』によるミッキーの大ブレイク以来、ウォルト・ディズニーと彼が興したエンターテインメント企業「ディズニー」は、映画やテーマパーク、それらを核として広がる壮大なディズニー文化を築いてきた。これは、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものである。</p> <p>この授業では、単に「かわいい」からと無批判に受け入れられがちなディズニー文化の諸相を、初期の短編映画、「シリー・シンフォニー」シリーズ、『白雪姫』から最近の『アナと雪の女王』等までの、いわゆる「ディズニークラシックス」といわれる長編アニメ映画群、そしてアメリカ、日本、フランス、香港のテーマパークへの言及を軸として、でスケプティカルな視点から考察していくものとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「蒸気船ウィリー」 3. 「シリー・シンフォニー」シリーズ 4. 『白雪姫』① 初の長編アニメーションへの挑戦 5. 『白雪姫』② リアリズムの追究のために（カメラ） 6. 『白雪姫』③ リアリズムの追究のために（実写映像） 7. 『白雪姫』④ リアリズムの追究のために（特殊効果） 8. 『ピノキオ』と人間至上主義 9. 戦争と労働争議 10. 『ダンボ』と黒人差別問題、人間至上主義 11. 更なるリアリズムの追究：『バンビ』 12. 主張するプリンセス、シンデレラ 13. カルト映画？『ふしぎの国のアリス』 14. 『ピーターパン』とインディアン 15. まとめ 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われる映像等の資料を、事前に視聴してから、授業に参加すること。また、事後は講義内容をきちんと復習してまとめ、自己の研究に反映させるとともに、期末試験に備えること。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	学期末試験の成績により評価する。		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1928年初のトーキー・アニメ『蒸気船ウィリー』によるミッキーの大ブレイク以来、ウォルト・ディズニーと彼が興したエンターテインメント企業「ディズニー」は、映画やテーマパーク、それらを核として広がる壮大なディズニー文化を築いてきた。これは、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものである。</p> <p>この授業では、単に「かわいい」からと無批判に受け入れられがちなディズニー文化の諸相を、初期の短編映画、「シリー・シンフォニー」シリーズ、『白雪姫』から最近の『アナと雪の女王』等までの、いわゆる「ディズニークラシックス」といわれる長編アニメ映画群、そしてアメリカ、日本、フランス、香港のテーマパークへの言及を軸として、でスケプティカルな視点から考察していくものとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「ディズニーランド」①全体の構想 3. 「ディズニーランド」②詳細の考察 4. 「ディズニーランド」③米国外のディズニーランド 5. 困難を乗り越える結婚①『わんわん物語』『リトルマーメイド』『美女と野獣』 6. 困難を乗り越える結婚②『アラジン』『ヘラクレス』 7. 育ち？生まれ？『王様の剣』『ジャングル・ブック』 8. 育ち？生まれ？『ポカホンタス』『アナと雪の女王』 9. 暗黒の時代『おしやれキャット』『オリバー・ニューヨーク子猫ものがたり』『コルドロン』他 10. 経営交代と新生ディズニーの発足 11. アレン・メンケンとハワード・アシュマン 12. 新しい幸せの定義『アナと雪の女王』 13. 闘う女の子『ムーラン』実写版『アリス・イン・ワンダーランド』 14. 女同士の友情『マルフィセント』『アナと雪の女王』 15. まとめ 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われる映像等の資料を、事前に視聴してから、授業に参加すること。また、事後は講義内容をきちんと復習してまとめ、自己の研究に反映させるとともに、期末試験に備えること。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	学期末試験の成績により評価する。		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我々を取り巻く現代の世界は、テレビや映画を始め、写真や広告映像等の視覚的なコミュニケーションで溢れている。本講義は、視覚コミュニケーションを理解し分析するのに必要な歴史と多様なアプローチを可能とさせる視覚文化論の知を学ぶことを目的としている。</p> <p>1980年代に米国で台頭した視覚文化論は、絵画芸術を中核とする美術（史）の分野に加えて、メディア論やコミュニケーション論、比較文学等の隣接領域を包みつつ、視覚的表象の文化的次元を扱う新たな領域として認知されている。現在、視覚文化論はコミュニケーション学でも注目される分野の一つであり、その諸相を扱っていく。</p> <p>春学期の講義では、視覚文化論が射程とする様々なトピックを取り上げ、写真、映画、絵画、空間、建築等の視覚性を検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 視覚文化論とは 3. 言葉とイメージ 4. 言葉とイメージ 5. メディアとしての視覚の変容 6. 視の制度 (scopic regime) と視覚の専制的力への批判 7. 視の制度 (scopic regime) と視覚の専制的力への批判 8. 眼差しと視線 9. 眼差しと視線 10. 視覚技術と身体 11. 視覚技術と身体 12. 視覚技術と身体 13. イメージのレトリック 14. イメージのレトリック 15. 前期の総括 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布物等を予習しておくこと。授業後の講義内容の復習は必須。		
テキスト、参考文献	最初の授業で紹介する。		
評価方法	定期試験又はレポートによって評価する。		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は春学期の「コミュニケーション論 特殊講義a」と連続をなすものである。</p> <p>春学期に、視覚文化論のアプローチを理解するための理論と歴史を学習したことを踏まえて、秋学期ではその内容を前提としながら、その対象を15世紀のルネッサンス以降、とりわけ17世紀と18世紀の西洋絵画に絞り、絵画の歴史文化的な視覚性を考察していく。考察する視覚論の基軸となる遠近法と視覚技術の歴史を踏まえつつ、それぞれの絵画が構成する視覚の文化的空間を描きだしていく。</p> <p>遠近法箱 (perspective box) や製図法、印刷技術、カメラ・オブスキュラ等、様々な技術との関わりの中で変容する絵画の視覚性を歴史的に辿っていくことになる。しかし、それは絵画に表現された視覚と技術の決定論的歴史ではない。むしろ、視覚というメディアの変容がもつ複雑さに注目する。19世紀に起こった視覚の拡張が単なる技術的な発展ではなく、ルネッサンス以降の歴史的な潮流の中から形成されたメディアとしての視覚の変容であることを考察する。視覚の歴史の変容の際に生産される知が立ち上がる様相にも着目してみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 視覚技術としての遠近法と透視画法 3. 視覚技術の変容と視覚の言説 (クレラーの視覚論) 4. 美術史のバロック問題：ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロックへ 5. 美術史のバロック問題：ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロックへ 6. ベラスケス：バロックと古典主義時代 (17-18世紀) の表象 7. バロックとしてのアナモルフォーズ：キルヒャー、ニセロン 8. バロックとしてのアナモルフォーズ：キルヒャー、ニセロン 9. 北方ルネッサンスと描写術：フェルメール、デ・フリース、遠近法 10. 北方ルネッサンスと描写術：フェルメール、デ・フリース、遠近法 11. ホーホストラテン：騙し絵、遠近法箱、視覚のレトリック 12. ヘイスプレヒツ：騙し絵 (トロンプレイユ) のレトリック 13. ヘイスプレヒツ：騙し絵 (トロンプレイユ) のレトリック 14. ムンク：映像と精神分析の視覚空間 15. まとめ 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布物等を予習しておくこと。授業後の講義内容の復習は必須。		
テキスト、参考文献	最初の授業で紹介する。		
評価方法	定期試験又はレポートによって評価する。		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 コミュニケーションおよびマスメディアの諸モデルを理解し、それらの理解に基づきメディアコミュニケーションが現実社会に与える影響を分析できるようになる。 講義概要 まずコミュニケーションの諸モデルを学んだ後、マスメディアに関する主要4理論（弾丸理論、限定効果モデル、適度効果モデル、強力効果モデル）を学ぶ。 また、学習内容を定着させるために、ビデオ視聴内容に関するミニレポートの作成を行う。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入&メディアとは 2. コミュニケーションの諸領域について 3. コミュニケーションの諸モデル 1 4. コミュニケーションの諸モデル 2 5. コミュニケーションの効果の概念、他 6. マスメディアの順機能と逆機能 7. ビデオ視聴（ビデオ内容分析のミニレポート提出） 8. マスメディアに関する効果モデル：弾丸理論 9. マスメディアに関する効果モデル：限定効果モデル 10. マスメディアに関する効果モデル：適度効果モデル 11. マスメディアに関する効果モデル：強力効果モデル 12. 4理論のまとめ 13. ビデオ視聴（ビデオ内容分析のミニレポート提出） 14. メディアリテラシーの必要性 15. まとめ 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント配布予定 参考文献：『マスコミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）		
評価方法	授業への参加度 30%、ミニレポート 30%、最終レポート 40%		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 メディア暴力の影響に関する理論を理解し、それらに基づきメディア暴力の影響を測定する調査研究ができるようになる。 講義概要 まずメディア暴力に関する主要な4理論（カタルシス、観察学習、脱感作、カルティベーション）を学ぶ。 さらに、メディア研究方法（統計学の相関係数、t検定）を学んだ上でクラス内で調査を実施し、調査結果を分析し発表する。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. メディア暴力の影響研究：カタルシス理論 3. メディア暴力の影響研究：観察学習理論 4. メディア暴力の影響研究：脱感作理論 5. メディア暴力の影響研究：カルティベーション理論 6. ビデオ視聴（ビデオ内容分析のミニレポート提出） 7. メディア研究方法：班分け&統計手法（相関係数） 8. メディア研究方法：統計手法（t検定） 9. メディア研究方法：調査票作成 10. メディア研究方法：調査票完成 11. クラス内で調査実施 12. メディア研究方法：調査結果の分析 13. 調査結果の発表 1 14. 調査結果の発表 2 15. まとめ 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント配布予定 参考文献：『メディアと暴力』（勁草書房）、『教育・心理統計と実験計画』（教育出版）		
評価方法	授業への参加度 30%、ミニレポートおよび発表 30%、最終レポート 40%		

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーa コミュニケーション論文献研究 a	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本セミナーでは現代的なメディアの一例としてコンピュータゲームに焦点をあてながら、それを題材とする論考を読み解く過程をつうじて、映像表象とそれを受容する人間の身体との現代的な関係性について多角的に——記号論、メディア論、視覚文化論、ゲーム研究などの知見を援用しながら——考察していく。</p> <p>本講義では、まず上記のテーマに即して講義形式での解説を加えたうえで、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。</p>		1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2 ゲームがもたらしつつあるものを考える【講義】 3 ゲームがもたらしつつあるものを考える【講義】 4 テキストを読む【講読】 5 テキストを読む【講読】 6 テキストを読む【講読】 7 テキストを読む【講読】 8 テキストを読む【講読】 9 テキストを読む【講読】 10 研究発表 11 研究発表 12 研究発表 13 研究発表 14 研究発表 15 研究発表	
到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
テキスト、参考文献	日本記号学会編 『ゲーム化する世界：コンピュータゲームの記号論』（新曜社、2013）		
評価方法	平常点 40%、 プレゼンテーション 30%、 レポート 30%		

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーb コミュニケーション論文献研究 b	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本セミナーでは現代のメディア文化の諸相を理解するうえで有用な論考をとりあげながら、そこに含まれる理論的な視点を理解していくことを目標とする。</p> <p>本講義では、まず上記のテーマに即して講義形式での解説を加えたうえで、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。</p>		1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2 メディア文化を考える【講義】 3 メディア文化を考える【講義】 4 テキストを読む【講読】 5 テキストを読む【講読】 6 テキストを読む【講読】 7 テキストを読む【講読】 8 テキストを読む【講読】 9 テキストを読む【講読】 10 研究発表 11 研究発表 12 研究発表 13 研究発表 14 研究発表 15 研究発表	
到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
テキスト、参考文献	遠藤英樹ほか編 『メディア文化論』（ナカニシヤ出版、2013）		
評価方法	平常点 40%、 プレゼンテーション 30%、 レポート 30%		

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーa コミュニケーション論文献研究 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イメージが氾濫する現代において、〈見る〉とは何かを考察した視覚文化論の古典、ジョン・バージャーの <i>Ways of Seeing</i> と <i>About Looking</i> の一部を題材として、視覚とは何かを考えていく。</p> <p>バージャーの <i>Ways of Seeing</i> は、中世絵画から現代を取り巻く広告メディアや写真等を射程として、〈見る〉とは何かを考え直す名著である。視覚文化論の古典とも言える本著は、美術史の大きな流れを踏まえつつ、我々がものを見るとはどのようなことかを考察している。バージャーは見ることに隠された階級やジェンダー等の文化的価値観を、イメージの言語として視覚的題材に読むことでえぐり出す。その読みを丹念に踏まえることで、いかにイメージは見られるのかを理解することが可能となる。<i>About Looking</i> は写真と絵画に関する短編集であり、その短い論考の中にも彼の批判的主張が読み取れる。</p> <p>イメージの批判的な分析と考察を深めていく本講義においては、以下の3点が探求の目的となる。1) 現代のイメージと古典絵画との歴史的な関係を踏まえること、2) 視覚文化批評とは何かを理解すること、3) イメージのコミュニケーション論とは何かを理解すること。これら3点について、その批判的意義を探っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation 2. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 1) 3. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 1, 2) 4. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 3) 5. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 3, 4) 6. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 5) 7. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 5, 6) 8. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 7) 9. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 7, 8) 10. Reading <i>About Looking</i> (Paul Strand) 11. Reading <i>About Looking</i> (Uses of Photography) 12. Reading <i>About Looking</i> (Francis Bacon and Walt Disney) 13. Reading <i>About Looking</i> (Courbet and the Jura) 14. Reading <i>About Looking</i> (Magritte and the Impossible) 15. Wrap up 	
到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習及び発表の為の準備は、各自の事前学習として必須。授業後は当該の章を復習。		
テキスト、参考文献	John Burger. <i>Ways of Seeing</i> . (Penguin Books Ltd., 1972) <i>About Looking</i> については、プリントを配布する。		
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。		

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーb コミュニケーション論文献研究 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋近代の文化史において、視覚技術はカメラの発明から映画技術として発展したと考えるのが一般的である。しかし、視覚コミュニケーション論においては、この近代化と共に発想された歴史の変遷と技術決定論は批判の対象となっている。この歴史的な分岐点となるのは19世紀であり、新たな知の条件によって、近代的な観察者が生まれる。この視覚技術の変遷と同時に発生する近代の観察者はいかに生まれたのか。当時の視覚技術の主体となる観察者の構成が課題となる。</p> <p>本授業では、当時の歴史的状況を踏まえつつ、視覚コミュニケーション論において重要な絵画や図版を主な題材として、近代の観察者の歴史的な誕生を分析した、ジョナサン・クレーリーの <i>Techniques of the Observer</i> を読んでいく。</p> <p>単なる視覚技術の発展ではない、知の条件の変容が視覚メディアとして近代的な観察者を産み出す際、様々な出来事や力の諸相が絡み合う様子を把握していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation 2. Modernity and the Problem of the Observer 3. Modernity and the Problem of the Observer 4. Modernity and the Problem of the Observer 5. The Camera Obscura and Its Subject 6. The Camera Obscura and Its Subject 7. The Camera Obscura and Its Subject 8. The Camera Obscura and Its Subject 9. Subjective Vision and the Separation of the Senses 10. Subjective Vision and the Separation of the Senses 11. Subjective Vision and the Separation of the Senses 12. Techniques of the Observer 13. Techniques of the Observer 14. Techniques of the Observer 15. Visionary Abstraction / Wrap up 	
到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習及び発表の為の準備は、各自の事前学習として必須。授業後は当該の章を復習。		
テキスト、参考文献	Jonathan Crary. <i>Techniques of the Observer: On Vision and Modernity in the Nineteenth Century</i> . (Cambridge, MA: MIT Press, 1992).		
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。		

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(スパイ映画で世界を学ぶ)</p> <p>英国スパイ映画のブランド「007」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。</p> <p>この映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。</p> <p>スパイ映画「007」シリーズは、1960年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる50年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。</p> <p>映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 スパイ映画007「スカイフォール」世界のいま 2 同上 3 スパイ映画「007」—1990年代の世界 4 同上 5 小テスト実施 6 スパイ映画「007」—1980年代の世界 7 同上 8 スパイ映画「007」—1970年代の世界 9 同上 10 スパイ映画「007」—1960年代の世界 11 同上 12 同上 13 原作者イアン・フレミングの世界 14 ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」 15 まとめ 	
到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
テキスト、参考文献	『グローバル社会論資料集』		
評価方法	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。		

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(スパイ映画で世界を学ぶ)</p> <p>英国スパイ映画のブランド「007」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。</p> <p>この映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。</p> <p>スパイ映画「007」シリーズは、1960年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる50年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。</p> <p>映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 スパイ映画007「スカイフォール」世界のいま 2 同上 3 スパイ映画「007」—1990年代の世界 4 同上 5 小テスト実施 6 スパイ映画「007」—1980年代の世界 7 同上 8 スパイ映画「007」—1970年代の世界 9 同上 10 スパイ映画「007」—1960年代の世界 11 同上 12 同上 13 原作者イアン・フレミングの世界 14 ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」 15 まとめ 	
到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
テキスト、参考文献	『グローバル社会論資料集』		
評価方法	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。		

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。</p> <p>なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心をも喚起したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 行為主体（1）主権国家、主権国家体系 3 行為主体（2）国際組織（国際連合を中心に） 4 行為主体（3）NGO、多国籍企業 5 地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6 地域主義・地域協力（2）アジアの統合は可能か？ 7 戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8 戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9 戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和維持・構築 10 人間の安全保障 11 グローバリゼーション：国境を超える人、モノ、カネ、情報、思想 12 グローバル・イシューズ（1）貧困 13 グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14 グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15 まとめ 	
到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の講読		
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する。		
評価方法	平常点（20%）、試験（80%）		

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学科必修科目となっている本講義では、国際関係の「歴史」、「理論」、「現状」について学んでいく。国際関係の「歴史」的背景を知り、それに加えて「理論」的な道具を手取ることで、「現状」の理解が深まっていくであろう。</p> <p>第一部の「歴史」では、20世紀の国際関係の歴史を概観していく。国際関係が20世紀、二度の世界大戦を経ていまに至ったのを知ること、現状の理解に役立つであろう。</p> <p>第二部の「理論」では、現代の国際関係を理解・分析するための、三つの代表的なアプローチを紹介し、国際関係を見る眼を養っていく。</p> <p>第三部の「現状」では、グローバリゼーションが急速に進んだ現代国際関係における代表的イシューー地球環境、人権、貧困、開発などをいくつかピックアップし、それらの問題の背景と特徴を解説していく。</p> <p>なお以下のテキストを購入する必要はないが、授業前に対象箇所を読んでおくか、図書館所蔵のものをコピーしておくことを進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクシヨン～国際関係とは何か？ 2. 歴史・・・20世紀の国際関係① 3. 歴史・・・20世紀の国際関係② 4. 歴史・・・20世紀の国際関係③ 5. 歴史・・・20世紀の国際関係④ 6. 歴史・・・20世紀の国際関係⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 理論・・・国際政治の「三つの分析枠組み」 9. 理論・・・国際政治のアプローチ／リアリズム 10. 理論・・・国際政治のアプローチ／リベラリズム 11. 理論・・・国際政治のアプローチ／マルキシズム 12. 理論・・・国際政治の秩序と国際社会 13. 現状・・・グローバル化時代の国際関係①地球環境、人権、貧困、開発、難民問題、国際テロ 14. 現状・・・グローバル化時代の国際関係②貿易と金融 15. 全体総括と質疑応答 	
到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。		
テキスト、参考文献	John Baylis et al., <i>The Globalization of World Politics: An introduction to international relations</i> , fifth edition, Oxford: Oxford University Press, 2011.		
評価方法	中間試験（40%）と期末試験（40%）、リアクションペーパー（20%）による評価。		

09年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。</p> <p>それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。日豪両国が戦争をしたことすら知られていない。またたとえ知りたいと思っても、日本では文献がそもそも少ないため、オーストラリアを知る機会は限られてしまっている。</p> <p>本講義では、18世紀末のイギリス人の入植による植民地の誕生から、20世紀初頭のオーストラリア連邦誕生による独立、二度の世界大戦、米ソ冷戦を経て、現代に至るオーストラリアの歴史を、イギリス（大英帝国、英連邦）、アメリカ合衆国、アジア地域（日本、中国、東南アジア）との関係のなかで振り返って行く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 2. 歴史…オーストラリア植民地の誕生 3. 歴史…オーストラリア植民地の発展 4. 歴史…大英帝国・英連邦とオーストラリア 5. 歴史…ゴールドラッシュと白豪主義 6. 歴史…第一次世界大戦とオーストラリア 7. 歴史…第二次世界大戦とオーストラリア 8. 前半の総括と質疑応答 9. 現代…戦後世界の構想と対米同盟の確立 10. 現代…戦後のアジアとオーストラリア① 11. 現代…戦後のアジアとオーストラリア② 12. 現代…ミドルパワー外交① 13. 現代…ミドルパワー外交② 14. 現代…戦後日豪関係の展開 15. 全体総括と質疑応答 	
到達目標	英語圏の国際関係に関して専門知識を習得し、歴史的背景を踏まえながら英語圏諸国の国際関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。</p> <p>参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		
評価方法	不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。		

09年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(20世紀の国際社会とイギリス・アメリカ)</p> <p>本講義は、20世紀の国際関係の歴史的展開を、イギリス、アメリカの動きに注目して振り返る。「パクス・ブリタニカ（イギリスによる平和）」、「パクス・アメリカーナ（アメリカによる平和）」という呼称が象徴するように、近現代の国際関係の展開に最も大きな影響を及ぼしてきたのが、イギリスでありアメリカであった。世界の地表の4分の1と「7つの海」を支配する大英帝国と、第二次大戦後の「超大国」、「覇権国」となったアメリカこそが、20世紀の国際秩序を主導し、今日の「リベラル（自由主義的）」な国際規範・制度の構築を推進してきたのだ。また両国は、時に対立・不和を抱えながらも、「特別な関係（the special relationship）」と言われる他国の間には見られない稀有な協調関係を維持してきたのである。</p> <p>本講義は、英米関係を軸に、20世紀の国際社会の特徴とその展開を考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 講義の目的 2. 「パクス・ブリタニカ」の凋落とアメリカの台頭 3. 第一次世界大戦：ロイド＝ジョージ、ウィルソン、「新外交」 4. 国際関係の「組織化」：国際連盟の誕生 5. 戦間期（1）ヴェルサイユ＝ワシントン大戦、世界恐慌、世界経済の「ブロック化」 6. 戦間期（2）イギリスの「宥和政策」、孤立主義のアメリカ 7. 第二次世界大戦：チャーチルとローズヴェルトの「特別な関係」 8. 戦後構想をめぐる協調と摩擦：国連連合、ブレトン・ウッズ体制、帝国植民地 9. 冷戦の誕生：戦後西側ブロックの形成 10. 核兵器と英米関係 11. 同盟分裂の危機：スエズ、ベトナム、フォークランド 12. 英米の力の衰退と国際関係の変動 13. 「新冷戦」と冷戦の終焉：レーガン、サッチャー 14. 冷戦後の国際社会：人道的介入、テロとの戦い 15. おわりに 総括 	
到達目標	英語圏の国際関係に関して専門知識を習得し、歴史的背景を踏まえながら英語圏諸国の国際関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の講読		
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する		
評価方法	平常点（20点）、試験（80点）		

13年度以降 12年度以前	グローバル・ヒストリーa 国際関係特殊講義 a	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」の展開を考察する。春semesterでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合(今日の欧州連合)の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関やNGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。</p> <p>※(注意)2013年度に水本が担当した国際関係特殊講義を修得済みの場合は履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3 ヨーロッパ冷戦の起源 4 ヨーロッパ分断体制の形成(1) 5 ヨーロッパ分断体制の形成(2) 6 「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7 ヨーロッパ諸国の脱植民地化(アフリカ諸国の独立) 8 冷戦構造の多極化とデタント 9 米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10 デタントの崩壊：ソ連の第三世界進出 11 新冷戦とヨーロッパ 12 冷戦の終焉(1)：ゴルバチョフの登場、東欧革命 13 冷戦の終焉(2)：ドイツ統一、ソ連崩壊 14 冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化 15 まとめ 	
到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献を講義の事前・事後に読むこと。		
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する。		
評価方法	平常点(20%)、試験(80%)		

13年度以降 12年度以前	グローバル・ヒストリーb 国際関係特殊講義 b	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」の展開を考察する。秋semesterでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。</p> <p>※(注意)2013年度水本が担当した国際関係特殊講義を修得済みの場合は履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3 大戦の終結と占領：日本の敗北、帝国の解体 4 朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5 脱植民地化(1)南アジア、東南アジア 6 脱植民地化(2)中東 7 非同盟・中立運動 8 アジア冷戦における中ソ対立の意義 9 ベトナム戦争 10 米中和解とその影響 11 1970年代の地域紛争：印パ戦争、第三次・第四次中東戦争、第三次インドシナ戦争 12 新冷戦とアジア 13 経済発展と民主化：ASEAN、経済開発、民主化 14 冷戦の終焉とアジア 15 まとめ 	
到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献を講義の事前・事後に読むこと。		
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する。		
評価方法	平常点(20%)、試験(80%)		

09年度以降	国際開発論	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(エアライン・ホテル・リゾート論)</p> <p>この授業では、「国際」と「開発」をキーワードに、エアライン、ホテル、リゾートなどツーリズム産業を扱います。</p> <p>シンガポールでは、強力な政府が国策会社テマセクを設立し、シンガポール航空、ラッフルズ・ホテル、有力な民間企業の大半を傘下に置いてきました。小国シンガポールが生き延び、そして豊かな先進国として成長し続けるために、国家主導で開発政策を導入したのです。</p> <p>常に顧客のニーズを考え、誰にも負けない比較優位を実現することで、シンガポール航空は世界ナンバーワン・クラスのエアラインへと飛躍しました。</p> <p>ビデオ映像、パワーポイント資料を活用し、テキストを使用しながら授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 エアライン・ホテル・リゾート (国家の開発政策) 2 シンガポール航空、チャンギ国際空港 (ハブ空港) 3 シンガポール航空、ホテル、リゾートの一体開発 4 エミレーツ航空とドバイ国際空港 (ハブ空港) 5 タイ航空とバンコク国際空港 (ハブ空港) 6 キャセイ・パシフィックと香港、カタール航空 7 カリブ海のツーリズム産業、小テスト実施 8 国際ツーリズム・リスク 9 同上 10 同上 11 医療ツーリズム (タイ、シンガポールの事例) 12 小さなスイスが「観光大国」へ変身、その謎を解く 13 小さな島が有名観光地へ (プーケット、ハロン湾) 14 映画「80日間世界一周」ツーリズム産業の原点 15 日本との比較 (ANA、JAL、帝国、ニューオータニ) 16 まとめ 	
到達目標	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・ビデオ映像の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
テキスト、参考文献	竹田いさみ『世界を動かす海賊』(ちくま新書) など。		
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。		

09年度以降	国際協力論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、開発途上国の開発をめぐる国際協力を中心に、その歴史、仕組み、変化、課題を検討します。講義は3つのシリーズから構成されます。</p> <p>第1の「国際協力の歴史」では、植民地期から現在までを時代ごとに区分し、それぞれの時期の国際協力の特徴を多面的に描きながら、その変化を捉えます。</p> <p>第2の「開発途上国の開発と国際協力」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、それを後押ししてきた国際援助のあり方とその影響について考え、さらにMDGsなどを例に新たな開発と国際協力の方向性について検討します。</p> <p>第3の「グローバル化時代の開発と国際協力」では、グローバル化時代における開発のトレンドを探りつつ、新たな国際協力の方向性や課題について考察します。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション <国際協力の歴史> 2. 植民地時代の「国際協力」 3. 冷戦時代の国際協力 4. 戦後日本の国際協力 5. ポスト冷戦時代の国際協力 <開発途上国の開発と国際協力> 6. 経済開発の基本形と途上国の実態 7. 高度経済成長の要因と弊害 8. 経済発展と民主化のジレンマ 9. 国際援助レジームとその実績 10. ミレニアム開発目標（MDGs）とSDGs <グローバル化時代の開発と国際協力> 11. 開発途上国にとってのグローバル化 12. 南北問題の複雑化と中国の「国際協力」 13. 環境問題と国際協力 14. イスラムと国際協力 15. まとめ 	
到達目標	国際協力に関して専門知識を習得し、国際協力に関連した事例、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるなので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト、参考文献	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

09年度以降	国際交流論	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の狙いは、受講した学生が、国際交流の基本的な考え方を学び、現代のグローバル社会において様々な形の国際交流・国際貢献にチャレンジする基盤を作ることです。</p> <p>授業は2つのパートから構成されます。前半のパート1では異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の考え方について学術的、及び実証的な観点から学び、国際的活動への基礎を固めます。後半のパート2では、実際に行われている文化交流や国際協力等の事例を取り上げ、それらの成果と課題を考えます。</p> <p>受講者数にもよりますが、可能な範囲で小グループによるディスカッションも取り入れます。</p> <p>自分の将来を見据え、国際交流力を付けたいと考えているやる気のある学生の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 多文化の世界を考える(1) 3. 多文化の世界を考える(2) 4. 異文化との交流を考える(1) 5. 異文化との交流を考える(2) 6. 異文化との交流を考える(3) 7. 異文化との交流を考える(4) 8. 国際交流の変遷と多様化 9. 国際交流：政府及び地域の国際交流 10. 国際協力：政府開発援助（開発協力）の活動 11. 国際協力：青年海外協力隊（JOCV）の活動 12. 国際協力：開発コンサルタントの仕事 13. 国際協力：国際公務員（国際機関）の仕事 14. 講義のまとめ（1） 15. 講義のまとめ（2） 	
到達目標	国際交流に関して専門知識を習得し、分野ごとの文化交流事業、文化交流政策、文化交流目的などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。		
テキスト、参考文献	適宜、授業の中で紹介します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 20% 授業への参加度 20%		

09年度以降	国際ツーリズム論	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関する複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関する基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識や視座を習得する。</p> <p>講義では、まずツーリズムに関する基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3、ツーリズムの歴史 4、ツーリズムを支える諸産業① 5、ツーリズムを支える諸産業② 6、ツーリズムと情報／メディア 7、ツーリストのまなざし論 8、ツーリストの諸分類と矛盾した欲望 9、ツーリズムとオーセンティシティ 10、ツーリズムの経済効果 11、ツーリズムの社会的文化的インパクト① 12、ツーリズムの社会的文化的インパクト② 13、観光地計画と観光政策① 14、観光地計画と観光政策② 15、まとめ 	
到達目標	国際ツーリズムに関して専門知識を習得し、経済、社会、文化、教育、環境などの分野における影響や変化について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	前田勇編著『新現代観光総論』学文社 岡本伸之編『観光学入門』有斐閣 大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版 ※すべて参考文献		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

09年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化、開発途上国の多極化といった現象が進むなか、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。国際協力を担う主体も、国家、国際機関、企業などに加え、非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、途上国への開発支援における ODA や NGO の役割に注目しながら、開発協力の諸問題について考えます。本講義は3つのシリーズから構成されます。</p> <p>第1の「開発援助の仕組みと展開」では、援助の主流をなしてきた政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。</p> <p>第2の「NGO の役割と課題」では NGO の歴史、位置付け、実態、役割などを捉えるとともに、開発と NGO の関係を具体的なケースを取り上げながら考えます。また、日本の NGO にも注目し、その実績と課題を検討します。</p> <p>最後に、「国際協力の新たなテーマと NGO」として、近年注目されている幾つかの側面に着目しながら、新たな開発援助のあり方について検討します。</p>		<p>1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO <開発援助の仕組みと展開> 2. ODA の仕組みとトレンド 3. 日本の ODA の特徴 4. 日本の援助実績 5. 開発援助の問題点 6. ODA の課題と改革 <NGO の役割と課題> 7. 国際援助の新たなトレンドと NGO 8. NGO の定義と歴史的経緯 9. NGO の機能と途上国での役割 10. 開発と NGO：ケーススタディ・バングラデシュ 11. 日本における市民活動の歴史と国際協力 NGO 12. 日本の国際協力 NGO の実績と課題 <国際協力の新たなテーマと NGO> 13. マイクロクレジットという方法 14. ジェンダー問題と開発 15. 仕事としての国際協力-NGO で働く</p>	
到達目標	国際 NGO・ボランティアに関して専門知識を習得し、現代の国際社会が抱える開発協力の諸課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるため、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト、参考文献	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

13年度以降 12年度以前	国際リスク・海洋論 国際関係特殊講義 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ディズニー映画で学ぶ) W・ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」を鑑賞しながら、世界史に登場した「海賊(パイレーツ)」の正体に迫ります。</p> <p>毎回の授業では、前半にディズニー映画などを取り上げます。授業の後半では、テキストを参照して、知識を獲得します。</p> <p>この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。</p> <p>世界ブランドになったコーヒー、紅茶、スパイスの世界史も触れます。英国初のブランド・ビジネスは、パイレーツと縁が深いのです。</p> <p>(注意) 既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済の場合は履修不可とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 2 同上 3 英雄としての海賊 4 同上 5 小テストの実施 6 映画「エリザベス<ゴールデン・エイジ>」 女王と側近ウォルシingham、ローリー 7 海洋覇権のゆくえ——海賊の役割 8 スパイス争奪戦——海賊の「東インド会社」 9 同上 10 ディズニー映画「カリブの海賊<ワールド・エンド>」 シンガポール、「東インド貿易会社」 11 コーヒーから「午後の紅茶」へ 12 同上 13 甘いクスリ<砂糖>の登場 14 ディズニー映画「カリブの海賊 <生命の泉>」 15 まとめ 	
到達目標	国際紛争、海洋問題に関して専門知識を習得し、その解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
テキスト、参考文献	竹田いさみ『世界史をつくった海賊』(ちくま新書) など。		
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。		

09年度以降	国際関係特殊講義 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリス帝国の形成と解体・脱植民地化</p> <p>本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係（構造やプロセス）と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。</p> <p>講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係（冷戦）がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。</p> <p>イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体（を考えること）が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考えを持つことができるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(本講義の目的と概要) 2. 国際政治と帝国・脱植民地化① 3. 国際政治と帝国・脱植民地化② 4. 国際政治と帝国・脱植民地化③ 5. イギリス帝国の誕生と発展①～英帝国の誕生 6. イギリス帝国の誕生と発展②～英帝国の発展と解体、戦後 7. 前半の授業のまとめと質疑応答 8. 脱植民地化(総論) 9. 脱植民地化の展開①インドシナ半島 10. 脱植民地化の展開②インド・パキスタン 11. 脱植民地化の展開③マレーシア・シンガポール 12. 脱植民地化の展開④中東 13. 脱植民地化の展開⑤南太平洋 14. 帝国の終焉と現代国際関係 15. 授業の総括 	
到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。		
テキスト、参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。		
評価方法	リアクションペーパーの提出（40%）と学期末試験（論述形式、60%）による。		

09年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は講義形式で進める。サハラ以南アフリカ (SSA) に焦点を当て、政治、経済、社会、文化などのあらゆる側面からアフリカの現状を捉え、グローバル化が加速化する国際社会の中での SSA の位置づけ、また役割の分析を試みる。</p> <p>数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1960 年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀が経過した今なお、アフリカ諸国はいろいろな意味で国際社会の関心を得続けている。</p> <p>本講義では、現代のアフリカを取り巻く国際関係を理解するのに必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用いて、地理的にはまだまだ遠いアフリカをより身近に感じてもらいたい。</p>		<p>第 1 回 講義の概要 第 2～4 回 歴史 第 5～7 回 国際支援の動向 第 8～9 回 紛争と平和構築 第 10 回 民主化 第 11 回 食糧問題 第 12 回 地域協力 第 13 回 宗教・文化 第 14 回 環境問題 第 15 回 講義のまとめ</p>	
到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業で用いる資料を定期的に載せるので、予習・復習を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	レポート (20%)、学期末試験 (80%)		

09年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論(conflict theories)と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。</p> <p>講義は3つのパートから構成されます。まず、パート1で、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート2で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の5つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート3では、日本の政府開発援助(開発協力)で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践について学びます。事例研究として、カンボジアやフィリピン(ミンダナオ)等の具体的な平和構築活動を紹介し、平和実現のための国際協力の考え方が各国の事例においてどのように反映されているかを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 紛争の歴史と変容 3. 冷戦後の新しい紛争(1) 4. 冷戦後の新しい紛争(2) 5. 平和のための国際機構(1) 6. 平和のための国際機構(2) 7. 平和のための法 8. 人間の安全保障の考え方(1) 9. 人間の安全保障の考え方(2) 10. 軍事介入(保護する責任) 11. 人道援助 12. 開発援助(開発協力) 13. 開発援助(開発協力)の事例研究 14. 講義のまとめ(1) 15. 講義のまとめ(2) 	
到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。		
テキスト、参考文献	適宜、授業の中で紹介します。		
評価方法	定期試験 80%、授業への参加度 20%		

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナーa 国際関係文献研究 a	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論に関わる日本語と英語の両方の文献を扱い、国際情勢を分析し、多角的な視点を身に付けることを目的とする。具体的には、内戦、援助、持続可能な開発目標 (SDGs)、人権、テロなど現在国際社会が抱える様々な課題をテーマとして扱う。資料としては、新聞記事、論文、国連決議、国際機関の発行する報告書などを用いる。</p> <p>この授業を通じ、文献（一次資料・二次資料）調査の方法を学び、プレゼンテーションやレポート・論文の執筆に役立ててもらいたい。また多様な物事の捉え方を身に付けてもらうために、ディスカッションの時間も設ける予定である。</p> <p>学期完結の授業であり、授業を効率よく進めるためにも、毎回の授業でかなりの量の課題を出す。</p>		<p>第1回 授業概要の説明 第2回 レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方 第3回 文献調査の方法 第4回 国連 70 周年 第5回 内戦と人道支援 第6回 MDGs から SDGs へ 第7回 国際援助 1 第8回 国際援助 2 (DAC から NDD へ) 第9回 人の移動 (難民、移民) 第10回 国際テロ 第11回 食糧安全保障 1 (土地争奪) 第12回 食糧安全保障 2 (水問題) 第13回 貿易の自由化、地域経済共同体 第14回 発表 第15回 まとめ、小テスト</p>	
到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ポータル・サイトに授業で使用する資料を載せるので、各自が熟読し、課題をこなし、翌週提出すること。		
テキスト、参考文献	適宜配布する。		
評価方法	課題 30%、授業の貢献度（発言回数）15%、小テスト 25%、学期末レポート 30%		

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナーa 国際関係文献研究 a	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「平和の創造」を通年のテーマとして、関連文献の研究を通して平和の創造についての基本的な理論を学ぶとともに、平和の創造を取り巻く様々な課題を検討することによって理解を深めることを目的とします。</p> <p>春学期では、まず、当該テーマにおけるクラシックともいえる John Paul Lederach の <i>Building Peace: Sustainable Reconciliation in Divided Societies</i> を読み進めます。</p> <p>授業は、学生の主体的な参加を重視するため、グループワークによるプレゼン→全体での質疑応答・討論→担当講師による補足説明とまとめ という流れで進めます。授業の進め方の詳細は、最初の授業で説明します。</p> <p>平和の創造という学問領域に関心のある学生の参加を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のオリエンテーション 2. Global Overview 3. Characteristics of Deeply Divided Societies 4. Reconciliation: The Building of Relationship 5. Structure: Lenses for the Big Picture 6. Process: The Dynamics and Progression of Conflict 7. An integrated Framework for Peacebuilding 8. Resources: Making Peace Possible 9. Coordination: Points of Contact 10. Preparing for Peacebuilding 11. Strategies and Responsive Evaluation 12. Conclusion 13. Applying Concepts to Cases: Four African Case Studies 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備作業（パワーポイント）を行います。		
テキスト、参考文献	John Paul Lederach (1997) <i>Building Peace: Sustainable Reconciliation in Divided Societies</i> (Institute of Peace Press)		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業への貢献度で総合的に評価します。		

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナーb 国際関係文献研究 b	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「平和の創造」を通年のテーマとして、関連文献の研究を通して平和の創造についての基本的な理論を学ぶとともに、平和の創造を取り巻く様々な課題を検討することによって理解を深めることを目的とします。</p> <p>秋学期では、Daniel Philpott & Gerard F. Powers (2010) <i>Strategies of Peace: Transforming Conflict in a Violent World</i> を読み進めます。</p> <p>授業は、学生の主体的な参加を重視するため、グループワークによるプレゼン→全体での質疑応答・討論→担当講師による補足説明とまとめ という流れで進めます。授業の進め方の詳細は、最初の授業で説明します。</p> <p>平和の創造という学問領域に関心のある学生の参加を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のオリエンテーション 2. Strategic Peacebuilding: An Overview 3. Strategic Peacebuilding: Concepts & Challenges 4. The evaluation of Peacebuilding Initiatives 5. Reconciliation: An Ethic for Peacebuilding 6. Whose Strategy, Whose Peace? 7. How Strategic Is UN Peacebuilding? 8. Targeted Sanctions, Counterterrorism, & Strategic Peacebuilding 9. Peace and Justice? The Contribution of International Judicial Process to peacebuilding 10. Human Rights & Strategic peacebuilding 11. Economic Globalization & Strategic Peacebuilding 12. The Response Imperative 13. Turning from Hatred to Community Friendship 14. Religion and Peacebuilding 15. 講義のまとめ 	
到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備作業（パワーポイント）を行います。		
テキスト、参考文献	Daniel Philpott & Gerard F. Powers (2010) <i>Strategies of Peace: Transforming Conflict in a Violent World</i> (Oxford University Press)		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業への貢献度で総合的に評価します。		

交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ フランス映画『未来の食卓』 15. 講義のまとめと試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	（参考文献）トーマス・ライソン著、北野収訳『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。		
評価方法	期末試験（100%）。		

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説をする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） 5. JALとANAの登場と成長 6. LCC（低コスト航空会社） 7. アライアンス 8. 航空産業の課題について（ディスカッション） 9. 航空政策とJALの破綻と復活 10. オープンスカイと規制緩和 11. 航空安全 12. 航空機製造ビジネス 13. 航空産業の特性と航空運賃 14. 空港 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習（事前の予習無しでは理解が難しい内容も含まれている）		
テキスト、参考文献	テキスト（教科書）：『最新・航空事業論』（2013年2月、日本評論社）		
評価方法	受講姿勢、講義参画：50% 最終試験：50%		

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 1章 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3章 5. 教育・学び・文化 4章、5章 6. ジェンダーとフェミニズム 6章 2 7. 宗教と社会開発 NGO 7章 2 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 7章 3 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8章 2 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 8章 3 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。 ※DUO等で各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境 6、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 7、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 8、パッケージツアー③：商品企画における「知識」 9、空間の管理とテーマ化 10、テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、感情労働 12、テーマ化された空間に暮らす 13、テーマ化された空間の将来 14、観光化する社会と「ツーリズムの終焉」？ 15、まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。</p> <p>ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①:メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②:宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①:ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④:ニューヨーク・タイムズの19世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20世紀とメディア①:国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20世紀とメディア②:ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③:湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②:ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③:トランスナショナル・メディアと わたしたち 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（戦争の記憶と表象—オーストラリアと日本）</p> <p>授業の導入部分では、4月25日のANZAC DAYを概観する。オーストラリアの義勇兵が、第1次世界大戦のはじめ、トルコのガリポリで上陸作戦を開始した記念日だが、昨今は、愛国心の過度の表出を懸念する向きもある。</p> <p>http://www.awm.gov.au/commemoration/anzac/anzac-tradition/</p> <p>その後の授業では、検討の対象を日本に移し、「特攻」を賛美するかのような近年の風潮や、兵隊たちと性行為を強要させられていた女性たちの「強制連行」がなかったと主張する政府やメディアの戦略を考える。沖縄での強制集団死や、朝鮮人、中国人強制連行・労働を含め、戦争が日本でどのように記憶され、文化的に表象されてきたかを問題にし、受講生と共にディスカッションしていく。映画『ホテル』や、井上ひさしの戯曲『きらめく星座』なども題材として取り上げる予定。</p> <p>土日などを利用して、靖国神社「遊就館」や「わたしの戦争と平和資料館」など、学外の施設を見学してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ANZAC 3. ANZAC 4. ANZAC(ディスカッション) 5. ANZAC(まとめ) 6. 「慰安婦」(導入) 7. 「慰安婦」(1) 8. 「慰安婦」(2) 9. 「沖縄・集団死」(1) 10. 「沖縄・集団死」(2) 11. 「強制連行・労働」(1) 12. 「強制連行・労働」(2) 13. 戦争の記憶と映画・演劇 14. 戦争の記憶と映画・演劇 15. まとめのディスカッション 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。		
テキスト、参考文献	参考文献として、Norma Field, <u><i>In the Realm of a Dying Emperor</i></u> (1993)を挙げておく。日本語訳で読むことも可能（共に本学図書館所蔵）。その他、英文のものを含め、新聞・雑誌記事などを使う。詳しくは初回の授業で説明する。		
評価方法	学期末のレポートと、学期中に複数回提出してもらう短いレポート、毎週書き込んでもらうクラスのフェイスブックを評価の対象とする。十分な予習・復習をした上で、授業に積極的に参加することが、単位取得の条件となる。		

09年度以降	交流文化論（フィールドワーク論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>東京を訪れる外国人観光客が近年急増していますが、本講義は、東京の「魅力」やそれを支える文化的独自性について、実際に東京各所を歩き回ることを通じて考える実践的講義です。まず、文化人類学や社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を講義形式で紹介します。その上で、実際に東京を縦横無尽に歩きまわった上で、都市の成り立ちや人々の生の営みについて理解を深めることを目指します。</p> <p>受講生には、担当教員が指定した6つのコースの中から1~2つ選択し、5月から6月の週末を使って、プチ・フィールドワークしてもらいます（実費負担）。なお担当教員は、これらのプチ・フィールドワークにすべて同行し、基本的な解説を行いません。しかしただ解説を聞くのではなく、受講生自身が、想像力と五感をフルに使うって東京の文化的独自性やその「味わい方」を発見することが求められます。さらに、こうした「発見」の成果については、学期末に班ごとに発表をし、レポートにまとめてもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明・グループ分け(1回) 2. 東京を「読む」ための方法論（講義） 3. コース解説1：山の手と下町（本郷・広尾・六本木・浅草） 4. コース解説2：「水の都」（深川、佃、月島） 5. コース解説3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 6. コース解説4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 7. コース解説5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 8. コース解説6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩） 9. 発表・議論1 10. 発表・議論2 11. 発表・議論3 12. 発表・議論4 13. 発表・議論5 14. 発表・議論6 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	雑誌『東京人』等、東京を紹介する各種メディアの記事などを参照する。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。		
評価方法	発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがそれを受け入れる社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっており、それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。</p> <p>本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。</p> <p>具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思ひます。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌 1 4. グローバリゼーションの民族誌 2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急』 7. 表象の政治学—情報資本主義と観光 8. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光—「神々の島」パリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム—タイの事例 13. エスニック・ツーリズム—タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションについて① 3. イベント・コンベンションについて② 4. 国際博覧会 5. 東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. オリンピックの歴史・意義・役割について 10. ビジネスの視点からのオリンピック① 11. ビジネスの視点からのオリンピック② 12. プレゼンテーション：「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 13. " ② 14. " ③ 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め、より多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造（1） 3. ツーリズムの基本構造（2） 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディア情報を確認し、ツーリズムに関する情報を事前に確認しておくこと		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70% 最終試験：30%		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考慮すること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 在日コリアンを例に 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	参考文献は適宜授業中に示す。		
評価方法	期末試験（85%）、学期中宿題としてレポート課題が1回ある（15%）。		

13年度以降 09～12年度	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろの捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 地域の発展を理解するための視座（教科書1章） 3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2章） 4. 生ゴミリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3章） 5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4章） 6. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 7. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグラン（10章） 8. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7章） 10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11章） 12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8章） 15. まとめ、試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイドンス 2、ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3、おみやげとスーベニア 4、観光みやげの近代 5、「民芸品」をめぐるまなざし 6、観光みやげと真正性 7、観光みやげのギフト性 8、観光みやげの儀礼的倒錯性 9、観光みやげと「ものがたり」 10、旅するマトリョーシカ① 11、旅するマトリョーシカ② 12、おみやげが媒介する文化 13、民芸品としてのアジア雑貨 14、アジア雑貨が創る旅 15、まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆に SNS へアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいがい、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アー&ラースン、2011=2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。そのためこの講義では、国際的な研究成果を日本の社会文脈に導入し、出席者とともに「自撮り（Selfie）」や「絶景」など、トランスナショナルな社会現象を考え、写真と映画を主な題材として「観る」ということを歴史社会学の方法で考察します。</p> <p>より具体的な講義の目的は、写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、「撮る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探ることで、近代社会におけるイメージとイメージネーションの諸問題を考えることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：観光写真と写真観光 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：戦後日本の写真産業と家族写真 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：トランスナショナル・イメージとツーリズム（天皇のイメージ） 8. 「観る」の政治学①：「動く画」の発明（映画の誕生） 9. 「観る」の政治学②：映画の技法 10. 「観る」の政治学③：ディズニー映画と domestication 11. 「観る」の政治学④：映画の「まなざし」とロードムービー 12. 「観る」とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 「観る」とツーリズム②：「自撮り」を考える 14. 「観る」とツーリズム③：SNSと「観る」ことの変容 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテル・旅館ビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動向等を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション+ディスカッション」では、各産業への提案を各自パワーポイントを使って行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 3. 旅行産業の現状と課題① 4. 旅行産業の現状と課題② 5. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① 6. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② 7. リゾートホテル・ビジネス 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空産業の最近の動向① 10. 航空産業の最近の動向② 11. プレゼンテーション① 12. プレゼンテーション② 13. プレゼンテーション③ 14. プレゼンテーション④ 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （トランスナショナルな公共圏を求めて））	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>過去 30 年の間に、日本に定住する外国人の数は約 200 万人、人口の 2%まで増加しています。しかし、言語、宗教、文化の背景を異にする人たちにとって、教育や仕事など、日本は必ずしも暮らしやすい社会とはいえません。</p> <p>この授業では、「文化多様性」をキーワードに、さまざまな価値観を互いに尊重し合い、個人の権利を守る新しい社会を作り上げる方法を考え、自分たちにできることを、実行に移していくことを目標としています。クリエイティブな未来のために何ができるのか。共に考え、共に活動していく授業になればと思います。</p> <p>テキストをベースに教室でディスカッションをする一方で、教室の外に出てフィールドワークをしたり、プロジェクトを立ち上げることもしたい、と考えています。受講生の熱意によってスリリングで、かつ実り多い授業になると思います。</p> <p>プロジェクトを来年の「草加国際村一番地・インターナショナル・フェスティバル」で発表することも可能です。定員は 30 名です。履修上の制限などある場合もありますが、他学科生や留学生の参加も是非、歓迎したいと思います。</p> <p>昨年とは内容を一部入れ替えるので、重複履修も可能です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 「多文化共生」と「文化多様性」について 3. グループワーク、ディスカッションなど 4. グループワーク、ディスカッションなど 5. グループワーク、ディスカッションなど 6. グループワーク、ディスカッションなど 7. グループワーク、ディスカッションなど 8. グループワーク、ディスカッションなど 9. グループワーク、ディスカッションなど 10. グループワーク、ディスカッションなど 11. グループワーク、ディスカッションなど 12. プレゼンテーション 13. プレゼンテーション 14. プレゼンテーション 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。		
テキスト、参考文献	渡戸・井沢編『多民族化社会・日本』（明石書店、2010）を、取り敢えず参考文献として推薦しておきます。詳しくは初回の授業でお話します		
評価方法	発表、小レポート、学期末レポートによる。		

13年度以降 09～12年度	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究）） 交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（ミュージアムのパフォーマンス）</p> <p>ミュージアムの展示をパフォーマンスとして分析する。ミュージアムを入館者に働きかけをおこなう文化装置と考えると、パフォーマンス研究の視点から分析が可能になる。</p> <p>最初の数回でミュージアムとパフォーマンスの関係を考えた後、ベルリンのユダヤ人博物館、ワシントンDCのホローコースト博物館など、戦争や虐殺の記憶が、ミュージアムによってどのように「パフォーマンス」されているかを詳しく検討していく。</p> <p>なお、2回目の授業では、Marina Abramovic というパフォーマンス・アーティストについてのビデオを観賞する予定。初回の授業に出ていない人は、分かりづらいかもしれないので、ウェブなどで調べてから授業に臨んで欲しい。</p> <p>昨年とは内容を一部入れ替えるので、重複履修可。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Bennett, pp.1-7. 2. Abramovic, <u>Artist is Present</u>. 3. Bennett, pp.8-23. 4. Bennett, 5. Bennett, 6. Museum and Memory 7. Museum and Memory 8. Museum and Memory 9. Museum and Memory 10. Museum and Memory 11. Catch-up 12. 戦争博物館を考える 13. 戦争博物館を考える 14. 戦争博物館を考える 15. Wrap-up 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。		
テキスト、参考文献	Susan Bennett, <i>Theatre and Museums</i> (Palgrave, 2013)、その他、英文のものを含め、論文や雑誌記事など		
評価方法	学期末課題と学期中に何度か提出してもらった小レポート、発表、クラスのフェイスブックページへの投稿。		

13年度以降 09～12年度	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」のシンボルになり、あるいは「観光くにつくり（観光立国）」の理念にもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域アイデンティティの創造などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。</p> <p>ここでは担当者が研究している Guam、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. Guamから考える①：かつてGuamは日本の島だった 3. Guamから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. Guamから考える③：「日本人の楽園」と基地の島 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の観光と真正性 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13年度以降 09～12年度	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論）） 交流文化論（ツーリズム地誌論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」（愛知県犬山市）における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地の幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指します。</p> <p>リトルワールドには、世界の30以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されています。受講生は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に文献資料収集を行ないます。その上で、研修旅行では各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらいます。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成します。</p> <p>本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となります。またグループ・ワークなど演習形式の取り組みも多いため、グループ内の議論等に積極的に参加できる人のみ履修を認めます。<u>なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明・グループ分け 2. 講義1：民族誌展示の歴史と現在1 3. 講義2：民族誌展示の歴史と現在2 4. ビデオ上映（国立民族学博物館の取り組み） 5. 発表・議論 6. 発表・議論 7. 発表・議論 8. 発表・議論 9. 発表・議論 10. 発表・議論 11. 発表・議論 12. 発表・議論 13. 発表・議論 14. 発表・議論 15. まとめ <p>※ <u>研修旅行の日程は、12月中旬の週末を予定しています。詳細は、秋学期開始時までに教務課掲示板にてお知らせします。費用は、往路バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで3万円程度です。</u></p>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	関心のある地域や民族集団についての民族誌を読むこと。		
テキスト、参考文献	山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣		
評価方法	研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討します。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。</p> <p>本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民や少数民族、都市のスラムといった「第四世界的状況」を取り上げることが多くなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 貧困の商品化—スラム・ツーリズムの事例 5. 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略 6. 環境主義の商品化—エコリゾート 7. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 8. 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 9. 先住民とアート—北米インディアン事例 10. 先住民とミュージアム—アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民 1 12. エコツーリズムと先住民 2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

外国語学部共通科目シラバス

09年度以降	総合講座「自由とは何か」	担当者	阿部 明日香 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代に生きる私たちは、「自由な個人」なのでしょうか。ひとりひとりが自分の意思に基づいて考え行動しているのか、それとも、おかれた環境や文化に依存し、その規範を内面化することで自己決定をさせられているのでしょうか。あるいはもっと直接的に権力や制度などによって規制あるいは監視され、個人の自由が制限される場合もあります。本講座では、自由と自由を規制するもの（自己規制を含む）のせめぎ合いについて、時代を問わずさまざまな学問分野（政治、法律、思想、社会、文化、文学、言語、芸術、宗教など）から論じていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 4/13 イントロダクション 2. 4/20 憲法（学）における「自由」の意味について（右崎正博） 3. 4/27 学部主催講演会に振替 4. 5/11 自由と紛争：人間の安全保障における自由を考える（石川幸子） 5. 5/18 北朝鮮における「不自由」と「自由」（金子芳樹） 6. 5/25 環境分野から見た自由（岡村りら） 7. 6/1 経済的自由と政治的自由の相克—なぜドイツでは「自由主義」が弱いのか（大重光太郎） 8. 6/8 自由とメディアの関係史（山口誠） 9. 6/15 ドレフュス事件とゾラ：『私は告発する』（福田美雪） 10. 6/22 自由、それを失う可能性（中島万紀子） 11. 6/29 アメリカを百万分の一インチ変えた詩、アレン・ギンズバーグの「吠える」("Howl")にみる解放のヴィジョン（原成吉） 12. 7/6 帰属と自由（上野直子） 13. 7/13 「自由とは何か」を再考する—ルソーとラカンの場合（若森榮樹） 14. 7/20 フランスのテロ事件をめぐって（仮）（西谷修） 15. まとめ 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指示された参考文献に目を通す。講義のノートを復習する。		
テキスト、参考文献	担当講師から指示されます。		
評価方法	毎回のコメントペーパー。学期末試験。		

09年度以降	総合講座「神話はいかにしてつくられるか」	担当者	廣田 愛理 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>神話とは一般にはまず「特定の民族・共同体に関わる世界の起源とその意味を説明する物語」を指しますが、20世紀以降その用法は拡大し「現代社会の特定の集団において普遍と信じられている物語」を表す言葉としても用いられています。また「日本の安全神話」といったように、根拠なく事実だと思われる事象を指す用法も一般化してきました。そこで本講座では「特定の集団を広く支配し、考え方や行動を規定する原理となり得るもの」として、神話について時代を問わずさまざまな学問分野（政治、法律、思想、社会、文化、文学、言語、芸術、宗教など）から論じていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 9/28 イントロダクション 2. 10/5 ヒーローのつくりかた—イタリア統一運動における絵画・挿絵・テキストの戦略—（尾崎有紀子） 3. 10/12 レーニ・リーフェンシュタール—美と神話と政治のはざままで—（山本淳） 4. 10/19 東ドイツの国民と国家の「神話」—自己解放と抵抗（伊豆田俊輔） 5. 10/26 アフリカをめぐる神話と国際情勢（佐野康子） 6. 11/2 コロナリズムという神話（須永和博） 7. 11/9 「女らしさの神話」のいま（片山亜紀） 8. 11/16 男性ヌードの神話（青山愛香） 9. 11/30 「常識」を疑う（川村肇） 10. 12/7 日常生活における神話（平田周） 11. 12/14 The Universal Story: Themes and Motifs in Myths & Folktales（本橋エレン） 12. 12/21 メディアパラノイア 共振する暗殺者たち（工藤達也） 13. 1/11 儀式殺人告発の神話（佐藤唯行） 14. 1/18 まとめ1 15. まとめ2 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指示された参考文献に目を通す。講義のノートを復習する。		
テキスト、参考文献	担当講師から指示されます。		
評価方法	毎回のコメントペーパー。学期末試験。		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋音楽史（1） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 日本人と西洋音楽 3. 古代ギリシャ・ローマの音楽、グレゴリオ聖歌 4. ヨーロッパの中世の音楽 5. ルネサンス音楽（1） フランドルを中心に 6. ルネサンス音楽（2） イギリス・スペインを中心に 7. ルネサンス音楽（3） イタリアを中心に 8. バロック音楽（1） イタリアを中心に 9. バロック音楽（2） フランスを中心に 10. バロック音楽（3） リュリとラモーを中心に 11. バロック音楽（4） イギリスを中心に 12. バロック音楽（5） ヴィヴァルディとペルゴレージ 13. バロック音楽（6） ドイツを中心に 14. 授業内試験 15. まとめ 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋音楽史（2） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を前提として話しますので、なるべく春学期から受講してください。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがあります。予め了解しておいて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典派の音楽（1） ハイドン 2. 古典派の音楽（2） モーツァルト 3. 古典派の音楽（3） ベートーヴェン 4. 19世紀の音楽（1） ヴェーバー、シューベルト、シューマン 5. 19世紀の音楽（2） ヴィルトゥオーソの時代 6. 19世紀の音楽（3） フランスを中心に 7. 19世紀の音楽（4） ロシアを中心に 8. 19世紀の音楽（5） 北欧と東欧を中心に 9. 19世紀の音楽（6） スペインを中心に 10. 19～20世紀の音楽（1） チェコ、ロシアを中心に 11. 19～20世紀の音楽（2） フランスを中心に 12. 19～20世紀の音楽（3） イタリアを中心に 13. 19～20世紀の音楽（4） イギリス、アメリカを中心に 14. まとめ 15. 授業内試験 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用方法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、受講者数や学習状況によって変更することがある</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、受講者数や学習状況によって変更することがある</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、クラスによって多少進度が異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「HTML初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTPの理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとイントロダクション 2. HTML と FTP の復習 (1) 3. HTML と FTP の復習 (2) 4. インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5. プログラミングの基礎知識 6. JavaScript (1) 7. JavaScript (2) 8. JavaScript (3) 9. JavaScript (4) 10. JavaScript (5) 11. CGI の利用 12. 総合課題 (1) 13. 総合課題 (2) 14. 総合課題 (3) 15. 鑑賞会 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備等を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業用 Web にて資料等を配布。参考文献等は随時紹介。		
評価方法	授業中に作成する課題 (60%) と平常点 (課題の途中経過等 40%) で総合評価する。		

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約 3. 家計の行動②－効用最大化 4. 家計の行動③－消費者余剰の概念 5. 企業の行動①－生産技術の決定 6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7. 企業の行動③－生産者余剰の概念 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得分配の決定 13. 政府の役割①－規制および補助金政策 14. 政府の役割②－租税政策 15. まとめ 	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 企業投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政政策の有効性 9. 金融政策の有効性 10. 国際収支と為替レートの決定要因 11. 開放マクロ経済下での経済政策 12. 公債発行と財政赤字 13. 経済成長の決定要因 14. 日本の公的債務と経済成長 15. まとめ 	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		1.イントロダクション・「社会心理学」講義の前に 2.社会心理学の概要 3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7.自己(1)：自分はどんな人間か 8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11.社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14.期末試験と振り返り 15.社会的影響(5)：人間の力	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出してくること。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』有斐閣；池田謙一 他(2010)．『社会心理学』有斐閣		
評価方法	中間レポート30%、期末試験70%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2.コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4.コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8.信頼社会と安心社会 9.社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10.社会的感情(2)：表情と感情 11.社会的感情(3)：生死を分ける感情 12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13.健康行動と社会心理学(2)：感染予防ための挑戦 14.期末試験と振り返り 15.社会心理学の未来	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出してくること。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』有斐閣；池田謙一 他(2010)．『社会心理学』有斐閣		
評価方法	中間レポート30%、期末試験70%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

シラバス 英語学科

2016年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	